(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第127集

上野国分僧寺・尼寺中間地域(7)

前橋市元総社町小見地区，群馬郡群馬町大字東国分村前・薬師道南・中道南・上野道南(植野道南)・高井道東地区に所在する遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書　8分冊中の第7分冊。

—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第38集—

図表編

1992

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

上野国分僧寺・尼寺中間地域(7)

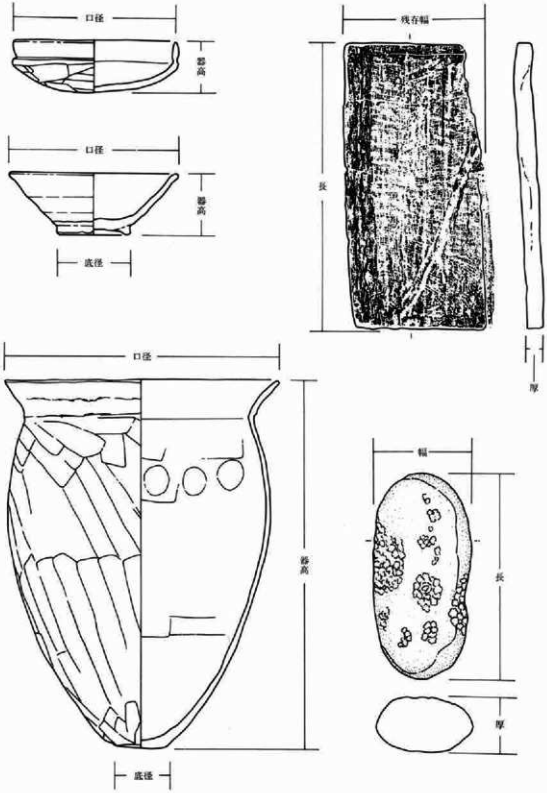
前橋市元総社町小見地区，群馬郡群馬町大字東国分村前・薬師道南・中道南・上野道南(植野道南)・高井道東地区に所在する遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書　8分冊中の第7分冊。

—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第38集—

図　表　編

1992

群　馬　県　教　育　委　員　会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団


口径
器高
口径
器高
底径
残存幅
長
厚
口径
器高
底径
幅
長
厚

Ⅰ区　遺物観察表

第1号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
7－1 128	土 師 器 坏	覆土内 写残存	口　12.4 底　6.5 高　3.5	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焔 硬質	によい 橙	口縁部は外傾し、底部は平底を呈する。整形は、口縁部横撫で、体部は指頭痕が見られる。内部は撫でを施す。	
7－2 128	須 恵 器 坏	－8cm 完形	口　13.8 底　7.5 高　3.7	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部はやや外反気味に立ち上がる。底部は回転糸切り無調整。	
7－3 128	須 恵 器 坏	覆土内 写残存	口　(14.8) 底　7.6 高　3.4	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部に張りはなく、口縁部はわずかに外反する。	内外面に炭化物付着
7－4 128	須 恵 器 坏	±0cm 口縁部一部欠損	口　12.7 底　5.6 高　3.5	黒色鉱物粒少 細砂粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転)。底部回転糸切り無調整。体部中位に張りを有し、口縁部は強く外反する。	
7－5 128	須 恵 器 境	±0cm 写残存	口　15.8 底　8.0 高　5.7	小礫微 砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部上半にわずかに張りを有し、口縁部は強く外反する。高台は三角高台で、底部回転糸切り後の付高台。	
7－6 128	須 恵 器 境	±0cm 写残存	口　14.5 底　6.0 高　4.7	黒色鉱物粒微 細砂粒多	還元焔 やや硬質	浅黄	轆轤整形（右回転)。体部下半に張りを有し、口縁部は弱く外反する。高台は角高台状で、底部回転糸切り後の付高台。	いぶし？
7－7 128	須 恵 器 境	覆土内 写残存	口　14.6 底　6.4 高　5.0	白色細粒少 黒色鉱物粒微	還元焔 硬質	黒褐	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。底部は回転糸切り無調整後の付高台。	いぶし
7－8 128	須 恵 器 境	カマド内 －8cm 写残存	口　15.6 底　7.4 高　5.0	細砂粒多 黒色鉱物粒微	還元焔 硬質	によい 黄橙	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
7－9 128	須 恵 器 皿	8cm 写残存	口　(13.0) 底　2.7 高　7.6	小礫微 細砂粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部の張りは非常に弱く、口縁部は外反する。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
7－10 128	須 恵 器 境	±0cm 写残存	口　－ 底　8.2 高　(5.5)	小礫少 細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部全体に弱い張りを有する。底部は回転糸切り後の付高台で、高台貼付に伴い底部に撫でが施されている。	
7－11 128	土 師 器 甕	－16～ ±0cm 写残存	口　(18.0) 底　－ 高　(24.4)	黒色鉱物粒少 細砂粒多 褐色細粒少	酸化焔 やや硬質	灰黄褐	胴部上半に最大径を有し、口縁部は「コ」字状に屈曲する。口縁部は上下2段の横撫でで調整され、胴部の篦削りは、一部口縁部にも及んでいる。胴部横位（右→左）下半縦位（上→下）の篦削りを施す。内面下半に上下の接合痕が認められる。	
7－12	土 師 器 甕	－4cm 破片	口　19.0 底　－ 高　(8.5)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	口縁部は「コ」字状に屈曲し、胴部上半に張りを有する。口縁部横撫で。胴部外面横位篦削り、器内面篦撫で。	
7－13 128	土 師 器 甕	－4～ ±0cm 写残存	口　(24.0) 底　－ 高　(14.6)	黒色鉱物粒微 細砂粒多 褐色細粒多	酸化焔 やや硬質	によい 橙	胴部の張りは弱く、口縁部は「コ」字状の痕跡を残している。口縁部横撫で後、胴部上半横位（上→下）の篦削り、内面撫でを施す。口縁部には接合痕を明瞭に残している。	
8－14 128	須 恵 器 長 頸 壺	－28cm ほぼ完形	口　－ 底　7.4 高　(18.8)	砂粒少 黒色円粒少	還元焔 やや硬質	灰	紐作り輪轤整形。底部は調整後角高台を貼付している。胴部上半に最大径を有する。	
8－15 128	須 恵 器 壺	±0cm 写残存	口　－ 底　11.8 高　(5.0)	白色粒少 砂粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り後轤整形。	外面自然釉 焼締
8－16 128	鉄　器 刀　子	2cm 写残存	長　(9.3) 幅　(1.2) 重　14.1				柄の部分が欠損。全体に側方に変形している。	
8－17 128	鉄　器 紡 錘 車	－2cm 写残存	長　(6.2) 幅　6.0 重　43.2				軸上下が欠損し、紡輪部はほぼ完形の状態で残存。軸断面は方形である。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
8－18 128	鉄　器 釘	覆土内 3/4残存	長 (9.1) 幅 (0.8) 重 13.2				断面は方形で、上端及び中位が欠損する。先端は曲がっており、使用に伴う変形と考えられる。	
8－19 129	鉄　器 釘？	覆土内 破片	長 (6.2) 幅 (0.5) 重 4.9				断面は破損面で観察すると、円形に近いが本来は方形であったものと考えられる。	8－20と同一個体？
8－20 129	鉄　器 釘？	覆土内 破片	長 (3.8) 幅 (0.6) 重 2.7				断面は破損面で観察すると、円形に近いが本来は方形であったものと考えられる。	8－19と同一個体？
8－21 129	鉄　器 釘	覆土内 3/4残存	長 (6.6) 幅 (0.6) 重 4.0				断面は方形、上端が欠損する。中央部外面錆中に木質が付着している。	
8－22 128	石製品 砥　石	4 cm 3/4残存	長 21.6 幅 6.7 厚 7.3	砥沢石			一端にカーボンの付着が認められ、全体に亀裂と剥落が顕著であることから、熱を受けていると考えられる。使用面は4面と考えられる。	重 727.1
8－23 129	石製品 丸　玉	覆土内 3/4残存	径 (0.6) 厚 0.7 孔 —	蛇紋岩？			穿孔部分は平坦面となっており、周辺の調整は丁寧である。	重 0.3

第2号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
10－1 129	土師器 坏	覆土内 3/4残存	30cm 口 — 底 — 高 (5.8)	褐色細粒多 細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 赤褐	底部は深い丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	外面黒色 塗彩
10－2 129	土師器 壺頸部	覆土内 破片	口 (5.8) 底 — 高 (5.3)	砂粒少 褐色細粒少	酸化焔 硬質	黒褐	胴部中位に最大径を有し、口縁部は2段の稜を有し内傾する。口縁部は横撫で、胴部は横位の箆削りを施す。内面に2段の接合痕が残る。	
10－3	土師器 壺	14cm 破片	口 (23.0) 底 — 高 (7.8)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 やや硬質	にぶい 黄橙	胴部の張りが強く、頸部に明瞭な段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、胴部外面は箆削りを施す。	
10－4	土師器 壺	±0cm 破片	口 — 底 (3.5) 高 (6.6)	細砂粒多	酸化焔 やや硬質	にぶい 橙	胴部下半斜位（上→下）箆削り有り。内面撫で。	黒斑有り
10－5	石　器 不　明	9cm 完形	長 13.0 幅 7.1 厚 4.4	粗粒安山岩			側面と端部に敲打痕有り。	重 591.5

第3号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
12－1 129	土師質 坏	カマド内 3/4残存	口 (10.6) 底 (6.1) 高 (3.3)	細砂粒微	中性焔 軟質	浅黄	轆轤整形（右回転）。底部回転糸切り後無調整。体部中位でわずかに屈曲し、口縁部に外反は みられない。	
12－2	土師質 坏	覆土内 底部残存	口 — 底 5.6 高 (1.6)	白色鉱物粒少 黒色鉱物粒多	中性焔 軟質	浅黄橙	轆轤整形（左回転）。底部回転糸切り後無調整。	
12－3	灰釉陶器 埦	覆土内 破片	口 — 底 (7.2) 高 (2.1)	美濃系		灰白	轆轤整形（左回転）。底部切り離し後高台貼付後撫で。体部下半回転箆削り調整。	カーボン 付着
12－4	須恵器 羽　釜	覆土内 破片	口 (25.6) 底 — 高 (5.7)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒多	酸化焔 やや軟質	にぶい 橙	紐作り轆轤整形。口縁部はやや内傾し、胴部に張りはあまりみられない。口唇部は、わずかに外側に突出する。	
12－5	瓦 女　瓦	12cm 3/4残存	厚 2.4	砂粒少 片岩粒少	還元焔 硬質	橙	一枚作り？。側端部面取り2面。	凹面カーボン付着
12－6 129	石製品 砥　石	覆土内 3/4残存	長 5.1 幅 2.9 厚 1.6	砥沢石			砥面は4面。	重 34.1

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
12－7	石　器 敲　石?	貯蔵穴4 cm 3/4残存	長　(18.3) 幅　17.6 厚　7.3	石英閃緑岩			一端の縁辺に敲打痕が認められる。	重2950.0
12－8 129	石 製 品 砥　石?	4cm 完形	長　18.8 幅　14.7 厚　12.1	粗粒安山岩			自然礫の一面を砥面として使用しており、中央に敲打による窪みが一ヶ所有り、砥面には溝状に使用痕が認められる。	重2590.0
12－9 129	石　器 煮編み石	覆土内 完形	長　19.5 幅　14.4 厚　7.1	石英閃緑岩			使用痕は不明であるが、部分的にカーボンが付着している。	重3010.0
12－10 129	石　器 敲　石	6cm 完形	長　16.4 幅　6.6 厚　7.0	粗粒安山岩			両端部は敲打によって磨滅しており、側縁にも一部敲打痕が認められる。	重1178.3
13－11 129	石　器 不　明	貯蔵穴13 cm 3/4残存	長　23.6 幅　20.6 厚　7.5	石英閃緑岩			使用痕は不明。	重5300.0

第4号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
15－1 129	須 恵 器 坏	貯蔵穴 3/4残存	口　(14.0) 底　7.4 高　4.3	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整体部は直線的に外傾する。	
15－2	土 師 質 焦色土器 壺	覆土内 3/4残存	口　(13.8) 底　7.3 高　5.3	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 赤褐	轆轤整形(?)。高台は回転糸切り後付高台。内面は雑な笠研磨後黒色処理をされている。	底部にカーボン付着
15－3	須 恵 器 壺	貯蔵穴 3/4残存	口　(12.0) 底　(7.6) 高　5.3	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は角高台で、底部回転糸切り後の付高台。体部から口縁部は直線的に外傾する。	
15－4	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口　— 摘　4.6 高　(1.6)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形、環状摘を有する。天井部内面に「×」の箆描き。	
15－5	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	黒色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面は不明。内面は布目状。	厚　1.0
15－6	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	叩き整形。外面は平行叩き。内面は青海波文。	厚　0.9
15－7 130	土 製 品 有孔土製 円盤	覆土内 3/4残存	長　4.6 幅　2.5 厚　1.1	細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 褐	中央に径1cmほどの穴が穿たれている。	重　15.6
15－8 129	土 製 品 羽　口	覆土内 破片	内径　— 外径　—	細砂粒少 黒色細粒微	酸化焔	橙	先端部の小破片で、外面にガラス質の付着物あり。	
15－9 129	鉄　器 釘	覆土内 3/4残存	長　(5.1) 幅　(1.3) 重　8.7				頭部と思われ、片側へ折れ曲がっている。先端部欠損。	

第5号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
16－1 130	土 師 器 坏	18cm ほぼ完形	口　10.7 底　— 高　3.3	黒色鉱物粒微 細砂粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は短く外反する。口縁部横撫で底部に箆削りを施す。底部箆削りは中央部一定方向、周辺は円周方向である。	
16－2	土 師 器 坏	覆土内 3/4残存	口　(10.6) 底　— 高　(2.8)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 軟質	にぶい 橙	口縁部は弱く内傾し、底部は丸底を呈する。底部手持ち箆削り後、口縁部横撫で、内面は、全面撫でを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
16－3 130	須恵器 坏	12cm 3/4残存	口　(10.7) 底　— 高　(2.8)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(?)。底部は残い丸底で、受け部は水平方向に開き、口縁部は長く内傾する。底部は雑な手持ち箆削りを施す。	
17－4 130	須恵器 蓋	覆土内 3/4残存	口　(12.4) 摘　— 高　(4.1)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形（右回転）。天井部は扁平な丸底で、口縁部は直線的に開く。天井部外面は回転箆削りを施す。	
17－5	須恵器 高　坏	4cm 3/4残存	口　— 底　— 高　(7.1)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。脚部中位に2本の沈線が巡り、上端は坏部接続部から剥離している。	
17－6	土師器 甕	4cm 破片	口　(21.4) 底　— 高　(11.1)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 やや硬質	浅黄橙	口縁部は強く外反する。胴部上半斜位（右→左）箆削り、中位縦位（上→下）箆削り後、口縁部横撫でを施す。内面は横位箆撫でを施す。	
17－7 130	土師器 甕	－8cm 3/4残存	口　22.0 底　— 高　(7.0)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	口縁部は強く「く」字状に外反し、胴部は長胴で張りは弱い。整形は口縁部横撫で後胴部上半斜位箆削り（右→左）。内面は横位箆撫でを施す。	
17－8 130	土師器 甕	±0cm 3/4残存	口　(21.6) 底　— 高　—	黒色鉱物粒多 砂粒多	酸化焔 軟質	橙	口縁部は「コ」字状を呈し、胴部中位に最大径を有する。整形は胴部上位斜位（右→左）箆削り後口縁部横撫でを施す。内面は撫で。	胴部下半外面の粗れ激しい
17－9 130	須恵器 甕	4cm 3/4残存	口　(14.8) 底　— 高　(4.3)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。胴部は「く」字状に外反し口縁部上半に段を有し短く直立する。口縁部下半に波状文を施す。内面は青海波文。外面叩き不明。	
17－10	須恵器 甕	±0cm 破片	口　— 底　— 高　—	白・黒細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、内面は青海波文。	厚　1.0
17－11	須恵器 甕	8cm 破片	口　(25.1) 底　— 高　(8.2)	細砂粒少	還元焔 やや硬質	浅黄	紐作り後叩き整形。口縁部は外反する。胴部外面は格子叩き、内面は青海波文。	
17－12	瓦 男　瓦	覆土内 破片	厚　2.0	白色鉱物粒多 黒色粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り。側端部面取り1面。凹面に粘土板糸切り痕を明瞭に残す。	
17－13 130	石製品 臼　玉	カマド掘 り方 完形	径　1.3 厚　0.3 孔　0.3	滑石			穿孔は一定方向。	重　1.0
17－14 130	石製品 臼　玉	掘り方覆 土内 完形	長　1.2 幅　1.4 厚　0.5	滑石			四角形を呈するもので、上下面は磨り切り状を呈する。穿孔は一方向。	重　1.4 孔　0.3
18－15 130	石　器 敲　石	覆土内 完形	長　12.6 幅　4.6 厚　4.3	粗粒安山岩			両端部付近に敲打痕。	重 355.5
18－16 130	石　器 敲　石?	15cm 完形	長　12.7 幅　5.7 厚　4.1	石英閃緑岩			端部付近に敲打痕が認められる。	重 479.8
18－17 130	石　器 敲　石	覆土内 完形	長　9.8 幅　6.8 厚　4.4	粗粒安山岩			側縁に敲打痕と剥離面が認められる。	重 358.5
18－18 130	石　器 敲　石?	覆土内 3/4残存	長　(8.8) 幅　5.0 厚　3.5	砂岩			一端を欠損し使用痕は不明。	重 255.7

第6号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
20－1 130	土師質 塊	－6cm 3/4残存	口　(15.8) 底　9.6 高　6.9	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 黄橙	輪轆整形(右回転)。底部切り離し後、高台貼付後撫で。体部下半わずかに張りを有し、口縁部は外反する。	足高高台
20－2 130	須恵器 塊	覆土内 3/4残存	口　(13.4) 底　— 高　(5.3)	砂粒多	中性焔 やや軟質	にぶい 黄橙	輪轆整形(右回転)。底部は、回転糸切り後付高台後撫で。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は、外反する。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
20－3 130	土師質 埦	カマド内 8cm 破片	口 — 底 (8.4) 高 (5.3)	細砂粒多 白色鉱物粒多	中性焔 硬質	褐灰	輪積整形(右回転)。高台は、底部回転糸切り後の付高台。	
20－4 130	灰釉陶器 輪花皿	覆土内 ½残存	口 (14.0) 底 6.6 高 (3.0)	美濃系		灰白	輪積成整形(右回転)。体部は内湾気味に開く。底部は回転篦調整後付高台。見込み部に径6cm程の重ね焼きの痕跡がある。施釉は漬け掛けと思われる。	
20－5	須恵器 羽釜	貯蔵穴 破片	口 (11.0) 底 — 高 (9.0)	片岩粒少 細砂粒多 黒色鉱物粒少	還元焔 硬質	灰白	輪積整形(?)。胴部に張りを有し、口縁部は内湾する。鍔の貼付は、丁寧である。内外面共に輪積整形痕が明瞭である。	
20－6 130	灰釉陶器 瓶	±0cm ½残存	口 — 底 (13.6) 高 (21.7)	美濃系 白色粒多		灰白	粗作り輪積整形。底部は回転篦調整後付高台。胴部外面回部以下は回転篦削り状の部潤調整を施す。内面は輪積調整痕を明瞭に残し、下半の一部に斜位の撫でが認められる。	
21－7 131	瓦 男瓦	±0cm ½残存	厚 2.0	砂粒多 白色鉱物粒多	還元焔 硬質	浅黄橙	面取り状の厳位撫でを施す。 一枚作り?。側端部の面取りは1面。凸面は	

第7号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
24－1 131	土師器 坏	±0cm ½残存	口 (10.6) 底 — 高 3.1	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焔 軟質	にぶい 褐	口縁部は内湾し、底部は丸底を呈する。整形は、口縁部横撫で、底部篦削り、内面は撫でを施す。	
24－2 131	土師器 坏	覆土内 ½残存	口 (12.6) 底 — 高 (3.1)	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焔 やや硬質	にぶい 橙	口縁部は弱く内湾し、底部は丸底を呈する。整形は、底部篦削り、口縁部横撫で、内面は全面撫でを施す。	
24－3 131	土師器 坏	覆土内 ½残存	口 (10.6) 底 — 高 (3.1)	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焔 やや硬質	にぶい 橙	口縁部は短く、やや内傾気味に立ち上がり、底部は丸底を呈する。整形は、口縁部横撫で、内面は篦削りを施す。内面は撫でを施す。	
24－4 131	土師器 坏	15cm ½残存	口 (14.0) 底 — 高 (4.2)	砂粒 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬質	にぶい 橙	口縁部は弱く内湾し、底部は丸底を呈する。整形は、口縁部横撫で、底部篦削りで、内面は撫でを施す。	
24－5	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (12.8) 摘 — 高 (3.5)	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形（?）。天井部は平坦である。	
24－6 131	須恵器 蓋	覆土内 ½残存	口 10.6 摘 — 高 (2.9)	細砂粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	灰白	輪積整形(右回転)。天井部から体部にかけてわずかに丸味を有し、口縁部で屈曲する。内面のかえりは比較的長く反り気味に内傾する。摘は剥離し形状は不明であるが、天井部と口縁部外面回転篦削り後の貼付である。	
24－7 131	須恵器 蓋	覆土内 ½残存	口 (8.0) 摘 — 高 (3.3)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形。かえりを有し、摘は乳頭状摘と思われる。整形は、天井部外面手持ち篦削りを施す。	
24－8	須恵器 鉢	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (3.9)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形（?）。口縁部はやや内湾する。	
24－9	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (23.0) 摘 — 高 (3.8)	細砂粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転)。体部と天井部の間に沈線を巡らす。内面に短いかえりを有する。	
24－10 131	土師器 甕	2cm ½残存	口 (22.0) 底 — 高 (11.5)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	口縁部は「く」字状に強く外反し、頸部には張りがみられない。整形は、口縁部横撫で、胴部上半は斜位（右→左）篦削りを施す。内面は横位篦撫で、接合痕がみられる。	
24－11 131	土師器 甕	14cm ½残存	口 (18.6) 底 — 高 (18.7)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 硬質	橙	口縁部は強く外反し、胴部中位に弱い張りを有する。口縁部横撫で後、胴部上半斜位（右→左）、胴部中下半縦位（上→下）の篦削りを施す。	
24－12 131	須恵器 壺	12～50cm ½残存	口 15.2 底 — 高 (10.6)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り輪積整形。胴部には強い張りがあり、中位に最大径を有する。口縁部は「く」字状に外反する。	器面のハゼが激しい

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
24—13	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。第24図—15と同一個体。	厚　1.2
24—14	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	明褐灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　0.6
24—15	須恵器 甕	6cm 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。第24図—13と同一個体。	厚　1.2
25—16	須恵器 甕	±0cm 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒多 白色鉱物粒少	還元焔 硬質	灰黄	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.7
25—17	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	黒色細粒少	還元焔 硬質	明オリーブ灰	叩き整形。外面格子叩き、内面青海波文。	厚　0.8
25—18 131	石製品 有孔石製 円　盤	掘り方覆土内 完形	径　3.7 厚　0.6 孔　0.7	滑石			周辺は打ち欠いた後、雑に面取り状に磨きを加えている。穿孔は一方向。	重　0.7
25—19 131	石　器 薦編み石	±0cm 完形	長　13.3 幅　5.7 厚　4.5	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 484.2
25—20 131	石　器 薦編み石	覆土内 完形	長　14.8 幅　7.1 厚　4.8	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 778.9
25—21 131	石　器 敲　石	9cm 完形	長　13.7 幅　7.1 厚　4.6	粗粒安山岩			側縁に敲打痕。	重 714.7
25—22 132	石　器 敲　石	15cm 完形	長　18.5 幅　7.4 厚　4.5	粗粒安山岩			一端に敲打痕。その他の部分に使用痕は認められない。	重 909.0
25—23 132	石　器 薦編み石	±0cm 完形	長　18.0 幅　5.9 厚　5.0	灰色安山岩			使用痕不明。	重 880.9
25—24 131	石　器 敲　石	覆土内 完形	長　13.6 幅　6.1 厚　5.2	粗粒安山岩			両端部に敲打痕。	重 619.6
25—25 131	石　器 敲　石	10cm 完形	長　13.6 幅　6.0 厚　3.5	溶結凝灰岩			両端部に敲打痕。	重 403.2
25—26 132	石　器 薦編み石	3cm 完形	長　14.3 幅　5.7 厚　4.3	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 607.8
25—27 131	石　器 薦編み石	±0cm 端部欠損	長　(11.6) 幅　4.1 厚　4.0	石英閃緑岩			熱を受けたものか一端を欠損する。使用痕不明。	重 347.0
25—28 132	石　器 薦編み石	±0cm 圧残存	長　(8.6) 幅　8.7 厚　2.8	粗粒安山岩			一端を欠損し、使用痕は不明。	重 327.1
25—29 132	石　器 敲　石？	覆土内 圧残存	長　(5.3) 幅　5.9 厚　3.1	変質安山岩			一端を欠損し、使用痕不明。	重 134.8
25—30 132	石　器 薦編み 石？	覆土内 完形	長　7.2 幅　4.8 厚　2.5	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 135.0

第8号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
26－1 132	須恵器 坏	カマド内 8cm 写残存	口 (11.8) 底 (5.4) 高 (4.3)	小礫微 砂粒少 白色鉱物粒少	中性焔 硬質	にぶい 黄橙	輪縄整形(右回転)。体部下半にやや張りを有し、口縁部は強く外反し、底部回転糸切り無調整。	
26－2 132	須恵器 坏	カマド内 －6cm 完形	口 11.9 底 4.9 高 3.9	砂粒多 黒色鉱物粒少	中性焔 硬質	にぶい 黄橙	輪縄整形(右回転)。口縁部は弱く外反し、体部に張りはみられない。底部は回転糸切り無調整。	
26－3 132	須恵器 坏	覆土内 写残存	口 (11.0) 底 (4.5) 高 5.0	細砂粒多 白色鉱物粒多	還元焔 硬質	にぶい 褐	輪縄整形(右回転)。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は強く外反し、底部は回転糸切り無調整。	内外面カーボン付着
26－4 132	土師質 坏	3cm 写残存	口 (12.0) 底 (6.8) 高 4.0	細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	輪縄整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は外反しない。内面はコテ当てがされたものと思われ、輪縄痕を残さない。	
26－5 132	須恵器 壺	カマド内 －6cm 写残存	口 12.4 底 6.0 高 5.0	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少	中性焔 硬質	にぶい 黄橙	輪縄整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反し、底部は回転糸切り後雑な付高台。	
26－6 132	須恵器 壺	カマド内 －6cm 完形	口 12.7 底 5.8 高 4.9	砂粒少	中性焔 硬質	にぶい 黄橙	輪縄整形(右回転)。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は強く外反し、底部は回転糸切り後の付け高台。	
26－7 132	須恵器 壺	8cm 写残存	口 13.0 底 7.1 高 4.2	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	輪縄整形(右回転)。体部の張りは弱く外反する。底部は回転糸切り後付高台で、貼付は雑である。	内外面カーボン付着
26－8	須恵器 羽釜	カマド内 ±0～13 cm 破片	口 (20.0) 底 — 高 (12.2)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	輪縄整形(?)。胴部の張りは弱く、口縁部はやや内傾し、口唇部は平坦で、わずかに内傾している。鍔の貼付は比較的丁寧である。	
26－9 132	石製品 臼玉	覆土内 完形	長 1.8 幅 1.8 厚 0.7	滑石			磨き有り。一面に孔部を通り調状の凹みが認められる。	重 2.7 孔 0.4

第9号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
29－1 132	土師質 坏	15cm 完形	口 10.8 底 5.5 高 2.5	黒色鉱物粒多 細砂粒多	中性焔 やや硬 質	にぶい 褐	輪縄整形(右回転)。腰部の張りは強く、口縁部は外反しない。底部は回転糸切り無調整。	
29－2 132	土師質 坏	20cm 完形	口 10.8 底 5.0 高 3.3	黒色鉱物粒少 細砂粒多	中性焔 やや硬 質	にぶい 黄橙	輪縄整形(右回転)。腰部の張りはやや強く口縁部は外反しない。底部は回転糸切り無調整でわずかに突出する。	
29－3 132	須恵器 坏	14cm 写残存	口 (11.5) 底 (5.9) 高 3.0	細砂粒多 黒色細粒多	還元焔 やや硬 質	灰	輪縄整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部は弱く外反する。底部は回転糸切り無調整。	
29－4	須恵器 坏	24cm 破片	口 — 底 (7.4) 高 (1.3)	黒色細粒少 褐色細粒多	還元焔 硬質	灰白	輪縄整形(右回転)。底部回転糸切り後無調整。	
29－5 132	土師質 壺	カマド内 6cm 写残存	口 15.5 底 — 高 (6.0)	黒色鉱物粒多 褐色細粒多 細砂粒多	中性焔 硬質	にぶい 黄褐	輪縄整形(右回転)。体部中位に張りを有し、口縁部は強く外反する。高台は剥離しているが、底部回転糸切り後の付高台である。底部は高台貼付に伴い回転の痕でが施されている。	
29－6 133	土師質 壺	28cm 破片	口 — 底 (8.6) 高 (4.1)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	還元焔 やや硬 質	黒	輪縄整形(右回転)。底部のみの残存で体部不明。高台は底部調整後の付高台。高台はやや長脚。	いぶし？
29－7	灰釉陶器 壺	24cm 破片	口 (13.2) 底 — 高 (3.3)	美濃系		灰白	輪縄整形（右回転）。体部下半に荒削り有り。高台部欠損。施釉は掛け掛けである。	
29－8 133	須恵器 羽釜	カマド内 3cm 破片	口 (20.5) 底 — 高 (5.5)	砂粒多 小礫微	中性焔 硬質	にぶい 黄橙	紐作り後輪縄整形。胴部の張りは弱く、口縁部はわずかに内傾する。口唇部は平坦で水平である。鍔の貼付は丁寧で上面が水平である。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
29－9	須恵器 羽　釜	カマド内 3cm 破片	口　(22.0) 底　— 高　(9.4)	片岩粒多	中性焔 硬質	にぶい 橙	紐作り後輪鏈整形。口縁部はやや内傾し、鍔は水平である。内面に紐作りの痕跡を明瞭に残す。	
29－10	須恵器 甕	31cm 破片	口　(41.4) 底　— 高　(5.7)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	還元焔 硬質	明黄褐	紐作り後輪鏈整形(右回転)。口縁部は強く外反する。	
29－11 133	須恵器 壺	18～33cm 破片	口　— 底　— 高　(11.3)		還元焔 硬質	灰	橋状の把手で、肥手部は撫で状の面取りが認められ、接合部の脚部内面には、指頭痕が顕著にみられる。	把手付
29－12 133	鉄　器 釘	覆土内 片残存	長　(7.1) 幅　(0.6) 重　10.8				断面方形で頭部欠損。先端は鋭利。	
29－13 133	鉄　器 釘？	覆土内 破片	長　(7.1) 幅　(0.8) 重　16.2				断面長方形。	
29－14 133	鉄　器 釘	覆土内 破片	長　(6.3) 幅　(0.5) 重　6.3				断面方形。両端部欠損。	
29－15 133	鉄　器 釘	覆土内 破片	長　(3.0) 幅　(0.6) 重　2.8				断面方形。両端部欠損。	

第10号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
30－1 133	土師質 塊	カマド脇 り方 片残存	口　(15.6) 底　— 高　(4.8)	細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	輪鏈整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後付高台。体部下半に弱い張りを有し、口縁部はやや外反する。	

第12号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
31－1 133	土師器 坏	4cm 片残存	口　12.9 底　— 高　3.7	白色鉱物粒少 褐色細粒多 細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい 赤褐	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部はやや内傾気味に直立する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	内外面黒色破彩
31－2 133	須恵器 坏　身	カマド内 14cm 完形	口　12.3 底　— 高　4.1	黒色粒少 細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	輪鏈整形(右回転)。底部は丸底で、受け部は短くやや上方を向く。口縁部は比較的長く「く」字状に内傾する。底部に回転篦削りを施す。	
31－3 133	土師器 高　坏	13cm 片残存	口　— 底　(18.4) 高　(14.5)	褐色粒少 細砂粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	大形の高坏で、脚裾部は水平に開き、先端が短く屈曲する。脚部外面は縦位の弱い篦削り、内面は斜位の篦削りを施す。	
31－4	土師器 小型甕	覆土内 破片	口　(15.0) 底　— 高　(6.3)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 やや硬 質	にぶい 黄橙	口縁部は外傾する。胴部縦位の篦削り後、口縁部横撫で。	

第13号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
32－1	土師質 塊	6cm 片残存	口　— 底　(7.4) 高　(3.8)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	輪鏈整形(？)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
32－2 133	土師質 塊	3cm 片残存	口　(12.6) 底　— 高　(4.8)	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 赤褐	輪鏈整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台で、底部は高台貼付に伴い回転の撫でが施されている。体部下半に強い張りを有し、口縁部はやや外反する。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備　考
32－3	土師質 坏	12cm 破片	口　— 底　4.2 高　(1.0)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	輪縄整形（右回転）。底部回転糸切り無調整。	
32－4	須恵器 羽　釜	カマド内 10cm 破片	口　(22.4) 底　— 高　(5.2)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	中性焔 硬質	にぶい 橙	輪縄整形（？）。口縁部はほぼ直立し、口唇部は平坦でわずかに外傾する。	口縁部外面にカーボン付着
32－5	瓦 女　瓦	9cm 破片	厚　2.4	褐色粒多 白・黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	一枚作り？。側端部面取り１面。凹面に粘土板糸切り痕を残し、一部にカーボンが付着している。凸面は半円状の叩きが認められる。	

第14号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備　考
35－1 133	土師器 坏	2cm ¼残存	口　12.5 底　— 高　4.8	褐色粒多 黒色粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は外反する。底部部周り後口縁部に横撫でを施す。	
35－2	土師器 坏	覆土内 破片	口　(14.0) 底　— 高　(3.6)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	浅黄橙	口縁部は内湾気味に外傾し、底部との間に稜を有し、底部は丸底。内黒で内面にも稜を有する。	
35－3 133	須恵器 坏　身	7cm 破片	口　(12.8) 底　— 高　(3.6)	小礫微 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪縄整形（右回転）。底部は扁平な丸底で、受け部は厚くやや上方を向く。口縁部は比較的短く内傾する。底部に強い回転篦削りを施す。	
35－4 133	須恵器 蓋	覆土内 ¼残存	口　(12.0) 摘　— 高　(4.3)	白色鉱物粒少 白色粒多	還元焔 硬質	灰	輪縄整形（右回転？）。天井部は丸底状で、口縁部はわずかに外反する。天井部外面は手持ち篦削り、内面には輪縄痕が明瞭に残存している。	
35－5	須恵器 壺	覆土内 破片	口　— 底　(12.0) 高　(1.2)	細砂粒微	還元焔 硬質	灰	輪縄整形（？）。削り出し高台。	
35－6 133	土師器 高　坏	1cm 破片	口　— 底　(18.0) 高　(5.0)	細砂粒多 褐色粒少	酸化焔 硬質	橙	強く開く脚部で、外面は横撫で後、縦位（上→下）の篦削りを、内面は横位（右→左）の篦削りを施す。	
35－7 133	須恵器 高　坏	1cm ¼残存	口　(10.0) 底　(11.6) 高　(11.2)	細砂粒少 褐色粒微	還元焔 硬質	にぶい 橙	輪縄整形（右回転）。坏部は丸底状の底部にやや内湾気味の口縁部を有する。底部は回転篦削り、口縁部下半には２本の沈線を巡らす。脚部は比較的長脚で、端部は短く直立する。透しは１段と考えられる。	
35－8 133	須恵器 高　坏	9cm 脚部¾残存	口　— 底　(10.0) 高　(7.1)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	輪縄整形（右回転？）。比較的短脚で、３方に１段透しを有する。	
35－9 133	須恵器 壺	6cm ½残存	口　— 底　— 高　(5.1)	砂粒少	還元焔 硬質	にぶい 黄橙	紐作り輪縄整形。体部の張りは弱く、肩部に１本の沈線が巡る。体部下半に回転篦削りを施す。穿孔は焼成前で斜上方から行われている。	
35－10 133	土師器 小型壺	±0cm 破片	口　(11.2) 底　— 高　(5.8)	砂粒少 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	口縁部は弱く外反する。整形は口縁部横撫で。胴部上位横位篦削り（左→右）。	
35－11 133	土師器 小型壺	±0cm ½残存	口　(14.0) 底　— 高　(13.5)	細砂粒微 褐色粒少	酸化焔 軟質	橙	丸底の球胴で、口縁部は短くやや外反気味に直立する。胴部は横位篦削りと考えられるが、器面の磨滅が激しく不明瞭。口縁部は強く横撫でを施す。	
35－12 134	土師器 甕	±0cm 破片	口　(23.2) 底　— 高　(7.8)	黒色鉱物粒多 砂粒多	酸化焔 硬質	淡橙	口縁部は強く外反し、肩部の張りは弱い。口縁部横撫で後胴部上位に横位（右→左）の篦削りを施す。口縁部外面に焼成前の箆描き「十」がみられる。	
35－13 134	土師器 台付甕	貯蔵穴56 cm ¾残存	口　13.8 底　— 高　(18.3)	白・黒色鉱物粒少 砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 黄橙	口縁部は弱く外反し、胴部中位に張りを有する。脚部は「八」字状に開くものと考えられる。口縁部横撫で後胴部縦位（下→上）下半斜位（下→上）の篦削りを施す。内面は横位の篦撫でである。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
35－14	須恵器 壺	±0cm 破片	口　(22.0) 底　－ 高　(6.7)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り輪積整形。口唇部に一条の沈線を巡らし、口縁部に波状文を施す。	
35－15 134	須恵器 甕	1cm ほぼ残存	口　－ 底　－ 高　(22.0)	砂粒少	還元焔 硬質	灰白	紐作り。叩き整形（外面斜格子叩き・内面当具は背梅鉢文）後輪鱗再整形。胴部外面上位にカキ目あり。	
35－16 134	石製品 砥　石	覆土内 完形	長　2.8 幅　2.9 厚　1.5	二ツ岳軽石			側縁部が使用面と思われる。	重　7.8
36－17 134	石　器 敲　石	2cm 残存	長　18.2 幅　(8.7) 厚　5.5	粗粒安山岩			側面に敲打痕を持つ。	重1519.2
36－18 134	石　器 敲　石	2cm 完形	長　11.7 幅　6.9 厚　3.2	粗粒安山岩			上下端に敲打痕がみられる。	重 364.3

第15号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
39－1 134	土師器 坏	覆土内 残存	口　(12.0) 底　－ 高　(3.3)	褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は弱く外反する。口縁部横撫で、底部は箆削り、内面は横撫でを施す。	
39－2 134	土師器 坏	覆土内 ほぼ完形	口　12.0 底　－ 高　3.4	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
39－3 134	土師器 坏	覆土内 残存	口　(10.6) 底　－ 高　(2.7)	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は外傾する。口縁部横撫で後底部箆削りを施したものと考えられるが、器面の磨滅が激しく不明瞭。	
39－4 134	土師器 坏	覆土内 残存	口　(10.0) 底　－ 高　(2.9)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内傾する。底部は箆削りと考えられるが、器面の磨滅が激しく不明瞭。口縁部は横撫で。	
39－5 134	土師器 坏	覆土内 残存	口　(14.0) 底　－ 高　4.9	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	黄橙	底部は丸底で、口縁部との境にごく弱い稜を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部調整は不明瞭である。	
39－6 134	土師器 坏	覆土内 残存	口　(12.0) 底　－ 高　(4.9)	砂粒微 褐色粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は直立する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
39－7 134	土師器 坏	覆土内 残存	口　(12.0) 底　－ 高　3.3	黒色鉱物粒少 砂粒少 褐色粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は短く内傾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
39－8	土師器 坏	覆土内 破片	口　(11.0) 底　－ 高　(5.0)	細砂粒多	酸化焔 硬質	淡黄	底部は丸底で、体部に箆削り（上→下）を施す。内面は全面撫で調整。	
39－9	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(11.8) 底　－ 高　(2.4)	細砂粒微 白色細粒微	還元焔 硬質	灰	輪積整形（？）。口縁部は内傾し、受け部はやや反り気味。	
39－10	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(11.8) 底　－ 高　(3.6)	細砂粒微 白色細粒微	還元焔 硬質	灰	輪積整形（？）。口縁部は内傾する。体部外面に自然釉付着。	
39－11	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　－ 摘　2.0 高　(2.1)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	輪積整形（？）。摘は宝珠摘で、天井部外面回転箆削り後の貼付。	
39－12	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(14.0) 摘　－ 高　(2.1)	白色細粒少 黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪積整形（右回転？）。口唇部は下方に折り返す。	
39－13	土師器 鉢	覆土内 破片	口　(22.0) 底　－ 高　(7.2)	白色細粒少	酸化焔 軟質	灰赤	口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫でを施す。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
40—14	土師器 小型甕	±6cm ほぼ完形	口　11.0 底　7.0 高　15.9	小礫少 砂粒多	酸化焔 軟質	におい 橙	口縁部は「C」字状に短く外反し、胴部中位に張りを有する。口縁部横撫で、胴部上半横位(右→左)、下半斜位の箆削りと思われるが、箆面の粗れが激しく不明瞭。	
40—15 134	土師器 小型甕	覆土内 破片	口　11.2 底　— 高　(6.2)	細砂粒少 褐色粒多	酸化焔 軟質	橙	胴部の張りは比較的強く、口縁部はやや反り気味に直立する。口縁部を強く横撫で後、胴部上半を横位箆削りする。	
40—16	土師器 甕	覆土内 破片	口　(14.0) 底　— 高　(8.9)	砂粒多 褐色細粒多	酸化焔 やや硬 質	灰黄	口縁部横撫で、胴部は斜位箆削り、内面は横位箆撫でを施す。	
40—17 135	土師器 甕	5cm 3残存	口　(17.2) 底　— 高　(22.0)	白・黒色鉱物 粒多 砂粒多	酸化焔 やや軟 質	におい 橙	口縁部は「く」字状に外反し、胴部下半にわずかに張りを有する。口縁部横撫で後胴部を縦位(上→下)の箆削りを施す。内面は横位撫で、口縁部外面にわずかに接合痕がみられる。	
40—18	土師器 甕	2cm 破片	口　(18.0) 底　— 高　(14.4)	片岩小礫少 細砂多	酸化焔 硬質	におい 橙	胴部の張りはごく弱く、口縁部は外反する。口縁部横撫で後胴部は縦位箆削りを施す。	
40—19 134	土師器 甕	カマド左 袖 3残存	口　(15.0) 底　— 高　(8.5)	白・黒色鉱物 粒多、砂粒多 褐色粒多	酸化焔 硬質	橙	口縁部は短く「く」字状に屈曲し、胴部上半にわずかに張りを有する。口縁部横撫で後胴部に縦位(上→下)の箆削りを施す。	
40—20 134	土師器 甕	3cm 破片	口　(24.0) 底　— 高　(9.7)	白・黒色鉱物 粒多 細砂粒多	酸化焔 硬質	におい 橙	口縁部は「く」字状に強く外反し、胴部の張りは弱い。口縁部横撫で後胴部に縦位(下→上)の箆削りを施す。	
40—21 134	須恵器 台付 長頸壺	覆土内 脚部3残 存	口　— 底　18.0 高　(3.8)	白色細粒多 細砂粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り輪積整形。胴部は外に強く開き、先端で強く屈曲する。底部との接合面に回転糸切り痕を残している。	
40—22	須恵器 甕	±0～16 cm 3残存	口　— 底　— 高　(9.1)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	外面格子状叩き。内面青海波文。	
40—23 134	須恵器 甕	4cm 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き後、間隔をおいてカキ目を巡らす。内面は青海波文。	厚　0.9
41—24 134	須恵器 甕	28cm 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 白色鉱物粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り後叩き整形。内面は素文で、外面は撫で後、間隔をおいてカキ目を巡らす。	厚　0.8
41—25 134	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	砂粒微 白色細粒多	還元焔 硬質	灰白	叩き整形。外面叩き不明。内面は青海波文。	厚　1.3
41—26 134	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 褐色細粒多	還元焔 硬質	灰白	紐作り後叩き整形。外面平行叩き後、間隔をおいてカキ目を巡らす。内面青海波文。	厚　0.7
41—27 134	石器 敲石	覆土内 完形	長　12.9 幅　6.4 厚　3.7	粗粒安山岩			両端部及び側縁に敲打痕が顕著にみられ、側縁の一部に磨滅した面がある。	重 481.3
41—28	石器 敲石	3cm 完形	長　13.3 幅　6.3 厚　4.3	粗粒安山岩			一端に敲打痕。	重 532.1
41—29 135	石製品 白玉	8cm 完形	径　1.2 厚　0.6 孔　0.3	滑石			丁寧な作りで、周縁磨き整形によって円形に打ち上げられている。穿孔は斜位で一方向である。	重　1.3
41—30 135	石製品 白玉	16cm 完形	径　1.4 厚　0.6 孔　0.3	滑石			周縁は面取り状の磨き整形、穿孔は一方向。	重　1.3
41—31 135	石製品 白玉	12cm 完形	径　1.3 厚　0.4 孔　0.2	滑石			五角形状を呈し、周縁は面取り状の磨き整形。穿孔は一方向。	重　1.4
41—32 135	石製品 白玉	覆土内 完形	径　1.3 厚　0.7 孔　0.2	滑石			周縁は面取り状の磨き整形。穿孔は一方向。	重　1.3

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
41－33 135	石製品 臼　玉	28cm 完形	径　1.6 厚　0.7 孔　0.3	滑石			周縁は雑な面取り状の磨き整形。穿孔は一方向。	重　2.8
41－34 135	石製品 臼　玉	覆土内 ほぼ完形	径　1.7 厚　0.6 孔　0.3	滑石			周縁は面取り状の磨き整形。穿孔は一方向。	重　2.2
41－35 135	石製品 臼　玉	7cm 完形	径　1.6 厚　0.9 孔　0.2	滑石			周縁は面取り状の磨き整形。穿孔は一方向。	重　4.4
41－36 135	石製品 臼　玉	覆土内 完形	径　1.9 厚　1.1 孔　0.3	滑石			厚手で雑な作りで、不整の多角形を呈する。周辺は面取り状の磨き整形で、穿孔は一方向。	重　5.9
41－37 135	石製品 臼　玉	4cm 完形	径　1.9 厚　0.4 孔　0.4	滑石			方形状を呈し、周縁は磨き整形で穿孔は一方向。	重　2.6
41－38 135	石製品 臼　玉	覆土内 完形	径　1.8 厚　0.6 孔　0.3	滑石			上下面は平坦に仕上がっていない。周縁は比較的丁寧な面取り状の磨き整形を加えており、穿孔は一方向。	重　3.2
41－39 135	石製品 臼　玉	8cm ½残存	径　1.7 厚　0.7 孔　—	滑石			中央部分のみの残存で、周縁の調整等不明瞭。穿孔は一方向。	重　1.0
41－40 135	石製品 臼　玉	覆土内 完形	長　2.3 幅　2.3 厚　0.9	滑石			周縁は打ち欠かれたままで、穿孔はみられず、未製品であるのかどうかは不明。	重　6.5
41－41 135	石製品 臼　玉	覆土内 —	長　1.9 幅　2.1 厚　0.7	滑石			穿孔、磨き等はみられず剝片である可能性が強い。	重　4.0
41－42 135	石製品 臼　玉	7cm 破片	長　1.7 幅　1.1 厚　0.7	滑石			磨き等みられず、剝片である可能性が強い。	重　1.1
41－43 135	石製品 臼　玉？	覆土内 破片	長　2.2 幅　1.3 厚　0.8	滑石			未製品であるか、剝片であるのかは不明。	重　2.8
41－44 135	石製品 臼　玉	覆土内 破片	長　— 幅　— 厚　—	滑石			小片で整形痕等はみられない。	重　0.2

第16号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
44－1 135	土師器 坏	掘り方覆 土内 ¾残存	口　12.8 底　— 高　4.4	黒色鉱物粒少 褐色粒多 細砂粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は内湾気味に直立する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	内外面黒色塗彩
44－2 135	土師器 坏	16cm ½残存	口　(12.7) 底　— 高　(4.2)	細砂粒少 褐色粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	によい 赤褐	口縁部は、やや内湾気味に直立し、底部との間に強い稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は、底部（手持ち）篦削り後、口縁部横撫で内面は、全面撫でを施す。	内外面黒色塗彩
44－3 135	土師器 坏	覆土内 ½残存	口　(13.0) 底　— 高　(4.1)	黒色鉱物粒多 砂粒少	酸化焔 硬質	浅黄橙	口縁部は直線的に外傾し、底部との間に稜を有する。底部は、丸底を呈する。整形は、口縁部横撫で、底部は（手持ち）篦削り、内面は撫でを施す。	内面の可能性あり
44－4 136	土師器 坏	±0cm ½残存	口　11.5 底　— 高　3.5	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 やや硬 質	によい 橙	口縁部は直線的に外傾し、底部との間に稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は、底部手持ち篦削り後、口縁部横撫で。	全体に磨滅している
44－5 136	土師器 坏	覆土内 ½残存	口　(12.6) 底　— 高　(3.5)	砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は若く外反する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
44－6	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.4) 底 — 高 (4.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	明赤褐	口縁部は内斜し，底部は丸底を呈する。整形は底部荒削り後，口縁部横撫で，内面は全面撫でを施す。	
44－7 136	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (15.0) 摘 — 高 (1.5)	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形。かえりを有し，天井部外面に回転箆削りを施す。	
44－8 136	土師器 甕	覆土内 与残存	口 (15.6) 底 — 高 (10.0)	砂粒多 白色細粒多	酸化焔 硬質	灰白	肩部に強い張りを有し，口縁部は「く」字状に強く外反する。口縁部屈曲部内面には接合痕が明瞭に残る。口縁部横撫で後，胴部凝位（上→下）の荒削りを施す。	還元気味の色調を呈する

第18号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
47－1	土師器 埦	カマド内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (2.5)	細砂粒少 白色鉱物粒少	中性焔 硬質	にぶい 褐	轆轤整形（？）。	
47－2	土師器 埦	25cm 破片	口 (16.9) 底 — 高 (5.1)	片岩粒多 白色鉱物粒微	中性焔 硬質	浅黄橙	轆轤整形(？)。体部の張りは弱く，口縁部は短く外反する。	
47－3	土師器 埦	28cm 与残存	口 — 底 5.1 高 (2.5)	細砂粒微 黒色鉱物粒少	中性焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転？)。底部回転糸切り無調整。	
47－4	須恵器 羽釜	カマド内 21cm 破片	口 (23.0) 底 — 高 (9.5)	細砂粒多 白・黒色鉱物粒多	中性焔 硬質	褐灰	轆轤整形。口縁部は垂直気味に立ち上がり，口縁部及び内面は撫で，鍔は水平で三角形状である。	
47－5 136	石製品 砥石	17cm 与残存	長 8.1 幅 5.1 厚 2.0	砥沢石			砥面は4面。	重 131.8
47－6	瓦 女瓦	破片	厚 1.7	片岩粒多 白色鉱物粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取りは2面。凸面は全面撫でを施す。	カマド内 3～6cm
47－7	瓦 女瓦	カマド内 14cm 破片	厚 1.8	細砂粒少 白・黒色鉱物粒少	還元焔 硬質	橙	一枚作り？。側端部面取り2面，凹面布目は丁寧に撫で消されている。凸面は縄叩きを施す。	

第19号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
48－1	須恵器 坏	覆土内 与残存	口 (13.0) 底 (5.0) 高 4.2	細砂粒多 黒色鉱物粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形（右回転）。底部回転糸切り無調整。口縁部は外反する。	体部外面にカーボン付着
48－2 136	土師器 坏	4cm 与残存	口 (12.9) 底 (7.5) 高 4.1	細粒多 白色鉱物少	中性焔 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転？)。脚部に弱い張りを有し，口縁部は直線的に外傾する。底部は回転糸切り無調整。	
48－3 136	須恵器 埦	カマド内 4cm 与残存	口 12.7 底 6.6 高 4.5	白色細粒少 細砂粒多	還元焔 硬質	黒褐	轆轤整形(右回転)。体部上半に弱い張りを有し，口縁部は強く外反する。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。	いぶし
48－4 136	灰釉陶器 埦	カマド内 与残存	口 (15.4) 底 — 高 (4.1)	美濃系		灰白	轆轤整形。体部下半に張りを有し，口縁部はわずかに外反する。施釉漬け掛け。	櫛目が付いている
48－5 136	須恵器 羽釜	±0～12 cm 与残存	口 (19.6) 底 (4.5) 高 (26.5)	白色鉱物粒少 砂粒多	還元焔 やや硬質	灰白	紐作り轆轤整形(右回転)。胴部上半に張りを有し，口縁部は強く内傾する。口唇部は平坦で内傾している。胴部上半及び内面に轆轤痕を残し，外面下半は斜位（上下）の荒削りを施す。	
48－6	瓦 女瓦	12cm 破片	厚 1.8	白色鉱物粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取り1面，凹面に粘土板糸切り痕残存。凸面は全面撫で。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 重目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
48－7	瓦 女　瓦	±0cm 破片	厚　1.8	片岩粒少 白色鉱物粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り。凸面は全面撫で。	
48－8 136	石　器 擦　石	3cm 完形	長　10.8 幅　10.0 厚　4.5	粗粒安山岩			敲打痕と擦痕を持つ。	重 847.5
49－9 136	石　器 不　明	覆土内 完形	長　3.4 幅　1.4 厚　1.0	砂岩			使用痕不明。	重　7.2
49－10 136	石　器 敲編み石	覆土内 完形	長　11.2 幅　5.3 厚　3.5	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 337.5
49－11 136	石　器 敲編み石	覆土内 完形	長　11.0 幅　5.5 厚　3.7	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 378.2
49－12 136	石　器 敲編み石	覆土内 完形	長　11.1 幅　5.3 厚　2.7	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 291.2

第20号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 重目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
51－1	須恵器 坏	覆土内 破片	口　－ 底　(7.0) 高　(2.4)	白色細粒多	還元焔 硬質	黄灰	轆轤整形(右回転)。底部は、回転糸切り無調整。	
51－2	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(17.0) 摘　－ 高　(2.7)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部外面は、回転篦削りを施す。	
51－3	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(11.0) 摘　－ 高　(1.6)	黒色細粒少 白色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。内面かえりは、口縁部とほぼ同規模で、内傾しない。	
51－4	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(13.0) 摘　－ 高　(1.6)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。内面かえりは短く内傾しない。	

第21号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 重目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
53－1 136	土師器 坏	カマド内 大残存	口　(12.0) 底　－ 高　(3.0)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 黄褐	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は直立する。口縁部横撫で後、底部に篦削りを施す。	
53－2	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　－ 高　(3.0)	細砂粒多 白色鉱物粒微	酸化焔 やや硬質	橙	口縁部との境に強い段を有し、口縁部横撫で内面撫でを施す。	
53－3	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　－ 高　(3.6)	細砂粒多 白・黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい 黄橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱く段を有し口縁部は内湾気味。整形は口縁部横撫で。内面は撫でを施す。	
53－4 136	土師器 坏	覆土内 完形	口　12.8 底　－ 高　4.5	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	口縁部は直線的に外傾し、底部との間に強い稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は、底部手持ち篦削りと思われるが面面が粗れていて不明確である。口縁部は横撫で、内面は全面撫でを施す。	
53－5	土師器 坏	カマド掘り方 破片	口　(14.0) 底　－ 高　(4.3)	褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に段を有し口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で、底部篦削りを施したと思われるが面面の粗れが激しく不明確。	

第22号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
55－1 136	土師器 坏	覆土内 写残存	口 11.0 底 — 高 3.6	細砂粒微	酸化焔 硬質	橙	口縁部は直線的に外傾し、底部との間に強い稜を有する。底部は緩平な丸底を呈する。整形は口縁部横撫で、底部は器面が粗れて不明瞭である。内面は全面撫でを施す。	
55－2 136	土師器 坏	覆土内 写残存	口 12.4 底 — 高 4.0	褐色細粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部は外反し、底部との間に強い稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は、底部篦削り後、口縁部横撫で、内面は全面撫でを施す。	
55－3 136	土師器 坏	12cm 写残存	口 10.6 底 — 高 3.4	細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部はやや外反し、底部との間に強い稜を有する。底部は丸底を呈する。底部篦削り後、口縁部横撫で、内面は全面撫でを施す。	
55－4 137	土師器 坏	覆土内 写残存	口 11.8 底 — 高 3.9	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	口縁部は直線的に外傾し、底部との間に弱い稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は、器面が粗れているため不明瞭、口縁部は横撫で、内面は、全面撫でを施されている。	
55－5	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.3)	片岩細粒微 黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	口縁部は外反し、底部との間に稜を有し、底部は丸底を呈する。底部篦削り後、口縁部横撫で。	
56－6 137	土師器 坏	覆土内 写残存	口 11.2 底 — 高 3.8	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 硬質	橙	口縁部は強く内傾し、底部は丸底を呈する。口縁部横撫で、底部篦削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。内面は撫でを施す。	
56－7 137	土師器 坏	覆土内 写残存	口 12.2 底 — 高 4.0	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 軟質	橙	口縁部はやや内傾し、底部は丸底を呈する。口縁部横撫で、底部篦削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。内面は撫でを施す。	黒斑有り
56－8 137	須恵器 蓋?	覆土内 写残存	口 (11.4) 摘 — 高 (3.0)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。口縁部は内消し、天井部は丸底状を呈する。天井部外面に手持ち篦削りを施す。	
56－9 137	須恵器 蓋	覆土内 写残存	口 (11.0) 摘 — 高 (3.6)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(左回転)。口縁部は直線的に外傾し、口縁部との境に強い稜を有する。天井部は外面に回転篦削りを施す。	
56－10	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 — 高 —	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形。上半部に手持ち篦削りを施す。	
56－11 137	須恵器 蓋	覆土内 完形	口 10.2 摘 — 高 3.6	砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は丸底状で、口縁部は短く直立する。天井部外面に回転篦削りを施す。	
56－12 137	土師質 坏	覆土内 完形	口 10.2 底 5.1 高 3.0	黒色粒少 砂粒多	酸化焔 やや軟質	橙	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。	
56－13	土師器 甕	覆土内 破片	口 (18.0) 底 — 高 (5.5)	細砂粒多 白・黒色鉱物粒多	酸化焔 やや硬質	橙	口縁部は外反する。口縁部横撫で。	
56－14	須恵器 短頸壺	覆土内 破片	口 (9.0) 底 — 高 (3.2)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形。口縁部は直立する。	
56－15	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微	還元焔 硬質	灰白	叩き整形。外面擬格子状叩き。内面は器面が剝落し不明。	厚 0.6
56－16	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒微	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面格子状叩き、内面青海波文。	厚 0.7
56－17 137	石器 敲石	覆土内 完形	長 12.0 幅 7.4 厚 5.0	粗粒安山岩			上下端に敲打痕あり。	重 665.9
56－18 137	石器 燕編み石	覆土内 完形	長 13.2 幅 6.7 厚 4.9	変質安山岩			使用痕不明。	重 691.4

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
56－19	石　器 敲　石	覆土内 完形	長　16.7 幅　5.7 厚　5.7	粗粒安山岩			上下端部と側端部に敲打痕、側端部に剥離面を持つ。	重 780.3
56－20 137	石　器 磨編み石	覆土内 与残存	長　(10.7) 幅　4.8 厚　4.0	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 324.5
56－21	石　器 敲　石	覆土内 与残存	長　(6.6) 幅　7.1 厚　3.8	粗粒安山岩			側部に敲打痕を持つ。	重 254.2
56－22 137	石　器 磨編み 石？	覆土内 完形	長　10.1 幅　9.8 厚　4.7	変質玄武岩			使用痕不明。	重 716.8

第23号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
58－1	須恵器 坏　身	覆土内 破片	口　10.2 底　－ 高　2.2	細砂粒微 褐色細粒少	還元焔 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形（？）。口縁部は比較的長く内傾し、受け部は反り気味に水平にのびている。	
58－2	須恵器 甕	覆土内 破片	口　(26.6) 底　－ 高　(4.2)	細砂粒多 白色鉱物粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（？）。口縁部は強く外反し、上端に沈線を巡らす。	
58－3	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.0
58－4	須恵器 円　盤	覆土内 完形	口　－ 底　－ 高　－	細砂粒多	還元焔 硬質	灰白	須恵器の甕の破片を使用したものであり、平行叩きと青海波文を残している。周縁は打ち欠いたままである。	厚　0.6 重　13.9
58－5 137	石　器 磨　石？	覆土内 破片	長　6.5 幅　6.7 厚　4.1	粗粒安山岩			自然面には剥落した部分がある。截断面縁辺には小さな使用に伴う剥離があり、面は磨滅している。	重 245.5
58－6 137	石　器 磨編み 石？	6cm 完形	長　13.6 幅　6.4 厚　4.2	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 635.9
58－7 137	石　器 敲　石	3cm 完形	長　14.7 幅　7.0 厚　4.5	溶結凝灰岩			一端部に敲打痕。	重 645.8
58－8 137	石　器 磨編み 石？	1cm 完形	長　16.2 幅　6.2 厚　4.6	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 754.1
58－9 137	石　器 磨編み 石？	4cm 完形	長　15.5 幅　7.1 厚　5.1	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 832.5
58－10 137	石　器 磨編み 石？	7cm 完形	長　13.5 幅　7.5 厚　4.4	ひん岩			両端部に敲打痕有り。	重 665.9

第162号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
58－11	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　－ 高　(3.8)	細砂粒微 褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
58－12 137	須恵器 横　瓶	覆土内 破片	口　(10.4) 底　－ 高　(8.0)	褐色細粒少	還元焔 硬質	にぶい 赤褐	轆轤整形（？）。頸部から口縁部にかけて強く外反し上端で外面肥厚している。この肥厚部には沈線状の窪みが巡っている。	

第24号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
59－1	土師器 甕	覆土内 破片	口　(16.8) 底　－ 高　(4.0)	黒色鉱物粒多 白色鉱物粒多 白色粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	口縁部は「く」字状に強く外反する。内面に接合板がみられる。整形は、口縁部内外面横撫でを施す。	

第25号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
61－1	須恵器 坏　身	覆土内 破片	口　(11.0) 底　－ 高　(3.0)	白色細粒少 黒色粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。受け部を有し、口縁部は内傾する。蓋坏の坏身。	
61－2 138	土師器 坏	覆土内 与残存	口　(12.8) 底　－ 高　(4.1)	細砂粒多 褐色細粒少	酸化焔 硬質	にぶい 褐	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は短く内傾する。口縁部は横撫で、底部箆削りで、間に調整不明瞭な部分がある。	内外面黒色塗彩
61－3	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白色細粒微 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰白	叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文。	厚　0.8
61－4 138	土製品 坩　堝	カマド内 破片	口　(13.6) 底　－ 高　(4.6)		還元焔 硬質	灰白	器厚が厚く、体部は内湾し、口唇部に段を有する。口唇部外面及び内面には付着物が見られ、一部発泡している。	

第26号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
63－1 138	須恵器 坏	覆土内 与残存	口　(13.2) 底　6.0 高　4.1	黒色細粒少	還元焔 やや軟質	灰白	轆轤整形（右回転）。底部回転糸切り無調整。体部上半にやや張りを有し、口縁部は外反する。	
63－2 138	須恵器 埦	覆土内 破片	口　－ 底　(5.0) 高　(3.2)	黒色細粒微 白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り後付高台。	
63－3	土師器 甕	覆土内 破片	口　(18.6) 底　－ 高　(5.3)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 破片	橙	口縁部破片で「コ」字状に屈曲する。口縁部横撫では屈曲部に強く施され、中位は弱く、接合板を明瞭に残す。	
63－4 138	土師器 小型甕	覆土内 破片	口　(13.4) 底　－ 高　(9.3)	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焔 やや硬質	にぶい 橙	胴部中位に張りを有し、口縁部は「コ」字状に2段の屈曲がみられる。口縁部横撫で後胴部横位（右→左）の箆削りを施す。内面は横位箆撫で。口縁部内外面に明瞭な接合痕が認められる。	
63－5	須恵器 壺	覆土内 破片	口　－ 底　(3.0) 高　(2.2)	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形（?）。底部回転糸切り無調整。	
63－6	須恵器 鉢	覆土内 破片	口　(16.7) 底　－ 高　(9.1)	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰白	紐作り後轆轤整形。口縁部が「く」字状に外反し、口唇部は平坦で外傾する。	
63－7 138	鉄　器 刀　子	覆土内 与残存	長　(13.7) 幅　(1.1) 重　15.9				峯の巾が比較的厚い。同一個体とみられるが接合はしない。	
63－8 138	鉄　器 釘	覆土内 与残存	長　(4.9) 幅　(0.5) 重　5.9				両端を欠損。断面は長方形で使用に伴うものか曲がっている。	
63－9 138	鉄　器 釘	覆土内 破片	長　(4.0) 幅　(0.4) 重　2.6				両端欠損。断面方形。	
63－10 138	鉄　器 釘	覆土内 ほぼ完形	長　(11.2) 幅　(0.6) 重　19.4				先端をわずかに欠損。使用に伴うものか全体に曲がっている。断面方形。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
63－11 138	瓦 男瓦	カマド奥 壁18～21 cm 完形	広 20.7 狭 12.4 長 40.0	白色細粒少 褐色粒多	還元焔 硬質	によい 褐	縦作り？。側端部面取り２面。広端部内面に撫削り。凹面布目は粗く指先の撫でが施されている。凸面は撫でを施す。	厚 2.0
64－12 138	瓦 男瓦	カマド右 壁－２cm 瓦残存	広 － 狭 11.8 長 26.5	細粒少 黒色粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取り１面。凸面は全面平行叩きを施す。第64図－13と同一個体。	厚 2.2
64－13 138	瓦 男瓦	カマド左 壁－３cm 完形	広 19.0 狭 12.0 長 35.6	細粒少 黒色粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り。凹面に粘土板糸切り痕をわずかに残す。凸面は縦叩き後撫で消し。第64図－12と同一個体。	厚 1.3
65－14 138	瓦 女瓦	カマド右 壁12cm 瓦残存	厚 3.3	砂粒多 小礫微 白色鉱物粒多	還元焔 硬質	暗灰黄	篦描文字瓦か？。一枚作り？。凹面に明瞭な粘土板糸切り痕を残す。凸面は全面撫で、側端部面取りは１面。	

第27号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
67－1 139	土師器 坏	覆土内 瓦残存	口 (11.2) 底 － 高 (3.0)	砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	口縁部は直線的に短く直立し、底部との間に強い稜を有する。底部は扁平な丸底を呈する。整形は、底部撫削り後、口縁部横撫で、内面は全面撫でを施す。	
67－2 139	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 － 高 (3.5)	細砂粒微	酸化焔 軟質	橙	口縁部は、直線的に外傾し、底部は丸底を呈する。口縁部は横撫で、底部撫削り。内面は篦撫で。	
67－3 139	石器 磨編み石	±０cm 完形	長 11.7 幅 6.0 厚 4.1	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 434.9
67－4 139	石器 磨編み石	覆土内 完形	長 11.1 幅 5.8 厚 4.6	変質安山岩			使用痕不明。	重 432.2
67－5 139	石器 磨編み石	±０cm 完形	長 11.6 幅 6.6 厚 3.6	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 421.4
67－6 139	石器 磨編み石	３cm 完形	長 14.2 幅 5.9 厚 3.1	黒色頁岩			使用痕不明。	重 431.6
67－7 139	石器 磨編み石	３cm 完形	長 16.5 幅 8.1 厚 3.5	変質安山岩			一端から両面に剥離がみられ、その端部は磨滅している。	重 615.1
67－8 139	石器 敲石	覆土内 完形	長 13.4 幅 8.4 厚 4.0	粗粒安山岩			両端部に敲打痕が認められ、側縁の１面に磨滅した面がある。	重 577.1
67－9 139	石器 磨編み石	１cm 完形	長 13.3 幅 6.6 厚 4.5	流紋岩			使用痕不明。	重 591.6
67－10 139	石器 磨編み石	－３cm 完形	長 12.9 幅 5.9 厚 4.8	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 562.7

第28号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
68－1 139	土師器 坏	－４cm 瓦残存	口 (13.6) 底 － 高 (3.7)	砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬質	灰褐	口縁部は弱く内湾し、底部は丸底を呈する。整形は口縁部横撫で、底部は撫削り。内面は撫でで、見込み部に指頭痕状の凹みがある。	
68－2 139	土師器 坏？	覆土内 瓦残存	口 (14.0) 底 － 高 (3.2)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 硬質	によい 橙	底部は平底気味で、体部から口縁部は内湾気味である。口縁部は横撫で、体部は円周方向、底部は一定方向の篦削りを施す。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
68－3	土師器 坏	覆土内 破片	口　(17.0) 底　— 高　(4.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	明赤褐	口縁部は内湾し、底部は丸底を呈する。整形は口縁部横撫で、内面は全面撫でを施す。	
68－4	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.4) 底　— 高　(3.2)	細砂粒微 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	橙	口縁部はやや内湾気味に内傾し、底部との境に段を有する。整形は底部手持ち箆削り後、口縁部横撫で、内面撫でを施す。	
68－5	土師器 坏	－7cm 破片	口　(17.6) 底　— 高　(4.5)	細砂粒多 白・黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	口縁部は内湾し、底部は丸底を呈する。整形は、底部箆削り後、口縁部横撫で、内面は全面撫でを施す。	
68－6 139	須恵器 長頸瓶？	－10cm 脚部破片	口　— 底　14.4 高　(4.5)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	輪鞍整形。底は強く開き、先端で短く屈曲する。接合部から剥離している。	

第29号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
69－1 139	須恵器 境	覆土内 高台部剥離	口　12.8 底　— 高　(4.0)	黒色鉱物粒多 細砂粒少 白色細粒多	還元焔 やや硬質	灰黄	輪鞍整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。底部は高台貼付に伴い撫でが施されている。体部下半にわずかに張りを有し、口縁部は、外反する。	カーボン付着
69－2	瓦 男　瓦	±0cm 与残存	厚　3.1	白色鉱物粒少 砂粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？側端部面取り2面。凸面は平行叩き。凹面布目は全面にわたって撫で消されている。	

第30号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
71－1	須恵器 坏	覆土内 破片	口　— 底　(9.0) 高　(2.4)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	輪鞍整形（？）。底部は回転箆削りを施す。	
71－2	須恵器 境	覆土内 破片	口　— 底　(8.0) 高　(2.0)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪鞍整形（？）。高台は回転箆削り後付高台。	
71－3	須恵器 境	覆土内 破片	口　— 底　12.0 高　(2.0)	白色鉱物粒多	還元焔 硬質	灰	輪鞍整形(？)。高台は回転箆削り後の付高台。	
71－4	須恵器 境	覆土内 破片	口　— 底　(10.0) 高　(3.2)	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪鞍整形(？)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
71－5	須恵器 高台付 有孔壺	21cm 破片	口　— 底　(14.0) 高　(3.8)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	輪鞍整形(？)。高台は付高台で4ヶ所に孔がある。	
72－6	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(18.0) 摘　— 高　(1.5)	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰白	輪鞍整形(？)。扁平な器形で、口縁端部は屈曲する。	
72－7	土師器 壺	覆土内 破片	口　(13.4) 底　— 高　(4.8)	褐色細粒多 細砂粒微	酸化焔 やや硬質	橙	胴部の張りは強く、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は直立する。口縁部は横撫でで、接合痕が認められる。	
72－8	須恵器 壺	覆土内 破片	口　(22.0) 底　— 高　(5.7)	白色細粒微 褐色細粒少	還元焔 硬質	暗青灰	外反する口縁部で、外面波状文を残存部で2段施す。	
72－9 139	石製品 臼　玉	覆土内 完形	径　1.3 厚　1.0 孔　0.3	滑石			周縁は比較的丁寧に円形に整形されている。穿孔は一方向。	重　2.2
72－10	石　器 敲　石	覆土内 完形	長　13.4 幅　6.4 厚　3.0	粗粒安山岩			一縁辺にわずかに敲打痕が認められ、一端にカーボンが付着。	重 417.8

遺物一覧表

第182号址

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 重目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
72—11	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(13.2) 底　(8.0) 高　3.8	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。体部下半にわずかに張りを有し、口縁部は比較的強く外傾する。底部は回転糸切り後篦削りを施す。	
72—12 139	鉄　器 刀　子	覆土内 破片	長　(5.0) 幅　(1.7) 重　10.9				周端部を欠損している。錆の進行が比較的進んでおり、縦方向にヒビが入っている。	

第31号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 重目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
74—1 139	土師器 坏	覆土内 破片	口　(16.8) 底　— 高　(3.7)	細砂粒少 褐色粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底と考えられ、口縁部は内湾気味である。底部篦削り後口縁部に横撫でを施す。	
74—2 139	灰釉陶器 埦	—4～ ±0cm 破片	口　(14.6) 底　(6.8) 高　3.9	美濃系 白色粒多		灰白	轆轤整形(右回転)。体部に丸味を有し、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り後の付高台である。施釉は漬け掛け。内面に板の圧痕があり、この部分が「ハゼ」ている。	
74—3 139	須恵器 蓋	覆土内 完形	口　20.4 摘　4.6 高　3.8	小礫少 細砂粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。摘は天井部切り離し後回転篦削り調整を施し、その後に貼付している。	
74—4	須恵器 小型壺	P_1±0cm 破片	口　(12.0) 底　— 高　(4.5)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 硬質	におい 黄橙	轆轤整形(?)。口縁部は「く」字状に外傾する。内面にカーボン付着。	
74—5	土師質 甑	覆土内 破片	口　— 底　(21.0) 高　(8.8)	細砂粒多 白色鉱物粒多	中性焔 硬質	におい 黄橙	轆轤整形(右回転)。胴部は縦位の篦削り後、脚部横撫で。脚部は「く」字状に外反する。	
74—6	瓦 男瓦	カマド内 6cm 破片	厚　1.4	白色細粒多 黒色粒微	還元焔 硬質	灰	一枚作り。側端部面取り1面。	
74—7	瓦 女瓦	±0～8 cm 破片	厚　1.7	片岩粒多 黒色粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り?。凹面に粘土板糸切り痕。	
74—8	瓦 男瓦	3cm 破片	厚　1.8	片岩細粒多	還元焔 硬質	におい 橙	一枚作り?。側端部面取り1面。凸面は全面撫で。	
74—9 139	石　器 不　明	±0cm 与残存	長　13.3 幅　(8.4) 厚　(5.5)	灰色安山岩			平滑されており、一部に剥離が認められる。	重 889.9
74—10 139	石　器 鳥編み石	8cm 完形	長　18.3 幅　8.1 厚　4.9	粗粒安山岩			使用痕不明。	重1339.2

第32号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 重目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
75—1 140	須恵器 坏	カマド内 —1cm 与残存	口　(13.4) 底　(6.0) 高　3.9	白色鉱物粒少 細砂粒多	還元焔 軟質	灰	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。底部は回転糸切り無調整。	
75—2 140	土師質 坏	23cm 与残存	口　(18.0) 底　— 高　(5.0)	細砂粒少 白色細粒多	中性焔 硬質	におい 橙	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、内外面共に轆轤痕を明瞭に残す。	
75—3	須恵器 埦	カマド内 破片	口　— 底　(9.2) 高　(2.2)	細砂粒少 白色鉱物粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
75—4	須恵器 埦	覆土内 破片	口　— 底　(7.0) 高　(3.2)	細砂粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。高台は付高台。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成 色　調	器形・技法等の特徴	備　考
75－5	須恵器 埴	覆土内 破片	口　— 底　(9.2) 高　(2.3)	白色細粒微	還元焔 硬質　灰	輪鞴整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
75－6	須恵器 埴	覆土内 破片	口　— 底　4.2 高　(3.5)	細砂粒微	還元焔 硬質　灰	輪鞴整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
75－7 140	須恵器 高台付皿	28～33cm 完形	口　12.1 底　6.1 高　2.4	白色細粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質　灰	輪鞴整形(右回転)。体部は厚手で、やや内摂気味に開く。底部は回転糸切り後付高台。高台内面の調整は良好でない。	
75－8	須恵器 甕	覆土内 破片	口　(14.2) 底　— 高　(4.4)	黒色細粒少	還元焔 硬質　灰	口縁部は「く」字状に外反し、上端に突帯を巡らす。	
75－9 140	土師器 甕	－6cm 与残存	口　(19.0) 底　— 高　(17.5)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 硬質　橙	胴部上半に最大径を有し、口縁部は「コ」字状を呈し、口唇部はわずかに直立し、外面に沈線がみられる。口縁部横撫で後胴部上半に横位(右→左)の箆削り、内面は横位箆撫でを施す。	
75－10 140	土師器 甕	覆土内 破片	口　(22.0) 底　— 高　(7.5)	黒色鉱物粒多 細粒多	酸化焔 硬質　橙	胴は球胴形と考えられ、口縁部は「く」字状に強く外反する。口縁部横撫で後外面横位(右→左)の箆削り、内面横位箆撫でを施す。	
75－11	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	褐色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質　灰	口縁部の破片で、上端に突帯を巡らし、下半に波状文を施す。	厚　0.9
76－12 140	瓦 男　瓦	与残存	厚　2.0	細砂粒少	還元焔 硬質　灰黄	一枚作り？。側端部面取り1面。	カマド内 16cm
76－13 140	鉄　器 鉄　滓？	±0cm 与残存	長　(9.0) 幅　6.5 重　8.4			茎の一部を欠損、先端は菱形状を呈する。	
76－14 140	鉄　器 釘	覆土内 破片	長　(4.2) 幅　(0.9) 重　9.3			釘頭部で片側に折れ曲がった様な状態である。	
76－15 140	石　器 敲　石	覆土内 与残存	長　(8.4) 幅　7.9 厚　3.1	石英閃緑岩		端部敲打痕あり。	重 328.7
76－16 140	石製品 板　碑？	4cm 破片	長　(10.4) 幅　(9.8) 厚　(1.2)	緑色片岩		1面に断面三角形状の線刻が施されている。	重 194.1

第33号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成 色　調	器形・技法等の特徴	備　考
77－1 140	土師器 坏	覆土内 与残存	口　(11.6) 底　— 高　(3.5)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 軟質　橙	底部は平底気味の丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外傾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
77－2 140	土師器 坏	覆土内 ほぼ完形	口　11.6 底　— 高　4.3	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 軟質　にぶい橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は弱く外反する。口縁部横撫で後底部箆削りを施す。	
77－3 140	土師器 坏	8cm 完形	口　13.1 底　— 高　4.6	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 やや硬質　橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外傾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
77－4 140	土師器 坏	3cm 与残存	口　13.2 底　— 高　4.3	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 軟質　橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
77－5 140	須恵器 埴	カマド内 与残存	口　(16.8) 底　— 高　(6.5)	黒色細粒少	還元焔 やや硬質　灰白	輪鞴整形(右回転)。体部下半にわずかに張りを有し、口縁部は直線的に外傾する。	
77－6 140	土師器 小型甕	覆土内 破片	口　(12.6) 底　— 高　(6.4)	褐色細粒多 黒色鉱物粒微	酸化焔 やや硬質　にぶい橙	口縁部は「く」字状に外反する。整形は胴部上側横位(右→左)箆削り、口縁部は横撫でを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
78－7 140	土師器 小型甕	±0cm 瓦残存	口　(10.4) 底　— 高　(5.8)	褐色粒多	酸化焔 軟質	橙	胴部は球胴形で、口縁部は外反気味に立ち上がる。口縁部は横撫で、胴部は箆削りと考えられるが、器面の磨滅が激しく不明。	
78－8 141	土師器 甕	カマド内 破片	口　(19.0) 底　— 高　(12.5)	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 褐	肩部に最大径を有し、口縁部は強く外反する。口縁部横撫で後肩部横位（右→左）下半斜位（下→上）、胴部下半縦位（上→下）の箆削りを施す。口縁部中位に接合痕を残す。	
78－9 141	土師器 甑	7cm 瓦残存	口　(19.9) 底　— 高　(12.6)	砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 黄橙	口縁部は強く外反し、胴部上半にわずかに張りを有する。口縁部横撫で、胴部縦位（上→下）箆削り、内面は横位箆撫でを施す。	
78－10 141	土師器 坩	5cm 完形	口　8.0 底　— 高　15.9	砂粒多 褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	胴部は扁平な球胴で、口縁部はわずかに外反気味である。外面の磨滅が激しく、器面調整は不明。口縁部内面に接合痕を残す。	
78－11 141	須恵器 瓶	6cm 瓦残存	口　— 底　(9.4) 高　(11.8)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	底部は平底で、胴部はやや扁平な球胴状である。胴部全面に横位カキ目を施す。	
78－12 141	須恵器 甕	3cm 破片	口　(14.6) 底　— 高　(5.0)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	紐作り輪幅整形。口縁部は強く外反し、上端に段を有し直立する。直立部分に櫛描波状文を施す。口縁部内面に焼成前の箆描さがみられる。	
78－13 141	石製品 砥　石	3cm 瓦残存	長　(10.0) 幅　7.2 厚　4.7	砥沢石			砥面は4面で、線状の使用痕がみられる。周辺の剥落が顕著である。	重 391.5
78－14 141	石　器 不　明	カマド強 り方 破片	長　14.5 幅　11.2 厚　5.8	粗粒安山岩			使用痕不明。	重1523.7
78－15 141	石　器 敲編み石	覆土内 完形	長　16.8 幅　5.8 厚　4.2	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 616.5
78－16 141	石　器 敲編み石	覆土内 完形	長　14.7 幅　5.3 厚　5.2	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 651.1
78－17 141	石　器 敲　石	3cm 完形	長　12.8 幅　5.2 厚　4.9	粗粒安山岩			一端に敲打痕。	重 513.5
78－18 141	石　器 敲編み石	覆土内 完形	長　12.7 幅　5.7 厚　4.9	変質玄武岩			使用痕不明。	重 561.6

第34号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
81－1 141	土師器 坏	覆土内 瓦残存	口　(12.0) 底　— 高　(4.2)	砂粒微	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部はわずかに外反する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
81－2 141	土師器 坏	覆土内 ほぼ完形	口　12.2 底　— 高　4.1	砂粒少 褐色粒多	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
81－3 141	土師器 坏	23cm 完形	口　12.6 底　— 高　4.6	細砂粒多	酸化焔 硬質	淡黄	底部は丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
81－4 141	土師器 坏	覆土内 瓦残存	口　12.6 底　— 高　4.2	砂粒微 褐色粒多	酸化焔 やや硬 質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部はわずかに外傾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
81－5 141	土師器 坏	8～13cm 瓦残存	口　14.8 底　— 高　4.2	細砂粒少 褐色粒多	酸化焔 やや軟 質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部はやや内湾気味に外傾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	内外面黒色塗彩
81－6 142	土師器 坏	6cm ほぼ完形	口　13.2 底　— 高　4.6	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は中位に稜を有し外傾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
81－7	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (4.3)	細砂粒微	酸化焔 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との間に弱い稜を有し、口縁部は外傾する。口縁部横撫で、底部筒削り、内面は撫でを施す。	
81－8 142	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (4.0)	褐色細粒少	酸化焔 軟質	にぶい 橙	底部は丸底と思われ、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は上半で内湾する。口縁部は横撫で、底部は筒削りと考えられる。	黒色土器の可能性有り
81－9 142	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口 (13.8) 底 — 高 4.7	黒色鉱物粒少 白色細粒少	酸化焔 軟質	明褐	底部は平底気味で、体部の丸味は強く、口縁部は短くわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は筒削りを施す。体部は横位筒削りと考えられるが、器面の磨滅が激しく不明瞭である。	
81－10	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (2.6)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焔 やや硬 質	にぶい 橙	口縁部は直線的で、底部は平底気味を呈する。口縁部横撫で、底部は筒削り、内面は撫でを施す。	
81－11 142	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口 13.2 底 — 高 3.3	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は緩平な丸底で、体部は丸味を有し、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は筒削り、体部の調整は不明瞭である。	
81－12	須恵器 高坏？	覆土内 破片	口 (28.0) 底 — 高 (6.7)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。口縁部は外傾し、体部中位に強い稜を有する。	
81－13 142	須恵器 高坏	覆土内 脚部残存	口 — 底 12.5 高 (9.0)	黒色粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形。長脚で三角形の2段透しを3方に有する。	
81－14	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	3方透しを有する高坏脚部の破片で、坏部接合部から剥離している。	
81－15 142	須恵器 台付 長頸壺	覆土内 3/4残存	口 — 底 — 高 (11.3)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り轆轤整形。肩部はわずかに張りを有し、胴部との境で強く屈曲する。胴部最大部に2本の沈線を廻らし、間に櫛描波状文を施す。脚部は貼付。	
81－16 142	須恵器 短頸壺	覆土内 破片	口 (10.8) 底 — 高 (6.1)	細砂粒少 黒色細粒少	還元焔 やや軟 質	灰	紐作り轆轤整形。口縁部は直立し、胴部中位に最大径を有する。外面胴部中位に波状文を施す。	
81－17	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (8.4)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 やや硬 質	にぶい 橙	口縁部「く」字状に弱く外傾し、胴部下半に最大径を有する。口縁部横撫で、胴部は筒削り、内面は撫でを施す。	
81－18 142	土師器 甕	23cm 3/4残存	口 20.6 底 — 高 (20.0)	砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	口縁部は「く」字状に強く外反し、胴部上半に弱い張りを有する。口縁部横撫で後胴部に斜位(下→上)の筒削りを施す。	
81－19 142	土師器 甕	23cm 3/4残存	口 18.0 底 — 高 (9.5)	白・黒色鉱物 粒少 砂粒多	酸化焔 やや硬 質	黄灰	口縁部は外反し、胴部中位にわずかに張りを有する。口縁部横撫で後胴部縦位(下→上)筒削り、内面は横位筒撫でを施す。	
81－20 142	土師器 甕	－3～5 cm 3/4残存	口 (21.2) 底 — 高 (17.5)	小礫多 砂粒多	酸化焔 やや軟 質	橙	口縁部は「く」字状に外反し、胴部の張りは弱い。口縁部横撫で後胴部に縦位(下→上)筒削り、内面横位筒撫でを施す。	
82－21	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (10.9)	細砂粒微	還元焔 硬質	灰白	紐作り叩き整形。胴部は強く外反する。胴部外面撫でを施す。内面は素文。	
82－22	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 黒色細粒微	還元焔 硬質	灰白	叩き整形。外面擬格子叩き後、間隔をおいてカキ目、内面は青海波文。	厚 0.7
82－23 142	石製品 砥石	覆土内 完形	長 3.7 幅 3.2 厚 2.9	二ツ岳軽石			周囲は比較的細かく面取りされ、円錐状を呈する。	重 18.4
82－24 142	石製品 砥石	覆土内 完形	長 4.5 幅 3.0 厚 2.3	二ツ岳軽石			周囲は面取りされ、四角錐状を呈する。	重 27.7
82－25 142	石器 磨編み石	±0cm 3/4残存	長 (10.7) 幅 6.5 厚 4.8	粗粒安山岩			残存部において使用痕は不明。断面に磨滅は認められない。	重 457.9

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
82—26 142	石器 燕編み石	覆土内 完形	長 12.8 幅 5.4 厚 3.2	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 322.9
82—27 142	石器 燕編み石	±0cm 完形	長 13.6 幅 6.1 厚 3.7	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 420.3
82—28 142	石器 燕編み石	覆土内 完形	長 14.8 幅 5.3 厚 4.5	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 590.9
82—29 142	石器 燕編み石	6cm 完形	長 12.0 幅 6.9 厚 2.7	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 376.6
82—30 143	石器 燕編み石	11cm 完形	長 15.2 幅 6.1 厚 3.6	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 486.5
82—31 143	石器 燕編み石	覆土内 完形	長 14.2 幅 5.9 厚 4.9	砂岩			使用痕不明。	重 702.5
82—32 143	石器 磨石?	−16cm 完形	長 14.1 幅 7.6 厚 4.3	灰色安山岩			一端が破断され、破断面が使用に伴い磨滅している。	重 716.9
82—33 143	石器 燕編み石	覆土内 完形	長 12.2 幅 6.9 厚 5.7	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 707.9
82—34 143	石器 敲石	覆土内 完形	長 13.3 幅 7.1 厚 4.5	ひん岩			一端に敲打痕。	重 594.2
82—35 143	石器 燕編み石	覆土内 完形	長 13.5 幅 5.8 厚 4.0	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 511.1
82—36 143	石器 燕編み石	2cm 完形	長 12.1 幅 6.3 厚 4.1	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 595.5
82—37 143	石器 敲石	覆土内 完形	長 11.0 幅 5.9 厚 4.1	粗粒安山岩			一端に敲打痕がみられ、側縁に剥離が認められる。	重 356.9
83—38 143	石器 敲石?	覆土内 完形	長 15.9 幅 10.2 厚 3.7	粗粒安山岩			縁辺の一部に使用痕らしい剥落がみられ、1面にカーボン付着。	重 963.9
83—39 143	石器 敲石?	覆土内 ほぼ完形	長 (12.4) 幅 12.7 厚 4.2	溶結凝灰岩			縁辺の一部が割れている。	重 937.9
83—40 143	石器 燕編み石	±0cm 完形	長 10.5 幅 5.7 厚 3.8	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 440.2
83—41 143	石器 燕編み石	±0cm 与残存	長 (9.7) 幅 6.6 厚 4.2	溶結凝灰岩			所面に磨滅等は認められず、その他の部分についても残存部に使用痕はみられない。	重 377.2
83—42 143	石器 燕編み石	3cm 完形	長 7.4 幅 4.7 厚 2.5	流紋岩			使用痕不明。	重 125.3

第35号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
85—1	土師器 坏	2床下坑 −25cm 破片	口 (11.6) 底 — 高 (3.6)	褐色粗粒多 細砂粒微	酸化焔 軟質	にぶい 橙	口縁部は強く外反し、底部は丸底を呈する。口縁部との間に段を有する。整形は口縁部横撫で内面全面撫で、底は荒削りと思われるが器面の粗れが激しく不明確である。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
85－2 144	土師器 坏	覆土内 与残存	口 (13.0) 底 — 高 (3.0)	褐色粒多 細砂粒少	酸化焔 硬質	明赤褐	口縁部はやや内彎気味に外傾し、底部との間に強い稜を有する。底部は扁平な丸底を呈する。整形は、口縁部横撫で、底部篦削りで、間に整形不明瞭な部分が見られる。内面は撫でを施す。	
85－3 144	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.8)	片岩細粒多 白色鉱物粒微	酸化焔 やや硬質	にぶい 褐	口縁部は直線的に外傾し、底部は丸底を呈する。口縁部との境に段を有する。整形は口縁部横撫で、底部は篦削り、内面は撫でを施す。	
85－4 144	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.5)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬質	橙	口縁部は前く内彎し、底部は浅い丸底で、口縁部との境に強い段を有する。口縁部横撫で底部篦削り、内面は撫でである。	
85－5 144	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.4)	細砂粒多	酸化焔 硬質	黒褐	口縁部は強く内傾し、底部との境に強い段を有し、底部は丸底を呈する。口縁部横撫で後に篦削りを施す。	内外面黒色塗彩
85－6 144	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.6)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 やや硬質	橙	口縁部はやや内傾し、底部との間に強い稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は底部手持ち篦削り後口縁部横撫で、内面は撫でを施す。	
85－7 144	土師器 坏	覆土内 完形	口 12.2 底 — 高 4.1	褐色粒多 細砂粒少	酸化焔 軟質	橙	口縁部は強く内傾し、底部との間に強い稜を有する。底部は扁平な丸底を呈する。整形は底部篦削り、口縁部は横撫で、内面は全面撫でを施し、粗い横位研磨後黒色処理を施す。	内面黒色処理
85－8	土師器 高坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.9)	細砂粒少,褐色細粒少、白・黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	明赤褐	口縁部は外反し、横撫で。内面底部から口縁部にかけて放射状の篦磨きを施す。	脚部欠損
85－9	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (20.8) 摘 — 高 (2.0)	白色細粒少 砂粒微	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(?)。扁平な器形で、口縁端部が屈曲する。	
85－10 143	須恵器 甕	2床下坑 －17cm 与残存	口 (16.5) 底 — 高 (9.3)	砂粒少	還元焔 やや軟質	灰白	紐作り。口縁部は外反し、上端に段を有し、短く直立する。胴部上半に強い張りを有する。口縁部及び胴部に波状文を施し、胴部にカキ目と沈線を巡らす。	掘り方 －13cm
85－11 143	石製品 砥石	覆土内 完形	長 3.8 幅 2.6 厚 2.1	二ツ島軽石			周回は円錐状に面取りされている。	重 12.0
86－12 143	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (10.0) 底 — 高 (10.0)	白色鉱物粒少 砂粒多 褐色粒多	酸化焔 やや軟質	橙	やや扁平な球胴を短く直立する口縁部を有する。口縁部は横撫で、胴部は横位篦削りを施す。	
86－13 143	石器 燕編み石	2床下坑 －14cm 完形	長 12.7 幅 5.1 厚 4.7	流紋岩			使用痕不明。	重 445.8
86－14 143	石器 敲石	－13cm 縁辺欠損	長 17.9 幅 14.2 厚 4.8	粗粒安山岩			縁辺に剥離が多く認められる。	重1805.8

第36号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
88－1 144	土師器 坏	土6cm ほぼ完形	口 13.2 底 — 高 3.8	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 硬質	黒褐	底部は丸底で、口縁部との境で屈曲し、口縁部はわずかに外傾する。底部は篦削り、口縁部は横撫でで、間に調整不明瞭な部分が認められる。	
88－2 144	土師器 坏	カマド掘り方 与残存	口 (12.8) 底 — 高 (3.1)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬質	にぶい 橙	口縁部はやや外反気味に直立し、底部は丸底を呈する。整形は、口縁部横撫で、底部(手持ち)篦削りで、間に整形不明瞭な部分が見られる。内面は撫でを施す。	
88－3	土師器 坏	掘り方覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (3.7)	片岩細粒微 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 やや硬質	にぶい 橙	口縁部は強く外傾し、底部は丸底と思われる。整形は口縁部横撫で、底部との間は調整不明瞭で底部は篦削りを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
88－4 144	須恵器 壺	6cm 完形	口　14.2 底　11.0 高　3.9	白・黒色細粒 多	還元焔 硬質	灰	帷幄整形(右回転)。体部から口縁部はやや内湾気味に開く。底部全面回転篦削り調整の為、切り離し技法不明。高台は底部回転篦削り後の付高台。	
88－5 144	須恵器 壺	貯蔵穴 破片	口　— 底　(10.0) 高　(2.4)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	帷幄整形(右回転)。高台は脚部と底部回転篦削り後の付高台。	
88－6 144	須恵器 蓋	覆土内 完形	口　20.2 鎬　5.1 高　4.4	黒色粒多 白色細粒微	還元焔 硬質	灰	帷幄整形(右回転)。やや扁平な体部と短く屈曲する口縁部を有する。摘は天井部外面回転篦削り後の貼付。	
88－7 144	土師器 甕	土0cm 完形	口　24.4 底　5.0 高　31.3	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	明赤褐	紐作り輪幄整形。最大径を有し、口縁は「く」字状に外反する。整形は胴部上半横位、下半縦位の篦削り、口縁部及び内面は横撫でを施す。	
88－8 144	鉄　器 釘	覆土内 ほぼ完形	長　(13.5) 幅　(0.5) 重　10.2				断面は円形状であり、古代のものかどうか不明。	
88－9 144	石　器 敲　石	覆土内 完形	長　13.3 幅　6.2 厚　4.9	粗粒安山岩			一端にわずかに敲打痕。	重 593.8
88－10 144	石　器 敲　石	3cm 完形	長　14.3 幅　7.4 厚　4.8	粗粒安山岩			上端と左端側面に若干敲打痕あり。	重 768.3

第37号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
90－1 144	土師質 坏	7cm 与残存	口　(10.0) 底　(5.2) 高　(2.8)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	輪幄整形（右回転）。底部回転糸切り無調整。体部下半に弱い張りを有し、口縁部は外反しない。	
90－2 144	灰釉陶器 皿	3cm 完形	口　13.4 底　7.3 高　2.8	美濃系		灰白	輪幄整形。体部下端2段の回転篦削り。高台は底部回転篦削り後の付高台。施釉は漬け掛けである。重ね焼きの痕跡有り。	
90－3	須恵器 羽　釜	2cm 破片	口　(20.0) 底　— 高　(7.9)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	還元焔 硬質	にぶい 黄橙	紐作り輪幄整形。口縁部は内傾し、口唇部は平坦である。鍔部は沈線状に窪む。	
91－4	須恵器 羽　釜	2cm 破片	口　(12.0) 底　— 高　(12.0)	砂粒多 白・黒色鉱物 粒多	還元焔 硬質	灰褐	紐作り輪幄整形(右回転)。口縁部は弱く内傾し、口唇部は平坦で内傾し、胴部はあまり張りはみられない。	内面黒色 処理
91－5	須恵器 羽　釜	カマド脇 り方 破片	口　(25.0) 底　— 高　(6.5)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	還元焔 硬質	灰褐	紐作り輪幄整形。口縁部はほぼ直立する。口唇部は平坦で内傾する。鍔の貼付は丁寧である。	
91－6	須恵器 壺	覆土内 破片	口　— 底　(12.0) 高　(4.3)	砂粒多	還元焔 硬質	にぶい 橙	輪幄整形。高台は付高台。	
91－7	須恵器 壺	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒多 細砂粒少	還元焔 硬質	黄灰	紐作り叩き整形。内面青海波文。外面撫でで叩きは不明。	厚　0.8
91－8 144 玉縁付 男　瓦	瓦 与残存	3cm 与残存	厚　2.5	砂粒多	還元焔 硬質	褐灰	一枚作り？。側端部面取り3面。凹面に粘土板糸切り痕を明瞭に残し、凸面は縄叩き後大半を撫で消している。	
91－9 145	瓦 男　瓦	－3cm 与残存	厚　2.6	砂粒多 白色鉱物粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取り2面。凹面に粘土板糸切り痕を残す。凸面は撫で。	
92－10	瓦 女　瓦	カマド内 2cm 与残存	厚　2.2	砂粒多 片岩小礫少	還元焔 硬質	にぶい 黄橙	一枚作り？。側端部面取り1面。凹面に粘土板糸切り痕を明瞭に残している。布目は部分的に粗く撫でが施されている。	
92－11	瓦 女　瓦	カマド内 6cm 破片	厚　2.4	白色細粒多 白色鉱物粒少	還元焔 硬質	赤灰	一枚作り？。凸面は全面縄叩き。凹面布目は全面撫で消されている。側端部面取り2面。	
92－12	瓦 女　瓦	カマド内 10cm破片	厚　1.3	片岩粒多 細砂粒多	還元焔 硬質	にぶい 黄橙	一枚作り？。凹面布目は明瞭で、凸面は全面撫で全施す。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
92－13	瓦 男　瓦	与残存	厚　1.9	白色鉱物粒多	還元焔 硬質	灰白	一枚作り？。側端部面取り３面。凸面は平行叩き。	カマド内 6 cm
92－14	瓦 男　瓦	カマド内 破片	厚　2.8	砂砂粒微 砂粒微	還元焔 硬質	灰白	一枚作り？。側端部面取り１面。凹面に粘土板赤切り痕を残す。凸面は面取り状の撫で。	
92－15 144	石　器 敲　石	4 cm 完形	長　11.2 幅　7.1 厚　5.0	角閃石安山岩			左右と上端部に敲打痕を有する。	重 557.2

第38号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
94－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(13.7) 底　－ 高　(3.4)	黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焔 やや硬 質	明赤褐	口縁部は外反する。口縁部横撫で、内面に篦磨きを施す。	
94－2 145	土師器 坏	覆土内 与残存	口　(12.8) 底　－ 高　(4.5)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は弱く外傾する。底部篦削り後撫で、口縁部は横撫でを施す。内面は全面撫で後放射状の粗い磨きを施す。	
94－3	土師器 坏	覆土内 破片	口　(14.0) 底　－ 高　(4.0)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	口縁部は内湾気味に直立し、口唇部で外反する。底部は丸底を呈する。口縁部横撫で、底部篦削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。内面は全面撫でを施す。	
94－4	土師器 坏	覆土内 破片	口　(11.1) 底　－ 高　(3.5)	細砂粒少 黒色鉱物粒少 褐色細粒少	酸化焔 やや軟 質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は弱く内湾する。底部篦削り後、口縁部横撫で、内面は撫でを施す。	
94－5 145	土師器 坏	覆土内 与残存	口　(13.0) 底　－ 高　(3.8)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 軟質	にぶい 橙	底部は緩やかな丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は短く直立する。底部篦削り、口縁部は横撫でを施す。	
94－6 145	土師器 坏	覆土内 与残存	口　14.0 底　－ 高　(4.2)	砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 やや硬 質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は弱く内傾する。口縁部横撫で、底部篦削り、内面は撫でを施す。	
94－7 145	土師器 坏	カマド内 与残存	口　(11.6) 底　－ 高　(3.6)	黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焔 やや硬 質	にぶい 褐	底部は丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は直立する。口縁部横撫で、底部は篦削り、内面撫でを施す。	内外面黒色塗彩の可能性有
94－8	土師器 坏	覆土内 与残存	口　(12.1) 底　－ 高　(3.8)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部はわずかに外傾する。口縁部横撫で、底部篦削り後、口縁部横撫で、内面は撫でを施す。	
94－9 145	土師器 坏	覆土内 与残存	口　(12.2) 底　－ 高　(4.7)	細砂粒多 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は直立する。口縁部横撫で、底部篦削り、内面は撫でを施す。	
94－10 145	土師器 坏	覆土内 与残存	口　(13.6) 底　－ 高　(3.8)	砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は強く外反する。口縁部横撫で、底部篦削り、内面は撫でを施す。	
94－11 145	土師器 坏	17cm 与残存	口　12.6 底　－ 高　4.0	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 やや硬 質	にぶい 黄橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は外傾し、上端で内湾する。口縁部横撫で、底部篦削り、内面は撫でを施す。	内黒の可能性有り
94－12 145	土師器 坏	覆土内 与残存	口　13.0 底　－ 高　4.3	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい 褐	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、内面は撫で後黒色処理を施す。	
94－13	土師器 甑	覆土内 破片	口　(21.0) 底　－ 高　(8.5)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒多	中性焔 やや軟 質	浅黄	口縁部は外反する。口縁部は横撫で、胴部は上半斜位篦削り。内面は横位篦撫でを施す。	
94－14	土師器 甕	14cm 破片	口　(24.0) 底　－ 高　(16.5)	片岩小礫少 片岩細粒多	酸化焔 軟質	橙	口縁部は外傾する。胴部縦位（上→下）の篦削り後、口縁部に横撫でを施す。内面は横位篦撫で。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
94—15 145	土師器 甕	覆土内 与残存	口　17.0 底　— 高　(8.3)	砂粒多 白・黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 やや軟質	にぶい橙	口縁部は上端が「く」字状に強く外反する。頸部はなだらかである。口縁部横撫で、胴部上半縦位（下→上）箆削りを施す。内面は横位箆撫でを施す。内外面に接合痕がみられる。	
94—16	土師器 甑	カマド内 破片	口　— 底　(8.8) 高　(11.5)	片岩小礫少 片岩細粒多	酸化焔 やや軟質	にぶい橙	胴部中位縦位（下→上）箆削り、下位縦位（上→下）箆削り。	
95—17 145	土師器 甕	1～4cm 与残存	口　(21.0) 底　— 高　(37.0)	砂粒多	酸化焔 硬質	灰褐	頸部下半に弱い張りを有する。口縁部横撫で後縦位の箆削り、内面は粗い横位箆撫でを施す。胴部下半内面に、上下胴部の接合痕を明瞭に残す他、接合痕が数段みられる。	
95—18 145	土師器 壺	覆土内 与残存	口　(21.0) 底　8.5 高　(28.7)	黒色鉱物粒多 褐色粒多	酸化焔 やや軟質	橙	口縁部は外反し、胴部中位に最大径を有する。胴部中位斜位箆削り後撫で。口縁部横撫で、内面は横位箆撫でを施す。	
95—19 145	土師器 小型甕	4cm 与残存	口　(13.9) 底　8.0 高　17.5	小礫少 砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい橙	口縁部は「く」字状に弱く外反し、胴部中位に最大径を有する。口縁部は横撫で、胴部斜位（下→上）箆削り、内面は横位箆撫でを施す。	煤付着底部に横縦状圧痕
95—20 145	須恵器 短頸壺	覆土内 与残存	口　(11.0) 底　— 高　(7.0)	黒色粒多	還元焔 硬質	灰	胴部上半に強い張りを有し、口縁部は「く」字状に外反する。底部は丸底で回転箆削りを施す。胴部最大部には平行沈線と間に櫛描波状文を巡らしている。	
95—21	石製品 砥石	覆土内 与残存	長　4.8 幅　2.9 厚　1.8	砥沢石			残存部において砥面は5面で、条線状の線刻がみられる。	重　35.4
95—22	石器 敲石	覆土内 完形	長　11.0 幅　4.3 厚　4.2	粗粒安山岩			両端部に敲打痕。	重 239.8

第39号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
97—1 146	土師器 坏	2cm 与残存	口　(11.0) 底　— 高　(3.6)	砂粒少 白・黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい橙	口縁部は短く直立し、底部は丸底を呈する。口縁部横撫で、底部箆削り、内面は撫でを施す。	
97—2	土師器 坏	掘り方覆土内 破片	口　(14.0) 底　— 高　(3.4)	白・黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部は外傾し、底部は丸底を呈する。底部箆削り後、口縁部横撫で。	
97—3 146	須恵器 埦	11cm 与残存	口　(14.8) 幅　10.3 高　3.9	細砂粒少 白・黒色鉱物粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形（右回転）。口縁部は弱く内湾する。高台は角高台で、体部下半に回転箆削り、底部回転箆削り後の丁寧な付高台。	
97—4	須恵器 長頸壺	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	黒色細粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	外面に自然釉が付着。櫛状工具による逆流刺突文あり。	厚　0.9
97—5	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　(7.3)	細砂粒少 白色鉱物粒少	還元焔 硬質	灰	外面にカキ目、内面に青海波文。	
97—6	須恵器 甕	2cm 破片	口　— 底　— 高　—	褐色細粒多 白色細粒微	還元焔 硬質	灰	外面平行叩き後横位の擦り消し、内面青海波文。	厚　1.0
97—7	須恵器 甕	2cm 破片	口　— 底　— 高　—	白色鉱物粒多	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面撫でのため不明。内面素文。内面にカーボン付着。	厚　1.3
97—8	瓦 男瓦	与残存	厚　2.4	褐色粒多 白色鉱物粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取り1面。凸面は平行叩きで、「武？」の箆描き文字あり。	カマド左壁14cm
97—9	瓦 男瓦	破片	厚　1.7	白色細粒多 黒色鉱物粒微	還元焔 硬質	灰白	一枚作り？。凸面は横位箆削り？	カマド左壁14cm

第40号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
98－1 146	須恵器 蓋	P₁ 23cm 3/4残存	口 14.5 摘 3.6 高 2.5	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。扁平な体部を有する。摘は天井部回転篦削り後貼付。	
98－2 146	須恵器 坏	覆土内 3/4残存	口 (14.0) 底 (8.2) 高 (4.0)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形（右回転）。底部回転篦切り無調整。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は弱く外反する。	
98－3	須恵器 高坏?	覆土内 破片	口 (30.4) 底 — 高 (6.7)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪轆整形。大型で体部にやや丸味をもち、沈線を1本巡らせている。	
98－4 146	土師器 甕	覆土内 破片	口 (23.0) 底 — 高 (8.7)	砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい橙	胴部に強い張りを有し、口縁部は「コ」字状に2段に屈曲する。口縁部横撫で後胴部外面は縦位（下→上）の篦削りを施す。	
98－5	須恵器 長頸壺	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (3.6)	細砂粒少 黒色粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(?)。高台は付高台で、接地部は欠損している。	
98－6	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (11.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	還元焔 硬質	淺黄	輪轆整形。胴部中位～肩部に撫でを施す。内面に青海波文あり。	
98－7	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	還元焔 硬質	暗赤褐	外面にはカキ目と波状文、内面にも平行沈線施文。	厚 0.7
98－8	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 細砂粒少	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文は撫でられたものか不明瞭。	厚 0.8
99－9	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多 褐色細粒多	還元焔 硬質	浅黄	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.4
99－10 146	鉄器 釘	覆土内 3/4残存	長 (9.8) 幅 1.2 重 18.8				先端の一部を欠損する。頭部は「く」字状に屈曲している。断面は長方形。	
99－11 146	鉄器 鉄鏃	覆土内 ほぼ完形	長 (13.2) 厚 0.6 重 23.0				先端と茎の一部を欠損する。茎の断面は方形、先端は断面長方形の板状である。	
99－12 146	鉄器 不明	覆土内 破片	長 (6.6) 幅 1.1 重 12.5				断面長方形で片側が欠損する。刀子の茎とも考えられる。	
99－13 146	鉄器 帯金具	覆土内 破片	長 (11.0) 幅 0.5 重 16.8				基部が欠損する。断面は方形で「コ」字状に屈曲することから帯金具かと思われる。	
99－14 146	鉄器 釘	覆土内 頭部欠損 3/4残存	長(3.8 (2.0) 幅(0.4 (0.3) 重 3.9				断面方形で、先端が使用に伴うものか曲がっている。	
99－15 146	鉄器 不明	覆土内 破片	長 (1.1) 幅 (0.3) 重 0.2					

第41号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
101－1	土師質 塊	覆土内 底部残存	口 — 底 6.0 高 (2.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい橙	輪轆整形（?）。高台は付高台。底部中央に、穿孔あり。	
101－2	灰釉陶器 塊	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (3.6)	美濃系		灰白	輪轆整形(右回転)。体部下半に篦削りを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
101－3 146	灰釉陶器 皿	31cm 3/4残存	口　(13.2) 底　(7.6) 高　2.7	美濃系		灰白	輪轆成整形。体部に丸味を有し、口縁部はわずかに外反する。高台は底部回転糸切り後の付高台。重ね焼きの痕跡あり。	
101－4	土師質 黒色土器 塊	覆土内 破片	口　(16.9) 底　－ 高　(6.4)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 硬質	淺黄	輪轆整形(?)。体部中位に張りを有し、口縁部は外反する。内面は見磨き後黒色処理を施す。	
101－5	土師器 羽　釜	±0cm 破片	口　－ 底　－ 高　(6.2)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	脚は指先で押えられたような状態の貼付で、口唇部は丸く仕上げられている。	カーボン 付着
101－6	土師器 甕	覆土内 破片	口　(20.0) 底　－ 高　(3.8)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	口縁部は弱く「コ」字状を呈する。整形は、口縁部横撫で。	
101－7	土師器 羽　釜	覆土内 破片	口　(18.0) 底　－ 高　(6.4)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	脚部の張りは弱く、口縁部は直立する。脚部下脚部に縦位の篦削りを施す。	

第42号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
103－1 146	土師器 坏	－12cm 3/4残存	口　14.6 底　8.2 高　4.4	砂粒少	酸化焔 硬質	明赤褐	底部はやや丸底を有した平底で、体部は直線的に外傾する。内外面共に横～斜位の篦研磨を施す。	
103－2	土師器 坏	貯蔵穴 破片	口　(11.0) 底　－ 高　(2.9)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	口縁部は外反気味に直立し、底部との間に稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は口縁部横撫で、底部手持ち篦削り内面は撫でを施す。	
103－3 146	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口　(13.0) 底　－ 高　(4.0)	褐色細粒多 細砂粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との間に強い稜を有し口縁部は短く直立する。外面のハゼが激しく器面調整は不明。底部に1ヶ所外面からの焼成後の穿孔がある。	内外面黒 色硬彩
103－4 146	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口　(13.8) 底　－ 高　(4.0)	細砂粒多	酸化焔 硬質	橙	口縁部は直線的に外傾し、中位に稜を有し、底部との間に強い稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は、口縁部横撫で、底部手持ち篦削りで内面は撫でを施す。	
103－5	須恵器 塊	覆土内 破片	口　－ 底　(10.0) 高　(2.2)	白・黒色細粒 少 黒色鉱物粒微	還元焔 硬質	灰	輪轆整形（右回転）。底部切り離し後付高台。体部下半に張りを有する。	
103－6 146	石製品 砥石車	覆土内 完形	上径　3.6 下径　2.0 厚　1.7	蛇紋岩			上下面には擦痕がみられ、側面は細い面取り状に整形されている。	重　33.9 孔　0.8
103－7 146	石　器 敲編み 石?	19cm 完形	長　15.9 幅　9.8 厚　4.5	石英閃緑岩			使用痕不明。	重1231.6

第43号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
105－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　－ 高　(4.0)	褐色細粒少	酸化焔 やや硬 質	にぶい 橙	口縁部は直線的に外傾し、底部との間に弱い稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は口縁部横撫で、底部の上半に調整不明瞭な部分がみられる。下半は篦削り。内面は撫でを施す。	
105－2	土師器 坏	覆土内 破片	口　(13.0) 底　－ 高　(2.7)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 やや硬 質	にぶい 橙	口縁部は弱く内傾し、底部は丸底を呈する。整形は口縁部横撫で、底部は篦削り。内面は撫でを施す。	
105－3	土師器 坏	覆土内 破片	口　(16.4) 底　－ 高　(3.3)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒微	酸化焔 やや硬 質	にぶい 橙	口縁部は弱く内傾し、底部は丸底を呈する。整形は口縁部横撫で、底部篦削り。内面は撫でを施す。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
105－4	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 — 高 (2.0)	細砂粒微 白色細粒少	還元焔 硬質	青灰	轆轤整形（右回転）。天井部は回転箆削り。	
105－5	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 — 高 (2.5)	細砂粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。天井部は回転箆削り。	
105－6	須恵器 坏身	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (2.2)	細砂粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（?）。受け部を有し、口縁部は内傾する。蓋坏の坏身。	
105－7	土師器 甕	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (4.1)	片岩粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	口縁部は「く」字状に強く屈曲する。整形は口縁部横撫で、胴部箆削り内面は撫でを施す。	

第136号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
105－8 147	土師器 坏	覆土内 多残存	口 (11.6) 底 (6.0) 高 (2.8)	細砂粒少 白色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焔 硬質	にぶい 褐	底部は平底で体部は強く外傾し、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後体部と底部に箆削りを施す。内面は粗れているため明瞭でなが、磨きが施された可能性がある。	
105－9 147	土師器 坏	3cm 多残存	口 (12.4) 底 — 高 (2.6)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は緩平な丸底で口縁部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
105－10 147	土師器 坏	－2cm 多残存	口 (12.4) 底 — 高 (3.4)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施しているが、内外面の磨滅が激しい。	
105－11	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.6) 底 — 高 (2.8)	黒色鉱物粒多 細砂粒微	酸化焔 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は箆削り、間の整形は不明瞭。	
105－12 147	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.4)	黒色鉱物粒多 細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底で口縁部は内湾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	口縁部外面に黒斑あり
105－13 147	土師器 坏	覆土内 多残存	口 (14.0) 底 — 高 (3.6)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 やや軟質	にぶい 褐	底部は丸底で口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
105－14 147	土師器 坏	－2cm 完形	口 13.8 底 — 高 4.4	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底気味の平底で、体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾する。口縁部横撫で後体部外面に斜位の箆削り、底部は一方向ヲ箆削りを施す。内面は全面撫で後体部に斜放射状見込み部ラセン暗文を施す。	
105－15 147	土師器 坏	－2cm 多残存	口 14.0 底 9.4 高 4.1	白・黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい 褐	底部は丸底気味の平底で、体部は外傾する。口縁部横撫で後、体部外面及び底部に箆削りを施す。内面は全面撫で後体部に放射状、見込み部にラセン暗文を施す。	
105－16 147	土師器 坏	7cm 完形	口 13.0 底 — 高 4.3	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 軟質	にぶい 橙	底部は丸底気味の平底で、体部は直線的に外傾し、口縁部がわずかに内湾する。口縁部横撫で後、体部外面及び底部に箆削りを施す。内面は全面撫で後体部に斜放射状、見込み部にラセン暗文を施す。	口縁部内外面にカーボン付着
105－17 147	須恵器 坏	－2cm 破片	口 (14.4) 底 (9.2) 高 (3.6)	細砂粒多	還元焔 硬質	浅黄	轆轤整形（右回転）。腰にわずかに張りを有し、口縁部は直線的に外傾する。底部は回転箆切り後回転箆削りを施す。	
105－18	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 4.9 高 (1.5)	細砂粒少	還元焔 やや硬質	灰	轆轤整形（右回転）。摘は欠損で天井部外面回転箆削り後の貼付。	
105－19	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (15.2) 摘 — 高 (1.8)	褐色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形（右回転）。緩平な体部を有し、天井部外面に回転箆削りを施す。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
105—20 147	土師器 壺	5cm 破片	口　(21.3) 底　— 高　(15.7)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焔 やや軟 質	黄橙	胴部上位に張りを有し、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部横撫で後胴部に斜位（上→下）の箆削り、内面に横位の箆撫でを施す。	
105—21 147	石器 敲石	2cm 完形	長　12.1 幅　5.7 厚　5.5	粗粒安山岩			両側面と一端に激しい敲打痕が認められる。	重 450.5

第46号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
107—1 147	土師質 埦	覆土内 $\frac{1}{2}$残存	口　12.0 底　6.4 高　4.7	細砂粒少 黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焔 やや軟 質	灰白	轆轤整形（右回転）。体部下半に弱い張りを有し、口縁部は内湾気味である。高台は底部回転箆削り後の付高台。	
107—2 147	須恵器 埦	カマド掘り方 $\frac{1}{2}$残存	口　— 底　(5.6) 高　(3.9)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒多	還元焔 硬質	黒	轆轤整形（右回転？）。高台は付高台で、底部切り離しは高台貼り付けに伴い撫でられ不明。	
107—3 147	土師質 埦	カマド内 19cm 破片	口　(14.0) 底　— 高　(3.6)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒多	酸化焔 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形（？）。底部欠損。口縁部は外傾する。内部にカーボン付着。	
107—4 147	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色鉱物粒多 白・黒色鉱物 粒少	還元焔 硬質	褐	口縁部のみ残存。内外面とも自然釉付着。波状文を施す。	厚　1.7
107—5 147	須恵器 甕	覆土内 破片	口　(16.0) 底　— 高　(6.5)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒微	酸化焔 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形（？）。口縁部横撫で。口縁部は外反する。	
107—6 147	須恵器 甕	覆土内 破片	口　(16.0) 底　— 高　(7.3)	細砂粒多 白色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形（？）。口縁部横撫で。口縁部は外反する。	
107—7 147	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口　(22.0) 底　— 高　(4.9)	細砂粒多 白色鉱物粒微	酸化焔 硬質	橙	紐作り後轆轤整形。口縁部は内湾する。鍔は断面三角形状で、貼付は丁寧。	
107—8 147	須恵器 羽釜	カマド内 7cm 破片	口　(24.0) 底　— 高　(9.0)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 硬質	橙	紐作り後轆轤整形。口縁部は内傾する。鍔は断面三角形状で貼付は丁寧。内面に粘土紐接合痕あり。	
107—9 147	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口　(21.0) 底　— 高　(14.4)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒多	中性焔 硬質	灰	紐作り後轆轤整形。口縁部は内傾する。鍔は断面三角形状で貼付は丁寧。	
107—10 147	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚　1.3	砂粒少 褐色細粒多	還元焔 硬質	灰白	一枚作り？。凹面に粘土板糸切り痕を残す。凸面は調叩き。	
107—11 147	鉄器 釘	覆土内 破片	長　(4.1) 幅　(0.7) 重　7.8				頭部近くの破片と思われるもので、上平の巾、厚みが多い。断面方形、角の残存が良好。	厚　0.7

第47号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
109—1 147	土師器 坏	覆土内 $\frac{1}{2}$残存	口　(10.0) 底　— 高　(2.8)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	明赤褐	底部は浅い丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
109—2 147	土師器 坏	覆土内 ほぼ完形	口　11.4 底　— 高　3.7	黒色鉱物粒少 砂粒多	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部と境で屈曲し、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
109—3 147	須恵器 坏	覆土内 破片	口　— 底　(7.0) 高　(1.8)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（？）　底部及び腰部に回転箆削りを施す。	
109—4	須恵器 埦	覆土内 破片	口　— 底　(7.6) 高　(2.5)	白色鉱物粒微 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形。置切り後付高台。付高台による撫で調整が施されている。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
109－5 147	須恵器 坏	覆土内 写残存	口　(12.4) 底　(8.0) 高　3.4	細砂粒微	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。底部は回転荒切り無調整。体部は直線的に開く。	
109－6	須恵器 埦	覆土内 破片	口　— 底　(13.6) 高　(1.9)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(?)。高台は底部荒切り後の付高台。	
109－7	須恵器 甕	覆土内 破片	口　(20.0) 底　— 高　(9.5)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 硬質	にぶい 褐	胴部上半に張りを有し、口縁部は「C」字状に外反する。胴部外胴上半は雑な輪轆調整痕を残し、下半は荒削りを施す。内外面に接合痕が認められる。	
109－8	土師器 甕	±0cm 破片	口　(26.0) 底　— 高　(8.3)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	浅黄橙	口縁部は「く」字状に強く外反し、胴部に張りをもたない。口縁部は横撫で、胴部は斜位の荒削りを施す。	
109－9	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒多 細砂粒微	還元焔 硬質	灰	口縁下部外面に波状文を施す。	厚　0.8
109－10	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	頸部に波状文を施す。	厚　0.7 外面に自然釉
109－11	須恵器 甕	覆土内 破片	口　(26.0) 底　— 高　(8.0)	黒色細粒少 細砂粒微	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(?)。口縁部はやや外反し、上端に突帯を巡らす。	
109－12 147	鉄　器 釘	覆土内 写残存	長　(6.8) 幅　0.8 重　19.8				先端部を欠損する。頭部は扁曲し平坦になっている。断面は長方形で、先端部側で使用に伴い直角に曲がっている。	厚　0.5
110－13	須恵器 把　手	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	方形の把手で、全面面取りされている。	厚　0.8
110－14 147	石　器 磨編み石	覆土内 完形	長　11.4 幅　5.7 厚　3.5	流紋岩			使用痕不明。	重 333.8
110－15 147	石　器 敲　石	9cm 完形	長　15.3 幅　7.4 厚　4.8	石英閃緑岩			縁辺に敲打痕がみられる他、自然面の各所にハゼが認められる。	重 780.1

第48号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
113－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(13.0) 底　— 高　(3.4)	白色細粒少 褐色細粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	口縁部は直立し、底部との境に強い段を有する。口縁部横撫で、底部荒削り、内面は撫でを施す。器面は、黒色に塗られている。	
113－2 148	土師器 坏	ピット 写残存	口　(12.0) 底　— 高　5.1	細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 黄橙	口縁部は外反し、底部は丸底を呈する。口縁部横撫で、体部は指で押え、底部は荒削り状。外面体部調整は非常に雑。	
113－3	土師器 坏	覆土内 破片	口　(14.0) 底　— 高　(3.4)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部はやや内弯する。口縁部横撫で後、底部荒削り。	
113－4	須恵器 埦	覆土内 破片	口　— 底　— 高　(4.5)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(?)。高台は底部回転荒削り後の付高台であるが、接合面から剥落している。	
113－5	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　(7.6) 高　4.3	黒色細粒多 細砂粒微	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。底部は回転荒切り無調整。体部下半に張りを有さず、口縁部は外反する。	
113－6	土師器 高　坏	覆土内 破片	口　— 底　(12.0) 高　(4.5)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒多	酸化焔 やや硬 質	明赤褐	下端の強く開く器形で、端部は横撫で、中位は縦位の撫でを施す。	
113－7 148	土師器 甕	張り方覆 土内 破片	口　(21.0) 底　— 高　(10.3)	砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬 質	にぶい 黄褐	口縁部は「く」字状に外反し、胴部中位に張りを有する。口縁部横撫で後、胴部縦位（下→上）荒削り、内面は横位撫でと考えられる。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
113－8	石　器 敲　石	4cm 完形	長　16.0 幅　7.8 厚　3.9	石英閃緑岩			一端部及び側縁に敲打痕。	重 772.9

第49号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
115－1 148	土師器 蓋 平城1期	覆土内 破片	口　— 摘　3.7 高　(1.6)	白色細粒少	酸化焔 硬質	橙	上方が平坦な摘で丁寧な貼付がなされている。	畿内産
115－2 148	土師質 坏	覆土内 3/4残存	口　(11.0) 底　(5.0) 高　3.2	黒色鉱物粒少 砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 黄橙	輪轆整形(右回転)。体部から口縁部は内湾気味に立ち上がる。底部は回転糸切り無調整。	
115－3	土師質 坏	覆土内 破片	口　— 底　5.8 高　(2.4)	細砂粒多	中性焔 硬質	にぶい 黄橙	輪轆整形（右回転）。底部回転糸切り無調整。	
115－4	土師質 塊	7cm 破片	口　— 底　7.8 高　(3.1)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	中性焔 硬質	にぶい 橙	輪轆整形(？)。高台は底部回転糸切り後の付高台で、底部は大半が撫で消されている。	
115－5 148	土師質 塊	覆土内 3/4残存	口　(18.0) 底　— 高　(5.1)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 硬質	橙	輪轆整形(右回転？)。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は外反する。底部切り離しは不明で、ラセン状の粘土の盛り上がりが認められる。高台は付高台である。	外面カーボン付着
115－6	灰釉陶器 皿	覆土内 破片	口　— 底　(6.0) 高　(2.7)	美濃系		灰白	輪轆整形(？)。高台は底部回転糸切り後の付高台。施釉技法は不明。	
115－7	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　— 摘　4.6 高　(3.4)	黒色粒多 細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形（右回転？）　摘は環状摘で、天井部外面回転篦削り後の貼付。	
115－8	須恵器 蓋	7cm 破片	口　— 摘　4.0 高　(3.4)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。摘は環状摘で、天井部外面回転篦削り後の貼付。	
115－9	土師器？ 坏	覆土内 破片	口　(14.0) 底　— 高　(4.2)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒多	中性焔 硬質	にぶい 褐	外面に接合痕が明瞭にみられ、底部付近に篦削りを施す。	
115－10	須恵器 甕 転用砥？	16cm 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 白・黒色鉱物 微粒	還元焔 硬質	褐灰	叩き整形。外面は全面撫で、内面は素文。	厚　1.0
115－11	須恵器 甕	掘り方覆 土内 破片	口　— 底　— 高　—	白・黒色細粒 少	還元焔 硬質	灰	口縁部の破片で、上端は内外面共に肥厚する。外面には沈線と波状文を施す。	厚　0.9
115－12	須恵器 羽　釜	8cm 破片	口　(20.0) 底　— 高　(8.2)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少	中性焔 硬質	にぶい 黄橙	輪轆整形。いぶし焼成がなされている。	
115－13 148	須恵器 甑	4cm 破片	口　— 底　(21.0) 高　(11.0)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒多	中性焔 硬質	にぶい 橙	下部が「ハ」字状に開く器形で、外面は指頭痕状の押圧がみられ、胴部下半外面に縦位篦削りを施す。	

第50号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
116－1 148	土師質 坏	±0cm ほぼ完形	口　9.2 底　5.5 高　2.8	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 やや軟 質	橙	輪轆整形(右回転)。体部中位に強い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整でわずかに突出する。	
116－2 148	土師質 坏	±0cm 3/4残存	口　(11.0) 底　— 高　(2.5)	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焔 軟質	橙	輪轆整形。体部中位に強い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
116－3	須恵器 羽釜	貯蔵穴13 cm 破片	口 (21.8) 底 — 高 (6.2)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	鍋作り後轆轤整形。口縁部はやや内傾し、鍔は断面三角形状で丁寧な貼付である。	
116－4	石器 両編み石	貯蔵穴13 cm 破片	長 (10.1) 幅 (6.8) 厚 (2.4)	流紋岩			裏面は剥離している。	重 141.6

第51号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
117－1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.1)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部はわずかに外反する。底部篦削り、口縁部横撫で。	
117－2 148	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 (8.4) 高 3.4	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	にぶい 褐	底部は平底で体部はわずかに内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で体部外面及び底部に篦削りを施す。内面は撫で後に暗文を施していると考えられるが、器面の磨滅のため不明。	
117－3	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (5.0)	黒色鉱物粒微	酸化焔 軟質	橙	胴部に張りを有し、口縁部は反り気味に直立する。口縁部横撫で胴部横位篦削り。	
117－4	土師器 甕	覆土内 破片	口 (24.0) 底 — 高 (4.5)	白・褐色細粒 少 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	にぶい 橙	組作り。口縁部は「く」字状に外反し、胴部の丸味は強い。口縁部横撫で、胴部篦削り。	胴部に被合痕
117－5	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (24.0) 底 — 高 (4.0)	白色細粒少 褐色粒・砂粒 少	還元焔 硬質	灰	組作り轆轤整形。口縁中位に突帯。口唇部と口縁上半に波状文。	
117－6	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 砂粒微	還元焔 硬質	灰	組作り叩き整形。外面は、平行叩き後横位カキ目、内面青海波文。	厚 0.9

第52号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
119－1	須恵器 壺	覆土内 底部完形	口 — 底 (6.2) 高 (3.3)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	中性焔 軟質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り後付高台。	
119－2 148	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 (5.0) 高 4.3	細砂粒多 小礫微	還元焔 やや硬 質	灰黄	轆轤整形(右回転)。体部下半に張りを有し口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
119－3	土師器 壺	貯蔵穴 ±0cm 破片	口 (15.0) 底 — 高 (5.5)	白・黒色鉱物 粒少 細砂粒多	中性焔 やや硬 質	灰白	轆轤整形(?)。腰部に張りを有し、口縁部は外反しない。	
120－4	灰釉陶器 皿	覆土内 破片	口 (15.2) 底 (4.0) 高 (2.7)	美濃系		灰白	轆轤整形（?）。底部切り離し不明。付高台。体部にわずかに丸味を有する。施釉は漬け掛け。	重ね焼き痕跡有
120－5 148	灰釉陶器 壺	貯蔵穴 ±0cm 口残存	口 (12.7) 底 — 高 (3.7)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転?)。体部中位の張りが強く、口縁部はわずかに外反する。施釉は漬け掛けであり、外面の釉の発色は弱い。	
120－6	須恵器 甕	カマド内 破片	口 (19.0) 底 — 高 (6.5)	白色鉱物粒多	還元焔 硬質	灰	組作り轆轤整形(右回転)。口縁部は強く外反し上端に段を有する。	
120－7	須恵器 甕	3cm 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒微	還元焔 硬質	灰白	組作り叩き整形。内面青海波文。	厚 1.2
120－8 148	須恵器 羽釜	カマド内 破片	口 (22.0) 底 — 高 (6.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	中性焔 軟質	明灰	組作り轆轤整形(右回転)。口唇部平坦。わずかに内傾する。鍔の貼付は比較的丁寧で口縁部外面に線刻文字（文字不明）有り。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
120－9	須恵器 羽　釜	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (7.5)	白色細粒多 砂粒微	還元焔 硬質	灰白	紐作り輪轆整形。口縁部は内傾し、口唇部は平坦で水平。鍔の貼付は丁寧である。	
120－10	須恵器 羽　釜	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (10.4)	白色細粒少 砂粒微	還元焔 硬質	灰黄	紐作り輪轆整形(右回転?)。口縁部はわずかに内傾し、口唇部は平坦で水平。鍔の貼付は比較的丁寧である。	

第53号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
122－1 148	須恵器 埦	覆土内 完形	－6cm	細砂粒多 黒色鉱物粒少	還元焔 やや硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部は強く外反する。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台である。	
122－2 148	須恵器 埦	覆土内 写残存	－5cm	細砂粒微	中性焔 やや硬質	灰白	輪轆整形(?)。体部下半に弱い張りを有し口縁部は直線的に外傾する。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
122－3 148	須恵器 埦	覆土内 写残存	口 (12.4) 底 6.6 高 4.6	細砂粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。体部下半にわずかに張りを有し、口縁部は外反する。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。	
122－4 148	灰釉陶器 埦	覆土内 写残存	口 (17.0) 底 7.5 高 4.9	美濃系		灰白	輪轆整形(右回転)。体部から口縁部にかけて内湾気味に立ち上がり、口縁部に外反はみられない。高台は比較的雑で、底部は腰部回転箆削り後の付高台である。施釉は漬け掛けと考えられる。	
122－5 149	須恵器 土　師	覆土内 写残存	±0cm	砂粒少 褐色細粒多	中性焔 硬質	浅黄橙	紐作り輪轆整形(右回転)。胴部上位に張りを有し、口縁部は短く「く」字状に屈曲する。胴部内面及び外面上半に輪轆痕を残し外面下半は縦位（下→上）の箆削りを施す。	
122－6 148	須恵器 坏	覆土内 完形	口 11.0 底 7.0 高 3.2	黒色細粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転?)。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに内湾する。底部は回転箆切り後周辺に手持ち箆削りを施す。焼成前から4ヶ所に刺突が施され、内2ヶ所はわずかに外側に貫通している。	
122－7	須恵器 甕	破片	±0cm 口 — 底 — 高 —	白色鉱物粒少 白・黒色細粒少	還元焔 硬質	青灰	紐作り叩き整形。頸部に弱い突帯を巡らし、口縁部に沈線と波状文を数段施す。	厚 1.2

第54号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
124－1 149	土師器 坏	掘り方覆土内 写残存	口 (13.7) 底 — 高 (4.8)	細砂粒少 褐色粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい橙	底部は丸底で、口縁部は短く「く」字状に内傾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
124－2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.5)	褐色細粒微	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で口縁部との境に強い段を有し口縁部は外反する。底部箆削り口縁部横撫で。	
124－3 149	土師器 坏	掘り方覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.8)	黒色細粒微 褐色粒少	酸化焔 硬質	にぶい橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に段を有し口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
124－4	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.3)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部外面中位及び口唇部内面に段を有する。底部箆削り口縁部横撫で。	
124－5	須恵器 蓋	カマド内 破片	口 (13.6) 摘 — 高 (2.6)	砂粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形。天井部と口縁部との境に強い段を有し、体部はやや内湾気味に開く。天井部外面は回転箆削りを施す。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
124－6	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 － 稜 － 高 (2.3)	白色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部外面に回転箆削りを施す。	
124－7	土師器 甕	－2cm 破片	口 (27.2) 底 － 高 (7.7)	砂粒多 白色細粒少	酸化焔 やや軟質	橙	胴部は球形状を呈し、口縁部は外反する。	
124－8	土師器 甕	15cm 底部破片	口 － 底 － 高 －	砂粒多	酸化焔 硬質	灰黄	底部に木葉痕有。	厚 1.0
124－9 149	土師器 坩	－5～2 cm ほぼ完形	口 7.1 底 － 高 10.9	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	算盤玉状の胴部を有し、口縁部は中位に弱い段を有し直立する。口縁部は縦位、胴部は斜位の粗い箆磨き後、胴最大部以下に箆削りを施す。	
124－10	土師器 甕	22cm 破片	口 (22.0) 底 － 高 (8.5)	砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 黄橙	口縁部は「く」字状に強く外反し、胴部に張りはない。口縁部横撫で後胴部に縦位の箆削りを施す。	
124－11	土師器 甕?	16cm 破片	口 (22.0) 底 － 高 (5.7)	砂粒多	酸化焔 軟質	にぶい 黄橙	体部に張りはなく、口縁部は外反する。口縁部横撫で。	
124－12 149	須恵器 甕	貯蔵穴44 cm ほぼ完形	口 (22.0) 底 － 高 23.0	砂粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り轆轤整形(?)。口縁部は外反し、上端でわずかに直立する。胴部上位に強い張り(最大張)を有し、底部は丸底を呈する。胴部内面は撫で、外面は横位のカキ目を施す。	底部付近に径2cm程の内面から穿孔有
125－13	土師器 甕	22cm 破片	口 － 底 － 高 (9.5)	砂粒多	酸化焔 軟質	にぶい 橙	胴部上半に強い張りを有し、口縁部は外反気味に立ち上がる。	
125－14 149	須恵器 台付甕	19cm 底部破片	口 － 底 (19.8) 高 (7.0)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	紐作り轆轤整形。高台は付高台で「ハ」字状に強く開く。底部内面にはカキ目が明瞭に残存し、台貼付部にも観察される。また、内面中央部のカキ目は撫で消されている。	
125－15	須恵器 甕	覆土内 破片	口 － 底 － 高 －	褐色細粒少 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面格子叩き、内面青海波文。	厚 0.8
125－16	須恵器 甕	覆土内 破片	口 － 底 － 高 －	褐色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.4
125－17	須恵器 甕	覆土内 破片	口 － 底 － 高 －	白色細粒少 褐色細粒微	還元焔 硬質	明褐灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.9
125－18	須恵器 甕	覆土内 破片	口 － 底 － 高 －	白色粒少 黒色鉱物粒微	中性焔 硬質	にぶい 黄橙	紐作り叩き整形。外面格子状叩き、内面青海波文。	厚 1.0
125－19	須恵器 瓶	カマド内 破片	口 － 底 － 高 －	白色細粒多 黒色細粒	還元焔 硬質	灰	紐作り。外面は平行叩き後カキ目?	厚 0.9
125－20	土師器 甕	覆土内 破片	口 － 底 － 高 －	砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	浅黄	外面箆撫き。	厚 0.6
125－21 149	石製品 白玉	覆土内 完形	径 1.3 厚 0.6 孔 0.3	滑石			穿孔は一方向。	重 1.4
125－22 149	石器 敲石	覆土内 完形	長 14.4 幅 5.1 厚 4.7	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 512.1

第55号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
127－1 149	土師器 坏	カマド内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.3)	白色鉱物粒微 褐色細粒少	酸化焔 軟質	にぶい 褐	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部はわずかに外反する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
127－2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.5)	褐色細粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で口縁部との境で屈曲し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で底部箆削り。	
127－3	土師器 坏	掘り方覆 土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (3.5)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で口縁部は内湾する。底部は箆削り。口縁部は横撫で後底部に箆削りを施す。	
127－4	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.4) 底 — 高 (2.7)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で口縁部は短く「く」字状に内傾する。底部箆削り後口縁部に横撫でを施す。	
127－5 149	石器 敲石	4 cm 完形	長 16.2 幅 7.4 厚 4.0	閃緑岩			端部と側面にわずかに敲打痕有。	重 730.2

第56号址

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
127－6	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.0)	褐色細粒微	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は外反する。底部箆削り、口縁部横撫で。	
127－7	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (2.3)	白色細粒多 黒色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形。体部にわずかに張りを有し、口縁部は直線的に外傾する。高台は、底部調整後の付高台。	外面に自然釉
127－8 149	須恵器 坏	覆土内 斧残存	口 (13.2) 底 (4.8) 高 3.3	細砂粒少 黒色細粒少	還元焔 硬質	黄灰	轆轤整形(右回転?)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は外反する。底部切り離しは回転箆切りと考えられるが、底部と腰部に手持ち箆削りが施され、不明確。	

第57号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
129－1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.6) 底 — 高 (3.5)	白・褐色細粒 少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で口縁部との境に段を有し、口縁部はわずかに外傾する。口縁部横撫で底部箆削りを施す。	
129－2 149	土師器 坏	覆土内 斧残存	口 (14.0) 底 — 高 (3.4)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く「く」字状に内傾する。口縁部横撫で後、底部に箆削りを施す。	
129－3 149	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.1)	細砂粒微	酸化焔 やや硬 質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短くわずかに内傾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
130－4 149	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.7)	細砂粒少	還元焔 硬質	褐灰	轆轤整形(右回転)。底部は丸底で、口縁部は強く内傾し、受け部は上方を向く。体部内外面には弱い轆轤痕を残し、底部には回転箆削りを施す。	
130－5	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (2.0)	黒色細粒少	還元焔 やや軟 質	灰黄	轆轤整形（？）。受け部は短く、上端は水平。	
130－6	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (14.0) 高 (2.4)	白色細粒少 黒色粒少	還元焔 やや硬 質	灰	轆轤整形(右回転)。底部回転箆削り後付高台。	
130－7	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (12.0) 摘 — 高 (3.1)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部付近に屈曲を有する。天井部外面に手持ち箆削りを施す。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
130－8	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (14.4) 摘 — 高 (1.4)	白色細粒微	還元焔 硬質	オリーブ灰	輪轆整形(?)。天井部外面回転篦削りを施す。	
130－9	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 (3.6) 高 2.8	黒色細粒少 白色細粒微	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。切り離し技法は不明。天井部外面回転篦削り後、摘添付。	
130－10	土師器 甕	カマド内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (7.3)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 やや硬質	にぶい橙	口縁部は「く」字状に屈曲し、胴部の張りは比較的弱い。胴部斜方向で（右→左）篦削り後、口縁部横撫でを施す。内外面に接合痕。	内面にカーボン付着
130－11	土師器 高坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (5.2)	砂粒・黒色鉱物粒少 白・褐色細粒少	酸化焔 やや軟質	橙	坏部・脚部共に欠損する為、全体形は不明。外面撫で、内面横撫で、脚部内面斜位の撫でを施す。	
130－12	須恵器 甕	7cm 破片	口 (24.0) 底 — 高 (7.0)	白・黒色鉱物粒少 白・黒色粒少	還元焔 硬質	灰	砥作り轆轤整形。胴部は球胴で口縁部は「く」字状に外反し、上端に段を有し、短く直立する。口縁部上半に波状文を施す。	胴部と口縁部内面に自然釉
130－13 149	石器 磨編み石	－2cm 完形	長 16.1 幅 7.1 厚 4.1	輝緑岩			使用痕不明。	重 853.3
130－14 149	石器 敲石	－2cm 完形	長 15.7 幅 7.0 厚 5.5	ひん岩			使用痕不明。	重 851.4
130－15 149	石器 磨編み石	－2cm 完形	長 14.2 幅 5.6 厚 4.8	変質安山岩			使用痕不明。	重 721.6
130－16 150	石器 磨編み石	－2cm 完形	長 16.3 幅 6.2 厚 4.3	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 668.3
130－17 150	石器 敲石	－2cm 完形	長 14.0 幅 6.0 厚 5.1	粗粒安山岩			両端部にわずかに敲打痕。	重 547.9
130－18 150	石器 敲石	－2cm 完形	長 15.4 幅 6.3 厚 4.5	粗粒安山岩			端部から側面にかけて弱い敲打痕。	重 738.2
130－19 150	石器 敲石	－3cm 完形	長 14.0 幅 6.0 厚 5.3	粗粒安山岩			両側面に敲打痕。	重 690.2
130－20 150	石器 磨編み石	－2cm 完形	長 13.8 幅 6.4 厚 4.4	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 612.1
130－21 150	石器 敲石	±0cm 完形	長 14.1 幅 7.5 厚 5.0	粗粒安山岩			側面に敲打痕。	重 819.3
130－22 150	石器 敲石	2cm 完形	長 15.5 幅 7.7 厚 4.9	粗粒安山岩			両側面に敲打痕。	重 878.9
130－23 150	石器 敲石	2cm 完形	長 15.1 幅 6.7 厚 4.4	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 843.2
131－24 150	石器 敲石	2cm 完形	長 15.3 幅 7.4 厚 5.6	粗粒安山岩			端部に敲打痕。	重 896.7
131－25 150	石器 敲石	2cm 完形	長 14.4 幅 6.7 厚 4.2	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 496.4
131－26 150	石器 磨編み石	±0cm 完形	長 14.9 幅 6.7 厚 5.2	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 787.9

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
131－27 150	石　器 薦編み石	3 cm 完形	長　13.9 幅　5.8 厚　5.2	流紋岩			使用痕不明。	重 643.4
131－28 150	石　器 薦編み石	覆土内 矢残存	長　9.7 幅　4.0 厚　3.8	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 190.5

第58号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
134－1 150	土師器 坏	－4～11 cm 完形	口　11.8 底　— 高　3.6	砂粒少 白色鉱物粒微	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。内面に指頭痕状の押圧が顕著に認められる。	体部の歪が激しい
134－2 150	土師器 坏	3 cm 矢残存	口　(11.0) 底　— 高　(3.5)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
134－3 151	土師器 坏	覆土内 矢残存	口　(11.2) 底　— 高　(3.2)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に段を有し口縁部は外反する。口縁部横撫で後、篦削りを施す。	
134－4 150	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(3.4)	褐色細砂粒少	酸化焔 軟質	にぶい 橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に段を有し口縁部は外反する。底部は篦削り、口縁部は横撫でを施す。	
134－5 150	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(2.9)	細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は短く外反する。底部は篦削り、口縁部は横撫でを施す。	
134－6 151	土師器 坏	覆土内 完形	口　11.0 底　— 高　2.8	砂粒多	酸化焔 やや硬質	にぶい 橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
134－7 150	土師器 坏	－4 cm 破片	口　(11.0) 底　— 高　(3.3)	細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部はわずかに外反する。底部は篦削り、口縁部は横撫でを施す。	
134－8 150	土師器 坏	覆土内 破片	口　(11.4) 底　— 高　(4.0)	褐色細粒少	酸化焔 硬質	にぶい 褐	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は直線的に立ち上がる。底部は篦削り、口縁部は横撫でを施す。	
134－9 150	土師器 坏	覆土内 破片	口　(14.0) 底　— 高　(4.5)	褐色細粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は外反する。底部篦削り、口縁部は横撫でを施す。	
134－10 151	土師器 杯C Ⅲ 飛鳥田期	20cm 矢残存	口　(9.7) 底　— 高　3.4	細砂粒微 白・黒色細粒少	酸化焔 硬質	淡橙	やや深い丸底で、口縁部がわずかに外反する。口縁部内面に、明確な稜を有する。外面は撫で。内面は丁寧な撫で後シャープな放射状暗文。	破内産 底部外面にハケ有
134－11 151	土師器 坏	11cm 矢残存	口　(10.8) 底　— 高　3.6	細砂粒微 褐色粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
134－12 151	土師器 坏	－2～ ±0 cm 矢残存	口　(15.2) 底　— 高　5.8	細砂粒微 黒色鉱物粒微 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部はわずかに外反し、内面に弱い稜を有する。口縁部横撫で後、底部に篦削りを施す。内面は丁寧な撫で。	杯A の損傷？
134－13 151	土師器 坏	8 cm 矢残存	口　(13.6) 底　— 高　5.3	細砂粒微 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 褐	底部は深い丸底で、口縁部はわずかに外反し、内面に弱い稜を有する。口縁部は横撫で、底部中央部の狭い範囲のみ一方向の篦削りを施す。	杯A の損傷？
134－14 150	土師器 坏	12cm 破片	口　(16.0) 底　— 高　(4.8)	砂粒微 褐色細粒少	酸化焔 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く「く」字状に内傾する。底部篦削り後、口縁部に横撫でを施す。	
134－15 151	土師器 坏	4 cm 矢残存	口　(15.0) 底　(10.0) 高　4.4	黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は平底で、体部から口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後体部外面斜位の篦削り、底部は一方向の篦削りを施す。内面は撫で放射状暗文を施したと思われるが、器面が摩滅し、観察することはできなかった。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
134－16 151	須恵器 坏	2cm 与残存	口　(10.0) 底　4.6 高　3.3	細砂粒少	還元焔 硬質	褐灰	輪積整形(右回転？)。体部から口縁部はわずかに内湾気味に直立する。底部は荒切り後篦削りが施されたものと考えられる。さらに底部周辺には手持ち篦削りが施されている。	
134－17 151	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(13.0) 底　(10.0) 高　4.0	細砂粒微	還元焔 硬質	黄灰	輪積整形(右回転)。体部はわずかに内湾気味に外傾する。底部は回転糸切り無調整。	
134－18	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(10.4) 底　(8.8) 高　(2.5)	白・黒色細粒少 砂粒微	還元焔 硬質	灰白	輪積整形(？)。底部は平底で、体部は短く直線的に立ち上がる。底部は手持ち篦削りを施す。	
135－19	須恵器 埦	覆土内 破片	口　— 底　(14.0) 高　(1.9)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	輪積整形(右回転)。高台は三日月状高台で、底部を回転篦削り後の付高台。	
135－20 151	須恵器 蓋	覆土内 破片存	口　(10.6) 摘　— 高　3.2	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転)。天井部は扁平な丸底状で、体部は外傾し、底部との境に段を有している。天井部外面に手持ち篦削りを施す。	
135－21 ？	須恵器 蓋？	覆土内 破片	口　(14.0) 摘　— 高　(3.2)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰白	輪積整形(右回転)。天井部は丸底状で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部上端に2本の平行沈線を巡らす。天井部外面は回転篦削り。	
135－22	須恵器 高　坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　(2.2)	黒色細粒少 白色鉱物粒微	還元焔 硬質	灰	輪積整形(？)。長脚2段2方透しの高坏と考えられる。	
135－23	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(18.0) 摘　— 高　(0.9)	黒色粒多	還元焔 硬質	灰白	輪積整形(右回転)。扁平な体部で口縁部がわずかに突出する。天井部外面は回転篦削りを施す。	
135－24 高　坏	須恵器 坏	覆土内 破片	口　— 底　(12.6) 高　(2.7)	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転)。長脚二段透しの高坏脚部と考えられる。	内外面に自然釉
135－25 甕	土師器 甕	9cm 破片	口　(23.2) 底　— 高　(5.4)	細砂粒多 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	にぶい橙	胴部の張りは弱く、口縁部は「く」字状に開く。口縁部横撫で後、胴部に斜位（下→上）の篦削りを施す。	
135－26 甕	土師器 甕	±0cm 破片	口　(15.6) 底　— 高　(5.6)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焔 硬質	にぶい橙	胴部の張りが強く、口縁部は「コ」字状に2段の屈曲がみられる。口縁部横撫で後、胴部に斜位（左→右）の篦削りを施す。	
135－27 小型甕	土師器 甕	覆土内 破片	口　(10.0) 底　— 高　(4.0)	黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焔 硬質	にぶい橙	胴部の張りは強く、口縁部は反り気味に直立する。口縁部に強い横撫で後胴部に篦削りを施す。	
135－28 151	土師器 甕	±0～21 cm 与残存	口　20.6 底　4.0 高　(35.0)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	胴部中位に弱い張りを有し、口縁部は強く外反する。口縁部横撫で後、胴部上半縦斜位(右→左)、下半斜位（上→下）の篦削りを施す。内面は横位篦撫でを施す。	外面に赤褐色の斑状の付着物
135－29 151	土師器 甕	21cm カマド右袖－2cm 与残存	口　— 底　— 高　(32.5)	白・黒色鉱物粒多 砂粒多 褐色細粒多	酸化焔 やや軟質	橙	長胴で胴部の張りは弱く、口縁部は強く外反するものと考えられる。胴部外面は縦位（上下）の篦削り、内面は横位篦撫でを施す。	
136－30	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	黒色粒多	還元焔 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面叩き不明、内面は青海波文。	厚　1.8 外面に自然釉
136－31	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	黒色細粒少 砂粒微	還元焔 硬質	灰白	紐作り輪積整形。器面全面にカキ目を施す。	厚　0.6
136－32 壺	須恵器 壺	4cm 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒多	還元焔 やや硬質	黄灰	紐作り輪積整形。肩部に平行沈線を巡らす。間に櫛目状の刺突文、さらに上半に波状文を施す。	厚　0.8
136－33 甕	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り。頸部の破片で一帯の断面に三角形の突帯を巡らす。	厚　2.2
136－34 151	石器 磨　石	覆土内 与残存	長　8.7 幅　6.8 厚　5.0	粗粒安山岩			割れ口の縁辺はわずかに磨滅し両端圓に敲打痕。	重 513.2

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
136－35 152	石　器 敲　石	16cm 完形	長　13.0 幅　4.7 厚　4.2	変質安山岩			側面に磨滅した小剥離がみられる。	重 379.7
136－36 152	石　器 敲　石	3 cm 完形	長　12.2 幅　5.6 厚　4.2	溶結凝灰岩			両端部と側面に敲打痕。	重 406.7
136－37 151	石　器 敲　石	3 cm 与残存	長　10.3 幅　7.8 厚　4.1	粗粒安山岩			割れ口の縁辺は磨滅し両端面及び端部に敲打痕。	重 445.8
136－38 151	石製品 白　玉	覆土内 完形	長　1.7 幅　1.9 厚　0.6	滑石			側面に磨り切った痕跡を残している。穿孔は一方向。	重　2.9 孔　0.2

第59号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
137－1 152	土師器 坏	6 cm 与残存	口　(12.0) 底　— 高　(3.5)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 軟質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
137－2	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.2) 底　— 高　(3.2)	砂粒微 褐色細粒多	酸化焔 軟質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は強く外反する。口縁部横撫で、底部は箆削りを施す。	
137－3	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.4) 底　— 高　(4.2)	褐色粒微	酸化焔 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は弱く外反する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
137－4	土師器 坏	7～11cm 破片	口　(12.0) 底　— 高　(3.0)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	浅黄橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は内傾する。口縁部は横撫で底部は箆削りを施す。	
137－5 152	土師器 高　坏	±0 cm 脚部与残存	口　— 底　— 高　(17.0)	砂粒少 褐色細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	長脚の高坏の脚部で、坏部と脚部を欠損している。外面は縦位の撫で、内面にはラセン状の箆撫での痕跡が顕著にみられる。	
137－6 152	土師器 甕	4 cm 破片	口　(24.0) 底　— 高　(17.3)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焔 硬質	にぶい 褐	胴部に強い張りを有し、口縁部は「く」字状に外傾する。口縁部横撫で後胴部外面縦位、口縁部内面横位に刷毛目を施す。この刷毛目は内外面共粗く撫で消されている。胴部内面は横位の箆撫でが施されいる。	
138－7	土師器 甕	6 cm 破片	口　(24.0) 底　— 高　(7.5)	砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	胴部に強い張りを有し、口縁部は外反し、口唇部に平坦面を有し外傾する。器面の粗れが顕著で、器面調整は不明。	
138－8 152	土師器 甕	11cm 破片	口　(17.0) 底　— 高　(14.3)	細砂粒少 黒色鉱物粒多 褐色細粒少	酸化焔 やや軟 質	にぶい 橙	胴部中位に強い張り（最大径）を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後、胴部に斜位（左→右）の箆削りを施す。内面の整形は器面の磨滅が激しく不明。	内外面に接合痕有
138－9	土師器 小型甕	6 cm 破片	口　(15.6) 底　— 高　(6.2)	白色細粒少 褐色細粒少	酸化焔 軟質	にぶい 橙	胴部の張りは弱く、口縁部は「C」字状に外反する。口縁部は横撫で、胴部は箆削りと考えられる。	
138－10 152	土師器 土　釜	2 cm 与残存	口　(6.5) 底　— 高　(10.4)	砂粒多 褐色細粒少	酸化焔 やや軟 質	にぶい 赤褐	胴部上半に最大径を有し、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後胴部外面に縦位（下→上）箆削り、内面は比較的丁寧な撫でを施す。	内面わずかにカーボン付着
138－11	土師器 小型甕	9 cm 破片	口　(10.0) 底　— 高　(6.2)	褐色細粒多 細砂粒微	酸化焔 軟質	にぶい 橙	胴部に強い張りを有し、口縁部は直立する。器面の磨滅が激しく調整は不明。	
138－12 152	石　器 敲　石	2 cm 完形	長　15.0 幅　8.4 厚　4.5	デイサイト			両側面に剥離痕。	重 968.4
138－13 152	石　器 敲　石	6 cm 完形	長　14.5 幅　5.9 厚　5.1	ひん岩			端部がわずかに磨滅。	重 598.5

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
138－14 152	石　器 敲　石	±0cm 完形	長　12.0 幅　6.6 厚　5.6	砂岩			使用痕不明。	重 655.7

第60号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
140－1 152	土師器 坏	－13cm ほぼ完形	口　9.6 底　－ 高　3.0	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 軟質	におい 橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に段を有し口縁部は直立する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
140－2 152	土師器 坏	17cm ヲ残存	口　(9.0) 底　－ 高　(2.8)	細砂粒少 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	におい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後、底部に篦削りを施す。	
140－3 152	土師器 坏	覆土内 ヲ残存	口　(11.0) 底　－ 高　(3.3)	白・黒色鉱物 粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	におい 褐	底部は浅い丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
140－4 152	土師器 坏	覆土内 ヲ残存	口　(11.4) 底　－ 高　(3.7)	黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焔 軟質	におい 褐	底部は丸底で口縁部は内傾する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
140－5 152	土師器 坏	覆土内 破片	口　(11.2) 底　－ 高　(3.4)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は深い丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
140－6 152	土師器 坏	覆土内 ヲ残存	口　(13.0) 底　－ 高　(3.8)	黒色鉱物粒多 細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 やや硬 質	におい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。内面は全面に撫でを施し、体部に指頭痕状の弱い押圧が認められる。	
140－7 152	土師器 鉢	覆土内 破片	口　(13.6) 底　－ 高　(5.3)	褐色粒多	酸化焔 やや軟 質	橙	底部は丸底で、口縁部は強く内湾する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
140－8 152	須恵器 坏	7cm 完形	口　10.5 底　－ 高　2.8	白色細粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。底部は丸底で、体部の丸味は強い。口縁部は短く、強く内傾し、受け部は上方を向く。底部に回転篦削りを施す。	
140－9 153	須恵器 蓋？	覆土内 ヲ残存	口　(10.4) 横　－ 高　(2.8)	白・黒色細粒 少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転？)。天井部は平坦気味の丸底で、体部は外傾する。体部内面に轆轤痕を明瞭に残し、天井部には手持ちの撫でを施す。	坏か？
140－10 153	須恵器 坏	－5cm 完形	口　10.3 底　－ 高　3.4	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。底部は丸底気味で、体部にわずかに丸味を有し、口縁部は内湾する。底部は一段の回転篦削りを施し、焼成前に「×」の箆描きを施す。	
141－11	須恵器 坏	覆土内 破片	口　－ 底　7.0 高　(3.0)	黒色細粒微 黒色粒多	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。体部下端に屈曲を有し体部は直線的に立ち上がる。底部は切り離し後全面に回転篦削りを施す。	
141－12	須恵器 坏？	覆土内 破片	口　(6.0) 底　－ 高　(2.6)	白・褐色細粒 少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転？)。底部は丸底気味で口縁部はわずかに外反する。底部に手持ち篦削りを施す。	
141－13	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(10.0) 横　－ 高　(2.3)	白・黒色細粒 多	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。天井部は、丸味が強く内面のかえりは、短く内傾する。天井部外面に4段の回転篦削りを施す。	
141－14	須恵器 脚	覆土内 脚部	口　(16.0) 底　－ 高　(1.7)	褐色細粒多	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形。脚部は強く外反し、下端に段を有し、短く直立する。	
141－15 153	土師器 甕	7cm ヲ残存	口　(21.4) 底　－ 高　(9.5)	砂粒多 白色鉱物粒多 褐色粒多	酸化焔 やや硬 質	におい 橙	胴部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。口縁部横撫で後胴部に斜位(下→上)の篦削りを施す。	
141－16 152	須恵器 皿	24cm 破片	口　(35.0) 底　－ 高　(3.9)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。扁平な盤状の器形で、口縁部上端は蓋の受け部と考えられるような形態をしている。また中央部に接合部からの剥離が認められ、脚付であった可能性が強い。体部下半は回転篦削り。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
141－17	須恵器 皿？	カマド内 破片	口　(30.0) 底　－ 高　(2.5)	黒色粒少	還元焔 硬質	灰	輪鍵整形(？)。口縁部は短く外反し、口唇部は平坦である。底部は、やや丸味を有し、回転篦削りを施す。	
141－18 153	須恵器 甕	31cm 破片	口　－ 底　－ 高　－	黒色粒・細砂粒多	還元焔 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面格子叩き。内面青海波文。	厚　0.8
141－19 153	石　器 敲　石	14cm 完形	長　13.8 幅　5.4 厚　5.0	粗粒安山岩			器面の剥離が激しく、端部に敲打痕。	重 533.6
141－20 153	石　器 不　明	7cm ヲ残存	長　(12.5) 幅　9.4 厚　2.9	砂岩			割れ口の縁辺に磨滅がみられない。	重 665.8
141－21 153	石　器 磨編み石	10cm 完形	長　13.0 幅　6.4 厚　3.8	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 534.4

第61号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
144－1 153	土師器 坏	覆土内 完形	口　11.5 底　－ 高　3.6	細砂粒多 白色鉱物微	酸化焔 やや硬質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に段を有し口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
144－2 153	土師器 坏	2cm ヲ残存	口　(10.6) 底　－ 高　(3.2)	砂粒少 黒色鉱物微 褐色細粒少	酸化焔 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い段を有し口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
144－3 153	土師器 坏	貯蔵穴13 cm ヲ残存	口　18.4 底　－ 高　6.4	細砂粒少 黒色鉱物微 褐色細粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に段を有し口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	体部の歪が激しい
144－4 153	須恵器 坏？	覆土内 ヲ残存	口　(11.2) 底　－ 高　(3.1)	細砂粒多 黒色粒少	還元焔 硬質	灰	輪鍵整形(左回転？)。体部はわずかに丸味を有し、底部は浅い丸底である。内面に輪鍵痕を明瞭に残し、底部に撫で状の手持ち篦削りを施す。	蓋か？
144－5	須恵器 壺	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　(2.1)	褐色細粒少	還元焔 硬質	灰白	輪鍵整形(右回転)。高台は、底部回転篦削り後の削り出し高台？。底部は、高台よりも若干突出する。	
144－6 153	土師器 小型甕	7cm 完形	口　7.5 底　－ 高　6.9	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	球胴の器形で、「く」字状に開く短い口縁部を付す。内面は丁寧な撫で、外面は粗い磨きが施されたものと考えられる。	
144－7 153	土師器 甕	－6cm ヲ残存	口　(20.8) 底　(6.6) 高　(36.3)	砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	胴部上半に弱い張りを有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後胴部外面は斜位(下→上)の篦削りを施す。内面は横位篦撫で。	
144－8 153	土師器 甕	－9～5 cm貯蔵穴 17cm ヲ残存	口　(22.3) 底　－ 高　(31.4)	細砂粒少 白・黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	褐	胴部の張りはほとんど認められず、口縁部は「く」字状を呈する。口縁部横撫で後、胴部に斜位(下→上)の篦削りを施す。	内面下半に褐色の塗膜状の付着物有
145－9	土師器 甕	覆土内 破片	口　(19.6) 底　－ 高　(8.1)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 褐	口縁部は「く」字状に外反し、胴部の張りは弱い。口縁部横撫で後、胴部斜位(上→下)の篦削り、内面撫でを施す。	
145－10	土師器 甕	貯蔵穴9 cm 破片	口　(22.0) 底　－ 高　(4.2)	黒色鉱物粒多 砂粒多	酸化焔 硬質	橙	口縁部は内斜気味に外反する。口縁部に明瞭な接合痕を残す。	
145－11	須恵器 甕 (胴部)？	覆土内 破片	口　(18.8) 底　－ 高　(5.8)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	紐作り輪鍵整形。	
145－12	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	褐色粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文。	厚　1.2

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
145—13	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文。	厚 1.5
145—14	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文。	厚 1.4
145—15 153	鉄器 釘	覆土内 矢残存	長 (7.7) 幅 (1.1) 重 21.3				頭部側を欠損する。断面は長方形で、先端部側で「く」字状に曲がっている。	
145—16 153	石器 敲編み石	覆土内 完形	長 11.4 幅 5.5 厚 4.5	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 469.2
145—17 153	石器 敲石	覆土内 完形	長 16.2 幅 7.0 厚 4.1	ひん岩			使用痕不明。	重 623.6
145—18 153	石器 敲編み石	貯蔵穴 ±0cm 完形	長 11.3 幅 5.2 厚 4.8	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 475.6
145—19 153	須恵器 壺	覆土内 ほぼ完形	口 (11.6) 底 (5.4) 高 4.6	黒色鉱物粒多 細砂粒多 褐色細砂粒少	中性焔 硬質	褐	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は強く外反する。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。	内面の粗れが激しい

第63号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
147—1 154	土師器 坏	貯蔵穴18cm 矢残存	口 (13.4) 底 — 高 (4.1)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は直立する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
147—2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.8) 底 — 高 (2.7)	褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は内湾気味にわずかに内傾する。底部は箆削り、口縁部は横撫でを呈する。	内外面に黒色塗彩
147—3	須恵器 小型壺	覆土内 破片	口 — 底 (4.1) 高 (2.0)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。	
147—4	須恵器 蓋	カマド内 破片	口 (12.0) 摘 — 高 (1.7)	白色粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(左回転)。天井部は扁平で、口縁部は直線的に開く。反りは短く、内傾する。天井部外面及び口縁部上半に回転箆削りを施す。	
147—5	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (14.0) 摘 — 高 (1.5)	白・黒色粒子少 細砂粒微	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。口縁部は「く」字状に屈曲し、天井部は扁平。天井部外面は回転箆削りを施す。	
147—6	須恵器 高坏	2cm 破片	口 — 底 — 高 (2.7)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部下半に回転箆削りを施す。脚部の透しは3方向。	
147—7	土師器 甕	覆土内 破片	口 (18.0) 底 — 高 (11.0)	細砂粒・黒色鉱物粒少	還元焔 硬質	灰白	胴部の張りは弱く、口縁部は外反する。胴部破片縦位(下→上)の箆削り、口縁部横撫で。内面は横位の箆撫で。	
147—8	土師器 甕	カマド内 底部残存	口 — 底 (7.0) 高 (4.5)	白・褐色細粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	胴部下半は斜位(上→下)の箆削り。底部は一方向の箆削りを施す。	
147—9	土師器 甑	覆土内 破片	口 — 底 (9.8) 高 (4.5)	砂粒少 褐色細砂粒少	酸化焔 やや軟質	橙	穿孔部は弱い面取り。外面の撫では弱く、輪積み痕を残す。	
147—10 154	須恵器 横瓶	−2〜4cm 矢残存	口 (13.7) 底 — 高 (26.7)	砂粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。徒形の胴部中央に口縁部が付く。外面平行叩き後カキ目を施す。内面の青海波文は器面の磨滅のためか目だたない。	外面に自然釉付着
147—11 154	鉄器 鎌	38cm 完形	長 (10.4) 幅 (2.4) 重 33.5				先端部が比較的強く曲がっている。基部の一部には柄装着のための折れ曲がった部分の痕跡がみられる。	

第64号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
148－1 154	須恵器 坏	6cm 与残存	口　(14.0) 底　(5.8) 高　(3.9)	細砂粒微 白色細粒多	還元焔 硬質	暗灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部は外反する。底部は回転糸切り無調整で、わずかに突出する。	いぶし
148－2 154	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(13.0) 底　(7.8) 高　(3.9)	細砂粒少	還元焔 やや硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部の外反は弱い。底部は回転糸切り無調整。	口縁部内面はカーボン付着
148－3 154	須恵器 埦	覆土内 破片	口　(15.3) 底　(7.2) 高　(5.1)	細砂粒多 砂粒微	還元焔 やや硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
148－4 154	須恵器 埦	カマド脇 り方 与残存	口　(15.2) 底　6.6 高　5.4	細砂粒微 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部はわずかに外反する。高台は付高台で底部切り離し技法は、高台貼付に伴う撫で調整のため不明。	
148－5 154	土師質 埦	1～3cm 与残存	口　－ 底　8.8 高　(3.6)	細砂粒少	還元焔 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、高台は底部回転糸切り後の付高台。	
148－6	土師質 黒色土器 埦	覆土内 破片	口　－ 底　(7.0) 高　(3.0)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	中性焔 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。体部下半に張りを有する。高台は底部回転糸切り後の付高台。内面は丁寧な撫磨き後に黒色処理を施す。	
148－7	須恵器 高台付皿	覆土内 与残存	口　(13.7) 底　－ 高　(1.6)	砂粒少 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形（右回転）。	
148－8 154	須恵器 埦	覆土内 与残存	口　－ 底　－ 高　(3.4)	白色細粒少 黒色鉱物粒微	還元焔 軟質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後付高台。高台は刺離。	いぶし
149－9	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(16.8) 鈕　－ 高　(3.1)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は扁平で、体部との境に段を有し、口縁部は「く」字状に短く屈曲する。天井部外面は回転篦削りを施す。	
149－10 154	須恵器 甕	13cm 破片	口　－ 底　(15.0) 高　(15.4)	細砂粒少	還元焔 やや硬質	灰白	紐作り。胴部の張りは弱いものと考えられ、下半は直線的である。内面は雑な横位撫で、外面は縦位の弱い篦削りを施す。	内面カーボン付着
149－11 154	鉄　器 鉄　鏃	覆土内 与残存	長　(8.6) 幅　(3.0) 重　12.1				茎が欠損する。鏃部は菱形板状で、基部断面は長方形。茎の断面は方形を呈する。	

第65号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
152－1 154	土師質 坏	8cm 与残存	口　(12.4) 底　6.8 高　3.9	細砂粒少 黒色鉱物粒少	中性焔 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。体部はわずかに内湾気味に外傾し、口縁部は外反しない。底部は回転糸切り無調整。	
152－2 154	須恵器 坏	28cm 与残存	口　(13.0) 底　(6.0) 高　4.3	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて全体に外反気味の丸形で、体部下半にごくわずかに張りを有する。底部は回転糸切り無調整。	
152－3 154	須恵器 埦	覆土内 完形	口　12.1 底　5.9 高　4.7	細砂粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	褐灰	轆轤整形(右回転?)。体部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台で、高台貼付に伴い、底部は粗い撫でが施されている。	いぶし 内面カーボン付着
152－4 154	須恵器 埦	－11cm 破片	口　(12.6) 底　6.0 高　5.0	黒色鉱物粒微 褐色細砂粒少	還元焔 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部は外反する。高台は回転糸切り後のやや雑な付高台。	いぶし
152－5 154	須恵器 埦	－2cm 与残存	口　(13.0) 底　(7.0) 高　(4.9)	黒色細粒少 白色細粒少	還元焔 軟質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部下半に張りを有し口縁部は外反しない。高台は底部回転糸切り後の付高台。	外面の粗れが激しい。

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
152－6 154	土師質 坏	2～28cm 写残存	口 (13.2) 底 7.4 高 5.2	黒色鉱物粒微 細砂粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。体部上半に強い張りを有し、口縁部は外反しない。底部は回転糸切り後の付高台。	カーボン付着
152－7	須恵器 坏	覆土内 底部残存	口 — 底 8.0 高 (3.5)	砂粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。高台はやや長脚で、底部撫で調整後の付高台。	内外面にカーボン付着
152－8 154	須恵器 坏	カマド内 13cm 写残存	口 (12.4) 底 (4.8) 高 (4.0)	黒色鉱物粒多 細砂粒少 褐色細粒多	中性焔 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部が外反する。高台は底部回転糸切り後の付高台で、貼付は体部側である。	
152－9	須恵器 坏	±0cm 底部残存	口 — 底 6.4 高 (3.2)	砂粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は幅が広く雑で、底部回転糸切り後の付高台。	
152－10 154	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (2.7)	細砂粒多 白色鉱物粒微	還元焔 硬質	褐灰	轆轤整形(右回転?)。体部の張りは弱く口縁部は強く外反する。	
153－11	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (6.4) 底 — 高 (3.6)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	中性焔 やや軟質	黄灰	轆轤整形（右回転)。口縁部の外反は弱い。	
153－12	須恵器 坏	±0cm 底部残存	口 — 底 6.3 高 (2.9)	白色粒多 黒色鉱物粒少	還元焔 やや硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後付高台。底部は高台貼付に伴う撫で調整。	
153－13 154	灰釉陶器 坏	覆土内 破片	口 (16.0) 底 (8.0) 高 (5.4)	美濃系		黄灰	轆轤成整形(?)。体部に張りを有し、口縁部はわずかに外反する。高台は底部撫で調整後の付高台。施釉は漬け掛けである。	内面見込み部重ね焼き痕有
153－14 154	灰釉陶器 坏	～3cm 破片	口 (17.8) 底 — 高 (4.1)	美濃系		灰白	轆轤成整形(?)。体部の張りは強く、口縁部はわずかに外反する。外面の轆轤痕は比較的顕著であるが、内面は目立たない。施釉は漬け掛け。	
153－15	灰釉陶器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (7.2) 高 (1.9)	美濃系		灰白	轆轤成整形。高台は三日月高台で、底部回転篦削り後の付高台。施釉は、漬け掛け？	
153－16 155	須恵器 羽釜	～6～4 cm カマド内 8cm 写残存	口 (18.4) 底 (5.8) 高 (25.6)	砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	紐作り轆轤整形(右回転)。胴部上半に張りを有し、口縁部は短く直立する。鍔は上面が水平の状態で、貼付は丁寧である。胴部上半・内面に轆轤痕を残し、下半は斜位（上→下）の篦削りを施す。	
153－17 155	須恵器 羽釜	～2～ ～5cm 写残存	口 (20.0) 底 — 高 (21.6)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	中性焔 硬質	灰黄	紐作り轆轤整形(右回転)。胴部中位に張りを有し、口縁部はわずかに内傾し、口唇部は平坦である。鍔はやや上方に反り気味で、丁寧に貼付されている。胴部外面上半及び内面に轆轤痕が明瞭に残り、外面下半には斜位の撫でを施す。	
153－18	須恵器 羽釜	23cm 破片	口 (19.0) 底 — 高 (8.8)	褐色粒少 細砂粒少	中性焔 硬質	浅黄橙	紐作り轆轤整形(右回転)。口縁部はやや内傾し、胴部上半に張りを有する。鍔の貼付は丁寧で、断面は三角形状を呈する。	
153－19 155	須恵器 羽釜	±0cm 破片	口 (21.0) 底 — 高 (12.3)	細砂粒少 黒色鉱物粒微 褐色細粒少	中性焔 硬質	明褐灰	紐作り轆轤整形(右回転)。胴部上半に張りを有し、口縁部は内傾し、口唇部は平坦である。鍔は断面三角形状で丁寧な貼付である。胴部内外面共に轆轤痕を明瞭に残している。	
153－20	須恵器 羽釜	16cm 破片	口 (23.6) 底 — 高 (10.5)	砂粒多 黒色鉱物粒少	中性焔 硬質	にぶい 黄橙	紐作り轆轤整形(右回転)。胴部の張りは弱く、口縁部はわずかに内傾する。口唇部は平坦で水平。鍔は上方を向く。胴部下半に篦削りを施す。	
153－21	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 (9.3)	砂粒多 黒色鉱物粒少	中性焔 硬質	にぶい 黄橙	紐作り轆轤整形(右回転)。胴部下半は斜位(左→右) の篦削りを施す。底部は一方向の篦削りを施す。	外面にカーボン付着
154－22	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.5	黒色粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り。側端部の面取りは2面。凸面に自然釉。	
154－23	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.1	砂粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。篦描き文字瓦（文字不明)。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
154－24 155	石　器 小　微	覆土内 完形	長　4.2 幅　3.2 厚　3.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重　56.5
154－25 155	石　器 磨　石	覆土内 一部欠損	長　12.2 幅　6.3 厚　4.5	粗粒安山岩			器面の剥離が激しく側面に剥離がみられる。	重 517.9
154－26 155	石　器 敲　石	カマド内 10cm 完形	長　24.2 幅　9.5 厚　6.0	輝緑岩			2面に剥離が認められる。	重2070.0

第66号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
157－1 154	土師器 坏	貯蔵穴11 cm ヲ残存	口　(10.4) 底　4.0 高　3.7	黒色鉱物粒少 黒色粒多 細砂粒少	中性焔 硬質	橙	底部は平底で体部は直線的に外傾し、口縁部は短く直立する。口縁部は体部下半は斜位の削刷りを施す。体部内面には指頭痕が認められ、底部には砂が付着している。(いわゆる砂底)	体部上半及び内面酸化、外面下半還元
157－2 155	須恵器 埦	貯蔵穴20 cm ヲ残存	口　(12.5) 底　6.0 高　4.9	砂粒少 黒色粒少	還元焔 硬質	黄灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部は外反する。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。	
157－3 155	土師質 埦	カマド内 4cm ヲ残存	口　(11.8) 底　6.1 高　4.7	白・黒色鉱物粒少 白色細粒少	酸化焔 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。腰部の張りが強く、体部は直線的に外傾し、口縁部はごくわずかに外反する。高台は底部回転糸切り後の付高台で、貼付け丁寧である。	
157－4 155	須恵器 埦	15cm 破片	口　— 底　5.8 高　2.2	褐色細粒多 片岩粒微 黒色鉱物粒少	還元焔 硬質	浅黄	轆轤整形(右回転)。高台は雑な作りで、底部回転糸切り後の付高台。	
157－5 155	須恵器 耳　皿	覆土内 ヲ残存	口　(10.0) 底　(5.7) 高　(3.1)	黒色鉱物粒微 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部はやや内湾気味に立ち上がり、上から指先で変形させている。底部は回転糸切り無調整。	
157－6 155	須恵器 坏	覆土内 破片	口　— 底　(9.0) 高　(1.5)	細砂粒多 白色鉱物粒多	還元焔 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(?)。底部は回転撫削りを施す。	
157－7 155	須恵器 埦	覆土内 破片	口　(14.0) 底　— 高　(3.5)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	還元焔 硬質	にぶい 褐	轆轤整形(?)。内面に炭化物が付着している。	
157－8 155	灰釉陶器 埦	カマド内 破片	口　— 底　(8.0) 高　(1.7)	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。高台は底部回転撫削り後の付高台。施釉技法は不明。	
157－9 155	土師質 埦	7cm 破片	口　— 底　(7.6) 高　(1.9)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	浅黄	轆轤整形(?)。高台部のみの残存で、接合部から剥離している。	
157－10 155	須恵器 羽　釜	覆土内 破片	口　(17.0) 底　— 高　(4.8)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(?)。胴部の張りは強く、口縁部は内傾する。内外面共に轆轤整形痕を残す。	
157－11 155	瓦 女　瓦	±0cm 破片	厚　1.7	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り?。凹面に粘土板糸切り痕。凸面全面縦位の撫でを施す。	
157－12 155	瓦 女　瓦	カマド内 5cm破片	厚　2.1	砂粒微 黒色粒少	還元焔 硬質	灰白	一枚作り?。側端部面取り2面。凹面に粘土板糸切り痕を残す。凸面は、斜格子叩きを施す。	
158－13 155	瓦 女　瓦	瓦残存	厚　2.6	白色細粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り。凹面に粘土糸切り痕。凸面に格子叩きと刻印(文字不明)。	カマド内 4cm
158－14 155	瓦 女　瓦	瓦残存	厚　1.7	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り。凹面布目に横位に擦痕。凸面横位撫で。凹面にカーボン付着。	カマド内 9cm
158－15 156	瓦 男　瓦	12cm 瓦残存	厚　1.7	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	凸面全面撫で。	
158－16 155	瓦 女　瓦	カマド内 7cm破片	厚　2.1	黒色粒少	還元焔 硬質	灰白	一枚作り。凹面粘土板糸切り痕に直交する方向に粗い撫で、凸面に斜格子叩き。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
158－17	瓦 女瓦	2cm 破片	厚 1.7	白色粒多 白色鉱物粒少	還元焔 硬質	灰白	桶巻作り？。凸面は全体撫で、凹面に模骨痕を残し、一部に炭化物が付着している。	
158－18 156	瓦 男瓦	12cm 破片	厚 1.7	砂粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。凹面に円形の刻印。	

第67号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
159－1 156	灰釉陶器 埦	覆土内 破片	口 (18.0) 底 (9.0) 高 (7.1)	美濃系		黄灰	輪轆成整形(右回転)。腰部の張りは比較的強く、体部から口縁部は直線的に外傾し、口縁部内面に1本の化線を巡らす。高台は底部から腰部回転篦削り後の付高台。施釉は漬け掛けである。	内外面にカーボン付着
159－2	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微	還元焔 硬質	灰白	口縁部の破片で、内面は轆轤痕を残し、外面に波状文を2帯巡らす。	厚 1.2
160－3	須恵器 羽釜	3cm 破片	口 (19.2) 底 — 高 (5.9)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	轆轤整形。胴部の張りが比較的強く、口縁部は反り気味に直立する。内外面共に轆轤痕を残す。	
160－4	須恵器 羽釜	11cm 破片	口 (17.0) 底 — 高 (9.3)	褐色細粒多 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	淡黄	轆轤整形(?)。胴部の張りは弱く、口縁部は直立し、上端は平坦である。	外面にカーボン付着
160－5 156	瓦 男瓦	±0cm 写残存	厚 1.7	砂粒少	中性焔 硬質	にぶい 橙	一枚作り？。凸面凝位の撫で中、面取り状。	
160－6	土師器 土釜	－2cm 底部残存	口 — 底 (9.9) 高 —	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 褐	土釜の底部と考えられ、内面に厚くカーボンが付着している。	厚 1.0
160－7	石器 敲石	覆土内 完形	長 12.4 幅 5.5 厚 4.4	ひん岩			端部に敲打痕。	重 462.1

第68号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
162－1 156	土師質 埦	写残存	口 (16.0) 底 — 高 (5.3)	白・黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	明赤褐	轆轤整形(右回転)。体部下半に弱い張りを有し、口縁部がわずかに外反し、内面に稜を有する。高台は長撫で、底部撫で後の付高台。	－2～2cmカマド内±0cm
162－2	土師質 埦	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (3.3)	細砂粒・黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。体部に丸味が強い。高台は、底部調整後の付高台。	内外面にカーボン付着
162－3 156	灰釉陶器 皿	3cm 写残存	口 (13.4) 底 (7.0) 高 (2.5)	美濃系		明オリーブ灰	轆轤成整形(?)。体部から口縁部にかけて外反する。高台は三日月高台状で、底部回転篦削り後の付高台である。施釉は漬け掛けと考えられる。	
162－4	灰釉陶器 皿	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (1.8)	美濃系		灰白	轆轤成整形。高台は三日月高台で底部回転篦削り後の付高台。施釉は漬け掛け？	
162－5	須恵器 羽釜	カマド内 11cm 破片	口 (20.0) 底 — 高 (9.5)	褐色細粒多 白色細粒微 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	橙	紐作り輪轆整形。胴部上半に弱い張りを有し口縁部は短くわずかに内傾する。胴部は撫で内面は横位の篦撫でを施す。鍔は断面三角状貼付はやや雑。	
162－6	須恵器 羽釜	カマド内 ±0cm 破片	口 (18.0) 底 — 高 (16.8)	砂粒少 白色細粒少 黒色鉱物粒微	還元焔 硬質	灰	紐作り輪轆整形。胴部上半に張りを有し、口縁部は強く内傾する。鍔は断面三角形状で上面は水平。胴部下半に斜位の篦削りを施す。	
162－7	須恵器 羽釜	破片	口 (20.0) 底 — 高 (9.0)	白色細粒多 砂粒微	中性焔 硬質	にぶい 橙	紐作り輪轆整形。胴部上半に比較的強い張りを有し、口縁部は短く内傾する。鍔は断面台形状で貼付は丁寧である。	10cmカマド内8cm

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
162－8	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚　1.8	砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい 赤褐	一枚作り。凸面に刻目。	

第69号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
163－1	須恵器 坏	－5cm 破片	口　(12.0) 底　(6.0) 高　(4.1)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰黄褐	轆轤整形(右回転?)。体部上半に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整?。	
163－2 156	灰釉陶器 瓶	±0～2 cm 与残存	口　－ 底　(15.4) 高　(13.2)	黄濁系		灰白	高台は角高台状の付高台。胴部下半は残存部において全面回転箆削りが施されている。施釉は刷毛によるものと考えられ、斜方向へのランダムなものである。また内面下半にもこの施釉が及んでいる。	内面にカーボン付着
163－3	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚　1.6	細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 赤褐	一枚作り?。凸面斜格子叩き。	
163－4	瓦 女　瓦	－3cm 破片	厚　2.7	砂粒少 白色粒少	中性焔 硬質	灰	桶巻作り?。側端部の面取り3面。凹面に粘土板糸切り痕。	

第70号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
165－1	須恵器 埴	カマド内 －8cm 与残存	口　(12.4) 底　(3.4) 高　(5.1)	砂粒少 黒色細粒多	還元焔 軟質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は外反する。高台は底部切り離し後の付高台で、貼付は雑。	
165－2	須恵器 羽　釜	カマド内 ±0cm 破片	口　(21.0) 底　－ 高　(5.5)	砂粒少 白色細粒少	中性焔 硬質	にぶい 黄橙	紐作り轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部は平坦でほぼ水平。鍔は胴部最大部直上で、やや外反気味である。	
165－3 156	石製品 臼　玉	カマド内 －8cm 完形	径　1.3 厚　0.6 孔　0.2	滑石			穿孔は一方向。	重　1.7

第71号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
167－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(8.8) 底　－ 高　(2.6)	黒色鉱物粒多 細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾する。底部は箆削り、口縁部は横撫でを施す。	
167－2	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.5) 底　－ 高　(2.7)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は弱く内湾する。底部は箆削り。口縁部は横撫でを施す。	
167－3 156	土師器 坏	カマド内 与残存	口　(14.0) 底　－ 高　(4.0)	黒色鉱物粒少 細砂粒微	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
167－4 156	土師器 坏	覆土内 与残存	口　(11.8) 底　－ 高　(3.5)	黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はやや内湾気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
167－5	土師器 坏	覆土内 破片	口　(15.2) 底　－ 高　(3.7)	白色細粒微	酸化焔 やや軟 質	暗灰黄	底部は丸底気味の平底で、体部は直線的に外傾し、口縁部はごくわずかに内湾する。内面体部に斜放射状、見込み部にラセン状暗文を施す。	
167－6 156	土師器 皿	覆土内 破片	口　(14.8) 底　－ 高　(3.3)	黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は強く外反する。口縁部は横撫で底部は撫で状の箆削りを施す。	
167－7 156	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　(8.2) 高　(3.1)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。体部は直線的に外傾し、口縁部は外反しない。底部切り離しは不明で周辺部及び体部下半に回転箆削りを施す。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
167－8	須恵器 蓋	5cm 摘部残存	口 — 横 7.2 高 (1.1)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。摘だけの残存。接合部から剥離。	
167－9 156	土師器 甕	貯蔵穴埋 設 ヲ残存	口 — 底 — 高 (15.5)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい 褐	胴部上半に張りを残し、口縁部は「コ」字状を呈するものと考えられる。胴部外面は、上半が縦位と横位の乱れた、下半が斜位(上→下)の櫛で状の箆削りを施し、内面は横位の箆撫でを施す。	内面に接合痕有
167－10	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	口 (8.8) 底 — 高 (8.1)	砂粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	にぶい 赤褐	輪轆整形(右回転)。頸部は反り気味に立ち上がり、上端で強く外反し、口縁部は内傾する。	
167－11	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	胴部最大部に2本の沈線と間に擬縄文を施す。	厚 1.0
167－12	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色粒微 黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	口縁部は強く外反し、上端に段を有する。	厚 1.0
167－13	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	頸部破片で、沈線と波状文を施す。	厚 1.1
167－14	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	粗作り叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文。	厚 0.8
167－15 157	石器 磨編み石	8cm 完形	長 14.3 幅 7.0 厚 4.6	変質安山岩			使用痕不明。	重 619.1
167－16 156	石器 敲石	±0cm 完形	長 10.8 幅 5.7 厚 2.5	変質玄武岩			側面に1ヶ所敲打痕がみられる。	重 250.1
167－17 157	石器 磨編み石	±0cm 完形	長 12.0 幅 6.7 厚 3.9	ひん岩			使用痕不明。	重 444.2
167－18 157	石器 磨編み石	±0cm 完形	長 10.0 幅 4.9 厚 3.3	流紋岩			使用痕不明。	重 272.5
167－19 157	石器 敲石	16cm 完形	長 10.8 幅 5.1 厚 3.6	粗粒安山岩			両端部から側面にかけて敲打痕。	重 358.3
167－20 157	石器 磨編み石	19cm 完形	長 10.6 幅 4.9 厚 2.6	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 228.5
167－21 157	石器 敲石	16cm 完形	長 11.1 幅 5.9 厚 3.3	粗粒安山岩			両端部から側面にかけて敲打痕。	重 358.3

第72号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
169－1	須恵器 坏	カマド内 破片	口 — 底 (7.0) 高 (1.6)	黒色粒微	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。	内外面自然釉
169－2 157	瓦 女瓦	6cm 破片	厚 2.1	白色細粒多	還元焔 硬質	青灰	一枚作り。凹面布目は横位に粗く撫で消されている。凸面正格子叩き。	
169－3 157	鉄器 刀子	覆土内 ヲ残存	長 (11.4) 幅 (1.0) 重 13.6				茎の一部欠損。刃部基部側が、とぎ減りによるものか湾曲している。	
169－4 157	鉄器 釘	覆土内 ヲ残存	長 (6.5) 幅 (0.7) 重 10.7				両端部を欠損する。断面方形で、先端部側が弱く湾曲している。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
169－5 157	鉄　製 釘？	覆土内 破片	長　(4.0) 幅　(0.7) 重　4.7				断面は長方形で、先端部側がひねられた様に曲がっている。	
170－6 157	石　器 敲　石	P_1　2cm 一部欠損	長　10.9 幅　9.5 厚　4.3	石英閃緑岩			熱を受け面の剥離が認められる。縁辺に敲打痕。	重 620.2

第73号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
173－1 157	土 師 器 坏	6cm 完形	口　11.8 底　— 高　3.6	黒色鉱物粒多 細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はやや内湾気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。内面体部には指頭痕状の押圧の痕跡が認められる。	
173－2 157	土 師 器 坏	±0cm ヲ残存	口　(11.8) 底　— 高　(3.5)	黒色鉱物粒少 細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
173－3 157	土 師 器 坏	3cm ヲ残存	口　(11.8) 底　— 高　(3.7)	黒色鉱物粒多 細砂粒少 褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
173－4 157	土 師 器 坏	3cm 完形	口　12.4 底　— 高　4.4	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は「く」字状に内傾する。口縁部は粗い横撫で、底部は箆削りを施す。	
173－5 157	土 師 器 坏	覆土内 ヲ残存	口　13.0 底　— 高　3.9	黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。体部外面に指頭痕が認められる。	外面が粗れている
173－6	土 師 器 皿	覆土内 破片	口　(16.6) 底　— 高　(3.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は強く外反する。底部箆削り後口縁部横撫で を施す。	
173－7	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口　— 底　(8.8) 高　(1.6)	砂粒微	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(左回転)。底部に回転箆削りを施す。	
173－8	須 恵 器 埦	覆土内 破片	口　— 底　(11.0) 高　(2.8)	砂粒微 褐色細粒少	中性焔 硬質	浅黄橙	轆轤整形(右回転)。高台は角高台で底部及び体部下半回転箆削り後の付高台。	
173－9	須 恵 器 埦	カマド内 破片	口　— 底　(14.0) 高　(2.4)	白・黒色細粒 少	還元焔 やや軟質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は角高台で底部及び体部下半回転箆削り後の付高台。	
173－10	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口　— 摘　(6.0) 高　(1.4)	白・黒色細粒 少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(？)。天井部回転箆削り後、摘貼付。	
174－11	須 恵 器 皿？	覆土内 破片	口　— 底　(10.0) 高　(2.0)	細砂粒多	還元焔 やや硬質	にぶい 黄褐	轆轤整形(右回転)。体部下端、底部回転箆削りを施す。	
174－12	須 恵 器 皿	覆土内 破片	口　(23.6) 底　(18.0) 高　(2.1)	黒色粒・白色 細粒微	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて外反する。底部は、やや丸底気味。底部は手持ち箆削りを施す。	
174－13	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口　(20.0) 摘　— 高　(1.6)	白色細粒多 黒色粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は扁平で内面のかえりも短い。天井部外面に回転箆削りを施す。	
174－14	須 恵 器 高　坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　(6.6)	砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形。脚部中位に沈線を2帯巡らす。	
174－15	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口　(20.0) 底　— 高　(3.6)	白色細粒多 白色鉱物粒微	還元焔 硬質	灰	紐作り。口縁部上端に段を有し、頸部に波状文を施す。	内外面に自然釉

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
174—16 157	須恵器 短頸壺	覆土内 1/4残存	口 (9.2) 底 (8.0) 高 (7.0)	細砂粒少 白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転?)。胴部中位に強い張りを有する比較的扁平な器形で、口縁部はわずかに内傾する。胴部上半と内面に輪轆痕を残し、下半は手持ち箆削りを施す。底部は一方向の箆削りである。	
174—17 157	須恵器 甕	7cm 1/4残存	口 — 底 (9.6) 高 (15.6)	黒色粒多 細砂粒少	還元焔 硬質	黒	紐作り輪轆整形(?)。胴部全体に張りを有する。胴部下半及び底部に箆削りを施す。	
174—18	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (6.4)	黒色鉱物粒微 白色細粒多 針状鉱物粒微	酸化焔 やや硬質	にぶい 黄橙	口縁部は「く」字状に屈曲し、胴部中位に強い張りを有する。口縁部横撫で、胴部横位の箆削り、内面箆撫で。	
174—19	須恵器 甕	4cm 破片	口 — 底 (15.0) 高 (14.8)	細砂粒・褐色粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文。脚部は底部調整後の貼付。	
174—20	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色粒・細砂粒微	還元焔 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き後カキ目。内面青海波文。	厚 0.8
174—21	須恵器 甕	29cm 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面擬格子状の叩き後カキ目。内面は青海波文を撫で消す。	
174—22	須恵器 甕(台付長頸瓶)	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒多 細砂粒微	還元焔 やや硬質	灰白	肩部に平行沈線を巡らし、間に串状工具の刺突文を施す。	
174—23	須恵器 瓶?	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (5.0)	褐色粒微	還元焔 硬質	灰	頸部に断面三角形状の隆帯を1帯巡らす。	
174—24 157	鉄器 釘	覆土内 破片	長 (2.5) 幅 (0.4) 重 2.5				頭部破片で、錆が進み、周辺が剥離している。断面長方形。第174図—26と同一個体の可能性がある。	
174—25 157	鉄器 釘	覆土内 破片	長 (3.7) 幅 (0.4) 重 1.8				先端寄りの破片で、断面方形。	
174—26 157	鉄器 釘	覆土内 破片	長 (5.4) 幅 (0.4) 重 2.1				先端部で断面長方形であり、第174図—24と同一個体の可能性がある。	
174—27 157	鉄器 釘	覆土内 1/4残存	長 (5.3) 幅 (1.4) 重 5.5				先端部側を欠損する。頭部は平坦な傘状で上面は剥離している。	
174—28 157	石製品 臼玉	覆土内 完形	径 0.9 厚 1.0 孔 1.0	滑石			穿孔は一方向。側面の整形方向は斜方向。	重 1.5
175—29	須恵器 甕	—6cm 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文。	厚 1.0
175—30 158	石器 敲石	28cm 完形	長 12.0 幅 7.2 厚 3.8	粗粒安山岩			両側面に敲打痕。一面中央に断面「V」字状のきざみ。	重 491.4
175—31 158	石器 薄編み石	7cm 完形	長 12.5 幅 6.6 厚 3.5	砂岩			使用痕不明。	重 432.5

第75号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
176—1	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (5.4) 高 (2.0)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。底部回転箆削り無調整。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
176－2	土師器 甕	覆土内 破片	口　(21.0) 底　－ 高　(3.1)	砂粒多	酸化焔 やや軟質	にぶい 黄橙	口縁部は「C」字状に外反する。胴部は中位に張りを有すると思われる。口縁部は横撫でを施す。	
176－3 158	石　器 敲　石	覆土内 完形	長　12.7 幅　6.5 厚　5.7	角閃石安山岩			端部に敲打痕。	重 402.8

第76号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
179－1 158	土師器 坏	覆土内 ほぼ完形	口　(10.6) 底　－ 高　(3.5)	黒色鉱物粒少 白色細粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は比較的深い丸底で、口縁部はわずかに内傾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
179－2 158	土師器 坏	2～4cm 完形	口　10.8 底　－ 高　3.0	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は強く内湾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
179－3 158	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　－ 高　(4.0)	黒色鉱物粒微 褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で口縁部との境に段を有し、口縁部は中位に稜を有し外傾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
179－4 158	土師器 坏	覆土内 写残存	口　(13.0) 底　－ 高　(4.5)	黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	にぶい 黄橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は内湾気味に外傾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
179－5	土師器 坏	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	内面に暗文。	厚　0.5
179－6	須恵器 坏	覆土内 破片	口　－ 底　(8.0) 高　(1.8)	褐色細粒少 白色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
180－7 158	須恵器 坏	6cm 写残存	口　(10.4) 底　5.0 高　4.2	白色細粒少 細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部は外反する。底部は回転箆切り後回転箆削りを施す。また体部下端に1段の回転箆削りが施されている。	
180－8	須恵器 蓋	6cm 完形	口　10.8 摘　－ 高　3.0	細砂粒少 小礫微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部にやや張りを有し、口縁部でわずかに屈曲する。摘は扁平な宝珠状で、天井部回転箆削り後の貼付である。内面のかえりは、短いが緩く内傾する。	
180－9 158	須恵器 蓋	覆土内 写残存	口　(11.0) 摘　(1.5) 高　(2.5)	黒色細粒多 白色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部はやや扁平で、内面のかえりは短いが緩く反る。摘は宝珠摘で天井部外面回転箆削り後の貼付。	
180－10	須恵器 蓋	覆土内 写残存	口　－ 摘　(1.9) 高　(2.0)	白色細粒少 黒色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。摘は宝珠摘で、天井部外面に回転箆削りを施す。	
180－11	須恵器 蓋	9cm 写残存	口　(22.0) 摘　－ 高　(2.5)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。大振りで扁平な体部を有し、内面の反りも弱い。天井部外面に箆削りを施す。	
180－12	須恵器 瓶	覆土内 破片	口　(8.0) 底　－ 高　(3.5)	白色細粒微 黒色鉱物粒微	還元焔 軟質	暗灰	口縁部上端に2段の段を有し、内面は「く」字状に屈曲する。頸部に平行沈線を巡らす。	内外面に自然釉
180－13	須恵器 甕	覆土内 破片	口　(16.0) 底　－ 高　(11.0)	白色粒少 砂粒微	還元焔 硬質	灰	紐作り轆轤整形。口縁部は円筒状で上端で強く外反する。	
180－14	土師器 甕	11cm 破片	口　(13.0) 底　－ 高　(5.5)	褐色細粒多 黒色鉱物粒微	酸化焔 軟質	橙	胴部は球形で、口縁部は短く「く」字状に外反する。口縁部は横撫で、胴部は斜位（左→右）の箆削り、内面は横位の箆撫でを施す。	
180－15	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	口縁部上端に突帯を巡らし、下に波状文を施す。口唇部は平坦で外傾する。	厚　1.0

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
180−16 158	須恵器 甕	覆土内 底部破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒多 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	底部破片で、体部との接合面で、剥離している。内面は指先による撫でがみられる。	厚　1.9
180−17	須恵器 甕	6〜14cm 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面が平行叩きで内面は格子目。第180図−19と同一個体。	厚　1.0
180−18	須恵器 甕	カマド内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文。	厚　0.8
180−19	須恵器 甕	9cm 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き。内面は格子目。第180図−17と同一個体。	厚　0.8
181−20	須恵器 甕	6〜11cm 破片	口　— 底　— 高　—	砂粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文。	厚　0.8
181−21 158	鉄　器 紡錘車	3cm 完形	長　(4.3) 幅　(4.3) 重　23.0				軸断面は方形で両端共欠損。紡輪部はほぼ完形である。	
181−22	須恵器 壺	覆土内 ½残存	口　— 底　(6.4) 高　(2.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	還元焔 軟質	淡黄	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
181−23	土師質 黒色土器 壺	P。10cm	口　— 底　(8.0) 高　(1.5)	白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	轆轤整形。高台は付高台。内面荒研磨後黒色処理を施す。	内面の粗れが激しい
181−24	須恵器 壺	覆土内 破片	口　— 底　(9.0) 高　(7.0)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り轆轤整形。内外面に轆轤整形痕を明瞭に残す。高台は角高台で、底部調整後の付高台。	
181−25	灰釉陶器 壺	覆土内 破片	口　— 底　(7.8) 高　(3.0)	白色細粒少		灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。施釉は不明。	
181−26 158	瓦 男　瓦	覆土内 破片	厚　2.1	褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取りは2面。凸面には縄叩きがみられるが大半は撫で消されている。	

第77号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
183−1 158	須恵器 坏	覆土内 ½残存	口　(12.7) 底　(7.7) 高　(3.8)	砂粒少 黒色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部上半に張りを有し口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
183−2	須恵器 坏	覆土内 破片	口　— 底　(8.0) 高　(3.3)	砂粒微 褐色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
183−3	須恵器 壺	覆土内 破片	口　— 底　(9.0) 高　(3.0)	褐色細粒少	還元焔 やや軟質	灰褐	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
183−4	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(16.0) 摘　— 高　(1.7)	褐色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。扁平な体部で口縁部先端で屈曲する。天井部外面に回転箆削りを施す。	
183−5	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒多 褐色粒少	還元焔 硬質	灰	口縁部の破片で、平行沈線の間に波状文を施す。	厚　1.0
183−6	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少 白色鉱物粒微	還元焔 硬質	暗灰	口縁部の破片で、平行沈線の間に波状文を施す。	厚　1.0

第78号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
184－1 158	灰釉陶器 瓶	カマド内 2cm 残存	口　－ 底　(8.6) 高　(4.7)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。腰部に強い張りを有する。高台は底部回転篦削り後の付高台。施釉は漬け掛けと考えられる。	内外面にカーボン付着
184－2	灰釉陶器 不　明	覆土内 破片	口　(13.0) 底　(12.0) 高　(2.0)	黒色細粒少		灰	轆轤整形。底部は平底で、体部は弱く外傾し口唇部は外面肥厚する。内外面に灰釉。	
184－3	須恵器 羽　釜	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	紐作り轆轤整形。胴部の張りは弱く、口縁部はわずかに内傾する。鍔に縦方向の穿孔有り。	厚　1.2
184－4	須恵器 小型甕	5cm 破片	口　(16.0) 底　－ 高　(9.5)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい 黄橙	紐作り轆轤整形。胴部の張りは弱く、口縁部は直立し、口唇部は平坦で水平。外面は縦位の撫でを施す。	内外面に接合痕有
184－5	土師器 土　釜	覆土内 破片	口　(16.0) 底　－ 高　(6.5)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 硬質	橙	口縁部は「C」字状に強く外反する。胴部は斜位の篦削り後、口縁部に横撫でを施す。	

第79号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
185－1 158	須恵器 蓋	6cm 残存	口　(17.5) 横　(3.4) 高　(3.5)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は平坦で、口縁部で強く屈曲し水平に開き、口唇部が下方に短く折れ曲がっている。摘は補々作りの環状摘で、天井部は回転篦削り後の貼付である。	
185－2	土師器 甕	覆土内 破片	口　(16.0) 底　－ 高　(2.4)	砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	橙	口縁部は短く、弱く外反する。口縁部横撫で後胴部斜位（下→上）の篦削りを施す。	
185－3	土師器 甕	覆土内 破片	口　(20.0) 底　－ 高　(7.2)	砂粒多	酸化焔 硬質	橙	口縁部は「く」字状に外反し、胴部中位に張りを有する。口縁部横撫で後、胴部上半横位（右→左）の篦削りを施す。	

第 80 号 址

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
188－1 158	土師器 坏	覆土内 残存	口　(13.0) 底　－ 高　(3.3)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は平底で、体部の張りは弱く口縁部がわずかに内傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削り、体部の調整は不明瞭である。	杯AⅡの模倣
188－2 158	須恵器 坏	±0cm 残存	口　(13.0) 底　7.6 高　3.4	細砂粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰部に張りを有し、口縁部は直線的に外傾する。底部は回転糸切り無調整。	
188－3	須恵器 坏	－5cm 残存	口　(13.2) 底　(8.7) 高　(3.0)	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部下半にわずかに張りを有し、口縁部は弱く外反する。底部は回転篦削り無調整。	
188－4	須恵器 壺	4cm 破片	口　(15.6) 底　(10.0) 高　(7.4)	褐色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(？)。体部は直線的に外傾する。高台は付高台。	
189－5 158	須恵器 壺	2cm 残存	口　(12.0) 底　(8.4) 高　(5.2)	黒色細粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾する。高台は角高台で、底部回転糸切り後の付高台。	
189－6	須恵器 壺	－2cm 破片	口　－ 底　(9.0) 高　(4.2)	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(？)。体部下半に弱い張りを有する。高台は底部調整後の付高台。	
189－7	須恵器 壺	覆土内 破片	口　－ 底　(10.8) 高　(2.6)	白色細粒多 褐色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
189－8 159	須恵器 壺	±0cm 3/4残存	口　(17.4) 底　－ 高　(7.0)	黒色粒少	還元焔 硬質	灰白	輪積整形(右回転)。体部下半に側い張りを有し、口縁部は外傾する。高台は底部回転糸切り後の付高台であるが、大部分が剥離し、剥離面に糸切り痕が観察できる。	
189－9	須恵器 壺	覆土内 破片	口　－ 底　(14.0) 高　(1.9)	黒色細粒少 細砂粒多	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転)。高台は底部回転撫で後の付高台。高台部内面に強い撫がある。	

第81号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
192－1 159	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口　(12.4) 底　－ 高　(4.0)	黒色鉱物粒多 白色鉱物粒少 褐色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
192－2 159	土師器 坏	±0cm 3/4残存	口　(12.2) 底　－ 高　(3.1)	白色鉱物粒少 黒色鉱物粒多 褐色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
192－3 159	土師器 坏	カマド内 12cm 3/4残存	口　(12.0) 底　－ 高　(3.7)	細砂粒少 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
192－4 159	土師器 坏	13～17cm 3/4残存	口　(12.0) 底　－ 高　(3.9)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾気味である。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
192－5 159	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口　(13.4) 底　－ 高　(4.6)	細砂粒少 黒色鉱物粒微 白色細粒多	酸化焔 軟質	橙	底部は深い丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
192－6 159	土師器 坏	±0cm 3/4残存	口　(15.0) 底　－ 高　(4.1)	細砂粒少 白・黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で、箆削りを施す。	
192－7 159	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口　(13.0) 底　－ 高　(3.6)	細砂粒少 白・黒色鉱物粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は直立する。口縁部横撫で、底部は箆削りを施す。	
192－8	土師器 坏	覆土内 破片	口　(13.6) 底　－ 高　(4.5)	褐色細粒少 細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部は内湾気味に立ち上がる。体部は横撫削り、口縁部は横撫で、内面は撫で後体部放射状、見込み部ラセン暗文を施す。	内面暗文
192－9	土師器 坏	覆土内 破片	口　(15.1) 底　－ 高　(4.2)	白色細粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 やや軟 質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部はやや内湾気味に外傾する。体部は箆削り、口縁部は横撫で、内面は撫で後斜格子状暗文を施す。	内面暗文
192－10	土師器 坏	覆土内 破片	口　(14.4) 底　－ 高　(2.9)	褐色細粒微 細砂粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに外反する。体部横位箆削り、口縁部横撫で、内面は撫で後放射状暗文を施す。	内面暗文
192－11 159	土師器 皿	覆土内 3/4残存	口　(17.0) 底　－ 高　(4.0)	細砂粒少 白・黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
192－12	土師器 坏	覆土内 破片	口　(14.5) 底　－ 高　(3.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は緩平な丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で底部は箆削りを施す。	
192－13 159	土師器 皿	12cm ほぼ完形	口　(16.0) 底　－ 高　(3.7)	砂粒多 白・黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は緩平な丸底で、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
192－14	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口　(16.0) 底　－ 高　(3.1)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は緩平な丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で底部は箆削りを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目（cm） 量目（g）	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
192－15	土師器 坏	13cm 破片	口（15.0） 底　－ 高（3.1）	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で底部は箆削りを施す。	
192－16	土師器 鉢	覆土内 破片	口（18.4） 底　－ 高（7.2）	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 やや硬質	橙	半球形の器形で、口縁部は短く内湾する。体部箆削り、口縁部は横撫でを呈する。	
192－17 159	土師器 皿	±0cm 3/4残存	口（17.0） 底　－ 高（4.0）	細砂粒少 黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
192－18	須恵器 坏	覆土内 破片	口（13.2） 底　－ 高（3.7）	褐色細粒少 砂粒微	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形（右回転？）。体部は直線的に外傾し、口唇部は平坦で水平、体部下端に回転箆削りを施す。	
192－19 159	須恵器 坏	±0cm ほぼ完形	口（12.4） 底（7.3） 高　3.8	砂粒少 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形（右回転）。体部から口縁部は直線的に外傾する。底部は回転箆切り後、周辺箆削りを施す。この回転箆削りは腰部にも1段認められる。	
192－20	須恵器 壺	覆土内 破片	口　－ 底（9.0） 高（3.5）	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。体部は直線的に外傾する。高台は底部回転箆削り後の付高台。	
192－21 159	須恵器 壺	9～11cm 3/4残存	口（15.6） 底（11.0） 高（4.5）	細砂粒少 黒色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。腰部に弱い張りを有し体部から口縁部はわずかに内湾気味に立ち上がる。高台は角高台で、底部と腰部に回転箆削り後の付高台である。	
193－22 159	須恵器 坏	覆土内 3/4残存	口（11.4） 底（8.9） 高（3.4）	砂粒少 白・黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。体部から口縁部にかけてごくわずかに内湾気味に立ち上がる。底部から腰部には回転箆削りを施す。	
193－23	須恵器 蓋	覆土内 破片	口（13.9） 摘　－ 高（4.1）	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転？）。天井部は扁平な丸底状で、口縁部との境に段を有する。口縁部は中位に稜を有し、内湾気味に開く。	
193－24	須恵器 蓋	覆土内 破片	口（12.0） 摘　－ 高（4.0）	白色細粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。天井部は扁平な丸底で口縁部との境に弱い段を有し、口縁部先端でわずかに屈曲する。天井部外面は回転箆削りを施す。	
193－25	須恵器 壺	覆土内 破片	口　－ 底（6.7） 高（2.0）	白色鉱物粒微 白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。高台は底部回転糸切り後の付高台。高台貼付に伴い糸切り痕の大半は撫で消されている。	
193－26	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　－ 摘（5.1 高（1.4）	褐色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転？）。摘は変形の環状摘で天井部回転箆削り後の貼付と思われる。	
193－27	須恵器 蓋	覆土内 破片	口（17.0） 摘　－ 高（2.3）	褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。天井部は扁平な丸底状で、口縁部は水平方向に強く開く。内面のかえりは短く内傾する。天井部外面は回転箆削りを施す。	
193－28 159	須恵器 蓋	覆土内 破片	口（18.2） 摘　－ 高（2.4）	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。扁平な体部で口縁部で弱く屈曲する。摘は欠損しているが環状摘と思われ、天井部回転箆削り後の貼付と考えられる。内面のかえりは口縁部から一連のもので退化したものである。	
193－29 159	須恵器 蓋	7cm 3/4残存	口（18.2） 摘（6.0） 高（3.6）	細砂粒微 黒色細粒少	還元焔 硬質	明灰	轆轤整形（右回転）。体部から天井部の張りは比較的強く、口縁部は強く屈曲する。摘は輪状摘で、天井部回転箆削り後の貼付である。内面のかえりは、つまみとげ状で痕跡化している。	
193－30 159	須恵器 短頸壺	2cm 3/4残存	口（11.6） 底（10.0） 高（4.0）	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。扁平な器形で肩部に強い張りを有し、口縁部は短く直立する。底部は回転箆削りを施しており、高台は削り出し高台と考えられる。	
193－31	須恵器 平　瓶	±0cm 破片	口　－ 底　－ 高（3.7）	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	頸部と体部に明瞭な接合痕を残す。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
193−32	土師器 不明	覆土内 破片	口 − 底 − 高 −	黒色細粒微	酸化焔 硬質	橙	甑の底部と考えられるもので、焼成前に内面からの穿孔がされている。	厚 0.6
193−33 193−34	土師質 黒色土器 埦	覆土内 破片	口 − 底 − 高 −	白色細粒少	酸化焔 硬質	黒	やや内湾する口縁部で、内外面共に横位置磨き後黒色処理。	厚 0.5 内外面に黒色処理
193−34	土師器 甕	覆土内 破片	口 (24.6) 底 − 高 (7.7)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 硬質	橙	口縁部は「く」字状を呈し、上端でわずかに屈曲する。口縁部横撫で後胴部上半斜位（右→左）の置削り。内面は斜位の置撫でを施す。口縁部外面に明瞭な接合痕を残す。	
193−35	土師器 甕	10cm 破片	口 (16.9) 底 − 高 (7.3)	砂粒少 小礫微 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	褐	口縁部は短く「C」字状を呈し、胴部に強い張りを有する。口縁部横撫で後胴部斜位（下→上）の置削り、内面は斜位の置撫でを施す。	
193−36	土師器 甕	覆土内 破片	口 (21.8) 底 − 高 (7.5)	細砂粒多 褐色鉱粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬質	橙	口縁部は「く」字状を呈し、胴部上半に張りを有する。口縁部横撫で後胴部上半横位（右→左）の置削り、内面横位置撫でを施す。口縁部外面に明瞭な接合痕を残す。	
193−37	須恵器 甕	覆土内 破片	口 − 底 − 高 −	細砂粒少	還元焔 硬質	褐灰	紐作り叩き整形。外面が平行叩き後カキ目。内面は青海波文。	厚 0.7
193−38	須恵器 甕	覆土内 破片	口 − 底 − 高 −	褐色細粒少	還元焔 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面が米格子叩き。内面は素文。	厚 0.7
193−39	須恵器 甕	覆土内 破片	口 − 底 − 高 −	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り轆轤整形。外面平行叩き、内面は青海波文。	厚 1.1
194−40	須恵器 甕	6cm 破片	口 − 底 − 高 −	砂粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は平行叩き。内面は青海波文。	厚 1.7
194−41	須恵器 甕	覆土内 破片	口 − 底 − 高 −	砂粒少 黒色細粒多	還元焔 硬質	灰白	紐作り轆轤整形。外面叩きは不明。内面は青海波文。	厚 0.8
194−42	須恵器 甕	6cm 破片	口 − 底 − 高 −	白色細粒少 褐色細粒少 黒色鉱物粒微	還元焔 硬質	灰	紐作り轆轤整形。胴部上半で強く屈曲し、内外面共に轆轤整形痕を強く残す。	厚 1.1
194−43	須恵器 甕	覆土内 破片	口 − 底 − 高 −	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は平行叩き目。内面は青海波文。	厚 0.5
194−44 160	石器 薄編み石	2cm 完形	長 14.0 幅 6.7 厚 5.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 628.7
194−45 160	石器 敲石	2cm 完形	長 11.4 幅 6.2 厚 4.2	粗粒安山岩			端部から側面にかけて敲打痕。	重 398.7
194−46 160	石器 敲石	6cm 完形	長 11.9 幅 5.3 厚 3.3	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 345.7
194−47 160	石器 敲石	3cm 完形	長 12.8 幅 5.8 厚 3.1	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 419.0
194−48 160	石器 敲石	±0cm 完形	長 13.2 幅 7.1 厚 4.5	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 701.1
194−49 160	石器 敲石	覆土内 完形	長 9.4 幅 4.3 厚 3.7	粗粒安山岩			端部に敲打痕。	重 223.0
195−50 160	石器 敲石	4cm 完形	長 11.9 幅 7.2 厚 3.9	粗粒安山岩			両端部及び側面に敲打痕。	重 465.7

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
195−51 160	石　器 敲　石	7cm 完形	長　13.8 幅　6.2 厚　3.9	閃緑岩			使用痕不明。	重 679.4
195−52 160	石　器 敲　石	13cm 完形	長　14.5 幅　4.8 厚　3.9	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 451.7
195−53 160	石　器 敲　石	−2cm 完形	長　13.2 幅　7.2 厚　4.4	粗粒安山岩			両端部と両側面に強い敲打痕。	重 525.9
195−54 160	石　器 農編み石	10cm 完形	長　12.8 幅　5.5 厚　4.2	変質玄武岩			使用痕不明。	重 445.2
195−55 160	石　器 敲　石	±0cm 完形	長　13.0 幅　7.3 厚　3.8	粗粒安山岩			端部に敲打痕。	重 575.1
195−56 160	石　器 敲　石	覆土内 完形	長　13.3 幅　5.3 厚　5.2	石英閃緑岩			端部に敲打痕。	重 486.7
195−57 160	石　器 敲　石	覆土内 完形	長　14.4 幅　5.2 厚　4.3	粗粒安山岩			端部に敲打痕。	重 451.0
195−58 160	石　器 敲　石	6cm 完形	長　15.7 幅　5.5 厚　4.9	ひん岩			使用痕不明。	重 592.0
195−59 160	石　器 農編み石	±0cm 一部欠損	長　13.8 幅　5.9 厚　4.2	ひん岩			両端部に剥離がみられる。	重 405.9
195−60 161	石　器 敲　石	13cm 完形	長　14.1 幅　7.0 厚　4.9	石英閃緑岩			端部と側面に敲打痕。	重 615.4
195−61 161	石　器 農編み石	±0cm 完形	長　12.4 幅　5.6 厚　4.2	変質安山岩			使用痕不明。	重 471.4
195−62 161	石　器 農編み石	±0cm 完形	長　13.5 幅　5.1 厚　4.2	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 536.9
195−63 159	土師質 坏	覆土内 完形	口　10.0 底　5.3 高　3.5	細砂粒少 黒色鉱物粒少 褐色細砂粒多	酸化焔 硬質	浅黄橙	轆轤整形(右回転)。体部上半に張りを有し口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
195−64 159	土師器 坏	7cm 歪残存	口　(9.8) 底　4.7 高　3.0	細砂粒少 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 軟質	浅黄橙	轆轤整形(右回転)。体部上半に張りを有し口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
195−65 159	土師器 坏	覆土内 完形	口　9.9 底　5.5 高　3.1	細砂粒少 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	浅黄橙	轆轤整形(右回転)。体部の張りは強く、口縁部の外反はごく弱い。口縁部内面に棱を有する他、轆轤痕は顕著でない。底部は回転糸切り無調整。	
195−66 159	須恵器 埦	覆土内 歪残存	口　(12.3) 底　− 高　(3.4)	細砂粒微 黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。	
195−67 160	灰釉陶器 埦	覆土内 歪残存	口　(14.0) 底　7.2 高　5.4	美濃系？		灰	轆轤成整形(右回転？)。体部下半に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。高台は雑な三角高台で、底部回転糸切り後の付高である。施釉は漬け掛け。	内外面にカーボン付着
195−68 160	土師質 埦	7cm ほぼ完形	口　10.5 底　6.0 高　4.6	細砂粒少 黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焔 硬質	淡黄	轆轤整形(右回転)。体部下半に張りを有し口縁部はわずかに外反する。高台は付高で、底部切り離し技法は不明。	
195−69 160	クローム 青　磁 碗	±0cm 完形	口　7.6 底　3.2 高　3.7				高台は削り出し高台。体部外面に雷彫の凹凸を付け、施釉の濃淡で文様が表現されている。	明治〜大正期

第82号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
198－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(13.8) 底　— 高　(4.0)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 やや軟質	にぶい橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は反り気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
198－2	土師器 坏	覆土内 破片	口　(13.0) 底　— 高　(3.1)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は平底で、体部は直線的に外傾し、口縁部で強く内湾する。底部は篦削り、口縁部横撫で、体部は撫でを施す。	
198－3	土師器 坏	覆土内 破片	口　(11.0) 底　— 高　(3.3)	黒色鉱物粒多 白色細粒少	酸化焔 硬質	にぶい赤褐	底部は平底気味の丸底で、体部にわずかに張りを有し、口縁部は短く内湾する。底部は篦削り、口縁部横撫で、体部は撫でを施す。	
198－4 161	須恵器 坏	覆土内 ほぼ完形	口　10.6 底　— 高　4.0	細砂粒少 黒色粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部は直線的に外傾し、底部は丸底を呈する。底部は回転篦削りが施されている。	
198－5 161	須恵器 坏	覆土内 天残存	口　— 底　(7.0) 高　(4.3)	砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転？)。体部は直線的に外傾し、底部は浅い丸底状を呈する。体部内外面には弱い轆轤痕を残し、底部は一方向の篦削りを施す。	底部にスラグ状付着物有
198－6	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(10.2) 底　— 高　(2.1)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(？)。受け部はやや反り気味で、口縁部は「く」字状に強く内傾する。	
198－7	須恵器 坏	覆土内 破片	口　— 底　(7.8) 高　(1.6)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
198－8	須恵器 甑	覆土内 破片	口　— 底　— 高　(2.3)	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	胴部に沈線状の凹を1帯巡らし、それにかかるように径約1.5cmの穿孔がある。	外面に厚く自然釉
198－9	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.3
198－10	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少 褐色細粒微	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き後カキ目、内面青海波文。	厚　0.8
198－11	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 褐色細粒少	還元焔 やや硬質	灰黄褐	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.0
198－12	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少 褐色細粒微	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き後カキ目、内面青海波文。	厚　0.9
198－13 161	石製品 臼　玉	覆土内 天残存	径　(1.3) 厚　0.5 孔　—	滑石			穿孔は一方向。	重　0.4
198－14 161	石　器 敲磨み石	覆土内 完形	長　11.3 幅　4.5 厚　3.2	頁岩			使用痕不明。	重 257.3

第83号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
200－1	須恵器 高　坏	覆土内 破片	口　(14.0) 底　— 高　(1.5)	白色粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。脚端部で、先端部がわずかに下方に屈曲し、基部に1帯の微隆帯を巡らす。	
200－2	須恵器 壺	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面叩きは自然釉のため不明。内面青海波文。	厚　1.1

第258号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
200－3 161	土師器 坏	7cm 完形	口　12.0 底　7.5 高　3.4	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は平底で、体部下半で屈曲し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は箆削り、体部には指頭痕が認められる。	
200－4	須恵器 埦	覆土内 破片	口　— 底　(10.0) 高　(2.2)	黒色細粒多 白色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。高台は底部撫で調整後の付高台。	
200－5 161	須恵器 埦	2cm 3/4残存	口　(15.0) 底　— 高　(5.0)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	還元焔 軟質	灰黄	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部の外反もわずかである。高台は接合部から剥離しているが、底部回転糸切り後の付高台である。	
200－6 161	須恵器 埦	8cm 3/4残存	口　(14.8) 底　(9.0) 高　(5.3)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。高台は三角高台で、底部回転糸切り後の付高台。	
200－7 161	土師質 黒色土器 鉢(片口)	覆土内 3/4残存	口　(23.4) 底　(10.2) 高　(11.0)	細砂粒多 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	轆轤整形。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は外反する。片口部は整形後に外方に押し出して形成している。内面は横位篦磨き後黒色処理を施す。	
200－8 161	鉄　器 金具?	カマド内 —	長　(4.1) 幅　(1.9) 重　4.7				一端は欠損。残存部に1ヶ所円形の穿孔があり、その部分で曲がっている。薄い作りで、新しいものかもしれない。	
201－9	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚　2.3	白色粒多 褐色粒微	還元焔 硬質	灰	一枚作り。凹面に粘土板糸切り痕を明瞭に残す。凸面全体撫でを施す。	
201－10	瓦 男　瓦	覆土内 3/4残存	厚　1.5	砂粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り。側端部面取り2面。凸面全体に撫でを施す。	
201－11	瓦 男　瓦	2cm 破片	厚　2.6	砂粒多	中性焔 硬質	にぶい 黄橙	一枚作り。凸面全面横位撫でを施す。	
201－12 161	瓦 女　瓦	8cm 破片	厚　2.7	白色粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り。凹面布目粗い撫で、凸面篦描文字「秋□」。	
201－13 161	石　器 敲　石	6cm 完形	長　14.2 幅　6.7 厚　5.5	砂岩			両端部に敲打痕。	重 732.2
201－14 161	石製品 砥　石	3.0cm 3/4残存	長　9.7 幅　6.0 厚　3.9	砂岩			使用方向は前面上下方向、側面に深いきざみが見られる。上半を欠損すると思われるが欠損後の使用が考えられる。	重 732.2

第84号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
203－1 161	土師器 坏	覆土内 破片	口　(14.0) 底　— 高　(4.4)	褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
203－2 161	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口　(13.8) 底　— 高　(4.5)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底気味の平底で、体部中位に弱い稜を有し、口唇部は内側に屈曲する。口縁部の横撫では弱く、体部は1段の横位（右→左）の篦削りを施す。	杯AⅡの模倣
203－3 161	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口　(14.4) 底　— 高　(4.5)	細砂粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部中位に弱い稜を有し、口唇部は内側に屈曲する。口縁部は横撫で、体部は1段の横位（右→左）の篦削り、底部は箆削りを施す。	杯AⅡの模倣
203－4	土師器 坏	覆土内 破片	口　(15.4) 底　— 高　(3.8)	白色細粒微	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部は直線的に外傾し、口縁部がわずかに内湾する。体部外面底部は箆削りと考えられるが器面の磨滅が激しく不明。内面は撫で後斜放射状暗文を施す。	
203－5	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(15.0) 横　— 高　(3.3)	白色細粒少 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。口縁部は直線的で、天井部との境に水平に突帯を廻らす。摘は欠損し不明。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
203－6	瓦 女　瓦	破片	厚　1.9	白色細粒少 褐色粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り？凸面米格子（？）叩き。	カマド内 ±0cm
203－7 161	石製品 砥　石	覆土内 写残存	長　10.6 幅　4.8 厚　4.5	硅沢石			下半を欠損し、欠損後も使用側面の使用方向は横方向。	重 261.9

第85号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
205－1 161	灰釉陶器 埦	カマド内 9cm 写残存	口　(15.0) 底　－ 高　(3.5)	猿投系？		オリーブ灰	轆轤成整形？体部の張りは強く外反する。高台は剥離しているが、剥離面にも釉がかかっている。施釉は刷毛掛けと考えられ、外面は体部下端まで、内面は重ね焼きの高台接点まで認められる。	
205－2 162	土師器 坏	覆土内 破片	口　(13.6) 底　－ 高　(4.1)	細砂粒多 褐色粒少	酸化焔 やや軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は短く立ち上がる。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	内外面黒色塗彩
205－3	土師器 坏	覆土内 破片	口　(14.0) 底　－ 高　(2.8)	褐色細粒少	酸化焔 軟質	褐灰	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部はわずかに内傾する。口縁部横撫で、底部は篦削りを施す。	内外面黒色塗彩
205－4	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　－ 摘　－ 高　(1.5)	白色細粒少 砂粒微	還元焔 硬質	暗青灰	轆轤整形(左回転)。天井部外面は2段の回転篦削りを施す。	天井部に篦描き
205－5	土師器 甕	覆土内 破片	口　(15.0) 底　－ 高　(4.5)	砂粒多	酸化焔 硬質	橙	口縁部は「く」字状に外傾し、胴部に張りを有する。胴部外面は、斜位の刷毛、内面は横位の刷毛を施す。	
205－6 162	石　器 敲　石	カマド内 4cm 完形	長　13.5 幅　6.3 厚　4.3	粗粒安山岩			端部に敲打痕。	重 491.2
205－7 162	石　器 敲　石	カマド内 6cm 完形	長　16.0 幅　6.4 厚　4.4	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 764.5
205－8 162	石　器 敲　石	カマド内 13cm 完形	長　17.1 幅　6.7 厚　4.9	ひん岩			使用痕不明。	重1087.7

第86号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
206－1 162	土師器 坏	6cm 写残存	口　(13.0) 底　－ 高　(4.1)	砂粒少 黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直立する。口縁部横撫で後、底部に篦削りを施す。	内外面黒色塗彩の可能性有
206－2 162	土師器 小型壺	21cm 破片	口　(13.6) 底　－ 高　(11.3)	砂粒少 白色細粒多	酸化焔 硬質	橙	胴部中位に張りを有し、口縁部はわずかに外傾する。口縁部は横撫で、胴部外面は斜位、内面横位の刷毛後撫でを施している。内面に接合痕を明瞭に残している。	
206－3 162	石　器 置編み石	26cm 完形	長　15.5 幅　7.1 厚　5.3	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 863.0
206－4 162	石　器 置編み石	±0cm 完形	長　14.9 幅　5.7 厚　5.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 861.0
206－5 162	石　器 置編み石	±0cm 完形	長　15.5 幅　7.1 厚　5.7	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 933.0
206－6 162	石　器 敲　石	2cm 完形	長　15.8 幅　6.5 厚　5.1	粗粒安山岩			側面に使用に伴う剥離が認められる。	重 893.0

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
206－7 162	石　器 薦編み石	3cm 完形	長　16.8 幅　6.5 厚　5.2	流紋岩			使用痕不明。	重 951.0
206－8 162	石　器 薦編み石	9cm 完形	長　15.7 幅　7.7 厚　5.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 995.0

第87号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
208－1 162	土師器 坏	2cm 完形	口　11.7 底　— 高　3.8	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で、底部篦削り、内面撫でを施す。	
208－2 162	土師器 坏	覆土内 与残存	口　(13.0) 底　— 高　(3.4)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は短く外傾する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
208－3	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(3.7)	褐色細粒少 細砂粒微	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
208－4	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(3.7)	褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は中位に稜を有し外傾する。口縁部は横撫でを施す。	
208－5 162	須恵器 坏	14cm ほぼ完形	口　(11.0) 底　— 高　(3.2)	細砂粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は平底状で、口縁部は内傾し、受け部は短くやや上方を向く。底部は篦削りを施すことによって平底状に変形したものと考えられ、内外面共に粗い撫でが施されている。	
208－6	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少	還元焔 硬質	暗青灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　0.6
208－7	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	黒色細粒少 白色細粒微	還元焔 硬質	青灰	紐作り叩き整形。外面格子叩き、内面青海波文。	厚　0.5
208－8	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.5
208－9	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	黒色粒多 細砂粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.2
208－10	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒多 砂粒少	還元焔 硬質	暗青灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.2
208－11 162	鉄　器 刀　子	覆土内 与残存	長　(9.3) 幅　(2.1) 重　16.2				茎の一部と先端部を欠損する。柄装着部には断面楕円形状の金具が取り付けられている。刃部は中央部付近に使用に伴う減りがみられる。	
208－12 162	石　器 台　石	15cm 一部欠損	長　33.2 幅　23.3 厚　8.6	石英閃緑岩			器面の剥離が激しく、1面に敲打痕。	重9800.0
208－13 162	石製品 砥　石	覆土内 与残存	長　(8.5) 幅　4.9 厚　1.4	頁岩			両端部が欠損。1面は上下方向、2面は斜方向の使用痕がみられる。	重 110.8

第88号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
209－1 163	土師器 坏	覆土内 与残存	口　(12.0) 底　— 高　(4.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 やや硬 質	灰白	底部は扁平な丸底で、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で後底部に篦削りを施す。	

第89号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
210－1 163	土師器 坏	－3cm 3/4残存	口 (11.0) 底 － 高 (3.9)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部横撫で後、底部に箆削りを施す。	
210－2 163	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口 (12.6) 底 － 高 (4.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
210－3 163	土師器 坏	6cm 3/4残存	口 (15.0) 底 － 高 (4.4)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
210－4	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) 底 － 高 (8.0)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色粒多	酸化焔 硬質	黄橙	口縁部は「く」字状に外反し、胴部上半に強い張りを有する。口縁部横撫で後胴部上半横位（右→左）の箆削り、内面は横位の箆撫でを施す。	

第90号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
213－1 163	土師器 坏	24cm 3/4残存	口 (11.4) 底 － 高 (3.8)	褐色細粒少 細砂粒微	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は強く外反する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
213－2 163	土師器 坏	8cm 3/4残存	口 11.6 底 － 高 3.6	褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
213－3 163	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口 (11.0) 底 － 高 (3.6)	細砂粒少 黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は反り気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
213－4	土師器 坏	覆土内 破片	口 (10.0) 底 － 高 (3.0)	黒色鉱物粒少 白色細粒少	酸化焔 硬質	にぶい 褐	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は直立する。口唇部内面に1帯の沈線状の凹が認められる。口縁部横撫で、底部は箆削りを施す。	内外面に黒色塗彩
213－5 163	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口 (11.0) 底 － 高 (3.6)	細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
213－6	土師器 坏	カマド内 破片	口 (10.0) 底 － 高 (3.9)	細砂粒多 褐色細粒多	酸化焔 硬質	灰褐	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は直立する。口唇部内面に弱い沈線状の凹を1帯廻らす。口縁部横撫で、底部は箆削りを施す。	
213－7 163	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口 (10.6) 底 － 高 (3.5)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部箆削り、内面撫でを施す。	
213－8	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口 (11.0) 底 － 高 (3.6)	細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境で屈曲し、口縁部は外反する。口縁部中位に沈線状の凹を1帯廻らす。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
214－9	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口 (10.4) 底 － 高 (4.1)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
214－10 163	土師器 坏	カマド内 3/4残存	口 (11.6) 底 － 高 (3.7)	褐色細粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
214－11 163	土師器 坏	4cm 3/4残存	口 12.2 底 － 高 4.4	褐色粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
214－12 163	土師器 坏	7cm 完形	口 11.6 底 － 高 3.8	細砂粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
214－13 163	土師器 坏	28cm 3/4残存	口　(12.0) 底　— 高　(4.1)	細砂粒少 黒色鉱物微 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
214－14 163	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口　(12.0) 底　— 高　(4.3)	褐色細粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い段を有し口縁部は弱く外傾する。口縁部横撫で、底部は篦削りを施す。	
214－15 163	土師器 坏	7cm 3/4残存	口　(12.4) 底　— 高　(4.5)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部篦削り内面は丁寧な撫でを施す。	
214－16 163	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口　(12.0) 底　— 高　4.0	褐色細粒少 細砂粒微	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は内湾気味に外傾する。口縁部横撫で、底部は篦削りを施す。	
214－17 163	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口　(12.0) 底　— 高　(4.5)	細砂粒少	酸化焔 やや硬 質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は弱く外反する。口縁部は横撫で、底部は一方向の篦削りを施す。	
214－18 163	土師器 坏	16cm ほぼ完形	口　12.0 底　— 高　4.4	褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部はわずかに外傾する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
214－19 163	土師器 坏	28cm 3/4残存	口　(11.6) 底　— 高　3.9	細砂粒少 黒色鉱物粒少 褐色細粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部外面中位に稜が認められる。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
214－20 163	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口　(12.0) 底　— 高　(4.3)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部はわずかに外反する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
214－21 163	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口　(14.0) 底　— 高　(3.8)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有する。口縁部は中位に稜を有し、直線的に外傾する。口唇部内面に弱い稜が認められる。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	内外面に黒色塗彩
214－22 163	土師器 坏	13cm 3/4残存	口　(11.0) 底　— 高　(4.5)	細砂粒微	酸化焔 軟質	橙	半球形の器形で、口縁部は短く直立し、内面に弱い稜を有する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	杯C II d 模倣？
214－23 163	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口　(13.4) 底　— 高　(3.8)	褐色細粒多 黒色鉱物粒微	酸化焔 やや硬 質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。外面は全面篦削りで、口縁部に横撫では施さない。内面は丁寧な撫でを施す。	
214－24 163	土師器 坏	覆土内 破片	口　(20.0) 底　— 高　(5.9)	褐色細粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は弱く外傾する。底部は篦削り、口縁部は横撫でを施す。	
214－25 163	土師器 坏	覆土内 破片	口　(10.0) 底　— 高　(4.3)	白色細粒微 褐色細粒微	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
214－26 163	土師器 坏	カマド内 3/4残存	口　(17.0) 底　— 高　(6.0)	黒色鉱物粒微 褐色細粒多 細砂粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に段を有し口縁部は外傾し、上端で外面肥厚する。口縁部横撫で、底部篦削りを施す。	
214－27 163	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口　(17.4) 底　— 高　(7.6)	細砂粒少 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 軟質	にぶい 橙	底部は丸底であるが、中央部に平坦面を有する。口縁部と底部の境の段は強く、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は横位篦削りを施す。	内外面にカーボン付着
214－28 164	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口　(18.4) 底　— 高　(6.9)	砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。内面は丁寧な撫でを。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
214—29 164	土師器 坏	43cm ¼残存	口 (17.0) 底 — 高 (8.4)	細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に稜を有し口縁部は直線的に内傾する。口縁部横撫で後底部上端横位 それ以下一方向の箆削りを施す。内面は丁寧な撫で。	
214—30	土師器 破片	覆土内 破片	口 (22.0) 底 — 高 (8.0)	細砂粒微	酸化焔 軟質	にぶい 橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に段を有し口縁部は外傾する。口縁部は横撫でを施す。	
214—31 164	土師器 鉢	16cm ¾残存	口 (24.0) 底 — 高 (9.7)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部は内湾し、底部には平坦な部分がわずかにみられる。内面は丁寧な撫で後、口縁部に横撫でを施し、さらに外面に横位の箆削りを施す。底面は一方向箆削り。	
214—32 164	須恵器 坏	覆土内 ¾残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.3)	細砂粒少 白色細粒少	還元焔 やや硬 質	灰白	轆轤整形(右回転?)。底部はやや扁平な丸底で、口縁部は内傾し受け部は短く上面が水平となる。内面は轆轤痕を残し、底部は全面に撫でが施されている。	
214—33 164	須恵器 蓋	覆土内 ¾残存	口 (11.0) 摘 — 高 (3.1)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部は丸底状で、口縁部との境に1本の沈線を巡らし、口縁部は直線的に開いている。内面の轆轤痕は明瞭で天井部外面に回転箆削りを施す。	
215—34 164	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (12.0) 摘 — 高 (4.1)	細砂粒少 黒色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(?)。口縁部はやや外反気味で、天井部との境には2段の屈曲を有する。天井部は一方向の手持ち箆削りを施す。	
215—35 164	須恵器 蓋	覆土内 ¾残存	口 (13.0) 摘 — 高 (4.4)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。平坦形の小の器形で、天井部に回転箆削りを施す。	
215—36	土師器 高坏	覆土内 破片	口 (18.0) 底 — 高 (4.9)	褐色細粒少	酸化焔 やや硬 質	にぶい 橙	体部は丸底状で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は強く外反し、上端部でわずかに屈曲する。口縁部外面は無で後に荒先で弱い磨きが入っている。	
215—37	土師器 高坏	覆土内 破片	口 — 底 (10.0) 高 (5.4)	砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや軟 質	にぶい 橙	脚部中位にわずかに張りを有し、下半は水平方向に強く開く。外面縦位の箆撫で、内面斜位の撫で、脚部下半は横撫でを施す。	
215—38	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (16.2) 底 — 高 (5.7)	褐色細粒少	酸化焔 軟質	にぶい 橙	胴部中位に張りを有し、口縁部は直立し上端で外面に折れ曲がった様な状態を呈する。口縁部は横撫で、胴部は横箆削りを施す。	
215—39	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (12.2) 底 — 高 (6.0)	褐色細粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	胴部に強い張りを有し、口縁部は反り気味に直立する。口縁部は横撫で、胴部は横位（左→右）の箆削りを施す。	
215—40	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (3.5)	砂粒多 白色粒少	酸化焔 硬質	赤褐	胴部に強い張りを有し、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部横撫で後、胴部に縦位(下→上) の箆削りを施す。	第215図—41と同一個体？
215—41	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (5.0)	砂粒多 白色粒少	酸化焔 硬質	にぶい 褐	胴部に強い張りを有し、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部横撫で後、胴部に縦位(下→上) の箆削りを施す。	第215図—40と同一個体？
215—42 164	土師器 小型甕	32cm ¾残存	口 (16.0) 底 — 高 (11.1)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	胴部中位に強い張りを有し、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部を強い横撫で後胴部に外面斜位（右→左）の箆削りを施す。内面は横位撫でで。	
215—43	土師器 壺	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (11.8)	黒色鉱物粒多 白色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部はやや内湾気味に立ち上がり、肩に張りはまったくみられず、胴部中位に最大径を有する。口縁部横撫で、胴部は縦位(下→上)の箆削りを施す。	
215—44 164	土師器 台付甕	2～8cm ¾残存	口 — 底 (12.8) 高 (9.4)	片岩小礫多 黒色鉱物粒少 細砂多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	胴部中位に張りを有し、脚は「ハ」字状に強く開く。胴部は斜位（下→上）の箆削り、脚部は横撫でを施す。	
215—45	土師器 台付甕	覆土内 破片	口 — 底 (9.0) 高 (5.8)	砂粒多 白色細粒多	酸化焔 硬質	灰褐	脚部下端は水平方向に強く開く。胴部内面撫で後、脚部下半に横撫でを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
215－46	土師器 甕	覆土内 破片	口　(20.0) 底　－ 高　(7.5)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	胴部に強い張りを有し、口縁部は強く外反する。胴部外面斜位（左→右）の篦削り、内面斜位篦撫で後口縁部に横撫でを施す。	
215－47	土師器 甕	覆土内 破片	口　(22.0) 底　－ 高　(9.4)	砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	胴部中位に張りを有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後、胴部に斜位（下→上）の篦削り、内面に撫でを施す。	
215－48	土師器 甕	覆土内 破片	口　(22.0) 底　－ 高　(9.4)	黒色鉱物粒多 砂粒多	酸化焔 やや軟質	にぶい 橙	胴部に張りはなく、口縁部は外反する。口縁部横撫で後胴部に縦位（下→上）の篦削りを施す。口縁部の器肉が特に厚い。	
215－49	土師器 甕	覆土内 破片	口　(19.0) 底　－ 高　(7.0)	砂粒少 褐色細粒少	酸化焔 軟質	にぶい 橙	胴部中位に強い張りを有し、口縁部は強く外反し、上端で短く直立する。口縁部横撫で後胴部に斜位（下→上）の篦削り、内面に篦撫でを施す。	
215－50	土師器 甕	覆土内 破片	口　(24.0) 底　－ 高　(7.0)	小礫少 砂粒多 褐色粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	肩に張りはなく、口縁部は強く外反する。口縁部横撫で後胴部に縦位の撫でを施す。	
215－51	土師器 甕	覆土内 破片	口　(20.0) 底　－ 高　(6.2)	砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	口縁部は「C」字状に外反し、胴部に強い張りを有する。口縁部内面に沈線状の凹が1巡する。口縁部横撫で後胴部に斜位（左→右）の篦削りを施す。	
216－52	須恵器 高　坏？	覆土内 破片	口　(21.2) 底　－ 高　(6.0)	白色細粒多 細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	輪鐘整形（右回転）。体部と口縁部との境に沈線を1本廻らし、口縁部は外傾する。体部下半に回転篦削りを施す。	
216－53	土師器 甕	覆土内 破片	口　(24.0) 底　－ 高　(13.0)	小礫少 砂粒多	酸化焔 硬質	灰褐	口縁部は「く」字状に外傾し、肩部に弱い張りを有する。胴部外面縦位（下→上）篦削りを施す。	
216－54 164	土師器 甕	覆土内 ヲ残存	口　－ 底　(6.0) 高　(14.5)	小礫少 砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 褐	胴部下半で、外面に縦位（下→上）の篦削りを施している。	
216－55 164	土師器 甕	覆土内 ヲ残存	口　－ 底　(7.2) 高　(23.0)	片岩小礫少 砂粒少	酸化焔 硬質	橙	張りの弱い長胴の胴部下半で、外面は斜位（下→上）の篦削りと撫でが、内面は横位撫でが施されている。	内面下半に明瞭な接合痕有
216－56	須恵器 瓶	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白色細粒多 細砂粒少	還元焔 硬質	灰	胴部最大部に平行沈線と擬縄文を施す。	厚　1.1
216－57 164	須恵器 甕	19cm 破片	口　(22.6) 底　－ 高　(6.9)	細砂粒多 黒色鉱物粒微	還元焔 硬質	灰白	紐作り叩き整形。口縁部は「く」字状に強く外反し、上端でわずかに内湾気味に立ち上がる。胴部外面に平行叩き、内面当具不明。頸部に波状文を施す。	
216－58	須恵器 甕	17cm 破片	口　(23.0) 底　－ 高　(10.6)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。胴部の張りは強く、口縁部は外反し上端で短く直立する。この直立部に1本の沈線を巡らし、頸部に波状文を施す。胴部外面は斜格子叩き後カキ目、内面に青海波文が認められる。外面は撫でが施されたものか、叩き目は不明瞭である。	
216－59	須恵器 瓶	覆土内 破片	口　(11.0) 底　－ 高　(7.9)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	輪鐘整形（？）。口縁部はわずかに内湾する。	
216－60	須恵器 瓶	覆土内 破片	口　(8.8) 底　－ 高　(8.3)	細砂粒少 白色鉱物粒少 黒色粒少	還元焔 やや硬質	灰	輪鐘整形（右回転）。頸部は外反し、口縁部はわずかに内湾する。口縁部下半に1本の沈線を巡らす。	
216－61	土師質 埴	15cm 破片	口　12.6 底　－ 高　(3.9)	黒色鉱物粒微 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	輪鐘整形（右回転？）。長脚の高台で「ハ」字状に開いている。	
216－62	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	黒色細粒微 白色細粒微	還元焔 硬質	灰	口縁部は外面肥厚し、下に細かな波状文を施す。	厚　0.6
216－63	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白色細粒微 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	口縁部内外面に段を有し、口唇部は平坦である。外面には沈線と波状文を施す。	厚　0.9

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
216−64 164	須恵器 甕	19cm 破片	口 − 底 − 高 −	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.0
217−65	須恵器 甕	覆土内 破片	口 − 底 − 高 −	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面擬格子叩き、内面青海波文。	厚 1.0
217−66	須恵器 甕	覆土内 破片	口 − 底 − 高 −	白色細粒多	還元焔 硬質	赤灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。内面に厚く自然釉が認められることから底部付近と考えられる。	厚 1.2
217−67	須恵器 甕	覆土内 破片	口 − 底 − 高 −	白色細粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.1 外面に自然釉
218−68	須恵器 甕	覆土内 破片	口 − 底 − 高 −	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.7
218−69	須恵器 甕	覆土内 破片	口 − 底 − 高 −	白色細粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.8
218−70	須恵器 甕	覆土内 破片	口 − 底 − 高 −	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は平行叩きと思われるが、自然釉が厚く不明。内面青海波文。	厚 0.6
218−71	須恵器 甕	15cm 破片	口 − 底 − 高 −	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面素文で撫でを施している。	厚 1.1
218−72	須恵器 甕	覆土内 破片	口 − 底 − 高 −	白色細粒多 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は平行叩きと思われるが不明瞭。弱いカキ目を施す。内面素文。	厚 0.7
219−73	須恵器 甕	覆土内 破片	口 − 底 − 高 −	細砂粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.0 内面カーボン付着
219−74	須恵器 甕	覆土内 破片	口 − 底 − 高 −	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は平行叩き後カキ目、内面青海波文。	厚 0.8
219−75	須恵器 甕	覆土内 破片	口 − 底 − 高 −	白色細粒微	還元焔 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.9
219−76	須恵器 甕	覆土内 破片	口 − 底 − 高 −	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.8
219−77	須恵器 横瓶	覆土内 破片	口 − 底 − 高 −	細砂粒多 砂粒微	還元焔 硬質	灰	外面全面にカキ目、内面に明瞭な接合痕がみられる。	厚 0.9
219−78 164	石製品 白玉	覆土内 完形	長 1.3 厚 0.7 孔 0.3	滑石			穿孔は一方向。	重 1.7
219−79 164	石器 敲石	覆土内 完形	長 10.6 幅 7.2 厚 4.6	粗粒安山岩			端部にわずかに敲打痕。	重 605.9
219−80 164	石器 磨編み石	覆土内 完形	長 10.6 幅 5.0 厚 4.1	粗粒安山岩			器面の剥離が激しい。	重 267.2
219−81 164	石器 敲石	22cm 与残存	長 13.6 幅 5.7 厚 3.6	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 293.0
219−82 164	石器 敲石	10cm 与残存	長 7.5 幅 7.8 厚 2.8	粗粒安山岩			端部に磨滅した剥離がみられ側面に敲打痕。	重 270.5

第91号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
220－1 165	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口 (11.6) 底 — 高 (3.4)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
220－2 165	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.8) 底 — 高 (5.1)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 やや硬質	にぶい橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は内傾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	内外面に黒色墨彩か?
220－3	土師器 甕	18cm 破片	口 — 底 — 高 (6.7)	砂粒多 白・黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	灰黄	底部はやや丸底気味の平底で、一方に黒斑が認められる。	
220－4 164	石器 不明	5cm 完形	長 16.5 幅 15.5 厚 4.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重1589.6
220－5 165	石器 敲石	±0cm 3/4残存	長 11.6 幅 17.0 厚 5.4	ひん岩			剥離が一面みられる。	重1515.7
220－6 165	石器 敷編み石	7cm 完形	長 12.3 幅 5.3 厚 3.6	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 380.7
221－7 165	石器 敲石	覆土内 完形	長 17.2 幅 6.3 厚 4.1	砂岩			側面に一ヶ所磨滅した剥離がみられる。	重 683.6
221－8 165	石器 敲石	±0cm 完形	長 13.5 幅 7.0 厚 3.5	粗粒安山岩			端部から側面にかけて敲打痕。	重 564.0

第92号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
222－1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.7)	褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は外傾する。口縁部に横撫でを施す。	
222－2	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 砂粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は平行叩き、内面は青海波文。	厚 1.3
222－3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	黒色粒少 砂粒微	還元焔 硬質	灰	模巻作り。模骨痕と粘土板切り痕を残し、凸面は縄叩き。側端部の面取りは3面。	

第93号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
224－1	土師器 坏	貯蔵穴 破片	口 (11.0) 底 (6.0) 高 (3.0)	黒色鉱物粒多 白色鉱物粒微	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部下端にわずかに張りを有し、口縁部は外傾する。底部は箆削り、口縁部は横撫でを施す。	
224－2 165	須恵器 坏	－3cm ほぼ完形	口 13.8 底 7.8 高 3.8	黒色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
224－3 165	須恵器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 12.8 底 7.9 高 3.2	白・黒色細粒多 砂粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は外反しない。底部は回転糸切り無調整。	
224－4	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.4) 底 (8.0) 高 (2.7)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部中位に弱い張りを有する。	
225－5 165	須恵器 坏	11cm 3/4残存	口 (13.0) 底 (8.6) 高 (3.2)	砂粒微	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部下半に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	

神国番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
225－6	須恵器 坏	9cm 破片	口 (13.0) 底 (8.0) 高 (3.1)	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部下半にわずかに張りを有し、口縁部は弱く外反する。	
225－7 165	須恵器 坏	8cm 与残存	口 (13.4) 底 (7.4) 高 (3.2)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
225－8	須恵器 坏	掘り方腰 土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.8)	黒色細粒少 白色細粒微	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部の丸味は強く、口縁部は外反する。底部は回転篦削り。	
225－9 165	須恵器 壺	6cm 与残存	口 (11.6) 底 (7.4) 高 (4.8)	砂粒微	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾する。高台は三角高台で底部回転糸切り後に付高台。	
225－10	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (2.9)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は、底部回転篦削り後の付高台。	
225－11	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (4.2)	砂粒少 黒色粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は角高台状で、底部回転糸切り後の付高台。	
225－12	須恵器 壺	－3cm 破片	口 — 底 (7.6) 高 (2.3)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。底部の糸切り痕は、高台貼付に伴い撫で消されている。	
225－13	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (14.0) 高 (2.6)	黒色細粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は、底部回転篦削り後の付高台。	
225－14	須恵器 壺	9cm 破片	口 (18.0) 底 — 高 (6.3)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部の丸味は強く口縁部はわずかに外反する。	
225－15	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (14.0) 摘 — 高 (2.0)	白色細粒少 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は比較的扁平で内面のかえりは短い。天井部外面に回転篦削りを施す。	
225－16 165	須恵器 蓋	7cm 与残存	口 (16.0) 摘 (3.8) 高 (3.7)	砂粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部にわずかに張りを有し、口縁部はやや反り気味で、口唇部が内側に続く罰痕を有する。摘は天井部回転篦削り後の貼付である。	
225－17	須恵器 高坏	覆土内 脚部破片	口 (13.6) 底 — 高 (3.2)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形。脚部は強く開き、先端で屈曲する。	
225－18	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (24.0) 底 — 高 (4.5)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形。口縁部は強く外反し、上端で屈曲する。口縁部に波状文を有する。	
225－19	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 黒色粒微	還元焔 硬質	灰	紐作り 轆轤整形。口縁部は強く外反し、上端に段を有す。頸部と口縁部上端に波状文を有する。	厚 0.7 内外面に自然釉
225－20	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒少 褐色細粒少	還元焔 やや硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面撫で、内面素文。	厚 0.7
225－21	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.8)	褐色細粒微	酸化焔 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境で屈曲し、口縁部は弱く外反する。底部は篦削り、口縁部は横撫でを施す。	
225－22	土師器 坏	覆土内 破片	口 (17.0) 底 — 高 (3.3)	白色細粒少 褐色細粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は外傾する。底部は篦削り、口縁部は横撫でを施す。	
225－23	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (3.5)	褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。底部は篦削り、口縁部は横撫でを施す。	
225－24	須恵器 高坏	4cm 破片	口 — 底 — 高 (6.4)	砂粒少 白色鉱物粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形（右回転）。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 重目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
226−25	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少	還元焔 硬質	褐灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き後、カキ目。内面は青海波文。	厚　0.9
226−26	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	砂粒少	還元焔 硬質	黄灰	紐作り叩き整形。外面は擬格子状叩き。内面は青海波文。	厚　0.7
226−27	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒微	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き後、カキ目。内面は青海波文。	厚　0.6
226−28	灰釉陶器 不　明	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	美濃系			轆轤整形。底部は平底で、底部は短く直立する。	厚　0.4 内外面に釉付着
226−29 165	鉄　器 釘	覆土内 破片	長　(3.0) 幅　(0.5) 重　3.0				先端部破片で、曲がっている。断面方形。	
226−30 166	石　器 敲　石	8cm 完形	長　10.8 幅　10.9 厚　5.5	粗粒安山岩			縁辺に敲打痕が激しい。	重1091.3
226−31 165	石　器 敲　石	覆土内 完形	長　18.6 幅　5.7 厚　4.0	粗粒安山岩			両端部と側面に強い敲打痕。熱を受けた器面の剥離がみられる。	重 650.3 カーボン付着
226−32 166	石　器 敲　石	7cm 完形	長　13.3 幅　5.8 厚　5.0	砂岩			使用痕不明。	重 627.5
226−33 166	石　器 敲　石	12cm 欠残存	長　11.6 幅　6.7 厚　4.4	変質安山岩			器面の剥離が激しい。	重 539.0
226−34 166	石　器 敲　石	−6cm 完形	長　7.5 幅　6.4 高　3.7	粗粒安山岩			側面に敲打痕。	重 260.2
227−35 165	石　器 敲　石	6cm 完形	長　21.9 幅　11.1 高　6.5	変質安山岩			端部に熱を受ける。	重2430.0
227−36 165	石　器 敲　石	11cm 完形	長　13.0 幅　9.3 厚　4.3	粗粒安山岩			一側面に剥離が集中する。	重 788.5

第94号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 重目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
229−1 166	土師器 坏	7cm 欠残存	口　11.6 底　8.0 高　3.1	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は平底で、体部中位に屈曲を有し、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は荒削りを施す。	杯AⅡの模倣
229−2 166	土師器 坏	覆土内 欠残存	口　(12.4) 底　— 高　(3.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 やや硬質	にぶい 橙	底部は平底で、体部は外傾し口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は荒削り体部には指頭痕状の押圧が認められる。	
229−3 166	須恵器 坏	2cm 欠残存	口　(14.0) 底　7.6 高　3.1	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く口縁部はわずかに内湾する。底部は回転糸切り無調整。	体部上半に焼歪がみられる
229−4 166	須恵器 坏	10cm 欠残存	口　13.1 底　6.0 高　3.5	白色細粒少 黒色粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰部がやや張り、体部は全体に反り気味である。底部は回転糸切り無調整。	
229−5	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(14.0) 底　(8.0) 高　(3.9)	黒色粒多 白色細粒微	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部下半にわずかに張りを有し、口縁部は弱く外反する。底部は回転糸切り無調整。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
229－6 166	土師質 黒色土器 坏	10cm ½残存	口　14.1 底　— 高　5.2	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焔 やや軟 質	明黄褐	轆轤整形(右回転)。体部の張り比較的強く、口縁部は外反しない。体部外面には轆轤底がみられるが、内面は「こて」当てによるものか全く轆轤底が認められない。底部は荒削り調整が加えられ、中央がわずかに突出する。内面は磨き後黒色処理が施されている。	
229－7 166	須恵器 皿	貯蔵穴11 cm ½残存	口　(14.0) 底　7.6 高　2.9	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて外反する。高台は底部回転糸切り後の付高台。底部回転糸切り痕は高台貼付に伴い撫で消されている。	見込部に重ね焼きの痕跡有
229－8 166	須恵器 埦	貯蔵穴6 cm ½残存	口　— 底　9.0 高　4.5	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部下半に張りはなく高台は三角高台で底部回転糸切り後の付高台である。	
229－9	土師質 埦	覆土内 破片	口　— 底　(6.8) 高　(2.8)	黒色鉱物粒多 細砂粒微	酸化焔 硬質	浅黄橙	轆轤整形(右回転)。体部の丸味が比較的強く、高台は底部回転糸切り後の付高台で、体部側に取り付けられている。	
229－10	須恵器 埦	覆土内 破片	口　— 底　(5.6) 高　(3.7)	白色細粒少 黒色細粒微	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に立ち上がる。高台は角高台で底部回転糸切り後の付高台。	
229－11	土師質 埦	9cm 破片	口　— 底　7.2 高　(3.5)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。高台は、比較的長脚で底部回転糸切り後の付高台。	
229－12 166	須恵器 蓋	±0cm ほぼ完形	口　17.4 — 高　3.2	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部は平坦で、体部はやや反り、口縁部先端はわずかに下方に折れ曲がる。摘は環状摘で、天井部回転糸切り周辺回転荒削り後の貼付。	
229－13 166	土師質 小型壺	貯蔵穴16 cm ½残存	口　(11.0) 底　— 高　(8.8)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	胴部中位に強い張り（最大径）を有し、口縁部は「C」字状に外反する。口縁部横撫で後胴部に斜位（右→左）の荒削りを施す。	
230－14	須恵器 甕	20cm 破片	口　— 底　— 高　(9.0)	砂粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り轆轤整形。外面と口縁部内面に、自然釉。	
230－15	須恵器 甕	15cm 破片	口　— 底　(24.0) 高　(4.7)	白・黒色粒少 砂粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り。	
230－16	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	褐色粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文。内面の粗れが激しい。	厚　1.0 内面わずかにカーボン付着
230－17 166	石器 敲石	覆土内 完形	長　15.2 幅　6.1 厚　3.3	粗粒安山岩			側面にわずかに敲打痕。	重 532.6
230－18 166	石製品 砥石	覆土内 破片	長　5.3 幅　5.4 厚　2.8	砥沢石			原形をとどめていないが割れ口は磨滅している。	重　74.3
230－19 166	石製品 臼玉	覆土内 破片	径　1.2 厚　1.1 孔　0.3	滑石			完形である可能性がある？	重　0.3
230－20 166	鉄器 釘	覆土内 完形	長　(13.3) 幅　(0.8) 重　31.2				断面方形で、端部は潰れたような状態を呈する。	
230－21 166	灰釉陶器 埦	16cm ½残存	口　(15.4) 底　(8.0) 高　(6.3)	美濃系		浅黄	轆轤成整形(右回転)。腰部に強い張りを有し、口縁部は外反しない。高台は底部と腰部に回転荒削り後の付高台。口縁部内面に沈線が1本巡る。施釉は漬け掛け。	
230－22	灰釉陶器 埦	覆土内 破片	口　— 底　(8.8) 高　(3.5)	美濃系？		灰白	轆轤成整形。高台は底部回転荒削整後の付高台。施釉は漬け掛け。	内面に重ね焼きの痕跡
230－23	瓦 女瓦	貯蔵穴60 cm　破片	厚　2.3	砂粒少 黒色鉱物粒少	中性焔 硬質	にぶい 橙	一枚作り。凸面横位撫で、側端部は2面の荒削り。凹面は粘土板糸切り痕有り。	カーボン付着

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
230－24 167	瓦 女　瓦	9 cm 破片	厚　2.4	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	桶巻き作り？凸面縄叩き。凹面布目は一部撫で消されている。模骨痕は不明。	
231－25 167	瓦 男　瓦	±0 cm 与残存	厚　1.4	白色細粒少 黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	桶巻き作り？凹面に布合わせ痕？有り。凸面全面撫で。	

第95号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
232－1 167	土師器 坏	埋り方覆 土内 与残存	口　(12.0) 底　— 高　(4.5)	褐色細粒多	酸化焔 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
232－2	土師器 坏	覆土内 破片	口　(14.4) 底　— 高　(3.7)	白色細粒微 褐色細粒多	酸化焔 やや硬 質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	内面黒色 塗彩
232－3	土師器 坏	覆土内 破片	口　— 底　(6.0) 高　(2.3)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は非常に厚手で手持ち篦削りを施す。	
232－4 167	灰釉陶器 皿	カマド内 －2 cm 与残存	口　(12.8) 底　(6.8) 高　(2.5)	美濃系		灰白	轆轤成整形(右回転)。体部から口縁部にかけて外反する。高台は三日月高台状で底部回転篦削り後の付高台。底部との接点には強く篦が当てられ深い沈線となっている。施釉は漬け掛け。	
232－5	瓦 女　瓦	±0 cm 破片	厚　2.0	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り？凹面に紐作りの痕跡と思われる凹が認められる。凹面は布目は横位に粗く撫で消されている。凸面縄叩き。	
232－6 167	鉄　器 釘	±0 cm 破片	長　(4.4) 幅　0.6 重　5.2				先端部の破片で、2ヶ所で曲っている。	

第96号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
233－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(15.2) 底　— 高　(2.2)	褐色粒少	酸化焔 硬質	明褐	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は短く内傾する。口縁部は、横撫でを施す。	
233－2	土師器 坩	覆土内 破片	口　— 底　— 高　(2.5)	白色細粒少	酸化焔 やや硬 質	にぶい 橙	扁平な球形の胴部を有するものと考えられ、頸部の接合部で剥離している。	
233－3 167	石　器 敲　石	覆土内 完形	長　13.9 幅　8.0 厚　2.8	変質安山岩			両端部に剥離痕。両端部にわずかに敲打痕がみられる。	重 541.3

第97号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
235－1 167	土師器 坏	覆土内 与残存	口　(12.8) 底　— 高　(3.2)	細砂粒少 褐色粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直立する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	内外面黒色塗彩の可能性有
235－2	灰釉陶器 埦	覆土内 破片	口　(18.2) 底　— 高　(6.4)	美濃系		灰白	轆轤成整形。腰部に強い張りを有し、体部は内湾気味。釉の発色は悪く、施釉は漬け掛け。	
235－3	須恵器 甕	カマド内 14cm 破片	口　(23.0) 底　— 高　(4.1)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り轆轤整形。口縁部は強く外反し上端に段を有する。	
235－4	須恵器 甕？	カマド内 11cm 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。器形は不明。端部は口縁部であるかどうか不明。内面青海波文。外面には薄く自然釉。	厚　2.1

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
235－5	瓦 女　瓦	6cm 破片	厚　2.0	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り。布目は端部にも及んでいる。凸面は横撫位縄叩き。	

第98号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
238－1	土師器 坏	±0cm 写残存	口　(11.0) 底　－ 高　(4.0)	褐色粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は弱く外反する。口縁部横撫で、底部は箆削りを施す。	
238－2 167	土師器 坏	10cm 写残存	口　12.8 底　－ 高　3.5	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焔 硬質	におい 橙	底部は丸底で、口縁部はやや内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で底部は箆削りを施す。	
238－3	土師器 坏	覆土内 破片	口　(13.8) 底　－ 高　(3.0)	砂粒少 黒色鉱物粒微 褐色粒少	酸化焔 硬質	橙	体部に丸味を有する。底部は欠損しているが平底と考えられている。口縁部横撫で体部は弱い箆削り、内面撫でを施す。	
238－4	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　－ 高　(3.5)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は上半に弱い撫を有して直線的に外傾する。口縁部横撫で、底部は箆削りを施す。	
238－5	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　－ 高　(3.0)	白色細粒少 黒色鉱物微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は丸底で、受け部は水平で口縁部は比較的長く直立する。底部にも回転箆削りを施す。	
238－6	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　(7.0) 高　(4.6)	褐色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形（右回転）。体部に丸味を有する。	
238－7	須恵器 蓋	6cm 写残存	口　(10.0) 摘　－ 高　(3.0)	白色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から天井部にかけて丸味を有し、内面のかえりは、比較的長く強く内傾する。体部外面から天井部にかけては回転箆削り後撫でを施す。	
238－8	須恵器 高　坏	2cm 写残存	口　－ 底　－ 高　(7.8)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形。体部は丸味が強く、脚部に三方透しを有する。	
238－9	須恵器 甕	±0cm 破片	口　－ 底　－ 高　－	白色粒多	還元焔 硬質	暗青灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。第238図－10と同一個体。	厚　0.5
238－10	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白色細粒多	還元焔 硬質	暗青灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。第238図－9と同一個体。	厚　0.4
239－11	土師器 甕	－11cm 破片	口　(22.0) 底　－ 高　－	砂粒多 白・黒色鉱物 粒多	酸化焔 硬質	明黄褐	口縁部は「く」字状に強く外反し胴部の張りは弱い。口縁部横撫で後胴部に斜位(下→上)箆削りを施す。内面調整は器面の粗れが激しく不明。	
239－12 168	土師器 甕	9cm 写残存	口　(24.4) 底　－ 高　(30.0)	砂粒多 白色鉱物粒多	酸化焔 硬質	におい 黄褐	胴部中位にわずかに張りを有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後胴部に縦位(下→上)の箆削りを施す。	
239－13 167	石製品 紙　石	－7cm 写残存	長　7.9 幅　4.0 厚　4.0	砥沢石			一端を欠損し両端面からの穿孔を意図した痕跡があるが貫通はしていない。置紙からさげ砥への転用か。	重 195.2 穿孔有り
239－14 167	石　器 敲　石	－6cm 完形	長　20.8 幅　18.3 厚　4.5	変質玄武岩			使用痕不明。	重2685.0
239－15 167	石　器 両編み石	11cm 写残存	長　(8.0) 幅　4.9 厚　5.0	黒色頁岩			かけ口に剥離が認められる。	重 242.2
239－16 167	石　器 敲　石	±0cm 完形	長　14.2 幅　6.7 厚　5.9	ひん岩			器面に剥離が認められる。	重 766.2

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
239－17 167	石　器 敲　石	±0cm 完形	長　13.5 幅　7.3 厚　4.3	変質安山岩			両端部と側面にわずかに敲打痕がみられる。	重 723.1
239－18 167	石　器 敲　石	±0cm 一部欠損	長　19.0 幅　(15.1) 厚　3.7	粗粒安山岩			裏面に磨痕と側面に敲打痕。	重1812.2

第100号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
241－1 168	土師器 坏	3cm ヲ残存	口　(10.8) 底　－ 高　(3.3)	砂粒微 黒色鉱物粒微 褐色細粒少	酸化焔 軟質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部はわずかに外傾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
241－2	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　－ 高　(5.7)	褐色細粒少 細砂粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は比較的深い丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直立する。口縁部横撫で、底部は箆削りを施す。	
241－3	土師器 坏	覆土内 破片	口　(14.0) 底　－ 高　(4.8)	褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は弱く外傾する。口縁部横撫で、底部箆削りを施す。	
241－4	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　(3.3)	白色細粒微 黒色粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は扁平な丸底状で口縁部との境に弱い段を有する。天井部外面は回転箆削りを施す。	
241－5 168	須恵器 坏	カマド内 35cm ヲ残存	口　(12.6) 底　7.0 高　(3.3)	黒色粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部に弱い張りを有し口縁部は外反しない。底部は回転糸切り無調整。	
241－6	土師器 高　坏	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　(5.5)	砂粒多 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	脚部は箆削りによる面取りがされている。	
241－7	土師器 小型甕	覆土内 破片	口　(10.0) 底　－ 高　(4.7)	褐色細粒少 砂粒微	酸化焔 硬質	橙	胴部の丸味は強く、口縁部は直立する。口縁部横撫で後胴部は横位（右→左）の箆削りを施す。内面の撫では丁寧。	
241－8 168	土師器 壺	7cm カマド内 26cm ヲ残存	口　(21.0) 底　－ 高　(19.7)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	胴部中位に弱い張りを有し、口縁部は「く」字状に強く外反する。口縁部横撫で後胴部に斜位（下→上）の箆削りを施す。内面は横位の撫で。	
241－9 168	土師器 壺	カマド内 26cm ヲ残存	口　－ 底　(4.0) 高　(13.4)	細砂粒多 白色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	胴部は縦位の箆削りと考えられる。	
241－10	土師器 壺	覆土内 破片	口　(21.0) 底　－ 高　(6.5)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 黄橙	口縁部は「く」字状に外反し、胴部に強い張りを有する。口縁部横撫で後胴部上半に横位(右→左)の箆削り、内面横位の箆撫でを施す。	
241－11	土師器 壺	覆土内 破片	口　(20.0) 底　－ 高　(15.3)	黒色鉱物粒多 白色鉱物粒少 砂粒多	酸化焔 硬質	灰黄	口縁部は「く」字状を呈し、肩に張りはなく胴部中位に強い張りを有する。口縁部横撫で後縦位（下→上）の箆削り、内面斜位の箆撫でを施す。	
242－12	土師器 壺	カマド内 35cm ヲ残存	口　－ 底　(4.0) 高　(18.0)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい 黄橙	長胴の壺の胴部下半で斜位の箆削りが全面にみられ、底部付近に横位箆削りが認められる。	
242－13	須恵器 横　瓶	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白色細粒少 褐色粒少	還元焔 硬質	明青灰	紐作り轆轤整形。外面に放射状の平行叩き後カキ目を施す。	厚　0.6
242－14	須恵器 壺	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	細砂粒少	中性焔 硬質	浅黄	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　0.9
242－15 168	石　器 敲　石	11cm 完形	長　13.0 幅　6.3 厚　4.8	閃緑岩			両端部に剥離面がみられわずかに磨滅する。	重 536.1

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
242—16 168	石器 敲石	カマド内 完形	長 14.9 幅 6.2 厚 4.2	砂岩			使用痕不明。	重 662.2
242—17 168	石器 薦編み石	2cm 完形	長 12.5 幅 6.5 厚 4.5	ひん岩			使用痕不明。	重 506.2

第101号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
244—1	須恵器 坏	覆土内 3/4残存	口 (11.0) 底 — 高 (3.3)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は丸底で受け部はやや反り気味で口縁部は比較的長く「く」字状に内傾する。底部は回転箆削りを施す。	
244—2	須恵器 壺	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (4.6)	褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部は弱く外反する。	
244—3	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 (1.0)	白・黒色細粒 微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形。底部回転箆切り無調整。	
244—4	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (18.0) 摘 — 高 (1.8)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部は緩平で、口縁部は短く屈曲する。天井部外面に回転箆削りを施す。	
244—5	土師器 甕	カマド内 破片	口 (22.0) 底 — 高 (8.2)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	口縁部は「コ」字状に屈曲し、胴部上半に強い張りを有する。胴部上半に横位(右→左)の箆削りを施す。口縁部上端に接合痕を明瞭に残す。	
244—6	土師器 甕	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (6.0)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	口縁部は「コ」字状に屈曲し、胴部上半に張りを有する。胴部上半に横位箆削り、口縁部上半に接合痕を明瞭に残す。	

第102号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
247—1 168	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.2)	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は緩平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
247—2 168	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口 (10.4) 底 — 高 (4.0)	細砂粒散 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
247—3 168	土師器 甕	1床下坑 ±0cm 3/4残存	口 (20.3) 底 — 高 (27.9)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	胴部中位に張りを有し、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部横撫で後胴部に斜位(下→上)の箆削り、内面には撫でを施す。胴部下半内面に接合痕が認められる。	
247—4 168	土師器 甕	覆土内 破片	口 (19.6) 底 — 高 (8.0)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	胴部の張りは弱く、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部横撫で後胴部に斜位(下→上)の箆削りを施す。内面は横撫で。	
247—5	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (22.0) 底 — 高 (5.2)	白色細粒多 細砂粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面叩きは不明、内面は青海波文。	
247—6	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.5
247—7 168	石器 薦編み 石?	1床下坑 7cm 完形	長 14.5 幅 5.3 厚 4.4	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 561.7
248—8 168	石器 敲石	4cm 完形	長 16.4 幅 7.2 厚 6.1	粗粒安山岩			一端に使用に伴うと考えられる剥離が認められる。	重1070.9

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
248－9 168	石　器 敲　石	11cm 完形	長　4.0 幅　5.0 厚　4.5	粗粒安山岩			両端の稜になる部分に敲打痕が集中する。また一端に剥離が認められるが、この縁辺部にも敲打痕がある。	重 400.8
248－10 169	石　器 薦編み 石？	1床下坑 6 cm 完形	長　14.8 幅　6.4 厚　4.3	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 680.4
248－11 169	石　器 敲　石	7 cm 完形	長　14.7 幅　6.3 厚　4.1	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 654.7
248－12 169	石　器 薦編み石	1床下坑 2 cm 完形	長　13.7 幅　6.7 厚　3.9	ひん岩			使用痕不明。	重 532.3
248－13 169	石　器 薦編み石	6 cm 完形	長　13.5 幅　6.7 厚　3.5	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 493.3
248－14 169	石　器 敲　石	6 cm 完形	長　14.6 幅　6.7 厚　4.3	ひん岩			両端部は敲打に伴う小剥離が認められ、また1側面にわずかに敲打痕がみられる。	重 587.0

第103号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
250－1	土師器 坏	12cm 破片	口　(13.0) 底　－ 高　(2.5)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は平底状の丸底で、体部から口縁部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は横撫で、底部は箆削りで間の整形は不明瞭。	
250－2	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　－ 高　(2.8)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は外傾する。口縁部横撫で底部箆削りで間は調整不明瞭。	
250－3 169	須恵器 坏	覆土内 与残存	口　(13.0) 底　(8.0) 高　(3.4)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。底部は回転箆切り無調整。	
250－4	須恵器 埦	覆土内 破片	口　－ 底　(9.3) 高　(4.2)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	体部の張りは弱く、高台は底部回転糸切り後の付高台。	
250－5	須恵器 埦	覆土内 破片	口　－ 底　9.3 高　(2.0)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転箆切り後の付高台。	
250－6	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(16.3) 摘　－ 高　(2.7)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部から天井部はやや扁平で、口縁部は屈曲する。天井部外面に回転箆削りを施す。	
250－7	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　－ 摘　(2.0) 高　(1.8)	白色細粒多 砂粒微	還元焔 硬質	橙	轆轤整形。摘はボタン状で天井部撫で調整後の貼付。	
250－8	土師器 小型甕	覆土内 破片	口　(14.0) 底　－ 高　(5.3)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	胴部上半の張りが強く、口縁部は「く」字状に屈曲する。口縁部横撫で後、胴部上半横位（右→左）の箆削り。内面は横位の箆撫でを施す。	
250－9	須恵器 瓶	覆土内 破片	口　－ 底　(6.0) 高　(2.8)	砂粒微 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は直線的で高台は底部回転糸切り無で調整後の強い撫でによる削り出し高台。	
250－10	須恵器 短頸壺	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　(6.0)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰白	紐作り轆轤整形。胴部上半の張りが強く、底部は丸底と考えられる。胴部下半に回転箆削りを施す。	
250－11 169	須恵器 甕	－3～4 cm 破片	口　(25.0) 底　－ 高　(9.0)	白色細粒少	還元焔 硬質	黄灰	紐作り。口縁部は強く外反し上端に段を有し短く直立する。内外面に自然釉が薄くかかる他、内面に融着物有り。	焼締
250－12	須恵器 甕	6 cm 破片	口　－ 底　－ 高　(7.2)	白色粒少	還元焔 硬質	暗青灰	紐作り叩き整形。肩部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。外面の叩きは不明で内面の当具は車文。	外面のハゼが激しい。

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
251－13 169	鉄器 刀子	覆土内 3/4残存	長 (10.3) 幅 (0.7) 重 0.9				刃部と茎の直接の接点はないが同一個体と考られる。	
251－14 169	鉄器 釘	覆土内 破片	長 (3.4) 幅 (0.6) 重 2.5				断面長方形。	
251－15 169	石器 敲石	覆土内 3/4残存	長 (11.5) 幅 6.2 厚 4.1	溶結凝灰岩			端部に剥離及び両面にわずかな敲打痕が認められる。	重 421.9
251－16 169	石器 台石	覆土内 完形	長 25.6 幅 21.6 厚 8.0	粗粒安山岩			実測表面側面に剥離が認められる他、使用痕は不明。	重6200.0

第104号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
252－1 169	土師器 坏	15cm 3/4残存	口 (11.0) 底 — 高 (3.6)	褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は緩平な丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部はやや内湾気味に外傾する。口縁部横撫で後底部に筆削りを施す。	
252－2 169	土師器 坏	4cm 3/4残存	口 (11.5) 底 — 高 (4.2)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は強く外反する。口縁部横撫で後底部に筆削りを施す。	
252－3 169	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口 (14.1) 底 — 高 (3.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は緩平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、体部底部は筆削りを施す。	
252－4 169	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口 (12.9) 底 — 高 (4.1)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 やや硬 質	にぶい 褐	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直立する。口縁部内面には沈線が1本巡り、口縁部横撫で後底部に筆削りを施す。	内外面黒色塗彩の可能性有
252－5	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (2.3)	細砂粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形。	
252－6	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (2.8)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(左回転?)。底部は丸底で受け部は短く、口縁部は内傾する。底部に回転糸切りを施す。	
252－7	須恵器 蓋	10cm 破片	口 (12.0) 摘 — 高 (3.3)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。天井部は扁平な丸底状で、口縁部はわずかに内湾する。組直部の上下に沈線を巡らす。	
252－8	土師器 高坏	P, 3cm 脚部破片	口 — 底 (15.0) 高 (5.0)	褐色粒多	酸化焔 硬質	橙	裾部が強く開く。外面に縦位（上→下）の筆削りを施す。	
252－9 169	土師質 埴?	2cm 脚部破片	口 — 底 (13.4) 高 (4.0)	黒色鉱物粒多 細砂粒微 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	轆轤整形？長脚な高台の付くの脚部と考えられるもので、「ハ」字状に強く開く。内面には筆削りを施す。	
254－10 169	土師器 壺	覆土内 3/4残存	口 (13.2) 底 — 高 (13.1)	褐色粒少	酸化焔 やや軟 質	橙	球胴状で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は「コ」字状に直立する。口縁部横撫で後胴部上半斜位(上→下)、下半横位(左→右)の筆削りを施す。	
254－11	土師器 甕	19cm 破片	口 (19.0) 底 — 高 (9.5)	黒色鉱物粒多 砂粒多	酸化焔 硬質	灰黄褐	胴部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。口縁部横撫で後、胴部に斜位（下→上）の筆削りを施す。内面は横位撫撫で。	
254－12 169	土師器 小型壺	覆土内 3/4残存	口 (10.6) 底 — 高 (9.4)	黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	胴部は球胴状で、口縁部との境に段を有し、口縁部は反り気味に直立する。口縁部横撫で後胴部に横位（右→左）の筆削りを施す。口縁部にわずかに接合痕有り。	
255－13 170	土師器 甕	20cm 破片	口 (17.5) 底 — 高 (6.1)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焔 硬質	浅黄橙	「コ」字状を呈する口縁部で、作りは比較的雑である。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
255－14 170	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (13.8) 底 － 高 (7.3)	白・黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい黄橙	胴部上半に最大径を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後、胴部に斜位（下→上）の箆削りを施す。内面は撫で。	
255－15 170	土師器 台付甕	覆土内 与残存	口 － 底 － 高 (10.7)	白・黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい橙	胴部下半のみの残存。胴部外面には縦位の箆削りを施している。	
255－16	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 － 摘 － 高 －	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	外面に沈線と擬縄文状押圧を施す。	厚 0.7
255－17	須恵器 甕	覆土内 破片	口 － 底 － 高 －	白色細粒少 褐色粒少	還元焔 硬質	にぶい褐	紐作り叩き整形。外面格子叩き後横位の撫で内面青海波文。	厚 0.9
255－18 170	鉄器 刀子	覆土内 破片	長 (3.8) 幅 (1.8) 重 7.0				刃部中央部と考えられる。身の巾が比較的広く、大形の刀子である。	
255－19 170	鉄器 不明	5cm 破片	長 (4.5) 幅 (1.6) 重 6.8				一端は環状になり中心に孔がある。この環状部分に接合部が認められないため、折り曲げて環状にしたものでないことがわかる。	
255－20 170	石器 敲石	8cm 完形	長 13.9 幅 6.6 厚 5.6	粗粒安山岩			上端にわずかに敲打痕が認められる。	重 721.3

第105号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
257－1 170	土師器 坏	覆土内 大残存	口 (14.7) 底 － 高 (4.5)	砂粒微 褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫後底部に箆削りを施す。	底部外面に黒斑
257－2 170	土師器 坏	9～14cm 与残存	口 (16.4) 底 － 高 (7.3)	黒色鉱物粒微	酸化焔 やや硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に段を有し口縁部は反り気味に直立する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
257－3 170	土師器 坏？	9～12cm 破片	口 (19.3) 底 － 高 (3.5)	細砂粒少 白・黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、非常に狭く？。口縁部は強く外反する。口縁部横撫で、底部は箆削りを施す。	
257－4 170	須恵器 坏	覆土内 与残存	口 (13.0) 底 (8.0) 高 (3.4)	白・黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部の張りはごく弱く口縁部はわずかに外反する。底部は回転箆切り無調整。	
260－5 170	須恵器 坏	17cm 与残存	口 － 底 7.3 高 (3.1)	細砂粒少 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰部に張り強りを有し底部は回転糸切り後周辺及び腰部に回転箆削りを施す。	
260－6	須恵器 坏	覆土内 破片	口 － 底 (8.0) 高 (3.2)	白・黒色粒少 砂粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部下半から底部にかけて、回転箆削りを施す。	
260－7 170	土師器 坦	4cm 与残存	口 (9.6) 底 － 高 (11.8)	細砂粒微 褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	胴部は扁平な球形を呈すると思われ、頸部はやや反り気味で、口縁部がわずかに内湾する。胴部は斜位の箆削りであるが、口縁部は不明。内面は撫で を施す。	頸部内面明瞭な接合痕が認められる
260－8	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (17.0) 底 － 高 (5.7)	細砂粒少	還元焔 やや硬質	灰白	紐作り轆轤整形。口縁部は外反し、上端で短く直立する。口縁部下半には、波状文を施す。	
260－9 170	鉄器 不明	覆土内 一	長 (7.1) 幅 (0.4) 重 10.3				断面長方形で、直角に曲げられている。	
260－10 170	石製品 白玉	覆土内 与残存	径 (1.5) 厚 0.3 孔 －	滑石			与欠損した上に剥離している可能性がある。	重 0.4

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎　土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
260－11	石 製 品 臼　玉 未 製 品	覆土内 一	長　2.3 幅　1.5 厚　0.8	滑石			器形、整形不明。	重　4.1
260－12 170	土 師 器 坏	覆土内 完形	口　11.6 底　— 高　3.9	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	内外面黒色塗彩の可能性有 外面カーボン付着

第264号址

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎　土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
259－1 170	須 恵 器 台 付 皿	11cm ヲ残存	口　(25.4) 底　— 高　(5.2)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。胴部に張りを有し、口縁部は内湾気味に外傾する。高台は底部回転篦削り後の付高台。	内面に火だすきが顕著
259－2 170	土 師 器 坏	6 cm ヲ残存	口　(12.0) 底　— 高　(3.4)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	

第106号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎　土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
263－1 170	土 師 器 坏	カマド内 ヲ残存	口　(12.0) 底　— 高　(3.1)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 やや軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
263－2 170	土 師 器 坏	覆土内 ヲ残存	口　(11.0) 底　— 高　(3.8)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に張り段を有し、口縁部はやや内湾気味に外傾する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
263－3 170	土 師 器 坏	覆土内 破片	口　(13.0) 底　— 高　(4.3)	砂粒微 褐色細粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
263－4 170	土 師 器 小 型 甕	覆土内 破片	口　(11.6) 底　— 高　(6.4)	細砂粒微 褐色粒少	酸化焔 やや軟質	橙	胴部の張りが強く、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は直立する。口縁部横撫で後胴部に横位（右→左）の篦削りを施す。	
263－5	土 師 器 甕	覆土内 破片	口　(16.0) 底　— 高　(7.4)	白・黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい赤橙	胴部上半に張りを有し、口縁部は強く外反する。胴部の外面は、口縁部横撫で後縦位（下→上）の篦削りを施す。	
264－6 171	土 師 器 甕	貯蔵穴 ヲ残存	口　(19.6) 底　— 高　(27.1)	片岩小礫多	酸化焔 硬質	橙	胴部上位に弱い張りを有し、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部横撫で後胴部に縦位（下→上）の篦削り、内面に横位篦撫でを施す。胴部下半内面に接合痕が認められる。	
264－7 171	石　器 敲 編 み 石?	貯蔵穴 ヲ残存	長　15.6 幅　5.5 厚　4.0	粗粒安山岩			側面の使用によるものか、側面を打撃部とし大きな剥離が認められる。	重 500.4
264－8 171	石　器 敲 編 み 石?	42cm 完形	長　12.7 幅　5.8 厚　4.4	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 459.1
264－9 171	石 製 品 臼　玉	38cm 完形	径　1.3 厚　0.6 孔　0.3	滑石			穿孔は一方向で、側面整形は非常に丁寧である。	重　1.6

第107号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎　土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
267－1 171	土 師 質 埴	カマド袖 ヲ力 ほぼ完形	口　12.8 底　6.9 高　4.9	黒色鉱物粒多 白色細粒少 褐色細粒多	酸化焔 軟質	淡黄	轆轤整形(右回転?)。体部上位にわずかに張りを有し、口縁部は弱く外反する。高台は底部撫で調整後の付高台。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
267－2	須恵器 壺	覆土内 破片	口　— 底　(7.6) 高　(2.3)	細砂粒少	中性焔 やや硬 質	灰白	輪轆整形(?)。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。	
267－3 171	灰釉陶器 壺	9 cm 写残存	口　(14.3) 底　6.8 高　(5.7)	美濃系		黄灰	輪轆成整形(?)。腰部に張りを有し、口縁部の外反は弱い。高台は底部回転糸切り後の付高台で底部は高台貼付に伴い撫でが施されている。施釉は漬け掛けで、内面に重ね焼きの痕跡有り。	高台内外面にカーボン付着
267－4	須恵器 羽　釜	± 0 cm 破片	口　(22.0) 底　— 高　(5.7)	細砂粒多 白色砂粒少	還元焔 硬質	灰黄	紐作り輪轆整形。口縁部はわずかに内頻し、口唇部は平坦である。鍔は断面三角形状を呈する。	

第108号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
269－1 171	須恵器 坏	カマド内 写残存	口　(12.0) 底　5.0 高　(4.5)	白・黒色細粒 多	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	いぶし
269－2 171	須恵器 壺	貯蔵穴 －3 cm 写残存	口　13.4 底　6.5 高　5.3	片岩小礫少 細砂粒多	還元焔 硬質	黒	輪轆整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部は外反する。高台は付高台で、底部切り離し技法は撫でのため不明。	いぶし
269－3 171	灰釉陶器 壺	2 cm 写残存	口　(16.0) 底　(7.0) 高　(5.5)	美濃系? 猿投系?		黄灰	輪轆成整形(右回転)。体部から口縁部にかけて全体に張りを有し、口縁部先端が外反する。高台は底部及び腰部回転箆削り後の付高台。施釉は漬け掛け?	
269－4	須恵器 壺	掘り方覆 土内 破片	口　— 底　(16.0) 高　(5.0)	褐色粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	暗赤灰	紐作り輪轆整形。下半に回転箆削りを施し、体部から底部にかけて自然釉がかかり、底部には須恵器片の融着が認められる。	
269－5	瓦 女　瓦	カマド内 ± 0 cm 写残存	厚　2.9	細砂粒多 小礫微 黒色鉱物粒少	還元焔 硬質	にぶい 黄橙	一枚作り?凹面に、粘土板糸切り痕が残り、凸面は全面撫で。側端部の面取り2面。	
269－6	瓦 男　瓦	カマド内 ± 0 cm 写残存	厚　2.5	細砂粒多 白色細粒多	還元焔 硬質	褐灰	一枚作り?凹面に、粘土板糸切り痕と粘土の接合痕が認められる。	カマド内 3 cm
269－7 171	瓦 女　瓦	カマド内 17cm破片	厚　1.7	砂粒多	中性焔 硬質	橙	一枚作り?凹面に、粘土板糸切り痕。凸面は全面撫で を施し、篦描き文字(文字不明)有り。	

第109号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
270－1 171	須恵器 坏	8 cm 写残存	口　(12.8) 底　10.5 高　(3.4)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(?)。体部は直線的に外頻する。底部は回転糸切り後の雑な手持ち箆削りで若干底部が突出する。	
270－2 171	石　器 敲　石	カマド内 2 cm 完形	長　13.1 幅　6.2 厚　4.2	粗粒安山岩			両端部及び1側面に敲打痕が認められる。	重 485.6

第110号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
271－1 171	土師質 壺	貯蔵穴21 cm 写残存	口　(14.5) 底　— 高　(6.3)	黒色鉱物粒少 褐色細粒多 細砂粒少	酸化焔 やや硬 質	にぶい 黄橙	輪轆整形(右回転?)。体部中位に強い張りを有し、口縁部は短く外反する。高台は底部回転糸切り後の付高台で、貼付部から剥離している。	内面カーボン付着
271－2 171	土師質 壺	貯蔵穴22 cm 破片	口　— 底　6.5 高　(2.8)	細砂粒微 黒色鉱物粒少	還元焔 硬質	橙	輪轆整形(右回転)。体部の張りは弱いものと思われる。高台は底部回転糸切り後の付高台で、糸切り痕は高台貼付に伴い撫で消されている。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
271－3 171	灰釉陶器 壺	貯蔵穴12 cm 破片	口　— 底　(11.8) 高　(12.7)	美濃系		黄灰	紐作り輪轆整形(右回転)。弱い張りを有する。胴部で高台は付高台である。内面の輪轆痕は特に顕著で、胴部下半に回転篦削りを施す。	内面カーボン付着
271－4	灰釉陶器 瓶	貯蔵穴14 cm 破片	口　— 底　(8.0) 高　(8.2)	美濃系？		灰	紐作り輪轆整形(右回転)。胴部下半の破片でわずかに丸味を有する。高台は底部及び胴部下半回転篦削り後の付高台。施釉は刷毛によるものか、外面に厚く付着。また、内面にも厚く認められる。	
271－5 女　瓦	瓦	貯蔵穴15 cm　破片	厚　2.4	砂粒多	還元焔 硬質	にぶい 黄橙	一枚作り。凹面に粘土板糸切り痕をわずかに残し、凸面は全面撫でを施す。	
271－6 女　瓦	瓦	貯蔵穴8 cm 破片	厚　1.7	黒・褐色粒多	還元焔 硬質	オリー ブ灰	捕巻き作り？。凹面に、わずかに模骨痕を残し布目は粗く撫で消されている。凸面は縄叩き側端部の面取りは2面。	

第112号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
271－7	須恵器 甕	覆土内 破片	口　(17.7) 底　— 高　(5.0)	細砂粒少 白色砂粒微	還元焔 硬質	灰白	紐作り輪轆整形。口縁部は外反し、上端が短く直立する。	

第113号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
272－1	須恵器 埦	カマド内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(3.5)	白色砂粒微 黒色砂粒少	還元焔 硬質	灰黄	輪轆整形（？）。口縁部はわずかに外反する。	

第114号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
274－1 171	土師器 坏	覆土内 3残存	口　(11.4) 底　— 高　(4.3)	細砂粒少 黒色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は直立する。口縁部内面上端には、沈線3が1本巡る。	内外面黒色塗彩の可能性有
274－2	土師器 坏	覆土内 破片	口　(13.6) 底　— 高　(3.5)	細砂粒微 褐色細粒多	酸化焔 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い段を有し口縁部はわずかに外反する。口縁部は横撫で底部は篦削りと思われる。	
274－3	須恵器 壺	覆土内 破片	口　(16.6) 底　— 高　(2.3)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り輪轆整形。口縁部は強く外反し、上端は短く直立する。	口縁部内面に自然釉
274－4 171	石　器 薦編み 石？	±0cm 3残存	長　(11.4) 幅　6.6 厚　3.6	粗粒安山岩			使用痕は不明で、一端が散断されたような状態である。	重 481.2
274－5 171	石　器 敲　石？	カマド内 完形	長　16.3 幅　5.6 厚　3.5	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 486.8

第116号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
277－1 172	土師質 埦	覆土内 3残存	口　(12.3) 底　(6.7) 高　(4.2)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 軟質	橙	輪轆整形（右回転）。腰部の張りが比較的強く、口縁部はわずかに外反する。高台は底部回転糸切り後の付高台。	内面の粗れが顕著
277－2 172	土師質 埦	覆土内 破片	口　(16.7) 底　— 高　(4.3)	黒色鉱物粒少 褐色粒多 細砂粒少	酸化焔 軟質	橙	輪轆整形（右回転）。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は外反しない。外面には輪轆痕を密に残し、内面にはあまり認められない。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
277－3 172	灰釉陶器 壺	覆土内 写残存	口 (16.1) 底 — 高 (6.1)	英橄系		灰白	轆轤成整形(右回転)。腰部に強い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。口縁部内面に1本の沈線が巡る。高台は底部及び腰部回転箆削り後の付高台。施釉は漬け掛け。	内外面にカーボン付着
277－4	須恵器 甕	11cm 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多	還元焔 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面叩きは不明。内面青海波文。	厚 1.2 外面に自然釉
277－5 172	土師質 土釜	3～22cm カマド内 3～19cm 写残存	口 (29.7) 底 (11.8) 高 (27.3)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 硬質	橙	紐作り。胴部上位に張りを有し、口縁部は短く「C」字状に外反する。口縁部は横撫で、胴部は縦位の撫で、底部にも撫でが施されている。胴部外面には多くの接合痕が認められる。	貯蔵穴16～24cm
277－6 172	須恵器 羽釜	カマド内 31cm 写残存	口 (23.4) 底 — 高 (25.0)	黒色鉱物粒少 細砂粒微	酸化焔 硬質	にぶい 赤褐	紐作り。胴部上半に強い張りを有し、口縁部は内傾する。口唇部は平坦である。鍔の貼付は比較的丁寧である。胴部内外面とも轆轤整形の痕跡は弱く、胴部外面の鍔の下位には斜位の撫で状の削りが施され、内面には横位の撫でが施されている。	
277－7 172	石製品 臼玉	覆土内 完形	径 1.1 厚 0.6 孔 0.2	滑石			やや厚味のあるものであるが、平散されている。穿孔は一方向からである。側面には縦方向の整形痕が明瞭に残っている。	重 0.6
277－8 172	石器 鹿編み石	覆土内 完形	長 14.4 幅 7.9 厚 3.9	変質玄武岩			使用痕不明。	重 643.3
278－9 172	瓦 男瓦	11cm 破片	厚 2.2	砂粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。凹面にカーボン付着。凸面に平行叩きがみられ、箆描きの「井」があり、側端部面取り3面。	
278－10 172	瓦 女瓦	カマド内 8cm 破片	厚 1.8	砂粒少 褐色粒少	還元焔 硬質	にぶい 黄橙	桶巻き作り。凹面に模骨痕と粘土板糸切り痕凸面縄叩き後撫でを施す。側端部の面取りは2面。	
278－11	瓦 女瓦	8cm 破片	厚 2.8	砂粒多	還元焔 硬質	明灰褐	一枚作り。凹面に粘土板糸切り痕を残す。凸面は撫で後箆描き文字（文字不明）。	
278－12	瓦 男瓦	2cm 破片	厚 1.8	細砂粒多	還元焔 硬質	灰褐	一枚作り？。凸面撫で、側端部の面取りは2面。	

第153号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
278－13	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.6) 底 — 高 (2.7)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、体部から口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
278－14	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (6.4) 高 (2.2)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
278－15	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (21.0) 摘 — 高 (2.1)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。比較的扁平な天井部を有する。内面のかえりは反り気味に内傾する。天井部外面に回転箆削りを施す。	
278－16	須恵器 横瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	胴部にカキ目が施されている。	厚 1.2
278－17	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面叩きは撫で消されており不明。内面は青海波文。	厚 1.3
278－18 172	石製品 臼玉	覆土内 完形	径 1.7 厚 0.9 孔 0.2	滑石			外形は磨り切りによったものと考えられ、雑な仕上がりである。穿孔は、一方向からである。	重 3.8
278－19 172	石器 鹿編み石	覆土内 完形	長 13.0 幅 6.1 厚 4.1	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 515.0

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
278—20 172	石器 磨編み石	覆土内 完形	長 13.2 幅 4.0 厚 2.7	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 313.0
278—21 172	石器 磨編み石	覆土内 完形	長 14.0 幅 5.2 厚 3.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 346.0

第117号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
280—1	土師質 黒色土器 椀	カマド内 破片	口 (14.4) 底 — 高 (4.7)	砂粒多	酸化焔 硬質	橙	糸切整形(右回転)。体部下半の張りが強く口縁部はわずかに外反する。内面の磨きは不明で黒色処理。	内外面のへぜが激しい
280—2 173	須恵器 羽釜	カマド内 11～15cm 破片	口 (20.0) 底 — 高 (11.5)	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	紐作り。糸切整形の痕跡は顕著ではない。胴部にわずかに張りを有し、口縁部は弱く内傾する。鍔は断面台形状で雑な貼付である。胴部外面には縦位の撫でが施されたと思われる明瞭でない。	
281—3 173	土師器 坏	覆土内 与残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.2)	黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 やや軟 質	にぶい 赤褐	底部は丸底で、口縁部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は横撫で、底部は荒削りを施す。	
281—4 173	土師器 坏	覆土内 与残存	口 (13.0) 底 — 高 (3.1)	黒色鉱物粒少 褐色細粒少	酸化焔 硬質	にぶい 褐	底部は丸底で、口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。口縁部は横撫で、底部は荒削りを施す。	
281—5 173	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.8) 底 — 高 (3.0)	黒色鉱物粒少 褐色細粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は荒削りを施す。	
281—6 173	土師器 坏	覆土内 破片	口 (17.4) 底 — 高 (4.7)	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で底部及び体部下半には荒削りを施す。	
281—7 173	須恵器 蓋	覆土内 与残存	口 (19.4) 摘 — 高 (3.3)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	糸切整形(右回転)。天井部は平坦で体部はやや反り、口縁部は屈曲する。天井部に回転篦削りを施す。	
281—8 173	須恵器 蓋	覆土内 与残存	口 (15.4) 摘 (5.0) 高 (3.1)	砂粒微 細砂粒少	還元焔 やや硬 質	灰白	糸切整形(右回転)。天井部は平坦で、体部の丸味は弱く摘は環状摘で天井部回転篦削り後の貼付。	
281—9	須恵器 甕	カマド内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は平行叩き後横位撫で内面は青海波文で磨滅が激しい。	厚 1.0 内面カーボン付着
281—10 173	石製品 白玉	カマド内 完形	径 1.7 厚 0.6 孔 0.3	滑石			穿孔は一方向からで、周辺は磨滅している。	重 2.8

第118号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
284—1 173	土師器 坏	8 cm 与残存	口 (11.1) 底 — 高 (3.3)	細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後底部は荒削りを施す。	
284—2 173	土師器 坏	8 cm 与残存	口 (11.0) 底 — 高 (3.3)	細砂粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部が短く直立する。口縁部横撫で後底部に荒削りを施す。	
284—3 173	土師器 坏	カマド内 5 cm 与残存	口 (11.4) 底 — 高 (3.5)	細砂粒少	酸化焔 硬質	明赤褐	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は短く外傾する。口縁部は横撫で後底部には荒削りを施す。	
284—4	土師器 坏	覆土内 与残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.1)	黒色鉱物粒少 白色鉱物粒微 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は短く外反する。口縁部横撫で後に底部荒削りを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
284－5	土師器 坏	覆土内 破片	口　(11.2) 底　－ 高　(2.7)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬 質	黄橙	底部は丸底で、口縁部はやや外傾する。口縁部横撫で後底部に荒削りを施す。	
284－6 173	土師器 坏	2cm 与残存	口　(11.4) 底　－ 高　(3.4)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部横撫で後底部に荒削りを施す。	
284－7	土師器 坏	覆土内 破片	口　(15.0) 底　－ 高　(3.6)	黒色鉱物少 細砂粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部は直立する。口縁部横撫で後底部に荒削りを施す。	
284－8	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(11.0) 摘　－ 高　(2.5)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪鍋整形(左回転)。口縁部はわずかに内湾し、天井部外面に回転荒削りを施す。	
284－9 173	土師器 甕	2cm 与残存	口　(20.8) 底　－ 高　(21.5)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 やや硬 質	浅黄橙	胴部に張りはなく口縁部は外反する。口縁部横撫で後胴部に縦位（下→上）の箆削りを施す。内面は横位の荒撫で。	
285－10 173	土師器 甕	カマド内 9cm貯蔵 穴－3cm ほぼ完形	口　(24.0) 底　(4.6) 高　(46.0)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	胴部に張りはなく、口縁部は外反する。口縁部横撫で後胴部に2段の斜位（下→上）荒削りを施す。内面は斜位の撫で、底部は荒削りを施す。	内面に褐色塗彩？ －4～ －8cm
285－11 173	土師器 甕	－4～ －8cm ほぼ完形	口　(22.0) 底　(4.6) 高　(37.4)	黒色鉱物粒多 細砂粒多 褐色細粒多	酸化焔 硬質	にぶい 黄橙	胴部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。口縁部横撫で後胴部に2段の縦位（上→下）下半に斜位（右→左）の荒削り、内面に横位横撫でを施す。底部は一方向の荒削り。	カマド内 5cm
285－12 173	土師器 甕	4cm 与残存	口　(21.6) 底　－ 高　(25.9)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	胴部上位に張りを有し、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部横撫で後、胴部に斜位（下→上）の荒削りを施す。内面には比較的強い斜位の荒撫でを施しているが接合板が明瞭に認められる。	
285－13 174	石　器 敲　石？	覆土内 完形	長　16.1 幅　8.0 厚　5.2	石英閃緑岩			全体に熟を受けているが、特に一端はもろくハゼている。この部分が使用部位と考えられる。	重1093.1
285－14 174	石　器 敲　石？	－7cm 完形	長　14.2 幅　7.3 厚　4.1	変質玄武岩			使用痕不明。	重 831.6
285－15 174	石　器 敲　石	覆土内 完形	長　11.2 幅　5.3 厚　4.3	粗粒安山岩			両端部及び1側面に敲打痕が認められる他、えぐり（新しいものか？）が数ヶ所みられる。	重 340.3

第119号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
287－1 173	土師器 坏	11cm 完形	口　12.2 底　－ 高　4.6	細砂粒微	酸化焔 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後、底部に荒削りを施す。	
287－2 173	土師器 坏	覆土内 破片	口　(13.0) 底　－ 高　(3.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒少 褐色細粒少	酸化焔 硬質	灰白	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は荒削りを施す。	陶土質？
287－3 174	土師器 坏	11cm 完形	口　12.8 底　－ 高　4.5	細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部横撫で後、底部に荒削りを施す。	
287－4 174	土師器 坏	±0cm 与残存	口　(13.0) 底　－ 高　(4.5)	細砂粒多 白色細粒多	酸化焔 硬質	にぶい 褐	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は弱く外傾する。口縁部横撫で後、底部に荒削りを施す。	
287－5	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.8) 底　－ 高　(3.8)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後、底部荒削りを施す。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
287－6	土師器 ミニチュア土器	覆土内 与残存	口　(6.2) 底　— 高　(4.0)	細砂粒微	酸化焔 やや軟質	にぶい橙	手捏ねと思われるもので、深い丸底と反り気味に直立する口縁部を有する。口縁部は横撫で後底部に篦削りを施す。内面底部周辺には指頭痕が認められる。	
287－7 174	土師器 坏	覆土内 破片	口　(17.6) 底　— 高　(7.6)	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に緩くわずかに段を有し、口縁部は直立する。口縁部横撫で後、底部に篦削りを施す。	
287－8 174	土師器 甕	覆土内 破片	口　(21.8) 底　— 高　(5.7)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	口縁部は外反し、上端がわずかに直立する。口縁部横撫で後胴部外面に縦位擬刷り（下→上）、内面に横位（左→右）篦削りを施す。	
287－9 174	土師器 甕	－2cm 破片	口　(22.4) 底　— 高　(10.2)	片岩小粒多	酸化焔 やや硬質	にぶい黄橙	胴部に張りはなく、口縁部は強く外反する。口縁部は横撫で後胴部外面斜位（下→上）の篦削り内面横位篦撫で施す。	
287－10 174	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　(7.4)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	胴部上半に強い張りを有し、底部は丸底である。頸部は「く」字状に屈曲する。胴部最大部に2本の沈線を巡らし、間に鵜文原体圧痕状の圧痕が施されている。	外面回部及び内面に厚く自然釉
287－11	須恵器 横瓶	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	蛾蛾整形。外面にボタン状貼付。	厚　1.0
287－12	須恵器 甕	－4cm 破片	口　— 底　— 高　—	黒色細粒少 細砂粒少	還元焔 硬質	にぶい橙	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面の青海波文は指先で粗く撫で消されている。	厚　1.0

第121号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
288－1 174	土師器 坏	覆土内 与残存	口　(13.6) 底　— 高　4.6	砂粒少 褐色細粒少	酸化焔 硬質	浅黄橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部はわずかに反り気味に直立する。口縁部横撫で後、底部に篦削りを施す。	
288－2 174	土師器 坏	5cm 与残存	口　(12.0) 底　— 高　(3.7)	細砂粒微	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は弱く外反する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
288－3	土師器 甕	15cm 破片	口　(20.0) 底　— 高　(7.6)	砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい橙	胴部の張りが強く、口縁部は外反する。口縁部横撫で後胴部外面は斜位（下→上）篦削り内面は横位の篦撫でを施す。	
289－4 174	須恵器 高坏	覆土内 破片	口　— 底　(14.6) 高　(10.7)	白色細粒少 褐色細粒多	還元焔 硬質	灰	蛾蛾整形「ハ」字状に強く開く脚部で、先端でわずかに屈曲する。透しは2段の三方透しである。	
289－5 174	須恵器 高坏	覆土内 破片	口　— 底　(14.6) 高　(10.8)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	蛾蛾整形「ハ」字状に強く開く脚部で、先端でわずかに屈曲する。透しは1段の三方である。外面には全体にカキ目が認められる。	
289－6	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	黒色細粒少 褐色粒微	還元焔 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面格子叩き、内面青海波文。	厚　1.3 外面に自然釉

第122号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
290－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　— 底　(8.0) 高　(2.9)	砂粒少 黒色細粒少	酸化焔 硬質	にぶい橙	底部は平底で、体部は直線的に外傾する。底部と体部外面は篦削り、内面は撫で後斜放射状暗文を施す。	暗文
290－2 174	須恵器 坏	－4cm 完形	口　12.0 底　6.6 高　3.6	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	蛾蛾整形(右回転)。体部下半に弱い張りを有し、口縁部はごくわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
290－3	須恵器 瓶	覆土内 破片	口　— 底　(3.5) 高　(2.4)	白色細粒多 砂粒微	還元焔 硬質	灰	蛾蛾整形(右回転)。高台は三角高台で、底部回転篦切り後の付高台。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
290－4	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(15.0) 摘　一 高　(2.5)	黒色細粒少 細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。天井部外面は回転篦削り後、摘貼付。	
290－5	須恵器 不　明	覆土内 破片	口　一 底　一 高　一	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形。外面に把手を貼付。	厚　0.4 外面と口縁部内面に自然釉

第123号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
291－1 174	須恵器 坏	覆土内 写残存	口　(13.0) 底　(8.4) 高　(3.6)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。腰部にわずかに張りを有し、口縁部は直線的に外傾する。底部は回転篦切り無調整。	
291－2 174	土師質 埦	4cm 写残存	口　(12.8) 底　(7.0) 高　(5.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	中性焔 硬質	浅黄	輪轆整形(右回転)。体部の張りは強く口縁部は外反しない。高台は三角高台状で、底部回転糸切り後の付高台である。底部の回転糸切り痕は高台貼付に伴いほとんど撫で消されている。	
291－3 174	鉄　器 不　明	覆土内 破片	長　(5.4) 幅　(0.6) 重　2.7				第291図－4と同一個体の可能性有り。断面楕円形？。釘ではないと思う。	
291－4 174	鉄　器 不　明	不明 破片	長　(4.1) 幅　(0.6) 重　1.8				第291図－3と同一個体の可能性有り。断面楕円形？。釘ではないと思う。	
291－5 174	鉄　器 不　明	覆土内 破片	長　(2.2) 幅　(0.7) 重　1.0				断面楕円形で、第291図－3、－4と比較して厚手。	

第125号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
294－1 174	土師器 坏	覆土内 写残存	口　(13.0) 底　一 高　(5.3)	白色鉱物粒少 細砂粒少 褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後、底部に篦削りを施す。	
294－2 174	土師器 鉢	覆土内 写残存	口　(16.1) 底　(5.8) 高　(8.1)	黒色鉱物粒少 褐色粒多 細砂粒多	酸化焔 やや軟 質	にぶい 橙	底部は平底で、胴部の丸味が強く、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、胴部は横位の篦削り、底部も篦削りを施す。	
294－3 175	土師器 鉢	覆土内 写残存	口　(18.9) 底　一 高　(9.3)	小礫微 細砂粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に段を有し口縁部は弱く外反する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
294－4 175	須恵器 坏	覆土内 写残存	口　(10.6) 底　一 高　(4.5)	黒色角粒多 白色細粒微	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(左回転？)。底部は丸底で受け部は上方を向き口縁部は強く内傾する。底部に回転篦削りを施す。	
294－5 175	土師器 台付甕	覆土内 脚部破片	口　一 底　(11.6) 高　(8.3)	白・黒色鉱物 粒多 細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	「ハ」字状に強く開く脚部で、脚部先端横撫で後縦位の雑な篦削りを施す。	
294－6 175	土師器 甕	覆土内 写残存	口　(18.0) 底　一 高　(14.3)	砂粒多 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	橙	胴部下半に弱い張りを有すると思われる器形で、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部横撫で後胴部外面縦位（下→上）の篦削り、内面横位撫で を施す。	
294－7 175	石　器 磨編み 石？	覆土内 完形	長　13.8 幅　7.2 厚　3.5	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 537.0

第245号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
294－8 175	須恵器 坏	貯蔵穴4 ～6cm 完形	口 12.9 底 5.0 高 3.5	細砂粒多 黒色鉱物粒少	還元焔 やや硬 質	浅黄	轆轤整形(右回転)。腰部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。底部は回転糸切り無調整。	
294－9	須恵器 壺	覆土内 ½残存	口 (13.2) 底 (6.8) 高 (4.6)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	中性焔 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は外反する。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。	全体に作りは雑
294－10 175	須恵器 壺	カマド内 ½残存	口 (13.0) 底 (5.0) 高 (4.6)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。体部に張りはなく、口縁部は強く外反する。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。	
294－11 175	須恵器 壺	カマド内 ½残存	口 (13.0) 底 (5.6) 高 (4.5)	細砂粒多	還元焔 やや軟 質	灰白	轆轤整形(右回転)。腰部の張りはなく、体部から口縁部にかけて強く外反する。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。	カマド内 ±0～4 cm
294－12	須恵器 壺	±0cm 破片	口 (13.4) 底 — 高 (4.0)	細砂粒多 白色鉱物粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	橙	轆轤整形(?)。体部に張りはなく、口縁部は外反する。	
294－13	須恵器 壺	カマド掘 り方 破片	口 (13.6) 底 — 高 (4.0)	細砂粒少	中性焔 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。体部に張りはなく口縁部は強く外反する。外面の轆轤整形痕は顕著、内面はコテか何か使用したものか轆轤整形痕がほとんどわからない。	
294－14	灰釉陶器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 (2.4)	美濃系		灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部と腰部回転篦削り後の付高台。施釉技法は不明。	
294－15	灰釉陶器 壺	掘り方覆 土内 破片	口 — 底 (7.6) 高 (1.6)	美濃系？		灰白	轆轤整形(?)。高台は底部回転篦削り後の付高台。施釉技法は不明。	
294－16 175	須恵器 甕	貯蔵穴5 cm 破片	口 (14.0) 底 — 高 (5.8)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	中性焔 やや軟 質	淡赤橙	紐作りの轆轤整形。胴部の張りは弱く、口縁部は「C」字状に外反する。口唇部は平坦部があり、強く外傾している。	外面に接合痕
295－17	瓦 女瓦	貯蔵穴2 cm 破片	厚 1.7	褐色細砂多 白色鉱物粒少 黒色細砂多	還元焔 やや軟 質	灰	一枚作り？。凸面は、縄叩き後、雑な撫でを施す。	
295－18	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色細砂多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取り2面。凹部布目は非常に粗い。凸面は撫で後正格子叩きを施す。	

第126号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
296－1 175	須恵器 壺	カマド内 ½残存	口 (15.0) 底 — 高 (3.7)	白色鉱物粒微 白色細砂多	還元焔 やや硬 質	灰	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。	
296－2 175	灰釉陶器 壺	±0cm ½残存	口 15.1 底 7.0 高 5.7	美濃系 (大原2)		灰白	轆轤成型形。体部は全体に丸味が強く、口縁部は短く外反する。高台は底部篦削り後の付高台。底部の回転篦削りは腰部にまで及んでいない。施釉は刷毛掛け。	
297－3	土師器 甕	±0cm 破片	口 (18.4) 底 — 高 (10.4)	細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	胴部の張りは弱く、口縁部は「コ」字状を呈する。口縁部に2段の横撫で後、胴部上半に斜位（右→左）の篦削りを施す。口縁部中位に明瞭な接合痕を残す。	
297－4 175	須恵器 甕	掘り方覆 土内 ½残存	口 (14.0) 底 — 高 (13.8)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	轆轤整形。胴部上位に強い張りを有し、口縁部は「く」字状に外傾する。また、口縁部中位に弱い屈曲がみられ、いわゆる「受け口」状を呈する。胴部外面には横位ヨキ目が施されている。	
297－5	須恵器 甕	掘り方覆 土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焔 硬質	黒	紐作り。口縁部の破片で外面に沈線と波状文を施す。内外面に自然釉。	厚 1.6 焼締

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
297－6	土製品 羽　口	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 黒色粒少	酸化焔 硬質	浅黄橙	外面の一部が還元されている。	厚　1.4
297－7 175	鉄　器 刀　子	覆土内 破片	長　(8.4) 幅　(0.9) 重　7.2				錆が進行し全体に剥離しているため、棟の部分と片側の一部のみ残存。どちら側が峯か不明。	
297－8 175	鉄　器 不　明	±0cm —	長　(6.1) 幅　(4.6) 重　29.0				断面は長方形で、「コ」字状に曲げられているが使途不明。	
297－9 175	鉄　器 釘	覆土内 破片	長　(5.1) 幅　(0.6) 重　4.4				両端部欠損。断面方形で周囲の剥離も進んでいる。	
297－10	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚　2.2	白色細粒多 褐色粒少	中性焔 やや硬 質	にぶい 橙	一枚作り。凸面は平行叩き。凹面は横位箆削り後縦位の撫で を施す。	
297－11	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚　1.4	砂粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り。凸面は全面に撫で を施し、側端部の面取りは1面。	

第127号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
298－1 175	須恵器 甕	覆土内 破片	－6cm 口　(11.0) 底　— 高　(9.3)	白色細粒少 黒色細粒少	還元焔 やや硬 質	灰	紐作り輪積整形。胴部の丸味は強く、口縁部は強く外反し、上端で短く直立する。頸部内面に接合板が明瞭に残る。	
298－2	須恵器 とりべ	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒多 黒色鉱物粒少	還元焔 やや硬 質	浅黄	須恵質で、内面は赤色に発色した付着物と緑錆が認められる。	
299－3 175	石　器 敲　石	－2cm 完形	長　15.9 幅　8.0 厚　4.7	粗粒安山岩			周辺部に敲打痕がみられ、特に両端部の敲打が激しい。	重 812.9
299－4	土製品 羽　口	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	黒	外面に発泡した付着物が認められる。	厚　2.5

第255号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
299－5	土師質 坏	覆土内 ほぼ完形	口　10.1 底　4.9 高　3.7	黒色鉱物粒多 細砂粒多 褐色細粒少	中性焔 軟質	浅黄橙	輪積整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。見込み部中央に、窪みを有する。底部は回転糸切り無調整でやや突出する。	
299－6	須恵器 甕	カマド内 4cm 破片	口　— 底　(16.0) 高　(4.0)	細砂粒少 黒色細粒微	還元焔 硬質	灰白	輪積整形（？）。胴部下端に箆削りを施す。	
299－7	須恵器 羽　釜	－8cm 破片	口　(26.0) 底　— 高　(7.2)	細砂粒少 白色鉱物粒少	還元焔 やや硬 質	灰白	輪積整形。口縁部は直線的に内傾し、口唇部は平坦でわずかに内傾している。鍔は二等辺三角形状で貼付は丁寧である。	
299－8 175	須恵器 甑	カマド内 5cm 破片	口　— 底　(24.0) 高　(23.6)	小礫微 細砂粒多	還元焔 硬質	灰白	紐作り輪積整形。外面胴部下半は輪積の痕で調整後斜位の箆撫で、内面は、横位撫でを施す。	
299－9	瓦 女　瓦	カマド内 2cm破片	厚　2.3	片岩粒少 砂粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り。側端部面取りは2面。凹面に粘土板糸切り板が残る。凸面は撫で。	
300－10	瓦 女　瓦	カマド内 5cm 破片	厚　2.1	黒色粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	オリー ブ灰	一枚作り？。側端部面取りは、2面。凹面布目は縦位に撫で消されている。凸面は縄叩き で部分的に粘土板糸切り痕を残している。	
300－11	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚　2.5	砂粒少	還元焔 やや硬 質	にぶい 黄橙	一枚作り？。側端部面取りは、2面。凹面に粘土板糸切り板が残る。凸面は、雑な撫でを施す。	

第256号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
300－12	土師質 黒色土器 塊	15cm 列残存	口 (12.0) 底 6.0 高 (4.9)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 硬質	浅黄	轆轤整形(右回転？)。体部の張りは強く口縁部はわずかに外反する。高台は底部回転篦削り後の付高台。	口縁部外面にカーボン付着
300－13 175	土師器 土釜	カマド内 8cm 破片	口 (28.0) 底 — 高 (12.8)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	胴部上半に強い張りを有し、口縁部は、短く「C」字状に外反する。口縁部横撫で後胴部外面縦位篦削り、内面斜位の撫でを施す。	外面にカーボン付着
300－14	瓦 男瓦	16cm 破片	厚 1.8	黒色鉱物粒少 細砂粒少 褐色粒少	還元焔 やや硬 質	明褐	一枚作り？。側端部面取り1面。凸面は撫で。	
300－15	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.5	細砂粒少 褐色粒少	酸化焔 硬質	によい 赤褐	一枚作り？。側端部面取り2面。凸面は撫で。	

第128号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
301－1	須恵器 塊	覆土内 破片	口 (12.0) 底 (4.4) 高 (4.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。高台は底部切り離し後の雑な付高台。	
301－2	灰釉陶器 塊	覆土内 破片	口 — 底 (7.6) 高 (1.9)	美濃系		灰白	轆轤成整形。高台は底部回転糸切り、周辺篦削り後の雑な付高台。施釉技法は不明。	内面に重ね焼きの痕跡有り

第129号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
304－1 176	土師器 坏	覆土内 列残存	口 12.6 底 8.2 高 3.0	黒色鉱物粒少 細砂粒微	酸化焔 硬質	によい 橙	底部は平底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。体部には指頭痕が認められる。	口縁部内面に4ヶ所カーボン付着
304－2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.0)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は平底気味で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで間の調整は不明瞭。	
304－3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.5)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで間の調整は不明瞭。	
304－4	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.8) 底 — 高 (3.3)	細砂粒微 黒色鉱物粒微	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
304－5	土師器 坏	覆土内 破片	口 (16.6) 底 — 高 (2.5)	黒色鉱物粒少 細砂粒微	酸化焔 やや軟 質	によい 橙	底部は扁平な丸底で口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後、底部に篦削りを施す。	
304－6	須恵器 塊	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (3.5)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰部に屈曲を有し、体部は直線的に外傾する。高台は底部から腰部に回転篦削り後の付高台。	
304－7 176	須恵器 坏	掘り方覆 土内 列残存	口 (12.5) 底 (6.0) 高 (3.2)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
304－8	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (11.6) 底 (7.2) 高 (4.0)	白色細粒少 褐色粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部はやや内湾気味で口縁部は外反しない。底部は回転糸切り無調整。	
304－9 176	須恵器 蓋	覆土内 列残存	口 (18.6) 摘 (4.2) 高 (4.5)	白・黒色細粒 少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部の張りは強く、口縁部は屈曲し、先端が短く直立する。摘は環状摘で天井部回転篦削り後の貼付である。	
304－10	土師器 甕	掘り方覆 土内 破片	口 (18.8) 底 — 高 (5.5)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部は「コ」字状を呈し、中位に接合痕を残している。口縁部横撫で後胴部上半に斜位の篦削りを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
304—11	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒多 褐色粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面斜格子叩き、内面青海波文。	厚　1.5
304—12	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	砂粒少	還元焔 硬質	淺黄	紐作り叩き整形。外面平行叩き後カキ目、内面青海波文。	厚　0.9
304—13 176	灰釉陶器 皿	覆土内 矢残存	口　(11.0) 底　(6.5) 高　(2.3)	美濃系		黄灰	輪轆成整形(?)。体部は強く外傾し口縁部は水平方向に屈曲する。高台は回転糸切り後の付高台。底部の回転糸切り痕は高台貼付に伴い縦に撫で消されている。施釉は漬け掛け?。	

第130号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
304—14 176	土師器 坏	覆土内 矢残存	口　(12.0) 底　— 高　(6.3)	黒色鉱物粒少 白・黒色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は平底で、体部がわずかに反り気味で口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。体部には連続的な指頭痕が認められる。	
304—15 176	土師器 坏	覆土内 矢残存	口　(11.6) 底　(8.4) 高　(3.4)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい 褐	底部は平底で、体部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
304—16 176	土師器 坏	覆土内 矢残存	口　(12.4) 底　— 高　(3.6)	細砂粒少 黒色鉱物粒多 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は平底気味の丸底で、体部は内湾気味に外傾し、口縁部は強く内湾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。体部に指頭痕が認められる。	杯Aの模倣
304—17	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.6) 底　— 高　(3.3)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、間に指頭痕が認められる。	
304—18	土師器 坏	覆土内 破片	口　(10.9) 底　— 高　(3.0)	黒色鉱物粒多 細砂粒少 白色鉱物粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は平底気味で、体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに内湾する。口縁部横撫で底部は篦削りで間の調整は不明瞭。	
304—19 176	須恵器 坏	覆土内 ほぼ完形	口　14.0 底　7.6 高　3.4	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。体部下半に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
304—20 176	須恵器 坏	覆土内 矢残存	口　(12.0) 底　7.2 高　4.1	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。体部から口縁部にかけ弱く内湾する。底部は回転糸切り無調整。	
304—21 176	須恵器 坏	覆土内 ほぼ完形	口　12.8 底　7.5 高　4.5	砂粒多	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。体部上位に弱い張りを有し、口縁部は外反する。底部回転糸切り無調整。	
304—22 176	須恵器 坏	覆土内 矢残存	口　(13.0) 底　(7.8) 高　(4.0)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。体部の張りはごく弱く口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
304—23	須恵器 壺	覆土内 破片	口　— 底　(9.5) 高　(4.7)	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転?)。体部下半に比較的強い張りを有する。高台は付高台。底部の切り離しは不明。	
304—24	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　— 摘　(2.9) 高　(2.1)	小礫微 細砂粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。摘は天井部外面回転篦削り後の貼付。	
305—25	須恵器 甕	3 cm 破片	口　— 底　— 高　—	砂粒多	還元焔 硬質	明オリーブ灰	紐作り叩き整形。外面叩きは不明、内面青海波文。	厚　0.9

第132号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
305−26	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (4.2)	褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
305−27	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.0)	黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬質	にぶい橙	底部は丸底で、口縁部は短く内傾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
305−28	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (2.8)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 やや軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで間の調整は不明瞭。	
305−29	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.4) 底 — 高 (2.8)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 やや軟質	にぶい橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
305−30	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 (5.2) 高 (1.5)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。摘は球状摘で、天井部外面回転箆削り後の貼付。	

第135号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
305−31 176	土師器 坏	掘り方覆 土内 刈残存	口 15.2 底 — 高 3.3	白・黒色鉱物 粒多 細砂粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底（中央部は平坦）で、口縁部はわずかに外反する。口縁部横撫で後底部全面に箆削りを施す。	
305−32 176	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.8)	白・黒色鉱物 粒少 細砂粒微 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は平底状の丸底で、体部は外傾し、口縁部は短く内湾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
305−33 176	土師器 坏	掘り方覆 土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (2.8)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい褐	底部は平底気味の丸底で、口縁部は、内湾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
305−34	土師器 坏	掘り方覆 土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (2.4)	黒色鉱物粒少 細砂粒微	酸化焔 軟質	にぶい橙	底部は平底で、体部は直線的に外傾する。口縁部横撫で、底部は一方向の箆削りを施す。	
305−35	土師器 坏	掘り方覆 土内 破片	口 (14.8) 底 — 高 (3.3)	黒色鉱物粒微 白色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部はわずかに内湾する。体部外面箆削り後口縁部横撫で。内面撫で後放射状暗文を施す。	
305−36 176	土師器 皿	掘り方覆 土内 刈残存	口 (16.2) 底 (8.0) 高 (2.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい橙	底部は平底で、体部は強く外傾し、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は不定方向の箆削りを施す。	
305−37 176	土師器 鉢	掘り方覆 土内 刈残存	口 (19.8) 底 (12.0) 高 (8.0)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は平底で、体部上位に張りを有し、口縁部はわずかに内湾する。口縁部横撫で後体部外面及び底部に箆削りを施す。	
305−38	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	外面箆削り、内面撫で後、斜放射状暗文を施す。	厚 0.5
305−39 176	須恵器 坏	覆土内 刈残存	口 11.5 底 7.5 高 3.9	細砂粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部の器厚は薄く、直線的に外傾する。底部は回転箆切り無調整。	
305−40 176	須恵器 坏	覆土内 刈残存	口 (12.0) 底 (6.9) 高 (3.8)	細砂粒微 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾する。底部は回転糸切り無調整。	内外面に薄く自然釉
305−41 176	須恵器 坏	掘り方覆 土内 刈残存	口 (12.0) 底 6.2 高 3.9	細砂粒微	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部の張りはごく弱く口縁部は外反しない。底部は回転糸切り後底部周辺及び腰部に回転箆削り調整を施す。	
305−42 176	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.2) 底 (7.0) 高 (3.8)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は直線的に外傾する。底部は回転箆切り無調整。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
305—43 176	須恵器 坏	覆土内 写残存	口　(12.8) 底　(7.6) 高　(4.0)	褐色粒微	還元焔 硬質	におい 橙	轆轤整形(右回転?)。体部は前く内湾気味に外傾する。底部は回転篦切り後、雑な篦削りを施したものか?	
305—44 177	土師質 坏	掘り方覆 土内 写残存	口　(13.4) 底　(6.4) 高　(3.6)	褐色粒多 細砂粒少	中性焔 硬質	淡黄	轆轤整形(右回転)。腰部の張り は強く、口縁部は内湾気味に外傾する。底部は回転糸切無調整でわずかに突出する。	
305—45	須恵器 坏	掘り方覆 土内 破片	口　(11.6) 底　(7.3) 高　(3.7)	細砂粒少 白色細粒多	還元焔	灰	轆轤整形(右回転)。体部下半で屈曲し、口縁部は直線的に外傾する。底部と体部下半に回転篦削りを施す。	
305—46 177	須恵器 坏	掘り方覆 土内 破片	口　(12.0) 底　(7.2) 高　(3.8)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。体部の張りはみられず、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整と考えられるが、残存部が狭く不明。	
305—47	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(10.5) 底　(6.2) 高　(3.3)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。口縁部は、強く内湾する。底部は回転糸切り無調整。	
305—48	須恵器 埦	覆土内 破片	口　(12.0) 底　— —　高(4.7)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部は、わずか外反する。高台は剥離しているが、底部回転糸切り荒調整後の付高台。	
306—49 177	須恵器 埦	掘り方覆 土内 写残存	口　(17.0) 底　(9.2) 高　(6.8)	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。体部は深く大形で全体に弱く内湾する。高台は付高台であり貼付部から剥離している。底部切り離しは底部が残存しないため不明。	
306—50	須恵器 埦	覆土内 底部破片	口　— 底　(8.0) 高　(1.6)	白色細粒多	還元焔 やや軟 質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部施で調整後の付高台。	
306—51	土師質 黒色土器 坏	掘り方覆 土内 破片	口　— 底　— 高　(0.7)	白色細粒多 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	轆轤整形(右回転?)。底部に手持ち篦削り内面は放射状篦磨き後黒色処理を施す。	
306—52	須恵器 蓋	掘り方覆 土内 破片	口　(14.8) 摘　— 高　(1.9)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部外面に回転篦削りを施す。	
306—53 177	須恵器 蓋	掘り方覆 土内 写残存	口　(18.0) 摘　(4.0) 高　(3.8)	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部から体部に弱い張りを有し、口縁部は短く直立する。摘は環状摘で天井部回転篦削り後の貼付。	
306—54	須恵器 蓋	掘り方覆 土内 破片	口　(11.4) 摘　— 高　(2.5)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は平底状で、体部との境に段を有し、口縁部は屈曲する。天井部外面に回転篦削りを施す。	外面に自然釉
306—55 177	須恵器 蓋	覆土内 写残存	口　(13.0) 摘　(4.4) 高　(3.2)	白色細粒微 黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。天井部に張りを有し口縁部は短く直立する。摘は環状摘で天井部回転篦削り後の貼付。	
306—56	土師質 小型甕	覆土内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(5.5)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 硬質	橙	胴部上半の張りが強く、口縁部は外反する。口縁部横撫でごく胴部上半に横位（右→左）篦削り、内面に横位篦撫でを施す。	
306—57 177	須恵器 短頸壺?	掘り方覆 土内 破片	口　(7.0) 底　— 高　(5.2)	黒色鉱物粒少 黒色細粒多 褐色細粒多	中性焔 やや硬 質	橙	轆轤整形。肩部は「く」字状の屈曲し、胴部に張りはない。口縁部は短く直立する。	
306—58 177	須恵器 甕	掘り方覆 土内 破片	口　— 底　— 高　—	黒色細粒少 白色細粒微	還元焔 硬質	灰白	積作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.2
306—59 177	鉄　器 鏃	覆土内 完形	長　(4.0) 幅　(1.0) 重　13.1				いわゆる「くさび」形で横断面は長方形を呈する。個面形は片刃石斧的な形態である。	
306—60 177	鉄　器 釘	覆土内 破片	長　(5.1) 幅　(0.7) 重　6.1				両端を欠損する。断面は方形である。	

第129・130・132～135号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
306－61 177	土師器 坏	3cm 完形	口 12.4 底 — 高 3.4	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 やや軟質	橙	底部は平底気味で、体部から口縁部にかけてわずかに内湾する。口縁部は横撫で底部は箆削りを施す。	口縁部外面に黒斑有り
306－62 177	土師器 坏	P32 47cm 3/4残存	口 (12.7) 底 — 高 (3.9)	黒色鉱物粒多 細砂粒少 黒色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は平底気味の丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部は横撫で、底部及び体部下半に箆削りを施す。	杯Aの模倣
306－63 177	須恵器 坏	3cm 完形	口 11.2 底 6.6 高 3.5	白色細粒少 黒色粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部下半にわずかに張りを有し、口縁部は弱く内湾する。底部は回転糸切り無調整。	焼締
306－64 177	須恵器 坏	11cm 3/4残存	口 (12.8) 底 (7.6) 高 (3.6)	細砂粒微 黒色細粒少	還元焔 やや硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。底部は回転箆削り無調整。	
306－65 177	須恵器 坏	±0cm 3/4残存	口 (12.2) 底 (7.1) 高 (3.6)	細砂粒多	還元焔 やや硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて内湾する。底部は回転糸切り無調整。	
306－66 177	須恵器 坏	7cm 3/4残存	口 (11.5) 底 (6.7) 高 (3.0)	細砂粒微	還元焔 硬質	褐灰	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部は強く内湾する。底部は回転糸切り無調整。	
306－67 177	須恵器 坏	覆土内 3/4残存	口 (12.9) 底 7.2 高 3.4	黒色細粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
306－68 177	須恵器 坏	±0cm 3/4残存	口 (13.3) 底 (8.2) 高 (3.4)	黒色細粒多 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて弱く内湾する。底部は回転箆切り無調整。	外面体部から底部に自然釉
306－69 177	須恵器 坏	5cm 3/4残存	口 (12.7) 底 (7.4) 高 (2.9)	黒色細粒多 褐色細粒少	還元焔 やや軟質	浅黄	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
306－70 177	須恵器 坏	9cm 3/4残存	口 (13.0) 底 (7.4) 高 (3.3)	砂粒微 黒色細粒少	還元焔 やや硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部は外反しない。底部は回転糸切り無調整。	
306－71 177	須恵器 壺	5cm 3/4残存	口 10.1 底 6.0 高 5.2	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾し口縁部は短く外反する。高台は三角高台で底部回転糸切り後の付高台。	
306－72 177	土師質 黒色土器 坏	P21 16cm 3/4残存	口 (12.7) 底 (7.7) 高 (3.4)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	中性焔 やや硬質	にぶい黄橙	轆轤整形(右回転?)。体部は直線的に外傾し、口縁部は外反しない。底部は切り離し後手持ち箆削りを施す。内面は体部横位、見込部放射状の箆磨き後黒色処理を施す。	
306－73 177	須恵器 蓋	掘り方覆土内 3/4残存	口 (17.4) 摘 (2.7) 高 (2.8)	細砂粒少	還元焔 やや硬質	灰	轆轤整形(右回転)。全体に扁平な器形で口縁部先端が短く「く」字状に内傾する。摘は小振りな陽状摘で天井部回転箆削り後の貼付である。	
306－74	須恵器 高坏	19cm 脚部破片	口 — 底 — 高 (5.3)	白色鉱物粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り轆轤整形。内面に巻き上げの痕跡を明瞭に残している。坏部との接合面には、坏底面のカキ目の反転を残している。	
306－75	土師器 台付甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (6.1)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい橙	脚部下半に斜位の箆削りを施し、脚部に横撫でを施す。	
306－76	須恵器 壺	18cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 褐色粒微	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は平行叩き後、横位の撫で、内面は青海波文。	厚 0.9
307－77 177	須恵器 壺	5cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色鉱物粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.4
307－78	須恵器 壺	22cm 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面格子叩き、内面青海波文。	厚 1.1

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
307－79	須恵器 甕	貯蔵穴74 cm 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒多 褐色粒少	還元焔 硬質	灰白	紐作り叩き整形。内面青海波文、外面叩き目は自然釉の付着で不明である。	厚　1.5
307－80	瓦 男　瓦	19cm 破片	厚　1.6	白色細粒少 褐色粒多	還元焔 やや硬質	灰褐	一枚作り？側端の面取りは、3面で、凸面は全面撫で。	厚　1.6
307－81 178	石　器 敲　石	4 cm 完形	長　16.7 幅　6.3 厚　6.1	粗粒安山岩			側面に2ヶ所、端部に1ヶ所の敲打痕がある。	重 885.6
307－82 178	石　器 敲　石	P50 32cm 完形	長　22.6 幅　7.6 厚　6.7	粗粒安山岩			側面に使用に伴うと考えられる剥離がみられ端部に敲打痕が認められる。	重1923.2
307－83 178	石　器 敲　石	9 cm 完形	長　14.5 幅　6.4 厚　6.0	粗粒安山岩			側面の敲打痕はごくわずかで、端部に磨滅が認められる。	重 662.9
307－84 178	石　器 敲　石？	6 cm 完形	長　12.7 幅　7.6 厚　3.2	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 509.9

第131号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
308－1 178	石　器 敲　石	35cm 完形	長　14.2 幅　6.5 厚　4.4	ひん岩			両端部にわずかに敲打痕が認められる。	重 630.0
308－2 178	石　器 台　石	7 cm 破片	長　17.0 幅　15.1 厚　5.3	粗粒安山岩			裏面は全面剥離面であるが、使用痕は不明。	重1712.6

第137号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
310－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(10.4) 底　— 高　(2.6)	黒色鉱物粒多 細砂粒微 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は、弱く外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで間は不明瞭。	
310－2	土師器 坏	覆土内 破片	口　(10.0) 底　— 高　(2.9)	黒色鉱物粒少 細砂粒微	酸化焔 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部は横撫で底部は篦削りと考えられる。	
310－3	須恵器 小型壺	覆土内 破片	口　— 底　(7.0) 高　(4.9)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰白	紐作り輪積整形。底部は回転糸切り後周辺回転篦削りを施す。胴部下端に1段の回転篦削りを施す。	
310－4 178	石製品 砥　石	カマド内 26cm 与残存	長　15.2 幅　10.9 厚　9.4	二ッ岳軽石			砥面3面で、端部使用の痕跡はない。	重1187.4
310－5 178	鉄　器 鎌	覆土内 完形	長　(20.0) 幅　(4.2) 重　76.1				曲がりの比較的弱いもので、柄帯りの刃部が特に使用減りしている。柄装着部は一部が折れ曲がっている。	

第138号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
313－1 178	土師器 坏	21cm 与残存	口　11.3 底　— 高　3.2	細砂粒微	酸化焔 硬質	橙	口縁部は強く外反し底部との間に強い稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は底部篦削り後口縁部横撫で、内面は全面撫でを施す。	一部還元
313－2 178	土師器 坏	21cm ほぼ完形	口　(12.0) 底　— 高　(3.8)	細砂粒微	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との間に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm (g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
313－3 178	土師器 坏	18～21cm 列残存	口 11.8 底 — 高 3.8	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い段を有し口縁部は外傾する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	底部外面に広い黒斑有り
313－4 178	土師器 坏	覆土内 列残存	口 (15.2) 底 — 高 (2.4)	細砂粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は、強く外反する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
313－5 179	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (2.0)	褐色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(？)。底部は回転糸切り後の撫で調整。	
313－6 179	須恵器 埦	覆土内 破片	口 — 底 (6.6) 高 (3.4)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部に張りはなく、高台は底部回転糸切り？後の付高台。底部は高台貼付に伴う撫でが施されている。	
313－7 179	須恵器 甕	38cm 破片	口 — 底 (15.0) 高 (16.0)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文で横位に粗く撫で消されている。	
314－8	土師器 甕	覆土内 破片	口 (19.0) 底 — 高(5.9)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 軟質	にぶい 橙	口縁部は「く」字状に屈曲し、胴部の張りは弱いと考えられる。外面は口縁部横撫で後斜位（下→上）の篦削りを施す。内面は横位篦撫でである。	
314－9 179	土師器 甑	カマド内 13cm 完形	口 (17.2) 底 (4.6) 高 (15.4)	砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	淡橙	胴部上半にわずかに張りを有し口縁部は外反する。口縁部横撫で後胴部に縦位（下→上）の篦削り、内面は横位の撫でを施す。	
314－10 179	須恵器 小型壺	覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 (5.9)	細砂粒少	還元焔 やや硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾する。底部は回転糸切り無調整。	
314－11 179	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黄褐色粒（シルト？）少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面格子叩き、内面青海波文。	厚 0.7
314－12 179	石器 敲石？	±0cm 完形	長 10.8 幅 6.5 厚 3.4	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 435.4
314－13 179	石器 敲石	2cm 完形	長 12.1 幅 5.3 厚 3.4	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 328.2
314－14 179	石器 敲石	－4cm 完形	長 12.2 幅 5.0 厚 4.5	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 435.7
314－15 179	石器 敲編み石？	－4cm 完形	長 10.3 幅 5.5 厚 4.8	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 435.8
314－16 179	石器 敲編み石	±0cm 完形	長 13.7 幅 6.3 厚 3.5	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 459.4
314－17 179	石器 敲石	±0cm 完形	長 11.8 幅 5.1 厚 4.1	粗粒安山岩			両端部にわずかに敲打痕が認められる。	重 384.3
314－18 179	石器 敲石	±0cm 完形	長 11.3 幅 6.5 厚 4.1	粗粒安山岩			両端部にわずかに敲打痕？が認められる。	重 466.2

第139号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm (g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
316－1 179	土師器 坏	覆土内 列残存	口 (11.0) 底 (5.8) 高 (4.0)	細砂粒少 白色鉱物粒少	中性焔 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。体部に張りを有し、口縁部は外反しない。底部は、回転糸切り無調整。	
316－2 179	土師器 甕	貯蔵穴 列残存	口 (11.4) 底 (6.0) 高 (4.5)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい 褐	轆轤整形(右回転)。体部下半に張りを有し口縁部は外反する。高台は付高台で、底部切り離しは高台貼付に伴う撫でのため不明。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
316－3 179	須恵器 壺	5cm 与残存	口　(13.0) 底　(5.8) 高　(4.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	中性焔 硬質	にぶい 黄橙	輪轆整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は外反する。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。	内外面に樹脂？ カーボン ？付着
316－4 179	灰釉陶器 壺	±0～8 cm 与残存	口　(15.4) 底　(7.2) 高　(5.2)	美濃系		灰白	輪轆整形(右回転)。体部に張りを有し、口縁部はわずかに外反する。高台は三日月高台で、底部と腰部回転箆削り後の付高台。施釉は漬け掛け。	
316－5 179	須恵器 羽　釜	貯蔵穴 破片	口　(20.0) 底　— 高　(19.4)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	紐作り輪轆整形。胴部上半に比較的強い張りを有し、口縁部は内傾する。口縁部は平坦でわずかに内傾する。鍔は断面三角形状で上面が水平に丁寧に貼付けられている。内外面共に轆轤痕が顕著。	
316－6	須恵器 羽　釜	7cm 破片	口　(22.0) 底　— 高　(7.8)	黒色鉱物粒少 細砂粒多	中性焔 硬質	灰黄褐	紐作り輪轆整形。口縁部は直立し、口唇部は平坦で内傾し、わずかに突出する。	

第140号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
318－1 179	土師器 坏	覆土内 与残存	口　(12.0) 底　— 高　(4.5)	細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部はわずかに外傾する。口縁部横撫で後、底部に削りを施す。	
318－2	須恵器	覆土内 壁	口　— 底　— 高　—	褐色細粒多	中性焔 硬質	浅黄橙	紐作り叩き整形。外面は擬格子叩き？内面は青海波文。	厚　0.7
318－3 179	石製品 砥　石	9cm ほぼ完形	長　21.8 幅　10.3 厚　4.0	粗粒安山岩			砥面は4面で、同様に使い込んでいる。残石した板部には、線状のえぐりが多数認められる。	重1160.6

第141号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
319－1	土師器 坏	6cm 破片	口　(12.4) 底　— 高　(3.3)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
319－2	土師器 坏	覆土内 破片	口　(11.6) 底　— 高　(3.1)	黒色鉱物粒少 細砂粒微	酸化焔 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い段を有し口縁部はわずかに外反する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
319－3	土師器 坏	覆土内 破片	口　(13.1) 底　— 高　(2.9)	黒色鉱物粒少 白色細粒多 褐色細粒多	酸化焔 軟質	明赤褐	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
319－4	土師器 甕	13cm 破片	口　(22.6) 底　— 高　(5.7)	黒色鉱物粒多 白色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 やや硬質	橙	胴部に張りはなく、口縁部は外反する。口縁部横撫で後胴部に縦位（下→上）箆削り、内面に横位箆撫でを施す。	
319－5	土師器 甕	覆土内 破片	口　(20.4) 底　— 高　(6.2)	小礫少 砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 軟質	にぶい 橙	口縁部はわずかに外反し、口唇部は外面肥厚する。口縁部に横撫でを施す。	
320－6 180	須恵器 小型甕	12cm 与残存	口　— 底　(4.5) 高　(6.2)	細砂粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。底部は平底で胴部下半に弱い張りを有する。底部は回転箆切り無調整。胴部下半に箆削りを施す。	内面カーボン（樹脂？）厚く付着
320－7 180	土師器 甕	±0cm 破片	口　(22.0) 底　— 高　(16.5)	片岩小礫多	酸化焔 硬質	にぶい 褐	胴部上位に弱い張りを有し、口縁部は「く」字状に屈曲する。口縁部横撫で後胴部外面斜位（下→上）の箆削り、内面横位の箆撫でを施す。	内面にカーボン付着

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
320－8 180	土師器 甕	±0～3 cm 破片	口　(26.0) 底　— 高　(13.0)	細砂粒少	酸化焔 軟質	にぶい 褐	胴部に張りはなく、口縁部は強く外反する。口縁部は横撫で、胴部外面縦位箆削り、内面横位箆撫でと思われるが、器面の磨滅のため不明瞭。	
320－9	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は撫で後、カキ目を施す。内面当具は無文。	厚　0.8
320－10	須恵器 甕	4cm 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面は青海波文を粗く撫で消している。	厚　0.8 転用硯？
320－11 180	鉄　器 鎌	覆土内 破片	長　(3.6) 幅　(1.5) 重　5.2				先端部の破片で小形である。断面は楔形。	
321－12 180	石　器 敲　石	±0cm 完形	長　11.2 幅　6.5 厚　4.1	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 455.7
321－13 180	石　器 敲　石？	2cm 完形	長　13.2 幅　5.9 厚　3.3	石英閃緑岩			端部及び側面の一部に熱によると考えられるハゼが認められる。	重 427.9
321－14 180	石　器 敲　石？	±0cm 完形	長　15.5 幅　6.7 厚　4.0	粗粒安山岩			端部に敲打痕は認められないが、端部近くの側面の使用（敲打）に伴い割れている。	重 602.0
321－15 180	石　器 敲　石？	±0cm 完形	長　12.4 幅　5.5 厚　3.5	粗粒安山岩			一端から使用に伴い剥離している。その他、敲打痕は認められない。	重 450.8
321－16 180	石　器 敲　石？	4cm 完形	長　11.7 幅　5.6 厚　4.2	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 410.5
321－17 180	石　器 両編み石	±0cm 完形	長　12.5 幅　5.3 厚　4.1	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 448.1
321－18 180	石　器 敲　石	±0cm 完形	長　15.1 幅　5.8 厚　5.2	粗粒安山岩			両端部及び側端部に敲打痕が認められる。	重 677.3
321－19 180	石　器 敲　石	±0cm 完形	長　14.5 幅　6.6 厚　4.6	溶結凝灰岩			三角形の形状の頂部が使用部位で敲打に伴い剥離が認められる。	重 462.6
321－20 180	石　器 敲　石	2cm 完形	長　13.0 幅　7.3 厚　4.6	粗粒安山岩			1側面に敲打痕が認められる。	重 560.3

第142号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
324－1 180	土師質 坏	3cm 完形	口　10.0 底　6.0 高　2.8	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 軟質	浅黄	輪轆整形（右回転）。体部中位に張りを有する。底部は回転糸切り無調整。	内外面褐色塗彩か？
324－2 181	土師質 壺	貯蔵穴22 cm ほぼ完形	口　10.8 底　6.1 高　4.1	細砂粒多 黒色鉱物粒少	中性焔 硬質	浅黄	輪轆整形（右回転）。体部中位に張りを有し口縁部は外反しない。高台は底部回転糸切り後の付高台。	内外面褐色塗彩か？
324－3 181	土師器 壺	貯蔵穴21 cm 破片	口　(14.7) 底　— 高　(4.8)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 やや軟質	にぶい 黄橙	輪轆整形（右回転？）。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。高台は貼付部から剥離し残存しないが底部回転糸切り後の付高台。	
324－4 181	土師器 土　釜	貯蔵穴13 cm 破片	口　(24.0) 底　— 高　(11.9)	砂粒少 細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい 赤褐	胴部上半に強い張りを有し、口縁部との境に段がみられ口縁部は「C」字状に短く外反する。口縁部は横撫で、胴部外面は縦位（上→下）の箆削り、内面は斜位の撫でを施す。	内面にカーボン付着

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
324－5 180	須恵器 羽　釜	覆土内 1/4残存	口　(22.6) 底　— 高　(23.6)	砂粒微 細砂粒少	中性焔 硬質	にぶい 赤褐	紐作り輪積整形。胴部上半に強い張りを有し口縁部は弱く内傾する。口唇部は平坦で外傾している。鍔は断面台形状で貼付は雑である。胴部外面の鍔部より下位には縦位（上→下）の撫で状の箆削りが施されている。	外面下位にカーボン付着
324－6 180	瓦 女　瓦	－2cm 1/4残存	厚　2.5	砂粒少	中性焔 硬質	にぶい 褐	一枚作り。凸面は全面撫で、側端部面取りは1面。	カマド右袖－9cm

第143号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
325－1 181	土師質 坏	カマド内 3cm 完形	口　9.9 底　6.1 高　3.2	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	輪積整形(右回転)。体部の張りはなく、口縁部は強く外反する。底部は回転糸切り無調整。	
325－2 181	土師質 坏	覆土内 1/4残存	口　(10.6) 底　(7.4) 高　(2.7)	細砂粒多	酸化焔 やや硬質	にぶい 赤褐	輪積整形(右回転？)。体部下半にわずかに張りを有し、口縁部は外反しない。底部は回転糸切り無調整。	
325－3 181	灰釉陶器 段　皿	貯蔵穴9 cm 1/4残存	口　(12.9) 底　(8.1) 高　(2.5)	美濃系		灰白	輪積成整形(？)。体部から口縁部にかけて外反し、体部内面に明瞭な段を有する。高台は雑で底部回転糸切り後撫削りを施した後の付高台。施釉は漬け掛け？	内外面にカーボン付着
325－4 181	灰釉陶器 埦	貯蔵穴 ±0cm 1/4残存	口　(15.2) 底　(7.6) 高　(5.4)	美濃系		灰白	輪積成整形(？)。体部中位に張りを有し、口縁部はわずかに外反する。高台は底部回転撫削り後の付高台。施釉は漬け掛け。	
325－5	須恵器 羽　釜	カマド内 15cm 破片	口　(19.2) 底　— 高　(9.8)	砂粒多	中性焔 硬質	灰白	紐作り。胴部の張りは弱く口縁部はわずかに内湾する。鍔の貼付は雑で、胴部は鍔まで縦位（上→下）の撫削りを施す。内面は横位の雑な撫で。	
325－6	瓦 女　瓦	カマド内 26cm 破片	厚　1.5	砂粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	にぶい 橙	一枚作り。凸面には粘土板糸切り痕を残し、縄叩きが施されている。凹面の布目は全面にわたって縦位に撫で消されている。	

第147号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
327－1	灰釉陶器 埦	覆土内 破片	口　(14.2) 底　— 高　(3.0)	美濃系		灰白	輪積成整形(右回転)。体部の丸味は比較的強く、口縁部の外反は弱い。施釉は漬け掛けと考えられる。	
327－2	灰釉陶器 埦	覆土内 破片	口　— 底　(8.0) 高　(2.8)	美濃系		灰白	輪積成整形(右回転)。高台は底部回転撫調整後の付高台。	
327－3	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒多 褐色粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.7
327－4	須恵器 羽　釜	カマド内 －7cm 破片	口　(18.2) 底　— 高　(6.5)	黒色鉱物粒多 砂粒少	還元焔 やや硬質	橙	紐作り輪積整形。胴部の張りは強く、口縁部は内傾する。鍔の貼付は丁寧で、上面が水平になる。	内面に錆状の付着物有り
327－5 181	石　器 敲　石？	覆土内 完形	長　11.9 幅　5.5 厚　3.2	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 343.1

第149号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
329－1 181	土師質 坏	貯蔵穴 破片	口　(14.7) 底　(7.8) 高　(5.1)	白・黒色鉱物 粒少 細砂粒少	還元焔 やや軟質	褐灰	輪積整形(右回転)。体部から口縁部にかけて内湾する。底部は回転糸切り無調整。	いぶし

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
329－2	灰釉陶器 埦	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (4.7)	美濃系		明灰	轆轤成整形。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。口縁部内面に1本の沈線が巡る。施釉は漬け掛け。	
329－3	灰釉陶器 埦	貯蔵穴 破片	口 (15.0) 底 — 高 (3.3)	美濃系		灰白	轆轤成整形。体部の丸味は強く、口縁部は外反する。施釉は刷毛掛け？	
329－4 181	灰釉陶器 皿	掘り方覆土内 写残存	口 (12.9) 底 (7.1) 高 (1.8)	美濃系		灰白	轆轤成整形(?)。体部はやや内湾気味で、高台は角高台で底部回転糸切り、箆削り調整後の付高台。	外面体部に糸切り痕有り
329－5	土師器 土　釜	4cm 破片	口 (30.0) 底 — 高 (8.9)	細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい 褐	胴部の張りが強く、口縁部は「く」字状に屈曲する。口縁部に雑な横撫で後、胴部外面に縦位（上→下）箆削りを施す。内面は雑な撫で、口縁部内外面共に指頭痕がみられる。	
330－6 181	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 (16.0) 高 (13.6)	黒色鉱物粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り轆轤整形。胴部中位に強い張りを有する。高台は付高台。	外面に自然釉
330－7 181	須恵器 坩　釜	貯蔵穴22 cm 破片	口 (19.2) 底 — 高 (16.3	黒色鉱物粒多 細砂粒多	還元焔 硬質	灰白	紐作り轆轤整形。胴部中位に張りを有し、口縁部は反り気味に内斜する。脚は断面三角形状で貼付は丁寧である。	胴部外面下位カーボン付着
330－8	須恵器 坩　釜	貯蔵穴19 cm 破片	口 (25.0) 底 — 高 (9.4)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	還元焔 硬質	灰白	紐作り轆轤整形。胴部上半に弱い張りを有し口縁部はわずかに内斜する。脚は断面三角形状で貼付は丁寧である。	外面にカーボン付着
330－9	瓦 女　瓦	破片	厚 1.3	砂粒多	中性焔 硬質	にぶい 黄橙	一枚作り。側端部面取りは1面で、凸面は全面撫でを施す。	カマド内－16cm
330－10	瓦 女　瓦	11cm 破片	厚 2.5	褐色細粒多 細砂粒多 小礫少	中性焔 硬質	にぶい 黄橙	一枚作り。凹面に粘土板糸切り痕を残し、側端部は凹面側に突出する。凸面は縄叩き。	
330－11 181	鉄　器 釘	4cm 写残存	長 (4.7) 幅 (0.7) 重 1.9				先端部側を欠損する。頭部は折り曲げられている。	
330－12 181	鉄　器 釘	5cm 写残存	長 (8.3) 幅 (0.8) 重 13.9				両端部を欠損する。断面方形で、使用に伴うものか弱く全体に曲がっている。	
330－13 181	石製品 砥　石	覆土内 破片	長 6.2 幅 4.2 厚 1.7	砥沢石			当初の使用面は1面及び両側面、端部の4面であるが、欠損部の2次使用により、割面も磨滅している。	重 71.8
330－14 181	石製品 砥　石	覆土内 写残存	長 11.0 幅 4.7 厚 4.6	砥沢石			一端を欠損しているが、側面にはわずかに磨滅が認められ、2次使用が考えられる。	重 334.2

第150号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
331－1	須恵器 甕	カマド内 －4cm 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多	還元焔 やや硬 質	灰	紐作り叩き整形。外面は平行叩き、内面は青海波文を撫で消している。	厚 1.7
331－2	須恵器 甕	±0cm 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒微 白・黒色細粒 多	還元焔 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.1
331－3 182	土師器 土　釜	－8cm 破片	口 (28.0) 底 — 高 —	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	紐作り。胴部上位に張りを有し口縁部は「C」字状に短く外反する。口縁部は横撫で、胴部は縦位の箆削りである。胴部には多くの接合痕が観察される。	
331－4 182	石　器 台　石？	P2据付 完形	長 26.0 幅 27.4 厚 10.4	粗粒安山岩			側面にわずかに剥離がみられる他、使用痕不明。	重 11700.0
331－5 181	石製品 砥　石	4cm 写残存	長 8.0 幅 4.2 厚 4.0	砥沢石			砥面は4面で、一端が欠損している。全体に熱を受けていた痕跡があり、ハゼが厳しい。	重 125.7

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
331－6 182	鉄　器 鎌	覆土内 破片	長　(5.9) 幅　(2.1) 重　6.7				先端部の破片で摘が進行し、刃部側は大半が剝離している。	
332－7	瓦 女　瓦	破片	厚　1.9	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り。凹面の布目は粗く撫で消されている。凸面は縄叩き。	カマド内 －6cm
332－8 182	瓦 女　瓦	カマド内 －4cm 与残存	厚　2.0	砂粒少	還元焔 やや軟 質	浅黄橙	一枚作り？。凹面の布目が、側端部の一部にかかっている。凸面に格条体圧痕文有り。	

第151号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
333－1	土師器 坏	覆土内 与残存	口　(12.0) 底　－ 高　(3.3)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
333－2	土師器 坏	覆土内 与残存	口　(11.0) 底　－ 高　(2.8)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
333－3	土師器 坏	覆土内 与残存	口　(11.8) 底　－ 高　(3.3)	白・黒色鉱物 粒多	酸化焔 やや軟 質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い段を有し口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篦削りと考えられるが、器面の磨滅が激しく不明瞭。	
333－4 182	須恵器 蓋	11cm 与残存	口　10.4 摘　1.6 高　2.7	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は平坦で端部で強く屈曲し、口縁部は水平方向に屈曲している。内面かえりは短くやや内傾する。摘は小振りの環状摘で天井部回転篦削り後の貼付である。	
333－5	須恵器 蓋	張り方覆 土内 与残存	口　(10.8) 摘　－ 高　(2.3)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(？)。扁平な天井部で、かえりは短く外傾する。天井部外面を手持ち篦削り後、宝珠摘を貼付。	
333－6	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(10.8) 底　－ 高　(2.2)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は丸底で、受け部はやや上方を向き、口縁部は短く内傾する。底部に回転篦削りを施す。	
333－7	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白色細粒多 細砂粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面の叩きは自然釉のため不明。内面青海波文。	厚　1.0
333－8 182	石　製 模造品 剣　？	1床下紙 －12cm 与残存	長　6.8 幅　1.6 厚　0.6	黒色片岩			剣の石製模造品か？。研磨により、面取りしている。穿孔は両端から行われている。	重　5.5
334－9 182	石　器 磨編み石	覆土内 完形	長　14.1 幅　6.8 厚　3.3	変質安山岩			使用痕不明。	重 527.0
334－10 182	石　器 敲　石	2cm 完形	長　(12.9) 幅　(5.9) 厚　(4.3)	砂岩			表面は剝離している。	重 316.0
334－11 182	灰釉陶器 輪花埦	17cm 与残存	口　(16.3) 底　(8.0) 高　(5.8)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転？)。体部から口縁部にかけて内湾気味で、口縁部に4ヶ所刻みを入れて輪花の表現をしている。高台は底部回転篦削り後の付高台。体部下半にも回転篦削りを加えている。施釉は漬け掛け。	外面に梅色の付着物有り

第152号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
336－1	灰釉陶器 皿	カマド内 7cm 与残存	口　(13.2) 底　(6.8) 高　(2.4)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて内湾する。高台は三日月高台状で底部回転篦削り後の付高台。施釉は漬け掛け？	内面に重ね焼き痕

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
336－2	須恵器 羽　釜	カマド内 3cm 破片	口　(20.0) 底　— 高　(5.4)	砂粒少 白色細粒多	中性焔 硬質	にぶい 橙	緩行鍋鍔形(右回転)。口縁部は直立し上端は平坦で水平である。鍔は下面が水平に近い状態で貼付は丁寧である。	
336－3	瓦 女　瓦	7cm 破片	厚　1.9	白色細粒多 黒色粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。凸面斜格子叩き、凹面布目は縦方向に撫で消されている。	

第154号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
339－1 182	土師器 甕	カマド右 袖9cm 与残存	口　(22.6) 底　— 高　(19.8)	白色鉱物粒多 黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	胴部の張りは弱く長胴で、口縁部は強く外反する。口縁部横撫で後胴部に縦位（下→上）の篦削りを施す。内面は斜位の撫で。	内面に褐色の付着物。外面粘土状の付着物
339－2 182	土師器 甕	カマド左 袖6cm 与残存	口　(16.0) 底　— 高　(20.0)	白・黒色鉱物 粒少 細砂粒多 褐色細粒多	酸化焔 やや硬 質	にぶい 橙	胴部の張りは弱く、口縁部は短く外反する。口縁部横撫で後、胴部に縦位（下→上）の篦削り、内面は斜位の篦撫で を施す。	
340－3 183	土師器 甕	覆土内 破片	口　(22.0) 底　— 高　(9.9)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	胴部の張りが強く、口縁部は「C」字状に外反する。口縁部横撫で後、胴部に斜位（右→左）の篦削り、内面横位篦撫で を施す。	口縁部に接合痕
340－4 183	石　器 敲　石	覆土内 完形	長　14.8 幅　7.0 高　5.7	粗粒安山岩			上扁部と側面に敲打痕がみられる。	重 779.0

第155号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
341－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(11.0) 底　— 高　(3.6)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は比較的深い丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
341－2 183	土師器 坏	覆土内 与残存	口　(13.0) 底　— 高　(2.9)	黒色鉱物粒少 褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後、底部に篦削りを施す。	
341－3	土師器 坏	覆土内 与残存	口　(12.0) 底　— 高　(3.3)	褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で底部は篦削りを施す。	
341－4 183	土師器 坏	覆土内 与残存	口　(12.0) 底　— 高　(3.3)	細砂粒微 褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で底部は篦削りを施す。	器面は磨滅している
341－5	土師器 坏	覆土内 破片	口　(11.0) 底　— 高　(2.9)	褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で底部は篦削りを施す。	
341－6	土師器 坏	覆土内 破片	口　(11.0) 底　— 高　(3.7)	褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
341－7	土師器 坏	貯蔵穴(A) 与残存	口　(12.0) 底　— 高　(3.6)	白色細粒微 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は弱く外反する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
341－8 183	土師器 坏	覆土内 与残存	口　(12.2) 底　— 高　(2.8)	細砂粒微 褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は中位で屈曲し外傾する。口縁部は横撫で底部は篦削りと考えられるが器面が磨滅し不明瞭。	
341－9 183	土師器 坏	覆土内 与残存	口　(14.0) 底　— 高　(4.9)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は中位で屈曲し、強く外傾する。口縁部は横撫で底部は篦削りを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
341－10	土師器 坏	覆土内 破片	口　(11.0) 底　－ 高　(3.3)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段い段を有し、口縁部は屈曲気味に外傾する。口縁部は横撫で底部は箆削りを施す。	
341－11	土師器 坏	覆土内 破片	口　(16.0) 底　－ 高　(3.2)	白・褐色細粒 微	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
341－12	須恵器 蓋？	覆土内 矢残存	口　(12.0) 摘　－ 高　(4.0)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪鞴整形(右回転)。天井部は丸底状で口縁部はわずかに内湾気味であり天井部との境に2本の平行沈線を巡らす。天井部外面は回転箆削りを施す。	
341－13	須恵器 高　坏	覆土内 破片	口　－ 底　(11.0) 高　(4.3)	白・黒色細粒 少 白・黒色鉱物 粒微	還元焔 やや硬 質	灰黄	輪鞴整形（？）。脚部破片で下半が強く「ハ」字状に開き、先端付近に屈曲を有する。この屈曲部外面には、弱い沈線を1本巡らしている。透しは、2方の1段と考えられる。	
341－14	須恵器 皿？	覆土内 破片	口　(24.0) 底　－ 高　(3.3)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	輪鞴整形(右回転)。体部から口縁部にかけて、わずかに内湾気味で、体部下半に回転箆削りを施す。	
341－15 183	土師器 甕	貯蔵穴Ⅰ内 矢残存	口　(23.0) 底　－ 高　(10.9)	白色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	胴部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。口縁部を横撫で後、胴部に縦位（下→上）の撫で状の箆削りを施す。	
341－16 183	石　器 敲　石	10cm 完形	長　10.1 幅　5.9 厚　4.8	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 434.0
341－17 183	石　器 鹿編み石	±0cm 完形	長　10.9 幅　4.5 厚　3.4	砂岩			使用痕不明。	重 239.0
341－18 183	石　器 鹿編み石	13cm 完形	長　12.2 幅　5.6 厚　2.5	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 321.0
342－19 183	石　器 鹿編み石	4cm 完形	長　13.1 幅　5.2 厚　4.1	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 454.0
342－20 183	石　器 鹿編み石	12cm 矢残存	長　(12.5) 幅　6.3 厚　5.1	粗粒安山岩			被熱によるためか表面が非常にもろく、剥離している。	重 530.0
342－21 183	石　器 鹿編み石	覆土内 完形	長　13.6 幅　5.5 厚　4.4	閃緑岩			使用痕不明。	重 508.0
342－22 183	石　器 敲　石	4cm 完形	長　14.5 幅　7.1 厚　4.1	石英閃緑岩			上、下端部に敲打痕がみられ、表面は剥離している。	重 598.0
342－23 183	石　器 鹿編み石	覆土内 完形	長　26.1 幅　7.2 厚　4.2	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 720.0
342－24 183	石　器 鹿編み石	7cm 完形	長　13.8 幅　6.7 厚　3.2	砂岩			使用痕不明。	重 551.0
342－25 183	石　器 鹿編み石	10cm 完形	長　12.8 幅　5.3 厚　4.1	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 429.0
342－26 183	石　器 鹿編み石	－3cm 完形	長　12.8 幅　7.5 厚　3.1	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 527.0

第156号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
344－1 184	土師器 壺	3cm 写残存	口 (14.2) 底 8.4 高 6.2	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少	中性焼 硬質	にぶい 橙	輪積整形(右回転?)。体部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。高台はやや長脚の付高台であり、底部切り離しは高台貼付に伴う撫でのため不明。	
344－2 184	鉄器 鎌	3cm 写残存	長 (11.0) 幅 (2.7) 重 36.4				先端部の破片で、曲がりが強い。先端部側刃部の減りが多いように思われる。	

第157号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
346－1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (2.7)	白色細粒微 白色鉱物粒微	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後底部に荒削りを施す。	
346－2 184	須恵器 坏	カマド内 ±0cm 写残存	口 (12.4) 底 (8.2) 高 (3.9)	白色細粒微 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転)。体部に弱い張りを有し口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
346－3 184	土師器 甕	±0cm 破片	口 (20.0) 底 — 高 (10.2)	細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	胴部上位の張りが強く、口縁部は「く」字状に外傾し口唇部は平坦で外傾し中央に沈線状の凹みが巡っている。口縁部横撫で後胴部上半横位（右→左）の荒削り、内面は撫でを施す。	

第158号址

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
347－1	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (2.9)	黒色細粒少	酸化焔 硬質	灰白	輪積整形(右回転)。底部回転篦切り後回転篦削り（周辺のみか？）を施す。	
347－2	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色粒少	還元焔 硬質	灰	口縁部に段を有し、外面に波状文を施す。	厚 1.9 内外面に 自然釉
347－3	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 黒色粒少 砂粒微	還元焔 やや軟 質	赤灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.6 外面に自 然釉

第161号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
349－1 184	土師器 坏	覆土内 写残存	口 (12.4) 底 — 高 (3.5)	褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は荒削りを施す。	
349－2 184	土師器 坏	覆土内 写残存	口 (12.2) 底 — 高 (4.5)	褐色細粒多 細砂粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は比較的深い丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は荒削りを施す。	
349－3 184	土師器 高坏	－5cm 坏部完形	口 12.0 底 — 高 (4.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は平底気味で体部は直線的に外傾する。脚部は剥離していて不明。坏部外面は撫で？で内面は見込み部一方向、体部は6単位の篦磨き後内面黒色処理を施す。	内黒
349－4	須恵器 置	覆土内 破片	口 — 胴 (7.0) 高 (1.8)	黒色粒少 白色細粒少 黒色鉱物粒微	還元焔 硬質	灰白	輪積整形(右回転)。胴は大型の環状摘で、天井部回転篦削り後の貼付。	
349－5 184	土師器 小型甕	覆土内 1/2残存	口 (10.0) 底 — 高 (8.0)	細粒微 褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	胴部から底部は半球状で口縁部との境に強い段を有し、口縁部は反り気味に内傾する。口縁部は横撫で胴部斜位、底部付近は一方向の篦削りを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
349－6 184	土師器 小型壺	覆土内 ほぼ完形	口　12.4 底　— 高　8.4	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	胴部は扁平な球胴で、口縁部は反り気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は篦削りと考えられるが器面の磨滅が激しく不明瞭。	
349－7 184	土師器 甕	－8～ ±0cm 破片	口　(21.8) 底　— 高　(9.9)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒多	酸化焔 やや軟質	にぶい 橙	胴部の張りはなく、口縁部は強く外反する。口縁部横撫で後、胴部に縦位（下→上）の篦削りを施す。	口縁部外面に擬合痕
349－8 184	土師器 甕	覆土内 破片	口　(22.6) 底　— 高　(9.0)	片岩小礫少 細粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 軟質	にぶい 黄橙	胴部にわずかに張りを有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、胴部は縦位（下→上）の篦削りを施す。	
349－9 184	土師器 手捏ね ほぼ完形	覆土内 ほぼ完形	口　— 底　3.5 高　(2.5)	黒色鉱物粒微 白色細粒少	中性焔 硬質	にぶい 橙	底部は平底で、体部の張りは弱い。内面に指先の撫での痕を顕著に残している。	
349－10 184	土師器 甕	－2cm 破片	口　— 底　(3.8) 高　(25.1)	白・黒色鉱物 粒多 細砂粒多 褐色鉱物粒多	酸化焔 やや硬質	橙	胴部外面斜位（上→下）。底部付近斜位（上→下）の篦削りを施す。内面は斜位の篦撫でを施す。	内面底部に米粒状の炭化物付着
350－11 184	石　器 敲　石	3cm 完形	長　12.7 幅　7.1 高　3.5	石英閃緑岩			上端部と側端部に敲打痕がみられる。	重 491.0
350－12 184	石　器 囲編み石	±0cm 完形	長　13.9 幅　8.5 高　4.1	ひん岩			使用痕不明。	重 713.0

第164号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
351－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(11.0) 底　— 高　(3.0)	白・黒色鉱物 粒少 細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
351－2	須恵器 高　坏	覆土内 脚部破片	口　— 底　— 高　(9.5)	細砂粒微 褐色粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（？）。比較的長脚で、下半で強く「ハ」字状に開き、中位に２本の平行沈線を施す。坏部との接合面で剥離。	
351－3	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 褐色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　0.9

第165号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
353－1 184	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.2) 底　— 高　(2.8)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は外傾し口唇部はわずかに内側に屈曲する。口縁部は横撫で底部は篦削りで開に整形不明瞭な部分が認められる。	
353－2 184	土師器 坏	カマド内 破片	口　(12.9) 底　— 高　(2.9)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は平底気味の丸底で、口縁部は内摂する。口縁部は横撫で底部は篦削りを施す。	
353－3	土師器 坏	覆土内 破片	口　(14.2) 底　— 高　(3.1)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は平底気味の丸底で、口縁部はやや内摂気味に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
353－4	須恵器 坏	覆土内 与既存	口　(12.0) 底　(7.4) 高　(4.0)	褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。体部はやや反り気味に外傾する。底部は回転糸切り無調整。	
353－5	須恵器 壺	覆土内 破片	口　(15.1) 底　— 高　(6.2)	褐色粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は湾く外反する。底部切り離しは不明で、高台は剥離している。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
353－6 184	須恵器 蓋	17cm ほぼ完形	口 15.0 摘 3.0 高 4.2	白・黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は平坦で体部がやや反り、口縁部は下方に短く折れ曲がってる。摘は小振りの環状摘で天井部撫で状の回転篦削り後の貼付である。	
353－7	須恵器 蓋	3cm 与残存	口 (17.9) 摘 — 高 (2.0)	褐色粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は扁平でかえりは短く下方を向く。天井部外面には回転篦削りが施されている。	
353－8	須恵器 甕	腹上内 破片	口 — 底 — 高 (6.6)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り。高台は付高台。胴部下半に篦削りを施す。	外面自然釉
353－9	須恵器 甕	8cm 破片	口 (18.6) 底 — 高 (8.6)	褐色粒微	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。口縁部は強く外反し、上端で短く直立する。胴部外面格子叩き、内面青海波文。	
353－10	須恵器 甕	腹上内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焔 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.0
353－11	須恵器 甕	15cm 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少 細砂粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面細かな平行叩き、内面青海波文。	厚 1.4
353－12	須恵器 甕	腹上内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒多	還元焔 やや硬質	灰黄	紐作り叩き整形。外面格子叩き、内面青海波文。	厚 1.2
353－13 185	石器 敲石	9cm 完形	長 12.3 幅 6.5 厚 3.8	粗粒安山岩			上下端部と側端部に敲打痕剥離がみられる。	重 492.0
353－14 185	石器 敲石	腹上内 完形	長 16.0 幅 6.2 厚 4.2	石英安山岩			周端部に剥離がみられる。	重 588.0

第166号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
355－1 185	土師質 坏	8～11cm 与残存	口 10.2 底 5.2 高 3.3	黒色鉱物粒少 褐色細粒少 細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部は外反する。底部は回転糸切り無調整。	体部、底部に焼むらがある
355－2	土師質 坏	カマド掘り方 破片	口 — 底 (5.2) 高 (1.9)	黒色鉱物粒多 白色細粒少	中性焔 やや軟質	にぶい橙	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
355－3 185	土師質 埦	カマド内 与残存	口 11.3 底 5.8 高 5.0	細砂粒多 黒色鉱物粒多	中性焔 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。高台は付高台であるが乾燥時の外圧による変形を受けている。	高台内面にカーボン付着
355－4 185	土師質 埦	腹上内 ほぼ完形	口 10.5 底 6.2 高 5.1	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焔 硬質	にぶい橙	轆轤整形(右回転)。腰部の張りは比較的強く口縁部の外反はごく弱い。高台は底部回転糸切り後の付高台で、高台貼付のための撫でにより糸切り痕は中央部のみ観察できる。	
355－5	灰釉陶器 埦	カマド内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (3.4)	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。体部中位にやや張りを有し口縁部は外反しない。施釉は掛け掛け。	
355－6	須恵器 羽釜	腹上内 破片	口 (22.6) 底 — 高 (4.9)	細砂粒多	酸化焔 硬質	橙	紐作り轆轤整形。口縁部は短く直立し上端は平坦で水平である。鍔はやや反り気味で貼付は丁寧である。	
355－7	瓦 女瓦	±0cm 破片	厚 1.8	砂粒少 白色細粒少	中性焔 硬質	にぶい橙	一枚作り?。凹面にカーボン付着。	

第167号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
356－1 185	土師質 坏	覆土内 ほぼ完形	口　10.0 底　5.0 高　2.9	白・黒色鉱物 粒少 褐色細粒少	酸化焔 硬質	明褐	轆轤整形(右回転)。体部下半に弱い張りを有し、口縁部は外反する。底部は回転糸切り無調整。	底部糸切り痕不明瞭
356－2	須恵器 壺	覆土内 破片	口　— 底　(9.2) 高　(3.7)	黒色粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台はやや長頸で底部回転糸切り後の付高台と考えられる。	
356－3	須恵器 壺	覆土内 破片	口　(15.6) 底　— 高　(6.2)	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部の張り、口縁部の外反共にごく弱い。	
356－4	須恵器 甕	覆土内 破片	口　(25.9) 底　— 高　(5.5)	黒色鉱物粒多 白色細粒少	中性焔 やや軟 質	にぶい 黄橙	紐作り。口縁部は外傾し、上端は平坦で沈線状のくぼみが巡っている。	内面いぶし？
356－5 185	石　器 鹿編み石	3cm 完形	口　14.6 底　6.2 高　4.5	砂岩			使用痕不明。	重 552.0

第168号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
358－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(3.4)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬 質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
358－2	土師器 坏	カマド内 与残存	口　(13.0) 底　— 高　(2.7)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は短くわずかに外傾する。口縁部は横撫で底部は篦削りを施す。	
358－3	土師器 坏	覆土内 破片	口　(16.0) 底　— 高　(3.3)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く内傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで間に整形不明瞭な部分を顕著に残す。	
358－4	土師器 坏	覆土内 破片	口　(14.0) 底　— 高　(3.3)	細砂粒微 褐色細粒多	酸化焔 やや硬 質	橙	体部から口縁部にかけてやや内湾気味に外傾する。外面は口縁部横撫で後、体部に横位篦削り、内面は全面撫で後放射状暗文を施す。	
358－5	須恵器 坏	カマド内 破片	口　— 底　(9.6) 高　(1.6)	黒色細粒少 褐色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転篦削りが加えられ、切り離し技法は不明。	
358－6 185	須恵器 壺	カマド内 23cm 与残存	口　(12.0) 底　(5.6) 高　(4.9)	細砂粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は外反する。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。	
358－7 185	土師器 甕	4～7cm 破片	口　(21.1) 底　— 高　(17.3)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	明赤褐	胴部上半に張りを有し、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部の横撫では強く胴部の斜位の篦削りは撫で状であまりはっきりしない。内面は横位横撫で。	
358－8 185	石製品 砥　石	5cm 与残存	長　5.8 幅　5.1 厚　5.5	砥沢石			第1面とした面の使用が最も激しく中央部に向かっての傾斜が強い。	重 177.0
358－9 185	石　器 敲　石	±0cm 完形	長　15.9 幅　8.4 厚　4.1	粗粒安山岩			側端部から下端部にかけて明瞭な敲打痕がみられる。	重 707.0

第171号址

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
360－1 185	土師器 坏	±0cm ほぼ完形	口　11.6 底　— 高　4.4	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部中位に段を有し、外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成 色　調	器形・技法等の特徴	備　考
360－2	須恵器 蓋	6cm 破片	口　— 摘　(4.0) 高　(2.5)	白色細粒多	還元焔 硬質　灰	轆轤整形(右回転)。摘は厚状摘で天井部外面回転篦消り後の貼付である。	
360－3	須恵器 甕	13cm 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒多	還元焔 硬質　灰	紐作り叩き整形?。外面叩きは、自然釉のため不明。内面素文?。	厚　1.5

第174号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成 色　調	器形・技法等の特徴	備　考
361－1 185	須恵器 埦	覆土内 3/4残存	口　(13.6) 底　(8.2) 高　(4.6)	黒色細粒少 白色細粒少	還元焔 硬質　灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部はごくわずかに外傾する。高台は底部撫で整形後の付高台。	内面に褐色の付着物
361－2	須恵器 坏	覆土内 破片	口　— 底　(7.0) 高　(2.1)	黒色細粒多	還元焔 硬質　灰	底部回転糸切り無調整。	外面自然釉
361－3 185	須恵器 蓋	2cm 3/4残存	口　(15.4) 摘　(5.2) 高　(4.1)	黒色細粒多 白色細粒微	還元焔 硬質　灰白	轆轤整形(右回転)。天井部は平らで、口縁部はほぼ垂直に垂下する。摘は厚状摘で丁寧な貼付である。天井部から水平方向に突帯が巡るが、天井部側の貼付の痕跡を明瞭に残している。	
362－4 185	土師質 埦	2cm 3/4残存	口　(15.6) 底　— 高　(6.0)	砂粒多 黒色鉱物粒少 片岩小礫少	中性焔 硬質　にぶい橙	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部は外反しない。高台は剥離していないが底部回転糸切り後の付高台であるが、高台貼付に伴う撫でで糸切り痕は消されている。	
362－5	灰釉陶器 埦	覆土内 3/4残存	口　(12.6) 底　(6.6) 高　(4.7)	美濃系	灰白	轆轤整形(右回転)。体部中位の張りが強く口縁部はわずかに外反する。高台は付高台で底部は回転篦削りが施され切り離し技法は不明。施釉は漬け掛け。釉の発色は薄い。	体部内外面にハゼが激しい
362－6	灰釉陶器 埦	貯蔵穴12 cm 破片	口　(16.0) 底　— 高　(2.1)	美濃系	灰白	施釉は漬け掛け。	
362－7	須恵器 甕?	貯蔵穴11 cm 破片	口　(26.8) 底　— 高　(8.2)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	還元焔 硬質　黄灰	紐作り轆轤整形(右回転)。胴部の張りは強く、口縁部は直立し、上端は平坦で水平。鍔は短く断面三角形。	
362－8	瓦 男　瓦	覆土内 破片	厚　1.5	砂粒多 黒色細粒多	還元焔 硬質　灰	一枚作り。凹面布目は横位に粗く撫で消されている。	
362－9 185	石製品 砥　石	覆土内 3/4残存	長　(7.2) 幅　3.7 厚　1.3	砥沢石		4面が使用面で、内3面が中央に向かって傾斜している。	重　67.0

第176号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成 色　調	器形・技法等の特徴	備　考
364－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(11.0) 底　— 高　(2.7)	褐色細粒微	酸化焔 硬質　橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有しロ縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
364－2 185	土師器 坏	±0～13 cm ほぼ完形	口　12.4 底　— 高　3.6	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質　橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
364－3	土師器 坏	±0cm 破片	口　(12.5) 底　— 高　(3.7)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 軟質　橙	底部は丸底で、口縁部は短く「C」字状に内湾する。口縁部は横撫で、底部の篦削りは撫で部にまで及んでいる。	
364－4	土師器 坏	覆土内 破片	口　(19.0) 底　— 高　(4.3)	細砂粒少 褐色細粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質　橙	底部は深い丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で底部の篦削りは横撫で部に及んでいる。内面は丁寧な撫でが施されている。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
364－5	須恵器 蓋	覆土内 写残存	口　(17.0) 摘　－ 高　(2.6)	細砂粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転)。天井部は平坦で外面回転篦削り後に擬状摘を貼付している。内面かえりはごく短くわずかに内傾する。	
365－6	土師器 甕	覆土内 破片	口　(19.0) 底　－ 高　(8.3)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焔 やや硬質	にぶい橙	胴部上半に張りを有し、口縁部は強く外反する。口縁部横撫で後胴部上半に横位～斜位の篦削り、内面は横位の撫でを施す。	
365－7	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白色細粒多 黒色細粒微	中性焔 硬質	灰 (内面茶)	紐作り叩き整形。外面格子叩き、内面青海波文は粗く撫で消されている。	厚　0.8
366－8 185	石製品 白　玉	覆土内 完形	径　1.5 厚　0.7 孔　0.3	滑石			片面及び側面は比較的丁寧に研磨整形されているが、他の面は割面のままである。穿孔は一方向。	重　2.3
366－9 186	石　器 敲　石	4cm 完形	長　16.0 幅　5.3 厚　5.3	溶結凝灰岩			側面に剥離がみられる。	重 731.0
366－10 186	石　器 敲　石	±0cm 完形	長　12.1 幅　6.2 厚　3.8	粗粒安山岩			上下端部に敲打痕がみられる。	重 731.0
366－11 186	石　器 磨編み石	±0cm 完形	長　14.9 幅　7.0 厚　5.7	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 849.0
366－12 186	石　器 磨編み石	－2cm 完形	長　14.0 幅　5.8 厚　4.7	ひん岩			使用痕不明。	重 504.0

第177号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
368－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(11.0) 底　－ 高　(3.3)	黒色細粒微 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は短く外反する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
368－2 186	須恵器 埦	覆土内 写底部残存	口　－ 底　7.0 高　(2.9)	細砂粒少	還元焔 やや硬質	灰	輪積整形(右回転?)。底部は回転糸切りで高台は削り出し（撫で）によって作り出されている。底部切り離し痕はこの撫でに伴い大半消されている。	体部、底部の一部が胴化
368－3 186	須恵器 横　瓶	±0cm 口縁部残存	口　(7.6) 底　－ 高　(5.0)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	口縁部破片で、上半がごくわずかに内湾し中位に２本の平行沈線が巡る。	口縁部内面に自然釉
368－4	須恵器 羽　釜	カマド内 破片	口　(18.0) 底　－ 高　(8.9)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	中性焔 硬質	にぶい橙	紐作り輪積整形(右回転)。鍔貼付部に張りを有し、口縁部は内湾する。口縁部上端は平坦で水平を呈する。鍔部断面は台形状を呈し貼付は丁寧である。	
368－5	須恵器 羽　釜	5cm 破片	口　(18.0) 底　－ 高　(5.4)	小礫微 細砂粒少 黒色鉱物粒少	還元焔 硬質	灰白	紐作り輪積整形(?)。胴部上半に張りを有し口縁部は内傾する。口縁部上端は丸味が強い。	
369－6	須恵器 羽　釜	カマド脇 方　破片	口　(18.0) 底　－ 高　(9.5)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	中性焔 やや軟質	にぶい黄橙	鍔部下にわずかに張りを有し、口縁部は短く内傾する。口縁部上端は平坦で、ほぼ水平を呈する。胴部外面は、最位の弱い撫でが施されている。	
369－7	須恵器 羽　釜	－2cm 破片	口　(24.0) 底　－ 高　(13.4)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	中性焔 やや硬質	明黄褐	紐作り輪積整形(右回転)。鍔部下に強い張りを有し、口縁部は強く内傾し上端は平坦で内傾する。鍔はやや反り気味で、鍔上半が水平に近い。	外面にカーボン付着
369－8	瓦 女　瓦	－4cm 破片	厚　2.7	砂粒多 褐色粒多	中性焔 硬質	にぶい黄橙	一枚作り？。凹面に、粘土板糸切り痕が認められる。凸面は撫で。	

第178号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
370－1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (4.0)	褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い段を有し口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後底部に荒削りを施す。	
370－2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.8)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は反り気味に直立する。口縁部横撫で後底部に荒削りを施す。	
370－3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.5)	褐色細粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後底部に荒削りを施す。	
370－4	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (13.0) 摘 — 高 (2.2)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部は丸底状を呈し口縁部は水平方向にわずかに開く。内面かえりは短く内側に屈曲している。天井部外面に回転荒削りを施す。	
370－5	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (19.0) 摘 — 高 (2.5)	黒色粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。扁平な天井部を有し、内面のかえりは下方を向いている。天井部外面に回転荒削りを施す。	
370－6 186	須恵器 壺	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (6.5)	黒色細粒微 白色細粒微	還元焔 硬質	オリーブ灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。口縁部に段を有する。	内外面に薄く自然釉
372－7	土師器 甕	7cm 破片	口 (18.0) 底 — 高 (6.0)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 やや硬 質	橙	胴部に強い張りを有し、「C」字状に外反する口縁部を有する。口縁部横撫で後胴部に斜位の荒削り、内面に横位荒撫でを施す。	
372－8	土師器 甕	覆土内 破片	口 — 底 (9.6) 高 (3.6)	細砂粒少 黒色細粒多	酸化焔 やや硬 質	淡黄	やや突出する底部破片で、外面は縦位の撫でが施されている。	
372－9	須恵器 横瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒微 白・黒色細粒 少	還元焔 硬質	灰	外面にカキ目が施されている。	厚 1.3
372－10 186	須恵器 瓶	12cm 口残存	口 — 底 (6.0) 高 (7.0)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り轆轤整形(右回転)。平底で胴部はやや扁平な球形を呈する。底部は撫で調部上半は轆轤整形痕を残し、下半は回転荒削り(無状)を施す。	
372－11	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (7.0)	細砂粒少 褐色細粒少	還元焔 やや硬 質	浅黄橙	轆轤整形(?)。底部付近の破片で内外面共に轆轤使用の撫でが施されている。	
372－12	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色細粒 少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.9
372－13	須恵器 壺	15cm 破片	口 — 底 — 高 —	黒・褐色細粒 少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面格子叩き。内面格子状の面を有する当具使用。	厚 1.3
372－14 186	石器 剥編み石	覆土内 完形	長 10.6 幅 4.7 厚 3.6	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 293.0
372－15 186	石器 敲石	覆土内 完形	長 14.3 幅 6.0 厚 5.3	粗粒安山岩			上下端部に敲打痕と剥離がみられる。	重 530.0
372－16 186	石器 剥編み石	覆土内 完形	長 13.7 幅 5.6 厚 4.0	ひん岩			使用痕不明。	重 555.0
372－17 186	石器 敲石	覆土内 完形	長 12.0 幅 5.8 厚 4.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 360.0
372－18 186	石器 敲石	覆土内 完形	長 12.2 幅 6.5 厚 5.3	溶結凝灰岩			上下端部に敲打痕がみられる。	重 590.0

第179号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
373－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(13.0) 底　－ 高　(2.4)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は、短く内湾する。口縁部は横撫で、底部は荒削りを施す。	
373－2	土師器 坏	覆土内 破片	口　(13.0) 底　(6.2) 高　(4.0)	白・褐色細粒 少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で体部に張りを有し、口縁部は外反する。器面の磨滅が激しく整形は不明瞭。	暗文か？
373－3 186	須恵器 坏	覆土内 写残存	口　12.0 底　8.0 高　3.2	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて反り気味に外傾する。底部は回転篦調整を加え、この篦調整は脚部にも施されている。	
373－4	灰釉陶器 瓶	－2cm 破片	口　－ 底　(8.0) 高　(1.6)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。高台は三日月高台で底部回転糸切り後の付高台。底部の糸切り痕は非常に細かい。内面見込み部に重ね焼きの痕跡を残す。	内面にカーボン付着
373－5	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(18.0) 摘　－ 高　(1.7)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。非常に扁平な天井部を有し、口縁部は短く下方に突出する。天井部外面に回転篦削りを施す。	
373－6	須恵器 甕	±0cm 破片	口　－ 底　－ 高　－	褐色細粒多 硬質	還元焔	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文(同心円状)。焼成後外面からの穿孔が行なわれている。	厚　1.4
373－7	瓦 女　瓦	±0cm 破片	厚　1.8	小礫微 砂粒少	還元焔 硬質	にぶい 黄橙	一枚作り？。凹面布目は、粗く撫で消されている。凸面には縄叩きの痕跡が認められるが、凹面同様撫で消されている。側端部の面取りは2面。	
373－8 186	鉄　器 鎌	10cm 完形	長　(18.9) 幅　(4.0) 重　94.8				大形で先端部の曲がりの強い鎌である。柄装部の一部が直角に折り曲げられており、片側の2ヶ所に木質が付着している。	

第180号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
375－1	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(11.0) 底　－ 高　(2.2)	細砂粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転？)。受け部はやや外反し口縁部は内傾する。	
375－2 186	須恵器 瓶	±0cm 写残存	口　(12.8) 底　(6.6) 高　(4.0)	白色細粒少 褐色細粒少	中性焔 やや硬質	褐灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけてやや反り気味に外傾する。高台は底部回転糸切り後の付高台であるが貼付部から剥離している。	いぶし？
375－3	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	口縁部破片で、上端が外面に突出する。外面に櫛描波状文が施されている。	厚　1.4

第181号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
375－4 186	土師器 坏	覆土内 写残存	口　(13.6) 底　(7.8) 高　(3.5)	細砂粒微 褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	底部は厚手の平底で、体部から口縁部はやや内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で、体部は横位～斜位、底部一方向の荒削り、内面は撫で後体部側に斜放射状を組み合わせた格子状暗文を施文。	暗文
375－5	土師器 皿	覆土内 破片	口　(16.0) 底　－ 高　(3.5)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は強く外反する。口縁部は横撫で底部は荒削りを施す。	内面の磨滅が外面に比較して激しい
375－6	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　(7.6) 高　(4.4)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部にわずかに張りを有し、口縁部は内湾する。底部は回転篦切り無調整で突出する。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
375－7 186	土師器 鉢	±0cm 3/4残存	口 (22.0) 底 — 高 (9.5)	砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部はわずかに内湾し、口縁部は短く外反する。口縁部は横撫で、体部斜位の篦削り、底部及び内面は撫でを施す。	
375－8	土師器 鉢	覆土内 破片	口 (23.0) 底 — 高 (5.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 やや硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部は外反する。内面は比較的丁寧な撫でで、外面は口縁部横撫で後篦削りを施す。	
375－9	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (12.0) 高 (4.4)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(?)。体部は直線的に外傾し底部は回転篦削り後（?）の付高台。	
375－10	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.4
375－11 187	石器 敲石	4cm 完形	長 13.2 幅 6.8 厚 3.7	粗粒安山岩			上端部に剥離、下端部に敲打痕がみられ、全面にカーボンが付着。	重 585.0
375－12 186	鉄器 刀子	覆土内 破片	長 (5.5) 幅 (1.4) 重 9.3				刀身の方に若干木質部が残存している。	
375－13	鉄器 釘	覆土内 破片	長 (8.6) 幅 (1.0) 重 11.5				上下両端を欠損し直角に曲がっている。	
375－14 186	鉄器 不明	覆土内 —	長 (8.8) 幅 (0.6) 重 11.0				断面は長方形で、「コ」字状に曲げられている。接点はみられないが2個体は同一個体。	

第205号址

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
375－15	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (3.7)	砂粒微 褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	内外面黒色塗彩の可能性有

第183号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
379－1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (3.1)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施し、間に整形不明瞭な部分を明瞭に残す。	
379－2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (2.9)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底と考えられ、口縁部は短く内湾する。底部篦削り、口縁部横撫で共に器面の磨滅のため不明瞭。	
379－3 187	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口 (12.4) 底 — 高 (3.4)	白色細粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、口縁部は反り気味に外傾する。口縁部は横撫で、底部は不定方向の篦削りで、間に整形不明瞭な部分が認められる。	
379－4	土師器 坏	覆土内 破片	口 (15.2) 底 — 高 (5.2)	細砂粒少 白色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は比較的深い丸底で、口縁部は短く反り気味に内傾する。口縁部横撫で後底部に横位篦削りを施す。	器面の残存状態良好
379－5	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.9) 底 (7.6) 高 (4.6)	細砂粒微 白色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は平底で中央がわずかに窪み、体部から口縁部にかけて弱く内湾する。口縁部横撫で体部外面は横～斜位の篦削りと考えられるが器面が磨滅し不明瞭である。内面は撫で後、見込み部中央から体部にかけて放射状暗文を施す。底部は周辺部の篦削りが顕著である。	暗文
379－6	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焔 やや硬質	橙	口縁部の破片で、口縁部は横撫で、体部外面横位篦削り、内面は撫で後、放射状暗文を施す。	厚 0.5 暗文

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
379－7	土師器 杯　A？ 平城1？	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白色細粒少	酸化焔 硬質	橙	外面は撫で。内面は丁寧な撫で後細い放射状暗文を施す。胎土はパイ状を呈す。	厚　0.4 磨内面
379－8	土師器 坏	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	細砂粒多	酸化焔 硬質	橙	外面篦削り、内面撫で後放射状暗文施文。	厚　0.6 暗文
379－9	土師器 坏	覆土内 底部破片	口　－ 底　－ 高　－	細砂粒微 褐色粒微微	酸化焔 硬質	橙	底部は平底で、体部外面及び底部は篦削り、内面は撫で後体部放射状、見込み部ラセン暗文を施す。	厚　0.5 暗文
379－10 187	須恵器 坏	覆土内 ほぼ完形	口　12.6 底　7.6 高　3.8	細砂粒微 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部下半に弱い張りを有し、口縁部は外傾する。底部は回転篦削り無調整。	外面片側に自然釉
379－11 187	須恵器 坏	覆土内 ほぼ完形	口　12.6 底　7.0 高　3.7	細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部下半にわずかに張りを有し、口縁部は外傾する。底部は回転糸切り無調整。	
379－12	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(11.9) 底　(7.1) 高　(3.2)	褐色細粒少 白色細粒微	還元焔 やや硬質	灰	轆轤整形(右回転？)。体部の張りは弱く、底部は回転篦削りと考えられる。	
379－13	須恵器 坏	覆土内 破片	口　－ 底　(7.0) 高　(3.2)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰部に強い撫でが施され体部は直線的に外傾する。底部は切り離し後回転篦削りを施す。	
379－14 187	須恵器 坏	覆土内 ほぼ完形	口　12.6 底　7.2 高　4.1	褐色細粒多 白・黒色鉱物粒多	還元焔 やや硬質	灰黄	轆轤整形(右回転)。腰部に張りを有し、口縁部は直線的に外傾する。底部は回転糸切り後周辺手持ち篦削りを施す。	全体に厚手・胎土焼成共他と異質
379－15	須恵器 盤	覆土内 破片	口　(18.8) 底　－ 高　(3.6)	褐色細粒少	還元焔 やや硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部、高台は不明で体部に1段の稜曲を有し、口縁部は弱く外反する。	
379－16 187	須恵器 瓦	覆土内 瓦残存	口　(15.6) 底　(11.0) 高　(6.8)	細砂粒微 白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。腰部に張りを有し、口縁部は直線的に外傾する。高台は底部回転篦削り後の付高台。	
379－17	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(10.2) 鋸　－ 高　(1.3)	白色細粒微	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(？)。扁平な天井部を有し、外面は回転篦削りが施され、内面かえりは短くわずかに内傾する。	外面に自然釉
379－18	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(11.5) 底　－ 高　(3.0)	黒色細粒微	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転？)。底部は丸底で、受け部上面はほぼ水平であり、口縁部は弱く内傾する。底部は手持ち篦削りが施されている。	
379－19	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(10.6) 底　－ 高　(3.1)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は丸底で、受け部は短く水平にのび、口縁部はやや反り気味に内傾する。底部外面に回転篦削りを施す。	
379－20	須恵器 甕 鍋？	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	黒色粒少 細砂粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。口縁部は外反し上半が直立する。胴部外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.1
379－21	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	小礫微 白色細粒少	還元焔 硬質	暗灰	頸部破片で、外面に平行沈線と櫛描波状文を施す。	厚　1.3 内外面に自然釉
379－22	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	細砂粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面叩きは自然釉のため不明。内面青海波文。	厚　1.1
379－23	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白色粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.6
380－24	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白色細粒少 黒色細粒微	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　0.7
380－25 187	石製品 砥　石	覆土内 完形	長　7.2 幅　5.5 厚　4.0	軽石			全面が砥面として使用されている？。	重 121.0

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
380－26 187	石　製　品 砥　　石	覆土内 与残存	長　7.1 幅　5.8 厚　3.5	砥沢石			残存部で5面の使用面がみられ、中でも広い砥面の1、3面の使用の状態が顕著である。	重 162.0
380－27 187	石　　器 磨編み石	集石部6 cm 完形	長　13.0 幅　6.1 厚　3.4	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 413.0
380－28 187	石　　器 敲　　石	覆土内 完形	長　11.5 幅　5.3 厚　3.3	変質安山岩			側面にわずかに打痕がみられるが、使用に伴うとは考えられない。	重 320.0
380－29 187	石　　器 不　　明	覆土内 破片	長　(12.5) 幅　(5.6) 厚　(3.5)	粗粒安山岩			破片だが前面にカーボンが付着。	重 212.0
380－30 187	石　　器 敲　　石	覆土内 完形	長　12.4 幅　5.1 高　4.6	粗粒安山岩			上下両端部と側面に敲打痕がみられる。	重 347.0
380－31 187	石　　器 敲　　石	覆土内 与残存	長　(8.4) 幅　5.1 厚　2.8	石英閃緑岩			側面に剥離がみられ、半截されている。	重 217.0
380－32 187	石　　器 丸　　石	覆土内 完形	長　6.2 幅　4.7 厚　1.9	砂岩			使用痕不明。	重 68.0
380－33	鉄　　器 不　　明	覆土内 残存	長　(3.2) 幅　(0.2) 重　0.5				断面方形で先端部は尖っている。周辺の面がしっかりしているが、錆が剥離したものとも思われ釘の芯とも考えられる。	
380－34	土　師　質 黒色土器 不　　明	覆土内 破片	口　(11.8) 底　(6.0) 高　(4.5)	黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は平底と考えられ、体部中位に弱い張りを有し、口縁部は直線的に外傾する。整形に轆轤を使用したような感じを受けるが、不明瞭。内面は擦で後、黒色処理を施す。	内黒
380－35	須　恵　器 羽　　釜	覆土内 破片	口　(20.9) 底　— 高　(5.6)	細砂粒多 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	中性焔 硬質	橙	口縁部は直線的に内傾し、上端は平坦で内傾する。胴部は脚部まで下→上の箆削りが施されている。	

第184号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
381－1 187	土　師　器 坏	±0cm ほぼ完形	口　11.0 底　— 高　3.8	細砂粒微 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
381－2 187	土　師　器 坏	－2cm 与残存	口　(14.0) 底　— 高　(4.6)	細粒微 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部は短く反り気味に直立する。口縁部は横撫で後底部に箆削りを施す。	
381－3	須　恵　器 坏	覆土内 破片	口　(11.8) 底　(6.6) 高　(3.7)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。腰部に強い撫でを施し体部は直線的に外傾する。底部は回転糸切り無調整。	
381－4	須　恵　器 高　　坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　(2.5)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	脚部の破片で、2方の一段透しか?	
381－5	須　恵　器 内 面 硯	覆土内 破片	口　— 底　(18.2) 高　(4.5)	細砂粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	脚部下端に突帯を2帯巡らし、上半に縦位の線刻と方形の窓を空っている。	
381－6	須　恵　器 壺	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰赤	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　0.9
381－7 187	金属製品 耳　　環	±0cm 完形	径　2.5 厚　0.7				銅製金貼りであり、部分的に錆が認められる。断面は楕円形を呈する。	重　9.9

第187号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
383－1 188	土師器 坏	覆土内 与残存	口 (10.6) 底 — 高 (3.8)	褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に荒削りを施す。	
383－2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.0)	黒色鉱物粒少 細砂粒微	酸化焔 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は荒削りと考えられるが、器面の磨滅が激しく明瞭でない。	
383－3 188	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (3.5)	黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は荒削りを施す。	
385－4 188	土師器 不明	覆土内 —	長 2.1 短 1.8 厚 0.7	白色鉱物粒微	酸化焔 硬質	橙	手捏ねで整形され、剥離したとみられる面があることから、把手であったものか？	
385－5	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (15.0) 底 (7.0) 高 (4.0)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて内湾する。底部切り離しは不明。	
385－6	須恵器 横瓶	掘り方覆 土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 細砂粒少	還元焔 硬質	褐灰	脚部外面に細かなカキ目を施す。	厚 1.0

第188号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
387－1 188	土師器 坏	17cm 与残存	口 (10.0) 底 — 高 (3.0)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部にかけ荒削りを施す。	
387－2	土師器 坏	覆土内 与残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.0)	細砂粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は荒削りを施す。	器面の磨滅が激しい
387－3 188	土師器 坏	覆土内 与残存	口 (10.6) 底 — 高 (3.9)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に荒削りを施す。	
387－4 188	土師器 坏	覆土内 与残存	口 (12.8) 底 — 高 (3.7)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は反り気味に直立する。口縁部は横撫で底部は荒削りを施す。	
387－5	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.4)	細砂粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は弱く外反する。口縁部横撫で後、底部に荒削りを施す。	
387－6 188	土師器 坏	掘り方覆 土内 与残存	口 (13.0) 底 — 高 (4.7)	細砂粒微 黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焔 やや硬質	にぶい 黄褐	底部は丸底で、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は荒削りを施す。内外面に黒色のまく状の付着物が認められる。(うるしヲ)	内外面黒色塗彩
387－7	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.2)	褐色細粒多	酸化焔 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は外傾する。口縁部横撫で後底部に荒削りを施す。	内外面黒色塗彩
387－8	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.6) 底 — 高 (3.8)	白色細粒微	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く外反する。口縁部は横撫で、底部は荒削りを施す。	
389－9 188	土師器 坏	覆土内 与残存	口 (9.4) 底 — 高 (3.2)	雲母微粒少	酸化焔 軟質	灰白	丸底で口縁部が内湾する。器面が磨滅し、整形は不明。鼠内産土師器C田に近い器形である。	胎土、焼成は他と異点
389－10 188	土師器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 11.2 底 — 高 3.6	細砂粒少 白色鉱物粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部は横撫で、底部は荒削りと考えられるが、磨滅が進み不明瞭。	
389－11	土師器 坏	－5cm 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.8)	細砂粒微 褐色粒少	酸化焔 軟質	にぶい 黄橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾気味に外傾する。口縁部横撫で後底部に荒削りを施す。	内外面黒色塗彩

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
389−12	土師器 坏	カマド内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.3)	黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	丸底で、口縁部は内湾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。内面は丁寧な撫で後斜放射状の篦磨きを施す。	
389−13 188	須恵器 坏	−4cm 3残存	口 (10.0) 底 — 高 (3.2)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪鏡整形(左回転)。底部は丸底で、受け部はやや反り気味で口縁部は短く内傾する。底部に回転箆削りを施す。	
390−14	須恵器 高坏	掘り方覆 土内 3残存	口 (13.8) 底 — 高 (4.0)	白色細粒微	還元焔 硬質	灰	輪鏡整形(?)。受け部は水平に延び、口縁部は比較的長く、内傾する。底部には撫でが施され、脚部は欠損している。	
390−15 188	須恵器 蓋?	貯蔵穴 カマド内 3残存	口 (11.2) 摘 — 高 (3.8)	細砂粒微	還元焔 やや硬 質	灰白	輪鏡整形(左回転?)。底部は平底状の丸底で、口縁部がわずかに内湾する。底部は回転箆削りを施す。	内外面のハゲが激しい
390−16 188	須恵器 蓋	覆土内 3残存	口 (11.4) 摘 — 高 (3.4)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪鏡整形(右回転?)。天井部は丸底で、口縁部は直線的に外傾し、屈曲部に沈線を1本巡らせる。	
390−17	須恵器 蓋	掘り方覆 土内 破片	口 (12.0) 摘 — 高 (3.6)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	輪鏡整形(右回転)。天井部は扁平な丸底状を呈し、口縁部は直線的に外傾する。天井部と口縁部との境に2本の平行沈線を施し、天井部には回転箆削りを施している。	
390−18 188	須恵器 蓋	覆土内 完形	口 12.0 摘 — 高 4.4	細砂粒少	還元焔 硬質	にぶい 橙	輪鏡整形(右回転?)。天井部はやや突出気味の丸底状で口縁部はわずかに内湾する。天井部外面に手持ち箆削りを施す。	
390−19	須恵器 蓋	掘り方覆 土内 3残存	口 — 摘 — 高 (1.0)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪鏡整形(?)。天井部は平底状で、手持ち箆削りが施されている。	
390−20	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (4.0)	細砂粒微 白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 軟質	橙	胴部は短胴で、口縁部は反り気味に、直立する。口縁部は横撫で、胴部は箆削りと思われる。	
390−21	土師器 鉢	掘り方覆 土内 破片	口 (17.2) 底 — 高 (8.3)	白色鉱物粒多 褐色粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
390−22	須恵器 不明	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪鏡整形(右回転)。体部はやや内湾気味で口唇部は平坦で内傾する。体部外面に1本の沈線を巡らせる。	厚 0.8
390−23	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒微 黒色粒少	還元焔 硬質	灰白	輪鏡整形(?)。底部は手持ち箆削り、体部はカキ目を施す。	厚 1.2
390−24	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 砂粒微	還元焔 硬質	灰	格作り叩き整形。外面格子叩き、内面青海波文。	厚 0.8
390−25	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	格作り叩き整形。外面格子叩き、内面青海波文。	厚 1.0
390−26	須恵器 甕	±0cm 破片	口 — 底 — 高 —	黒色粒少	還元焔 硬質	浅黄	格作り叩き整形。外面平行叩き?、内面青海波文。	厚 2.4
390−27 188	石製品 白玉	掘り方覆 土内 完形	径 1.7 厚 0.8 孔 0.3	滑石			周辺の整形は打ち欠き後磨いている。穿孔は一方向。	重 3.7

第189号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
393−1 188	土師器 坏	覆土内 3残存	口 (12.6) 底 — 高 (4.3)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焔 やや軟 質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
393−2 188	土師器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 12.1 底 — 高 3.4	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で底部は箆削りを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
393－3 188	土 師 器 坏	カマド内 7cm 完形	口　12.0 底　— 高　3.8	細砂粒微 黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焔 やや軟 質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は荒削りを施す。	
393－4 189	土 師 器 坏	覆土内 3残存	口　(11.0) 底　— 高　(4.0)	褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は反り気味に直立する。口縁部横撫で後底部に荒削りを施す。	内外面黒色塗彩？
393－5 189	土 師 器 坏	6cm 完形	口　13.6 底　— 高　4.5	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焔 やや硬 質	にぶい 橙	底部は深い丸底で、口縁部との境にシャープな段を有し、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後底部周辺は横位、中央部一方向の荒削りを施す。	内面に黒色の付着物が認められる
393－6 189	須 恵 器 皿？	4cm ほぼ完形	口　15.0 底　— 高　3.3	白色細粒少	還元焔 硬質	褐灰	轆轤整形(右回転？)。底部は丸底で中央がわずかにくぼみ、口縁部がわずかに内湾する器形で、底部に手持ち荒削りを施す。蓋の可能性もある。	
393－7 189	須 恵 器 皿？	3cm ほぼ完形	口　14.4 底　— 高　2.9	白・黒色細粒少 白色鉱物粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。平底で体部から口縁部にかけてやや内湾気味に立ち上がる。底部は手持ち荒削りを施す。	
393－8	須 恵 器 瓶	覆土内 破片	口　— 底　(13.6) 高　(2.3)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(？)。腰部の張りが比較的強く体部は内湾気味と考えられる。高台は削り出し高台と考えられるもので、底部には削りが施されている。	
393－9	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口　— 摘　(4.8) 高　(2.7)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部外面回転荒削り後に環状摘を貼付。	
393－10	土 師 器 甕	覆土内 破片	口　(15.0) 底　— 高　(7.0)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 やや硬 質	橙	口縁部はわずかに外傾し、胴部の張りは、弱い。口縁部横撫で後胴部に斜位（下→上）の荒削りを施す。	内面の粗れが激しい
393－11	土 師 器 甕	覆土内 破片	口　(23.0) 底　— 高　(9.0)	砂粒多 褐色細粒多	酸化焔 やや軟 質	橙	口縁部は「C」字状に外反し、胴部の張りは弱い。口縁部は横撫で後、胴部に不定方向の撫で状の荒削りを施す。	
394－12	須 恵 器 瓶	覆土内 破片	口　— 底　(17.0) 高　(3.8)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り轆轤整形(？)。胴部外面に、カキ目(？)がわずかに認められる。	胴部外面下端に布圧痕
394－13	須 恵 器 瓶	覆土内 破片	口　— 底　(11.0) 高　(3.8)	白色細粒微 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰白	紐作り轆轤整形(？)。底部及び胴部下端に荒削りを施す。	
394－14	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き後カキ目、内面青海波文。	厚　0.8
394－15	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き後カキ目を施し、さらに器面に撫でを施す。内面は青海波文。	厚　1.2

第190号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
396－1 189	土 師 器 坏	13cm 3残存	口　(13.2) 底　— 高　(4.5)	細砂粒 褐色細粒少	酸化焔 やや軟 質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部周辺横位、中央部不定方向の荒削りを施す。	
396－2	土 師 器 坏	覆土内 破片	口　(13.0) 底　— 高　(3.0)	黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で口縁部は内傾する。口縁部横撫で後底部に荒削りを施す。削りは横撫で部にも及んでいる。	
396－3	須 恵 器 短 頸 壺	覆土内 破片	口　(10.0) 底　— 高　(2.3)	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(？)。口縁部は反り気味に直立し胴部の張りは強い。	
396－4	土 師 器 甕	覆土内 破片	口　(20.0) 底　— 高　(8.2)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	口縁部は「く」字状に外反し、胴部の張りは強い。口縁部は横撫で胴部外面は斜位（左→右）荒削り、内面は丁寧な撫でを施す。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
396－5	土師器 手捏ね	覆土内 破片	口　— 底　(8.2) 高　(2.5)	白色細粒少	酸化焔 やや軟 質	によい 黄橙	手捏ねで、底部に木葉痕が残り、内面は黒色処理した様に吸炭している。	
396－6 189	石　器 薦編み石	2cm 完形	長　13.2 幅　5.0 厚　3.7	輝緑岩			使用痕不明。	重 400.0

第191号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
398－1 189	土師器 坏	5cm ヲ残存	口　11.2 底　— 高　3.5	黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後底部に筆削りを施す。	
398－2 189	須恵器 坏	覆土内 ヲ残存	口　(12.8) 底　(10.0) 高　(3.8)	細砂粒微 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部はやや内湾気味に外傾し底部及び脚部に回転筆削りを施す。	
398－3 189	須恵器 平　瓶	11～15cm ヲ残存	口　— 底　— 高　(9.6)	細砂粒微 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り轆轤整形(右回転)。胴部から底部にかけてカキ目を施す。	内面に明瞭な接合痕を残す
398－4	土師器 甑	覆土内 破片	口　— 底　3.9 高　3.3	褐色粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや軟 質	橙	孔は単孔で、焼成前の2段階穿孔である。胴部下半は横位の筆削りである。	孔径 2.4
398－5 189	須恵器 短頸壺	4cm 脚部欠損	口　5.7 底　— 高　(16.7)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り轆轤整形(右回転?)。直立する口縁部と強く開く脚部を有し、胴部最大部に平行沈線と間に櫛描波状文を施す。器面全面は轆轤による撫で整形であるが胴部下半に回転筆削りの痕跡を残している。	
398－6	須恵器 壺	±0cm 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 褐色細粒少	還元焔 やや硬 質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き後横位の粗い撫で、内面青海波文。	厚　0.7
398－7 189	石製品 臼　玉	覆土内 完形	径　1.8 厚　0.9 孔　0.3	滑石			穿孔は一方向からで、表面に整形のための擦痕がみられる。	重　3.6
398－8 189	石　器 薦編み石	±0cm 完形	長　15.2 幅　7.4 厚　4.5	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 711.0

第192号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
399－1 189	土師器 坏	2cm 完形	口　11.0 底　— 高　2.9	細砂粒微 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後底部に筆削りを施す。	
399－2 189	土師器 坏	15cm 完形	口　12.0 底　— 高　3.6	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は反り気味に外傾する。口縁部横撫で後底部に筆削りを施す。	
399－3 189	土師器 坏	16cm 完形	口　11.2 底　— 高　3.1	細砂粒微 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	によい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で後底部周辺横位、中央不定方向の筆削りを施す。	
399－4	土師器 坏	覆土内 ヲ残存	口　(11.0) 底　— 高　(3.5)	細砂粒微	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は筆削りを施す。	
399－5	須恵器 甕	覆土内 破片	口　(21.0) 底　— 高　(10.5)	黒色鉱物粒多 細砂粒多 褐色細粒多	中性焔 やや硬 質	橙	胴部上半に最大径を有するものと考えられ、口縁部は弱く外反する。口縁部横撫で後、胴部に斜位（下→上）の筆削りを施す。内面は斜位の撫撫で。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
400－6	土師器 坏	覆土内 破片	口　(11.0) 底　— 高　(3.4)	褐色細粒少	酸化焔 やや軟 質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は屈曲しながら外傾する。口縁部は横撫で底部は篦削りで、内面は撫で後黒色処理を施す。	内黒
400－7 189	石　器 鷹編み石	3cm 完形	長　13.6 幅　7.0 厚　5.4	変質玄武岩			上端に剥離がみられるが、使用に伴うものとは考えられず、表面にカーボンが厚く付着している。	重 929.0
400－8 189	石　器 鷹編み石	6cm 完形	長　16.7 幅　5.1 厚　6.3	石英閃緑岩			側面にカーボン付着。	重 785.0
400－9 189	石製品 丸　玉？	覆土内 完形	長　1.1 幅　1.1 厚　0.8	蛇紋岩			研磨によって全体に丸味を出しているが、仕上げは比較的雑である。	重　1.5
400－10 189	石　器 鷹編み石	覆土内 写残存	長　(9.7) 幅　7.0 厚　3.7	ひん岩			半截されているが、半截面に使用痕はみられない。	重 395.0

第193号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
401－1 190	土師器 坏	13cm 写残存	口　(12.0) 底　— 高　(3.8)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少 褐色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は内湾気味に外傾する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
401－2 190	土師器 坏	7cm 写残存	口　(11.4) 底　— 高　(3.7)	細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は強く外傾する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
401－3	土師器 坏	覆土内 破片	口　(11.0) 底　— 高　(3.3)	黒色鉱物粒少 細砂粒少 褐色粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は直立する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
403－4	土師器 坏	10cm 破片	口　(18.6) 底　— 高　(5.8)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	色調が肌色に近い
403－5	土師質 黒色土器 坏	覆土内 写残存	口　(19.0) 底　— 高　(7.0)	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焔 軟質	橙	底部は平底気味の丸底で、体部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後体部に斜位の篦削りを施す。内面は撫で後黒色処理。	
403－6	土師器 坏	9cm 破片	口　(17.2) 底　— 高　(4.7)	白色細粒微 褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部はわずかに外反する。口縁部は横撫で底部は篦削りを施す。	
403－7	須恵器 瓶	覆土内 口縁部の み完形	口　9.0 底　— 高　(5.5)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	軸轆整形(右回転？)。わずかに反り気味に開く器形で、口唇部は平坦でわずかに外傾する。	
403－8 190	須恵器 高　坏	3cm 坏部写残 存	口　(12.0) 底　— 高　(9.5)	白色細粒多 褐色粒微	還元焔 硬質	灰	体部は深く、口縁部との境に比較を巡らし、口縁部は、内傾し櫛描波状文を巡らせる。脚部は欠損し不明であるが三方透しの痕跡が認められる。	外面に自然釉

第195号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
405－1	土師器 坏	カマド内 写残存	口　(10.8) 底　— 高　(3.0)	白・黒色鉱物 粒少 細砂粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は平底で、体部は外傾し、口縁部上端がわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。体部内面にわずかに指頭痕が認められる。	杯Aの模倣か

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
405－2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.6)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに外反する。口縁部横撫で後体部及び底部に箆削りを施す。内面は丁寧な撫で後体部に放射状、見込み部にラセン暗文を施す。	暗文
405－3 190	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 軟質	橙	体部はやや内湾気味で、口縁部は弱く外反する。口縁部は横撫で、体部は箆削りを施す。内面は丁寧な撫で後斜放射状暗文を施す。	厚 0.4 暗文
405－4 190	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 軟質	橙	体部は破片で、外面箆削り、内面は撫で後放射状暗文。	厚 0.3 暗文
405－5 190	土師器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 (6.0) 高 —	白色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	大型の蓋摘部？で、摘周縁は箆削りされている。	
405－6 190	須恵器 坏	貯蔵穴8 cm 3/4残存	口 (13.6) 底 (4.2) 高 (3.4)	褐色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部はごくわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
405－7 190	須恵器 埦	3cm 3/4残存	口 (14.4) 底 (8.4) 高 (7.2)	黒色細粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけわずかに内湾気味に外傾する。高台は底部回転糸切り後の付高台で、底部の糸切り痕は高台貼付に伴い撫で消されている。	
405－8	須恵器 蓋	カマド掘 り方 破片	口 (18.0) 摘 — 高 (3.0)	砂粒少 白色粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。やや器高の高い蓋で、口縁部先端内面に稜を有する。	
405－9	須恵器 長頸瓶	カマド内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 白色粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形。肩部破片で、肩部に3本の逆行沈線と間に櫛状工具による刺突を施す。また頸部周辺にはカキ目が施されている。	厚 0.8
405－10	須恵器 甕	6cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒微	還元焔 硬質	灰	細作り叩き整形？。叩き具等不明。	厚 0.8 外面に自然釉
405－11	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (21.0) 底 — 高 (7.5)	黒色鉱物粒多 白色鉱物粒少 褐色粒多	中性焔 硬質	橙	紐作り轆轤整形？。胴部の張りは弱く、口縁部は直立し、口唇部は平坦で水平である。鍔は断面三角形で、比較的丁寧に貼付されている。外面鍔部下は縦位の箆削り（撫で状）が施されている。	
405－12 190	瓦 男瓦	±0cm 1/4残存	厚 2.3	砂粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。凸面は縦位箆削りを施し、箆描きの文字？がみられる。側端部の面取りは2面。	
405－13 190	鉄器 刀子	覆土内 破片	長 4.9 幅 1.1 重 3.5				先端部の破片である。	
405－14 190	鉄器 釘	覆土内 破片	長 2.8 幅 0.4 重 1.3				頭部破片で、頭部上半は剥離している。断面は方形。	
405－15 190	石製品 臼玉	カマド内 1/4残存	径 1.8 厚 0.5 孔 —	滑石			周辺は磨いて整形され、片面の整形は雑。	重 1.4
405－16 190	石器 薄編み石	覆土内 完形	長 12.6 幅 6.0 厚 4.1	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 442.0

第195号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
407－1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.4) 底 — 高 (2.9)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は、やや外傾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、間に整形不明瞭な部分が残る。	
407－2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.2) 底 — 高 (3.4)	黒色鉱物粒少 褐色細粒少	酸化焔 やや硬質	にぶい 黄橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで間に整形不明瞭な部分がみられる。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目（cm） 量目（g）	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備　考
407－3 190	土師器 坏	－2～ －5cm 与残存	口（14.2） 底　－ 高（3.5）	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は平底状の丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は荒削りで、体部の整形は不明瞭。	
407－4	土師器 坏	覆土内 破片	口（13.6） 底　－ 高（3.0）	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で底部は荒削りで間に整形不明瞭な部分が残る。	
407－5	土師器 坏	覆土内 破片	口（11.6） 底　－ 高（3.4）	黒色鉱物粒多 細砂粒少	還元焔 硬質	灰	底部は丸底で、口縁部は直立する。口縁部横撫で後底部に荒削りを施す。	内面まで還元されている
407－6	土師器 坏	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	黒色鉱物粒微 細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は平底で、体部の張りが比較的強い。底部及び体部外面は荒削りで、内面は撫で後見込み部にラセン、体部に斜放射状暗文を施す。	厚　0.6 暗文
407－7 190	須恵器 壺	覆土内 与残存	口（17.0） 底（11.0） 高（5.5）	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。腰部に弱い張りを有し口縁部はわずかに外反する。高台は底部と腰部回転荒削り後の付高台。	
407－8	須恵器 壺	－8cm 破片	口（19.0） 底（13.0） 高（3.8）	黒色細粒多 細砂粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。体部は強く外傾し、口縁部は外反する。高台は底部回転荒削り後の付高台。	
407－9	須恵器 壺	覆土内 与残存	口（12.6） 底（9.6） 高（3.4）	細砂粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。体部は短く直線的に外傾する。高台は底部回転の撫で整形後の付高台。	外面に薄く自然釉
407－10	須恵器 壺	7cm 破片	口（12.8） 底　－ 高（6.4）	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。器厚はやや厚手で、体部から口縁部にかけて強く内湾する。体部外面下半に回転荒削りを施す。	
407－11	須恵器 蓋	覆土内 破片	口（11.4） 摘　－ 高（1.5）	細砂粒微 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。天井部は張りが弱く、口縁部はわずかに反り気味である。内面のかえりは短く、内傾する。天井部外面は広範囲にわたって回転荒削りを施す。	
407－12	須恵器 蓋	覆土内 破片	口（12.8） 摘　－ 高（2.2）	白色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。天井部に1段の屈曲を有し、口縁部は短く直立する。天井部外面に回転荒削りを施す。	
407－13	須恵器 蓋	覆土内 破片	口（16.8） 摘　－ 高（1.3）	黒色細粒少 白色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（？）。口縁部は比較的厚手で、わずかに内湾する。内面かえりは短く、かなり内側寄りに認められる。天井部外面に回転荒削りを施す。	外面に薄く自然釉
407－14	須恵器 蓋	覆土内 破片	口（15.0） 摘（4.1） 高（1.5）	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形（右回転）。非常に扁平な器形で、端部が短く下方に屈曲する。摘は擬状摘で貼付は比較的丁寧である。	第18号溝の破片と接合
407－15 190	須恵器 蓋	－7cm 与残存	口（10.6） 摘　－ 高（2.5）	白色細粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転？）。天井部は平坦で、口縁部はわずかに外傾し、先端が外反する。天井部と口縁部との屈曲部には水平に延びる突帯がみられる。	
407－16	須恵器 蓋	覆土内 破片	口（14.0） 摘　－ 高（1.6）	細砂粒微 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	短頸壺の蓋と考えられるもので、水平方向に張り出す突帯と、上方への短い突帯が認められる。	外面に薄く自然釉
408－17 190	須恵器 瓶	－3cm 破片	口　－ 底（12.6） 高（6.0）	褐色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り轆轤整形（右回転）。高台は底部及び胴部下半回転荒削り後の付高台。	
408－18	須恵器 壺	2cm 破片	口　－ 底　－ 高　－	褐色粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	口縁部破片で、口縁部上端に3帯の突帯を巡らし、下半に平行沈線と波状文を施す。	厚　1.1
408－19	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	黒色粒多 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り轆轤整形。肩部外面に平行沈線と櫛状工具による刺突を施す。	厚　1.1
408－20	須恵器 長頸瓶	10cm 破片	口　－ 底　－ 高　－	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り轆轤整形（？）。肩部に2本の平行沈線を巡らし、間に櫛状工具の連続刺突を施す。	厚　0.8
408－21	須恵器 壺	住居外19 cm 破片	口　－ 底　－ 高　－	褐色粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.8 外面に自然釉

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
408－22	須恵器 甕	±0cm 破片	口 － 底 － 高 －	白色細粒多 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.7 外面に薄く自然釉
408－23	須恵器 甕	6cm 破片	口 － 底 － 高 －	白色鉱物粒微 黒色鉱物粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.2
408－24	須恵器 甕	覆土内 破片	口 － 底 － 高 －	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.4
408－25	須恵器 甕	覆土内 破片	口 － 底 － 高 －	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は不定方向のカキ目？。内面青海波文。	厚 0.6
408－26 191	瓦 鎧瓦	±0cm 破片	厚 2.7	細砂粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	瓦当面の匂残存。単弁四葉。	
408－27 191	鉄器 釘	覆土内 完形	長 (7.4) 幅 (0.6) 重 10.3				頭部平面形は円形を呈する。全体に短い。	

第197号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
410－1	須恵器 羽釜	カマド内 ±0cm 破片	口 (22.0) 底 － 高 (13.8)	細砂粒少 褐色細粒多	中性焔 硬質	橙	紐作り輪積整形。口縁部はわずかに内傾し、口唇部は平坦で、弱く内傾している。胴部の張りは弱く、鍔の貼付は丁寧である。	
410－2 191	須恵器 羽釜	カマド内 破片	口 (20.3) 底 － 高 (14.3)	細砂粒多	中性焔 硬質	黒褐	紐作り輪積整形(右回転)。胴部上半の張りは強く、口縁部は内傾し、上端は平坦で沈線状の窪みが巡っている。胴部内外面に明瞭な接合痕を残す。	内外面いぶし？
410－3	須恵器 甕	覆土内 破片	口 － 底 － 高 －	白色細粒多 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は、細かな平行叩き？(条線状)で、阻由する平行沈線が施されている。内面は青海波文であるが、器面の磨滅で不明瞭。	厚 1.5
410－4	瓦 女瓦	－2cm 破片	厚 1.9	白色細粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	青灰	一枚作り？。凸面は撚糸文状の縄文が施され1面に砂が付着。凹面布目は非常に明瞭に残存。	
410－5	瓦 女瓦	－6cm 破片	厚 1.9	細砂粒少 褐色粒少	中性焔 硬質	橙	一枚作り？。凸面斜格子叩き。凹面は縦位無でを施す。	
411－6	須恵器 甑	覆土内 破片	口 － 底 － 高 －	黒色細粒少 白色細粒少	還元焔 やや硬質	灰白	底部破片で、外面に断面台形状の突帯がみられる。	厚 1.2
411－7	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 2.0	砂粒少 褐色粒少	中性焔 硬質	灰白	一枚作り？。凸面縦位の撚糸状の縄文は無で消されている。凹面布目も縦位に粗い無でが施されている。側端部及び広端部面取りは2面。	
411－8 191	石製品 臼玉	覆土内 3/4残存	径 (1.4) 厚 (0.7) 孔 －	滑石			調整時の欠損もあり、残存状態は不良。	重 0.7
411－9 191	石器 画編み石	覆土内 完形	長 11.4 幅 5.2 厚 3.5	デイサイト			使用痕不明。	重 265.9

第199号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
414－1 191	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口 14.4 底 － 高 3.6	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後底部に一方向の荒削りを施す。	
414－2	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口 (15.0) 底 － 高 (4.5)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はやや内湾気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は荒削りで間に整形不明瞭な部分が認められる。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
414－3	須恵器 高　坏	覆土内 与残存	口　— 底　(8.8) 高　(8.5)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転？)。坏部底部は回転箆削りが施され、脚部は短脚で、透しは認められない。	外面に薄く自然釉。
414－4	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き後全面に撫でを施し、等間隔にカキ目を横位に施す。内面は青海波文。	厚　0.7
414－5	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り轆轤整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.0
414－6 191	石　器 磨編み石	覆土内 完形	長　15.5 幅　7.2 厚　4.1	ひん岩			使用痕不明。	重 742.0

第200号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
416－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(11.8) 底　— 高　(2.2)	白・黒色細粒微 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部は反り気味に直立し、底部は丸底である。口縁部は横撫で後底部に箆削りを施す。	
416－2	土師器 坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白・黒色細粒少	酸化焔 やや硬質	にぶい 橙	底部は平底で、体部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後体部外面及び底部に箆削り、内面は撫で後斜放射状暗文を施す。	厚　0.8 暗文
416－3	土師器 坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焔 やや軟質	にぶい 橙	口縁部はわずかに内湾する器形で、口縁部横撫で後体部外面斜位の箆削り、内面撫で後放射状暗文施文。	厚　0.7 暗文
416－4	須恵器 境	覆土内 破片	口　(13.0) 底　(9.8) 高　(3.3)	白・褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾し高台は底部回転箆削り後の付高台。	
416－5	須恵器 境	覆土内 破片	口　— 底　(10.0) 高　(2.0)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は削り出し高台で不明瞭。	

第201号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
419－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(3.4)	褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し口縁部は外傾する。器面が磨滅し、不明瞭であるが、口縁部は横撫で底部は箆削りと思われる。	
419－2	須恵器 境	覆土内 破片	口　— 底　(15.6) 高　(2.6)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転？)。高台は底部調整後の付高台。	
419－3	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	外面に低い突帯と波状文を巡らす。	厚　1.1
419－4 191	石　器 不　明	覆土内 破片	長　(11.4) 幅　(10.1) 厚　(2.9)	粗粒安山岩			裏面は剥離している。	重 439.0

第202号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
421－1	土師質 境	覆土内 破片	口　(16.0) 底　— 高　(4.4)	黒色鉱物粒多 細砂粒少 褐色細粒多	還元焔 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。体部の張り出し弱く、口縁部は強く外反し、内側に明瞭な稜を有する。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
421－2	須恵器 坏	覆土内 破片	口　— 底　(6.0) 高　(1.8)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
421－3	土師質 坏	覆土内 破片	口　— 底　(7.0) 高　(0.7)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	還元焔 硬質	浅黄	轆轤整形(右回転)。底部は静止糸切り無調整。	
421－4	須恵器 羽　釜	±0cm 破片	口　(20.6) 底　— 高　(6.7)	黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	口縁部以外に轆轤調整痕を残さない。口縁部はわずかに外反し、胴部に、弱い張りを有する。鍔の貼付は上面は丁寧だが、下面は雑である。胴部外面の調整は不明瞭で、接合痕を残している。内面は斜位の撫で。	
421－5	瓦 男　瓦	カマド内 10cm破片	厚　1.7	白色細粒多	中性焔 硬質	橙	凸面は横位に強く撫でられている。	
421－6 191	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚　2.2	片岩小礫微 細砂粒少	還元焔 硬質	にぶい 橙	一枚作り？側端部面取りは2面。凹面は布目を明瞭に残し、凸面は全面雑な撫でで「井」の箆描き文字が認められる。	

第203号址

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
423－1	須恵器 埦	覆土内 破片	口　— 底　(11.6) 高　(1.5)	褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(？)。高台は付高台で、底部は回転箆切り無調整か、回転箆調整かの判断ができない。	

第204号址

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
423－2 191	土師器 坏	覆土内 完形	口　12.3 底　— 高　3.4	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は平底状の丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで間に整形不明瞭な部分がみられる。	

第214号址

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
423－3	灰釉陶器 埦	覆土内 破片	口　— 底　(9.0) 高　(2.7)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。見込み部に指先の撫での痕跡あり。施釉技法は残存部が少なく不明。	見込み部に重ね焼き痕
424－4	須恵器 羽　釜	覆土内 破片	口　(20.0) 底　— 高　(8.7)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転？)。胴部の張りは弱く、口縁部は短く直立する。口唇部は平坦で水平である。鍔は厚く貼付は丁寧である。内外面共轆轤整形痕を残している。	
424－5	瓦 男　瓦	－3cm 破片	厚　1.8	砂粒少 黒色粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。凹面に粘土状糸切り痕、凸面は雑な撫でを施す。	
424－6	瓦 男　瓦	覆土内 破片	厚　1.5	細砂粒少 褐色細粒多	還元焔 やや硬質	にぶい 橙	一枚作り？。側端部、広端部共面取りは一面凸面は撫で状の箆削りを施す。	
424－7 191	鉄　器 刀　子	±0cm 破片	長　(13.1) 幅　(1.5) 重　23.3				茎と先端の一部を欠損する。刃部側の鎬による破損が特に激しい。	

第206号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
425－1 191	土師器 坏	覆土内 ほぼ完形	口　(11.4) 底　— 高　(3.8)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、間にごくわずか整形不明瞭な部分がみられる。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
425－2 191	土師器 坏	カマド内 写残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.1)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	内外面黒色塗彩
425－3 191	土師器 坏	カマド内 写残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.1)	細砂粒多 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
425－4 191	石器 礫石	±0cm 破片	長 (8.9) 幅 (7.0) 厚 (3.6)	石英閃緑岩			上下四端部欠損の。前黒曜共剥離が激しい。	重 292.0
425－5 191	石器 礫石	±0cm 完形	長 16.0 幅 6.7 厚 4.2	黒色頁岩			側面に剥離面を持つ。	重 763.0

第207号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
428－1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (4.0)	細砂粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で底部は箆削りを施す。	
428－2	土師器 坏	覆土内 写残存	口 (11.6) 底 — 高 (3.5)	褐色粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い段を有し口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
428－3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (18.0) 底 — 高 (7.0)	黒色細粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
428－4	須恵器 坏	覆土内 写残存	口 (8.8) 底 — 高 (3.5)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は丸底で、受け部は鋭く斜上方を向き、口縁部は長く反り気味に強く内傾する。底部に回転箆削りを施す。	
428－5	須恵器 高坏	2～5cm 写残存	口 (12.0) 底 — 高 (11.8)	細砂粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。坏部は丸底状で、口縁部との境に鋭い稜を有し、口縁部は直線的に直立する。脚部は「八」字状に開く長脚のものであるが、透しはみられない。坏部底部に回転箆削りを施す。	
428－6	須恵器 高坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (7.2)	黒色円粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。透しはなく短脚で、下半が強く開く。坏部は接合面で剥落している。	
428－7	須恵器 甕	貯蔵穴17cm 破片	口 13.2 底 — 高 (4.4)	白色細粒多 細砂粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は平行叩き?、内面青海波文。	
428－8	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.1
428－9	須恵器 横瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形。外面にカキ目、内面撫で。	厚 0.9
428－10	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 白色鉱物粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。頸部には、突帯が巡る。	厚 1.9 外面に薄く自然釉
428－11	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.3 内外面薄く自然釉
428－12 192	石器 礫石	覆土内 破片	長 (10.7) 幅 (5.9) 厚 (2.9)	粗粒安山岩			下端部欠損。裏面は剥離している。	重 232.0
428－13	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.5)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成 色　調	器形・技法等の特徴	備　考
428－14	土師器 坏	覆土内 ½残存	口　(13.0) 底　— 高　(3.0)	白色細粒微 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篦削り。内面は撫で後放射状の篦磨きを施す。
428－15	土師器 坏	覆土内 破片	口　(14.0) 底　— 高　(3.0)	褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との間に弱い段を有し口縁部はわずかに外反する。口縁部は横撫で底部は篦削り、内面は撫で後放射状の篦磨きを施す。
428－16 192	須恵器 坏	覆土内 ½残存	口　(13.7) 底　— 高　(4.3)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は外反しない。底部は回転糸切り後、底部周辺に回転篦削りを施す。
428－17 192	須恵器 坏	覆土内 ½残存	口　(13.0) 底　(8.4) 高　(3.7)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	輪積整形(右回転)。体部の張りはほとんどみられず、口縁部も外反しない。底部は回転糸切り無調整と考えられる。
428－18	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　(8.0) 高　(4.4)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転)。体部に弱い張りを有する。底部は回転糸切り後、周辺に篦削りを施す。
428－19	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　(7.0) 高　(3.2)	黒色細粒少 白色細粒微	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転？)。体部は浅く、口縁部はわずかに外反する。底部と腹部に回転篦削りを施す。
429－20	須恵器 坏	覆土内 ½残存	口　(12.0) 底　(5.8) 高　(3.9)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部外面にはカキ目状の輪積調整痕がみられる。
429－21	須恵器 壺	覆土内 破片	口　(12.0) 底　(7.8) 高　(3.5)	白色細粒微	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転？)。高台は底部回転篦削り後の付高台。
429－22	須恵器 壺	覆土内 破片	口　— 底　(16.0) 高　(2.2)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転)。高台は底部回転篦削り後の付高台。底部切り離しは中央部分の痕跡から回転糸切りの可能性がある。
429－23	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　— 摘　(14.0) 高　(1.5)	細砂粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪積整形(？)。天井部だけの残存で摘と口縁部が欠損する。	外面に自然釉
429－24	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(20.0) 摘　— 高　(2.7)	黒色円粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転？)。天井部に弱い張りを有し、口縁部は短く屈曲する。天井部外面に回転篦削りを施す。
429－25	土師器 甕	覆土内 破片	口　(20.0) 底　— 高　(6.3)	砂粒少	酸化焔 やや硬質	にぶい黄橙	口縁部は「く」字状に外反する。口縁部は横撫で、胴部は斜位の篦削りで、口縁部に篦が当たっている。
429－26 192	土師器 甕	覆土内 ½残存	口　(21.4) 底　— 高　(20.4)	細砂粒多 白・黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	胴部上半に張りを有し、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部横撫で後、胴部上半横位(右→左)下半縦位(上→下)の篦削りを施す。
429－27	須恵器 甕	覆土内 破片	口　(28.0) 底　— 高　(2.8)	黒色円粒少	還元焔 硬質	灰	口縁部破片で、上端に段を有する。
429－28	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚　2.3	砂粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取り2面。凹面に粘土板糸切り痕あり。凸面は縄叩き後、撫でを施す。側端部付近に布目の痕跡あり。

第252号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成 色　調	器形・技法等の特徴	備　考
430－1 192	土師質 埦	カマド内 9cm ½残存	口　(14.7) 底　9.0 高　(5.8)	黒色鉱物粒多 白色細粒少	酸化焔 硬質	にぶい橙	輪積整形(左回転？)。体部中位にわずかに張りがあり、口縁部は弱く外反する。高台はやや長脚で、付高台である。
430－2	土師器 坏	カマド内 破片	口　(13.0) 底　— 高　(3.5)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 やや軟質	橙	底部は平底気味で、やや内湾気味に立ち上がる器形で、外面は口縁部横撫で、底部篦削りで間に整形不明瞭な部分がみられる。
430－3	須恵器 羽　釜	カマド内 －3cm ½残存	口　(10.6) 底　— 高　(6.4)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	中性焔 硬質	橙	輪積整形(？)。鍔は下向きに貼付られ、口縁部は短く直立する。胴部は縦位の篦削り、内面は横位撫で。

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
430－4	瓦 女　瓦	2cm 破片	厚　1.9	白色細粒少	酸化焔 硬質	橙	一枚作りで。側端部面取り2面。凹面に粘土板糸切り痕をわずかに残す。凸面は調叩き。	
430－5 192	石　器 燕編み石	±0cm ほ残存	長　(11.6) 幅　(6.5) 厚　(5.0)	ひん岩			前面と側面が磨滅している。下端には剥離がみられる。	重 724.0

第208号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
433－1	土師器 坏	覆土内 ほ残存	口　(13.6) 底　— 高　(2.9)	細砂粒微	酸化焔 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
433－2	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(3.0)	細砂粒微	酸化焔 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は強く外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
433－3	土師器 坏	覆土内 破片	口　(16.6) 底　— 高　(5.0)	褐色細粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
433－4	土師器 坏	覆土内 破片	口　(17.0) 底　— 高　(4.5)	褐色細粒微	酸化焔 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
434－5	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(13.0) 底　— 高　(2.8)	黒色細粒微	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(?)。底部は扁平な丸底で、受け部は水平に延び、口縁部は短くわずかに内傾する。	
434－6 192	須恵器 坏	覆土内 完形	口　10.2 底　— 高　3.6	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は丸底で、受け部は反り気味で、口縁部は内傾する。底部は回転篦削りが施され、内面見込み部には、2本指のひと撫でが施されている。	
434－7	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(12.0) 摘　— 高　(3.3)	黒色細粒微	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部は丸底状で口縁部との境に段を有し口縁部はわずかに外傾する。天井部外面は撫で状の回転篦削りを施す。	
434－8	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(12.0) 摘　— 高　(3.5)	細砂粒微 白色細粒微	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部は扁平な丸底状で、口縁部は外傾する。天井部外面は回転篦削りを施す。	
434－9	土師器 坏	覆土内 ほ残存	口　(11.2) 底　— 高　(2.9)	黒色鉱物粒微 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立し、沈線状の窪みが巡っている。口縁部は横撫で、直下に横位撫で、底部は一方向の撫でを施す。	
434－10	土師器 坏	覆土内 ほ残存	口　(13.0) 底　— 高　(2.8)	白・黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、間に指頭痕状細砂粒微の押圧の痕跡が残る。	
434－11	土師器 坏	覆土内 ほ残存	口　(13.0) 底　— 高　(2.9)	細砂粒微 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部直立する。口縁部は横撫で、底部は一方向の篦削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
434－12 192	土師器 坏	覆土内 ほ残存	口　(13.0) 底　— 高　(3.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部はわずかに内湾気味に直立する。口縁部は横撫で。底部は篦削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
434－13 192	土師器 坏	覆土内 ほ残存	口　(13.3) 底　— 高　(3.5)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は、短く直立する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで間に整形不明瞭な部分がみられる。	
434－14 192	土師器 坏	覆土内 ほ残存	口　(13.4) 底　— 高　(3.1)	黒色鉱物粒少 白色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで間に整形不明瞭な部分があり、この部分に明瞭な接合痕がみられる。	
434－15	土師器 坏	覆土内 破片	口　(13.0) 底　— 高　(2.8)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施し、間に整形不明瞭な部分がみられる。この部分の一部には指頭痕がある。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
434－16	土師器 坏	覆土内 写残存	口　(14.0) 底　— 高　(3.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
434－17	土師器 坏	覆土内 写残存	口　(14.0) 底　— 高　(3.5)	細砂粒微 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
434－18 192	土師器 坏	覆土内 写残存	口　(13.8) 底　— 高　(3.1)	白・黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
434－19 192	土師器 坏	覆土内 写残存	口　(14.4) 底　— 高　(6.4)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部は強く内湾する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
434－20 192	土師器 坏	覆土内 破片	口　(14.0) 底　— 高　(4.0)	細砂粒微 褐色細粒微	酸化焔 硬質	橙	体部から口縁部にかけてわずかに内湾する。外面は口縁部横撫で後、体部に斜位の篦削りを施す。内面は全面丁寧な撫で後、斜放射状暗文を施す。	
434－21 192	土師器 坏	覆土内 完形	口　14.2 底　7.8 高　3.7	細砂粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は平底で、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。口縁部横撫で後体部外面横位底部は不定方向の篦削りを施す。内面は丁寧な撫で後、体部側に斜放射状暗文を施す。見込み部にラセン暗文は腹既できなかった。	底部に黒斑
434－22 192	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(2.8)	細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部からわずかに内湾する。小片のため全体はわからないが外面は口縁部横撫で、体部篦削り、内面は撫で後斜放射状暗文を施す。	暗文
434－23 192	土師器 坏?	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	砂粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部が強く内湾する器形で、外面は口縁部横撫で体部は横位（右→左）篦削りを施し、わずかに横位の篦磨きも認められる。内面は丁寧な撫で後斜格子状暗文を施す。	厚　0.7 暗文
434－24 192	土師器 坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部がわずかに内湾する器形で、外面は口縁部横撫で後体部斜位篦削り、内面は撫で後斜放射状暗文を施す。	厚　0.4 暗文
434－25 192	土師器 坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部がわずかに外反する器形で、外面は口縁部横撫で後、体部に横位篦削り、内面は撫で後、放射状暗文を施す。	厚　0.6 暗文
434－26 192	土師器 坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部が弱く内湾する器形で、外面は口縁部横撫で後体部に斜位（右→左）篦削り、内面は丁寧な撫で後放射状暗文を施す。	厚　0.6 暗文
434－27 192	土師器 坏	覆土内 破片	口　— 底　(7.1) 高　(3.0)	白色細粒少 褐色細粒少	酸化焔 やや硬質	橙	体部下半から底部にかけての破片で、外面体部及び底部は篦削り、内面は丁寧な撫で後体部に放射状、見込み部全面にラセン状暗文を施す。	暗文
434－28 193	土師器 坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	体部下半から底部にかけての破片で、外面は体部底部共に篦削り、内面は撫で後体部に放射状、見込み部にラセン状暗文を施す。	厚　0.5 暗文
434－29 193	土師器 杯Ａ１ 平城Ｉ期	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少	酸化焔 硬質	橙	体部破片で、外面は撫で。内面は丁寧な撫で後、放射状暗文を施す。	厚　0.4 畿内産暗文
434－30 193	須恵器 甕	覆土内 肥手部破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	把手部で、接合部から剥離している。成形は手捏ねで、指先の押圧と粗い削取り状の撫でがみられる。	
434－31 193	須恵器 坏	覆土内 写残存	口　(13.0) 底　8.4 高　3.6	白色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は弱く外反する。底部は回転糸切り無調整。	
434－32 193	須恵器 坏	覆土内 写残存	口　13.8 底　7.0 高　4.8	細砂粒少 白・黒色鉱物粒微	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて弱い張りがある。底部は回転篦切り後の回転篦削りと考えられ腰部にも施されている。	内面見込み部に重ね焼き痕
434－33 193	須恵器 坏	覆土内 写残存	口　(11.4) 底　(7.0) 高　(3.9)	細砂粒多	還元焔 硬質	褐灰	轆轤整形(右回転？)。腰部に張りを有し、体部から口縁部は直線的に外傾する。底部から腰部にかけて手持ち篦削りを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
434－34 193	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.6) 底 (6.8) 高 (3.5)	砂粒多	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は弱く外反する。底部は回転篦切り無調整。	
434－35	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 (7.0) 高 (3.5)	細砂粒微	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。体部上位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整と考えられるが、痕跡が不明瞭、底部の縁辺部に一本の篦跡き状の撫でがみられる。	内外面に大だすき有り
435－36 193	須恵器 坏	覆土内 残存存	口 (14.0) 底 (9.6) 高 (4.2)	細砂粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。底部は回転糸切り無調整。	内外面に自然釉
435－37	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (14.0) 高 (2.6)	黒色細粒多 褐色粒微	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(左回転)。高台は底部回転篦切り後の削り出しで、底部のほうがわずかに突出する。	内面に自然釉
435－38 193	須恵器 壺	覆土内 完形	口 11.8 底 6.8 高 4.7	白色細粒少 褐色粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。体部から口縁部にかけて弱く内湾する。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
435－39	須恵器 壺	覆土内 残存存	口 (12.0) 底 (6.2) 高 (4.8)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転?)。体部に比較的強い張りを有する。高台は底部回転篦削り後の付高台と思われる。	
435－40	須恵器 壺	覆土内 残存存	口 (15.0) 底 (9.0) 高 (5.5)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転?)。腰部に強い張りを有し、口縁部は外反する。高台は付高台で、底部の切り離し技不明。	
435－41	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (10.0) 高 (4.3)	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転?)。高台は底部回転篦切り後の付高台で、底部は高台貼付に伴って、中央部をのせいて撫でられている。	
435－42	須恵器 壺	覆土内 残存存	口 — 底 9.0 高 (3.8)	褐色粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	体部外面に自然釉
435－43 193	須恵器 壺	覆土内 残存存	口 (16.0) 底 (8.6) 高 (6.9)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。脚部の張りは弱く、体部から口縁部にかけて内湾する。高台は底部回転糸切り後、底部周辺及び腰部に回転篦削り施した後の付高台。	内面見込み部に重ね焼き痕器形に歪
435－44	須恵器 壺	覆土内 残存存	口 (19.0) 底 (11.8) 高 (7.7)	細砂粒微	還元焔 硬質	橙	輪轆整形(右回転?)。体部から口縁部にかけて弱い張りを有する。内面見込み部は平坦で、体部はシャープに立ち上がる。高台は底部回転糸切り後体部下端に回転篦削りを加えた後の付高台。回転篦削りは逆回転の可能性あり?	作りは全体に丁寧
435－45 193	須恵器 壺	覆土内 残存存	口 (17.2) 底 (10.4) 高 (7.2)	細砂粒微 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転?)。大形の深壺で、腰部にわずかに張りを有し、口縁部は外反する。高台は底部回転篦削り後の付高台。	
435－46 193	須恵器 壺	覆土内 残存存	口 (18.0) 底 (12.0) 高 (7.9)	褐色細粒少 細砂粒微	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。腰部の張りが強く、体部から口縁部にかけて反り気味である。高台は強く「ハ」字状に開くもので、底部回転糸切り後の付高台である。	
435－47 193	須恵器 台付鉢	覆土内 残存存	口 (22.0) 底 (16.1) 高 (4.2)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。体部は短く、わずかに内湾気味に外傾する。高台は底部と腰部回転篦削り後の付高台。	底部側に薄く自然釉
435－48	須恵器 蓋	覆土内 残存存	口 (9.5) 摘 — 高 (2.1)	黒色円粒微	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。小振りで、天井部の張りが強い。摘は欠落しているが乳頭状か宝珠摘と思われる。内面かえりは短く内傾する。天井部外面に回転篦削りを施す。	
435－49	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (13.8) 摘 — 高 (1.5)	褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転?)。内面かえりは比較的シャープで内側に位置している。天井部外面に回転篦削りを施す。	外面に自然釉
435－50	須恵器 蓋	覆土内 残存存	口 (14.0) 摘 (4.4) 高 (2.4)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。天井部は平底状で、口縁部が短く屈曲する。摘は擬状摘で、回転糸切り後天井部外面に回転篦削りを施した後の貼付。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
435−51	須恵器 蓋?	覆土内 破片	口 — 摘 — 高 (1.7)	黒色粒少	還元焔 硬質	浅黄	轆轤整形(?)。内面は全体撫でが施されており、反り気味で蓋か壺かの区別がつけがたい。	
435−52	須恵器 甑	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (6.5)	白色粒多	還元焔 硬質	暗灰	轆轤整形。強く外反し、上端で内側にわずかに屈曲する。外面中位に2本の沈線を巡らし上下に波状文を施す。	
435−53	土師器 壁	覆土内 底部破片	口 — 底 — 高 —	砂粒多 黒色鉱物粒少 褐色粒少	酸化焔 硬質	黒褐	底部破片で、木葉痕がみられる。	厚 1.6
436−54	須恵器 蓋	覆土内 口縁部 破片	口 (11.0) 摘 — 高 (4.0)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。平底状の天井部を有し、口縁部は短く屈曲する。摘は欠落しているが厚状摘と思われ、天井部外面に回転篦削り後に貼付している。この摘貼付部にはカキ目状の痕跡がある。	
436−55	須恵器 蓋?	覆土内 破片	口 (29.0) 摘 — 高 (3.0)	砂粒少 黒色粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(左回転?)。大振りで、口縁部はわずかに屈曲する。天井部外面に回転篦削りを施す。内面の轆轤痕は顕著であり、台付の盤とは考えられない。	
436−56 193	須恵器 短頸壺	覆土内 口縁部 破片	口 — 底 — 高 (7.0)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り轆轤整形(?)。肩部の張りが強く屈曲部に1本の沈線が巡っている。胴部上半は比較的丁寧に轆轤整形されているが、下半は雑で、底部の回転篦削りも手持ちで施したようだ。内面底部付近は、雑な撫でが施されている。	
436−57	土師器 壁	覆土内 破片	±0cm	片岩小礫少 黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	赤褐	胴部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。口縁部は横撫で、胴部は、縦位の篦削りを施す。	
436−58	土師器 壁	覆土内 破片	口 (22.0) 底 — 高 (11.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部は「く」字状に外反し、上端でわずか黒色鉱物粒少に屈曲する。口縁部は横撫で、胴部上半は横位、下半は斜位の篦削りを施す。	
436−59	土師器 壁	覆土内 破片	口 (26.2) 底 — 高 (5.8)	細砂粒少	酸化焔 硬質	明赤褐	口縁部は「く」字状に強く外反し、上端で内側に短く屈曲する。口縁部は強い横撫で、胴部は横位の撫で状の篦削り、内面は指先?の横位撫でを施す。	
436−60	須恵器 壁	覆土内 破片	口 — 底 (18.0) 高 (5.0)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	外面平行叩き、内面青海波文。	
436−61	須恵器 鍋?	覆土内 破片	口 (47.0) 底 — 高 (13.5)	白色細粒少 砂粒微 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。口縁部は轆轤整形。外面平行叩き、内面青海波文。	
436−62	須恵器 壁	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	外面格子状?平行叩き、内面青海波文。	厚 1.0
436−63 193	鉄器 刀子	覆土内 刃残存	長 (10.0) 幅 (1.4) 重 11.6				2点の接点はないが錆の状態等から同一個体と考えた。細身で刃部中央にわずかに使用に伴う刃部の潰曲が認められる。	
436−64 193	鉄器 刀子	覆土内 破片	長 (8.2) 幅 (1.1) 重 9.2				同一個体と考えられるが、錆の進行が激しく剥離している。	
436−65 193	鉄器 釘	覆土内 破片	長 (3.6) 幅 (0.6) 重 4.4				断面方形で、両端を欠損。	
436−66 193	鉄器 不明	覆土内 破片	長 (2.4) 幅 (1.2) 重 4.4				錆の部分と本体との区別がつかない。使途不明。	
437−67	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	砂粒多	酸化焔 硬質	橙	一枚作り?。凹面に渡描き文字か?。凸面は、撫で。	
437−68	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 3.1	砂粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り?。側端部面取りし2面。凹面布目は著に撫でられている。凸面は撫でを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
437－69 194	石　器 鳥編み石	覆土内 写残存	長　(8.2) 幅　6.9 厚　3.8	石英閃緑岩			下端部欠損。使用痕不明。	重 352.0
437－70 194	石　器 敲　石	－2cm 完形	長　13.2 幅　7.0 厚　3.4	ひん岩			側面に剥離痕がみられる。	重 430.0
437－71 194	石　器 鳥編み石	－2cm 完形	長　13.1 幅　6.2 厚　4.3	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 440.0

第229号址

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
438－1	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(13.0) 底　(9.0) 高　(4.5)	黒色円粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部下半にわずかに張りを有する。底部は回転篦切り無調整。	
438－2	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(14.0) 底　－ 高　(3.4)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転？）。	
438－3	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(15.0) 底　(9.6) 高　(3.9)	細砂粒微 黒色細粒微	還元焔 やや硬質	灰白	轆轤整形(右回転？)。体部に弱い張りを有する。底部は回転篦切り無調整。	
438－4 193	須恵器 埦	覆土内 写残存	口　15.8 底　8.8 高　8.0	砂粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部の張りの弱い深である。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
438－5	須恵器 埦	覆土内 破片	口　－ 底　(5.0) 高　(5.8)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。比較的大振りで深い器形である。高台は底部と腰部に回転篦削り後の付高台。	
438－6	須恵器 埦	覆土内 破片	口　－ 底　(4.5) 高　(1.8)	褐色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転？)。高台は底部回転篦切り後の付高台で、底部は高台貼付に伴って無で調整されている。	
438－7	須恵器 埦	覆土内 写残存	口　－ 底　(7.5) 高　(3.1)	黒色円粒少 白色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転篦切り後の付高台。内面調整が特に丁寧。	
438－8 193	須恵器 台付長頸瓶？	覆土内 台部破片	口　(7.3) 底　－ 高　(13.2)	白色細粒微	還元焔 硬質	灰	紐作り轆轤整形（右回転）。強く「ハ」字状に開く高台部で、端部で屈曲する。体部との接合部で剥離しており、剥離面に回転糸切りの痕跡を残している。	内外面に薄く自然釉

第249号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
439－1	須恵器 甕	カマド内 破片	口　－ 底　(10.0) 高　(1.6)	砂粒少	還元焔 硬質	灰	底部破片で、高台は付高台であるが大半は剥離している。	
439－2	須恵器 転用硯	±0cm 破片	口　－ 底　－ 高　－	細砂粒微 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	外面平行叩き、内面格子？の須恵壊破片の転用硯で、中央部は光沢が出るほどに使われている。	厚　0.9
440－3	土師質 坏	カマド掘 り方 写残存	口　(11.0) 底　5.0 高　3.0	細砂粒多 白色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は外反しない。底部は回転糸切り無調整。	
440－4 194	土師質 坏	－2cm 写残存	口　10.2 底　6.0 高　(3.4)	白・黒色鉱物 粒少	中性焔 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾する。底部は回転糸切り無調整。	
440－5	土師質 埦	カマド掘 り方 破片	口　－ 底　(7.4) 高　(2.8)	細砂粒多 白色鉱物粒少	酸化焔 やや硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形〔？〕。底部切り離し技法は不明で高台は付高台である。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
440－6	須恵器 甕	カマド内 3cm 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.5 外面に自然釉
440－7	須恵器 甕	カマド内 ±0cm 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.4 外面に自然釉
440－8	須恵器 羽釜	カマド内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (5.5)	砂粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。胴部の張りは弱いものと考えられ、口縁部は反り気味に直立する。	
440－9	瓦 鐙瓦	カマド内 8cm 破片	厚	細砂粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	軒丸瓦葉の瓦当であり、「はん」が磨滅したものか文様にシャープさがない。	
440－10 194	石器 敲石	覆土内 ほぼ残存	長 (4.9) 幅 5.9 厚 2.8	粗粒安山岩			半敲されており、下端部にわずかの剥離がみられる。	重 117.0
440－11 194	石器 敲石	覆土内 完形	長 13.7 幅 10.8 厚 5.3	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 112.4

第209号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
443－1 194	土師器 坏	±0cm 完形	口 (11.7) 底 — 高 (3.6)	細砂粒多	酸化焔 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
443－2 194	土師器 坏	カマド内 ほぼ残存	口 (11.6) 底 — 高 (3.5)	細砂粒微 褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で底部は篦削りを施す。	
443－3 194	土師器 坏	－3cm 完形	口 (13.5) 底 — 高 (4.5)	褐色細粒微	酸化焔 やや軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は外反し、上端がわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、内面見込み部に放射状に篦が当てられた痕跡がある。	
443－4	土師器 坏	覆土内 ほぼ残存	口 (15.0) 底 — 高 (4.8)	褐色細粒多 白色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に回曲し、口縁部はわずかに反り気味に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削り、内面は全面撫で後放射状の篦磨きを施す。	内外面黒色塗彩？ 内面カーボン付着
443－5	土師器 坏	覆土内 破片	口 (18.4) 底 — 高 (6.5)	褐色細粒少	酸化焔 やや軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は反り気味に直立する。口縁部は横撫で底部は篦削りであるが、外面の磨滅が激しく不明瞭。	
443－6	土師器 坏	9cm ほぼ残存	口 (19.0) 底 — 高 (8.3)	褐色細粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は薄い丸底で、口縁部との境に段を有し口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
443－7	須恵器 長頸瓶	14cm 破片	口 — 底 — 高 (7.3)	細砂粒微 褐色細粒少	還元焔 硬質	淡黄	口縁部内外面は轆轤整形され、胴部は内面に青海波文がみられることから、叩き整形されているが、外面叩きは不明。	
443－8 194	須恵器 短頸壺	11cm ほぼ完形	口長 9.1 口短 6.6 高 7.2	黒色細粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。胴部は扁平で、口縁部は反り気味に直立する。底部は扁平な丸底である。底部に手持ち篦削りを施す。	器形の歪みが激しい
443－9 194	土師器 甕	±0cm ほぼ残存	口 (15.2) 底 — 高 (9.3)	片岩粒多 細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい橙	胴部上半に強い張りを有し、口縁部は「く」字状に屈曲する。口縁部横撫で後、外面斜位(下→上)篦削り、内面横位篦撫でを施す。	内面黒色処理？
444－10 194	土師器 甕	2cm 完形	口 13.8 底 — 高 15.0	細砂粒微 褐色細粒多	酸化焔 軟質	浅黄橙	丸底で、球形状の胴部とわずかに反り気味に直立する口縁部を有する。口縁部は横撫で、胴部は篦削りと考えられるが、外面の磨滅が激しく不明瞭である。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
444－11 194	土師器 甕	貯蔵穴 ±0cm 天残存	口　(12.6) 底　— 高　(16.6)	細砂粒微	酸化焔 やや硬質	橙	球形状の胴部を有し、口縁部は「コ」字状に屈曲する。口縁部横撫で後、胴部外面斜位、口縁部内面横位の置磨きを施す。胴部内面は横位の撫でである。	
444－12	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	黒色円粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き後カキ目、内面は青海波文であるが不明瞭。	厚　1.0
444－13	須恵器 甕	3cm 破片	口　— 底　— 高　—	砂粒少 白色細粒微 褐色細粒少	還元焔 硬質	にぶい 黄橙	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.2
444－14	須恵器 横　瓶	17cm 天残存	口　(11.0) 底　— 高　(10.2)	褐色細粒少 細砂粒微	還元焔 やや硬質	灰	輪轆整形(?)。口縁部は強く外反し、上端に段を有する。硬質と胴部の接合面は内面で明瞭である。	
444－15 194	須恵器 瓶	10cm 破片	口　— 底　(11.0) 高　(7.5)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り輪轆整形(右回転)。円筒状の器形で内外面に輪轆整形痕を残す。底部及び胴部下端に置削りを施す。	
444－16 194	石　器 磨編み石	±0cm 完形	長　13.7 幅　7.8 厚　4.3	変質玄武岩			使用痕不明。	重 687.0
444－17 194	石　器 磨編み石	覆土内 天残存	長　(6.4) 幅　6.0 厚　4.9	粗粒安山岩			下端部欠損。	重 301.0
444－18 194	石　器 敲　石	21cm 完形	長　13.0 幅　7.2 厚　4.7	石英閃緑岩			周端部に敲打痕がみられる。	重 789.0
444－19 194	須恵器 羽　釜	－2cm 破片	口　(19.2) 底　— 高　(20.3)	細砂粒多 褐色細粒多	中性焔 硬質	赤褐	紐作りで、輪轆使用の痕跡はみられない。胴部上位に張りを有し、口縁部はわずかに内傾する。口唇部は平坦でわずかに内傾する。鍔は断面三角形でやや下方に貼付されている。鍔部下の胴部に縦位の置削りを施す。	

第210号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
446－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(11.0) 底　— 高　(3.0)	砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は置削りで間に整形不明瞭な部分がみられる。	口縁部内面にカーボン付着
446－2 194	須恵器 坏	覆土内 天残存	口　(13.0) 底　(6.4) 高　(4.1)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転?)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は強く外反する。底部は回転糸切り無調整と考えられる。	底部の磨滅が激しい
446－3 195	須恵器 坏	覆土内 天残存	口　(12.0) 底　(8.4) 高　(3.5)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。体部上半に弱い張りを有する。底部は回転糸切り無調整。	
446－4 195	須恵器 埦	覆土内 天残存	口　(10.0) 底　(6.2) 高　(5.5)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。腰部に張りはなく、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。高台は底部回転置切り後の付高台。	
446－5	須恵器 埦	覆土内 破片	口　— 底　(9.4) 高　(4.1)	細砂粒微	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。腰部に張りを有し、2段の回転置削りを施す。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
446－6 小　埦？	灰釉陶器 破片	覆土内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(2.1)	黄色系		灰白	輪轆整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。腰部には回転置削りが施され、施釉は刷毛掛けである。	
447－7	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒微	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　0.9 内外面薄く自然釉
447－8 195	土師質 埦	2cm 天残存	口　(11.0) 底　(5.9) 高　(4.9)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少	中性焔 硬質	にぶい 黄橙	輪轆整形(右回転)。腰部の張りは弱く、体部中位が張り、口縁部は外反する。高台は付高台で、高台貼付に伴う調整で、底部切り離し技法は不明。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
447－9 195	土師質 坏	－2cm 3/4残存	口　(12.0) 底　5.8 高　(3.0)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 やや硬 質	浅黄	輪縄整形(右回転)。口縁部が、強く外傾する。皿状の器形である。底部は回転糸切り無調整で強く高台状に突出する。	内面にカーボン付着
447－10	土師質 埦	覆土内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(4.6)	黒色鉱物粒微 白色細粒微	中性焔 やや硬 質	によい 黄橙	輪縄整形(左回転？)。腰部に強い張りを有し、口縁部は外反する。高台は欠落しているが底部回転糸切り後の付高台である。内外面共に輪縄整形痕は不明瞭。	
447－11	土師質 埦	カマド内 破片	口　— 底　(9.0) 高　(3.1)	白・黒色鉱物 粒少 褐色粒少	酸化焔 硬質	橙	輪縄整形(右回転)。高台は「ハ」字状に強く開く、長脚の付高台である。底部切り離しは高台の貼付に伴い、撫で消されているため不明。	
447－12	灰釉陶器 段　皿	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	美濃系		灰白	輪縄整形(？)。内面に強い段を有し、外面にもわずかに屈曲が認められる。施釉は刷毛掛けか？	厚　0.4
447－13	灰釉陶器 埦	覆土内 破片	口　(14.0) 底　— 高　(3.5)	美濃系		灰白	輪縄整形(？)。体部中位に弱い張りを有し口縁部は外反しない。施釉は刷毛掛けか？	
447－14	灰釉陶器 埦	覆土内 破片	口　(14.0) 底　— 高　(2.4)	美濃系		灰白	輪縄整形（？）。口唇部が強く外面肥厚する。施釉は刷毛掛けか？	
447－15	灰釉陶器 埦	覆土内 破片	口　(16.0) 底　— 高　(4.5)	美濃系		灰白	輪縄整形(右回転)。口縁部上端は強く外反する。腰部には、3段程度の回転箆削りを施す。施釉は刷毛掛けである。	
447－16 195	緑釉陶器 埦	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	美濃系？		オリーブ灰	少破片であり全体形は不明であるが、口縁部がわずかに外反する比較的深めの埦と考えられる。	厚　0.3
447－17	須恵器 羽　釜	5cm 破片	口　(22.0) 底　— 高　(6.7)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	輪縄整形(右回転？)。口縁部は反り気味にわずかに内傾し、口唇部は平坦で、水平である。内面には、撫でがみられる。	
447－18	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚　1.8	細砂粒少 白色細粒多	酸化焔 硬質	によい 橙	一次作り？凹面横位撫で。凸面は、撫で後斜格子叩きを施す。	
447－19	瓦 女　瓦	カマド内 破片	厚　2.0	細砂粒少 白色細粒多	酸化焔 硬質	によい 橙	一次作り？凹面横位撫で、凸面は撫で後、斜格子叩きを施す。	
447－20	瓦 男　瓦	覆土内 破片	厚　1.3	細砂粒多	還元焔 硬質	によい 橙	一次作り？側端部面取りは2面。凸面縦位箆削り。	
447－21	瓦 男　瓦	12cm 破片	厚　1.3	細砂粒多	還元焔 硬質	によい 橙	一次作り？側端部面取りは2面。凸面縦位箆削り。	
447－22	瓦 男　瓦	覆土内 破片	厚　2.0	白色鉱物粒多 砂粒少	還元焔 硬質	灰	一次作り？凹面に、粘土板糸切り痕。凸面全体撫で多施す。	
447－23 195	石　器 敲　石	覆土内 3/4残存	長　(9.8) 幅　9.8 厚　6.0	粗粒安山岩			上端部に敲打痕がみられる。下端部欠損。	重　587.0
447－24 195	石　器 鹿編み石	12cm 完形	長　10.0 幅　6.9 厚　4.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重　407.6
447－25 195	鉄　器 釘？	覆土内 破片	長　(5.4) 幅　11.4 重　16.8				両端部を欠損する。断面は長方形で曲がっている。釘であろうか？	
447－26 195	鉄　器 不　明	覆土内 破片	長　(4.9) 幅　(0.6) 重　4.2				断面は長方形で、使途不明。	
447－27 195	鉄　器 釘	覆土内 破片	長　(4.5) 幅　(0.6) 重　3.4				先端部の破片で、わずかに曲がっている。断面は方形。	
447－28 195	鉄　器 不　明	覆土内 破片	長　(4.0) 幅　(0.6) 重　3.4				断面は長方形で使途不明。	

第211号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
449－1 195	土師器 坏	13cm 完形	口 9.9 底 － 高 3.3	黒色鉱物少 褐色粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部の横撫では強く、底部篦削りも横撫で部に及んでいる。内面の撫では丁寧で、同心状の調整痕が明瞭に残っている。	
449－2 195	土師器 坏	±0cm 完形	口 11.6 底 － 高 3.5	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 やや硬質	橙	底部はやや扁平な丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は、放射状の篦削りで、間にわずかに整形不明瞭な部分がみられる。	
449－3 195	土師器 坏	覆土内 欠残存	口 (11.2) 底 － 高 (3.6)	白・黒色鉱物 粒多 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾気味に立ち上がる。底部は篦削り、口縁部は横撫でで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
449－4 195	土師器 坏	－2cm 完形	口 11.2 底 － 高 3.4	白・黒色鉱物 粒多	酸化焔 硬質	にぶい 黄橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
449－5	土師器 坏	カマド内 欠残存	口 12.0 底 － 高 3.7	黒色鉱物粒多 細砂粒微 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	口縁部外面に粘土付着
449－6 195	土師器 坏	±0cm 完形	口 11.5 底 － 高 4.0	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焔 硬質	黄橙	底部は平底で、体部は強く外傾し、口縁部は内湾する。口縁部横撫で後、底部は一方向、体部は斜放射状に篦削りを施す。	
449－7 195	土師器 坏	2cm ほぼ完形	口 13.0 底 － 高 3.7	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 やや軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
449－8 195	土師器 坏	±0cm 完形	口 13.0 底 － 高 4.3	黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短くわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで間にわずかに整形不明瞭な部分がみられる。	
449－9 195	土師器 坏	±0cm 完形	口 14.3 底 － 高 4.8	黒色鉱物粒多 細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は比較的深い丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部横撫で後、底部中央一方向周辺、円周方向の篦削りを施す。	
449－10 195	土師器 坏	±0cm 完形	口 14.6 底 － 高 4.8	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短くわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、間に整形不明瞭な部分がわずかにみられる。	
449－11 195	土師器 坏	－2cm 完形	口 14.9 底 － 高 4.8	白・黒色鉱物 粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
450－12 196	土師器 杯 A I 平域II期	14cm 欠残存	口 19.5 底 15.0 高 5.4	白色細粒少	酸化焔 硬質	橙	内面中央に焼成前の「×」印が認められる。内面は撫でで、暗文は無い。	敲内産
450－13 196	土師器 皿	9cm 欠残存	口 (17.6) 底 － 高 (3.3)	黒色鉱物粒多 白色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は、強く外反する。口縁部は横撫で後底部に篦削りを施す。	
450－14 196	土師器 坏	±0cm 完形	口 17.2 底 － 高 4.2	白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は、強く外反する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
450－15 196	土師器 坏	±0cm 完形	口 17.4 底 － 高 4.0	黒色鉱物粒少 細砂粒少 褐色細粒少	酸化焔 やや軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は、強く外反する。口縁部は横撫で、底部は斜放射状の篦削りを施す。	
450－16	土師器 坏	覆土内 破片	口 (18.0) 底 － 高 (3.4)	褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は、強く外反する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
450－17 195	須恵器 坏	－4cm 完形	口 11.7 底 8.0 高 3.0	細砂粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾する。底部全面及び腰部に回転篦削りを施す。	
450－18 195	須恵器 坏	3cm 完形	口 11.1 底 7.8 高 4.1	細砂粒多	還元焔 硬質	浅黄	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。底部は全面にわたって手持ち篦削りを施しており、わずかに突出している。	胎土、焼成共に他と異質

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
450－19	須恵器 坏	カマド内 ¼残存	口 (14.0) 底 (9.0) 高 (3.7)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部は直線的に外傾する。底部は回転糸切り無調整。	
450－20 196	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.6) 底 — 高 (4.2)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は平底であるが、わずかに突出し、体部から口縁部は直線的に外傾する。底部は手持ち箆削り。	
450－21	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (2.8)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転箆削り無調整。	
450－22	須恵器 坏	カマド内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (2.4)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転)。底部は回転箆切り。	
450－23 196	須恵器 埦	±0cm 完形	口 16.8 底 12.0 高 4.5	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部にわずかに張りを有し、口縁部は外反しない。高台は角高台状で、底部回転箆削り後の付高台。	高台底面はわずかに磨滅している
450－24	須恵器 埦	カマド内 破片	口 — 底 (11.5) 高 (1.9)	褐色粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転箆削り調整後の付高台。	
450－25	須恵器 埦	覆土内 破片	口 — 底 (11.0) 高 (1.6)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転箆削り調整後の付高台。	
450－26	須恵器 坏	カマド内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.8)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は丸底で、受け部はやや反り気味に水平に開き、口縁部は、内傾する。	
450－27 196	須恵器 蓋	－3cm 完形	口 12.9 摘 4.7 高 2.2	白色細粒少 黒色細粒少	還元焔 硬質	褐灰	轆轤整形(右回転)。天井部の張りは弱く口縁部も短く外に開く。摘は環状摘で、天井部外面回転箆削り後の貼付である。内面のかえりは短いが比較的シャープである。	
450－28 196	須恵器 蓋	2cm 完形	口 13.7 摘 4.0 高 2.8	黒色粒多	還元焔 硬質	褐灰	轆轤整形(右回転)。天井部の丸味が比較的強く、口縁部の屈曲も弱い。摘は環状で口縁部内面のかえりは弱い。口縁部内面には重ね焼きの痕跡として坏口縁部が付着している。	外面に厚く自然釉
450－29	須恵器 蓋	掘り方覆土内 破片	口 — 摘 4.0 高 4.0	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。摘は宝珠摘様のもので、天井部外面痕で調整後の貼付である。	
450－30 196	須恵器 蓋	8cm 完形	口 17.8 摘 5.9 高 3.1	細砂粒少	還元焔 硬質	褐灰	轆轤整形(右回転)。天井部は平底状で、口縁部がわずかに外に開く。摘は環状摘で、天井部外面回転箆削り後の貼付。内面かえりは短く内側に強く傾いている。	天井部内面中央にわずかな磨滅がみられる
450－31 196	須恵器 蓋	14cm 完形	口 17.2 摘 4.0 高 4.7	細砂粒少 砂粒微	還元焔 硬質	褐灰	轆轤整形(右回転)。天井部から口縁部にかけて直線的で、口縁部は下方に屈曲する。摘は小振りの環状摘で、天井部外面回転箆削り後の貼付である。	
450－32 196	須恵器 蓋	±0cm 完形	口 17.4 摘 6.9 高 3.5	細砂粒多	還元焔 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。天井部の張りが比較的強く、口縁部はほとんど外に開かない。摘は環状摘状で、天井部外面を広範囲に回転箆削り後の貼付である。内面かえりは短く下方を向いている。	摘部上面にわずかな磨滅がみられる
450－33 196	須恵器 蓋	－2cm 完形	口 18.6 摘 4.2 高 4.7	細砂粒多	還元焔 やや硬 質	浅黄	轆轤整形(右回転)。天井部の張りは比較的強く、口縁部外面に鋭い稜があるが、内面にはみられない。摘は外稜を有する環状摘状で天井部外面回転箆削り後の貼付であろう。	焼成、色調が他と異質
451－34 196	須恵器 壺	－5cm 完形	口 12.3 底 — 高 14.1	細砂粒多 片岩粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	丸底で胴部中位に張りを有し口縁部は「く」字状に外反する。口縁部は無施で、胴部上位は横位、下位は斜位の箆削りを施す。内面中位以上は黒色を呈し、下半は橙色であることから、使用に伴う痕跡と思われる。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	法量 (cm) 量目 (g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
451—35 196	須恵器 甕	−2cm 完形	口 13.3 底 — 高 13.7	白・黒色細粒多	還元焔 硬質	オリーブ灰	紐作り輪積整形。底部は丸底で胴部上半に張りを有し、口縁部は「く」字状に短く外反する。胴部は全体に撫でと押圧が加えられ、同部には削り状のカキ目の痕跡が残る。	内外面に自然釉
451—36	須恵器 長頸瓶	5cm 破片	口 (9.4) 底 — 高 (8.3)	細砂粒微 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰白	輪積整形(右回転)。口縁部の破片で、直線的にわずかに外傾する。	
451—37 197	須恵器 甕	−2〜20 cm 与残存	口 — 底 15.0 高 (20.3)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り輪積整形。頸部より上は欠落。胴部上半に張りを有し2本の沈線を巡らしている。底部は丸底状に作られており、底部周辺に撫で状の削りを施した後高台を貼付けている。	胴部外面下半に激しいハゼ
451—38 196	須恵器 長頸瓶	3〜7cm 完形	口 10.7 底 12.6 高 27.0	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り輪積整形(右回転)。同部で緩く屈曲し、口縁部は直線的に開く。高台は胴部下半回転篦削り後の付高台。同部の上下には1本の沈線と5列の刺突文を施す。	
451—39	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (5.1)	細砂粒多	酸化焔 硬質	橙	胴部の張りは弱く、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部は横撫で、胴部は斜位の篦削りを施す。	
451—40	土師器 甕	覆土内 破片	口 (24.0) 底 — 高 (6.6)	細砂粒多 白色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	胴部の張りは弱く、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部は横撫でで、胴部は斜位の篦撫でを施す。	
452—41 196	須恵器 長頸瓶	−2cm 与残存	口 — 底 (8.3) 高 (21.7)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転)。頸部上半を欠損。同部はなだらかで胴部下半に向い張りを有する。高台は胴部下端に回転篦削り後の付高台。	同部に厚く自然釉
452—42	須恵器 甕	掘り方覆 土内 破片	口 — 底 — 高 —	小礫微 細砂粒多	還元焔 硬質	灰	口縁部に細い突帯を1本巡らす。口唇部は平担で外傾する。	厚 1.1
452—43	須恵器 長頸瓶 組?	掘り方覆 土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	底の類部と思われる破片で、段を2段有し、下に櫛描の波状文を施す。	厚 0.7 灰釉のような油土焼成
452—44	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面はカキ目、内面は青海波文。	厚 0.8
452—45	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 細砂粒微	還元焔 硬質	灰	紐作り。外面雑なカキ目、内面素文。	厚 0.9
452—46	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.9 外面に厚く自然釉
452—47 197	須恵器 甕	−3〜14 cm 与残存	口 (26.0) 底 — 高 (29.6)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	口縁部は強く外反し、上端に段を有する。外面は平行叩き後撫で、内面は、青海波文を施す。	
453—48	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.1
453—49 197	石製品 紡錘車	3cm 完形	上径 4.5 下径 3.2 厚 1.7	硅沢石			上、下面とも丁寧に磨かれている。縁辺部は3〜4面の面取り状に磨きを行ったことがわかる。穿孔は一方向から。	重 49.1 孔 0.6
453—50 197	石製品 白玉	覆土内 完形	径 1.5 厚 0.6 孔 0.2	滑石			両面共に比較的丁寧に調整されており、1面に断面「V」字状のきずがみられる。縁辺は左右方向の磨きによって整形されており、無数の条痕状のきずがみられる。	重 2.7
453—51 197	石製品 白玉	覆土内 完形	径 1.3 厚 0.6 孔 0.3	滑石			両面共に比較的丁寧に調整され、縁辺には左右方向の擦痕が、多数みられる。穿孔は一方向。	重 1.4
453—52 197	石製品 白玉	覆土内 ほぼ完形	径 1.3 厚 1.0 孔 0.3	滑石			厚味のある白玉で、縁辺調整が左右方向だけでなく、上下方向の部分もみられる。穿孔は一方向。	重 2.2

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
453−53 197	石製品 白玉	覆土内 完形	径 1.2 厚 0.6 孔 0.2	滑石			縁辺の整形は比較的丁寧であるが、両面は割面に若干の調整を加えただけである。穿孔は一方向。	重 1.7
453−54 197	鉄器 不明	覆土内 一	長 (6.9) 幅 (5.0) 重 21.6				「L」字形に曲げられ、さらに先端が短く折り曲げられている。使途不明。	
453−55 197	鉄器 釘	カマド内 破片	長 (6.3) 幅 (1.2) 重 3.3				2点の接点は認められないが1面の研磨等から同一個体と考えられる。断面方形。	
453−56 197	鉄器 釘	覆土内 与残存	長 (4.2) 幅 (1.0) 重 3.7				頭部は扁平な傘状で、身の周囲は錆のため剝離している部分が多い。	

第213号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
454−1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.9) 底 — 高 (2.9)	細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部はやや内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
454−2	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.3 外面に自然釉
453−3 197	石製品 白玉	強り方覆 土内 完形	径 1.2 厚 0.8 孔 0.2	滑石			穿孔は一方向から。側面に擦痕がみられる。	重 1.9

第216号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
456−1 197	須恵器 坏	覆土内 与残存	口 (13.6) 底 (7.4) 高 (3.0)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰部がやや張り、口縁部は強く外反する。底部は、回転糸切り無調整で、切りそこねのため強く突出する。	
456−2 197	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (14.6) 底 (9.0) 高 (3.0)	褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は、回転糸切り無調整。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾する。	
456−3 197	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (7.5) 高 (2.5)	黒色細粒微	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
456−4 197	須恵器 埦	覆土内 破片	口 — 底 (7.5) 高 (2.7)	白色細粒多 細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(左回転?)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
456−5 197	須恵器 埦	強り方覆 土内 破片	口 — 底 (13.0) 高 (1.0)	褐色粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。高台は底部回転篦削り後の付高台。	
456−6 197	須恵器 皿	−4cm ほぼ完形	口 14.3 底 7.5 高 3.0	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて強く外反する。高台は底部回転糸切り後の付高台。	内面に重ね焼きの痕跡
456−7 197	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焔 硬質	暗灰	体重上半が張り、口縁部の外反するの口縁部破片で、内面に3mm程の厚さにカーボンが付着している。	厚 0.6 いぶし
456−8	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色鉱物粒微	酸化焔 やや硬質	橙	内外面篦磨き後、内面のみ黒色処理を施す。	厚 0.3
456−9	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 (9.6) 底 — 高 (1.9)	白・黒色細粒 粒微	還元焔 硬質	明オリ ーブ灰	強く外反する口縁部で、上端に段を有する。内外面共に轆轤整形痕を残す。	内外面共に厚く自然釉

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
456－10 197	須恵器 鉢	±0～5 cm 写残存	口　(21.2) 底　(8.8) 高　(9.7)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。体部に弱い張りを有し口縁部はごくわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整である。	
456－11 197	土師器 甕	カマド内 破片	口　(21.2) 底　— 高　(7.1)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 赤褐	いわゆる「コ」字状口縁で、口縁部は上下2段の強い横撫でが施されている。胴部上位は横位箆削り、内面は斜位の箆削りを施す。	口縁部に明瞭な接合痕
456－12	土師器 甕	覆土内 破片	口　(22.7) 底　— 高　(10.4)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	明赤褐	「コ」字状口縁を有する甕で、比較的薄い作りである。口縁部は横撫でで、中位に接合痕を明瞭に残す。胴部上位は横位下半は斜位の箆削りを施す。内面は横位箆撫でを施す。	
456－13	土師器 小型甕	覆土内 破片	口　(11.2) 底　— 高　(5.5)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	明赤褐	「コ」字状を呈する。口縁部は横撫で、胴部上半は横位の箆削り、内面は撫でを施す。	
456－14	土師器 甕	覆土内 破片	口　(20.0) 底　— 高　(5.3)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	「コ」字状口縁を呈する。口縁部は強い横撫で、胴部上半は、横位箆削りを施す。内面は撫で。	
456－15 197	土師器 甕	覆土内 破片	口　(20.0) 底　— 高　(6.0)	細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 赤褐	「コ」字状口縁で、調整等は比較的丁寧である。口縁部は上下2段の強い横撫でを施し、間の整形不明瞭な部分に明瞭な接合痕を残している。胴部上半は横位の箆削りを施す。	
456－16	石製品 不　明	覆土内 —	長　3.4 幅　1.3 厚　0.7	緑泥片岩			整形等の痕跡はない。使途不明。	重　4.9
456－17	瓦 男　瓦	－4cm 破片	厚　2.5	砂粒多	還元焔 硬質	褐灰	一枚作り？。凸面は撫で、側端部面取り2面。凹面は粘土板糸切り痕を残し、箆描きの文字「？」がみられる。	
457－18	瓦 男　瓦	－2cm 破片	厚　1.9	砂粒少	中性焔 硬質	明赤褐	一枚作り？。側端部面取りは2面。凹面に粘土板糸切り痕が残る。凸面は撫で。	
457－19	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚　2.2	砂粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取りは3面。凸面は撫で内外面にカーボン付着。	

第219号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
458－1 197	須恵器 坏	±0cm 写残存	口　(14.6) 底　(8.7) 高　(3.2)	砂粒微	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。体部上位に弱い張りを有し、全体に強く外傾する。底部は回転糸切り無調整。	
458－2	須恵器 壺	－10cm 破片	口　— 底　(6.6) 高　(2.0)	黒色細粒少	還元焔 やや軟質	灰	輪轆整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
458－3	須恵器 坏	－2cm 破片	口　— 底　(7.6) 高　(2.3)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。見込み部はやや磨滅している。	
458－4	須恵器 瓶	覆土内 破片	長　— 幅　— 厚　—	黒色粒多 白色細粒多	還元焔 硬質	灰白	把手の破片で、撫で状の面取りがされている。	外面に厚く自然釉
458－5	須恵器 壺？	破片	－11cm	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。体部に弱い張りを有し口縁部はわずかに外反する。内外面の輪轆整形痕は顕著。	口縁部付近内外面に自然釉
458－6	土師器 甕	カマド左 壁25cm 写残存	口　(17.0) 底　(8.0) 高　(27.5)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	口縁部は「コ」字状を呈し、上端部は短く直立する。胴部上半と中位にわずかに張りを有する。口縁部は強い横撫で、胴部上半横位、下半斜位の箆削りを施す。内面は撫でで下半の接合部下半には特に強い斜位の指撫でが施されている。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
459－7 198	瓦 女　瓦	±0cm ほぼ完形	厚　2.3	小礫微 白色鉱物粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取りは3面、狭端部、広端部共に凹面側に置削りがある。凹面全面に粘土板糸切り痕がある。凹面広端部近くに連続する楕円形の刺突が2ヶ所ある。凸面は全面撫で。	
459－8	瓦 男　瓦	破片	厚　1.7	褐色粒少 黒色鉱物粒少	還元焔 硬質	淡橙	桶巻き作り？。側端部面取りは1面。凸面は縄叩き後横位に粗い撫でが施されている。	カマド右壁17cm
459－9	瓦 男　瓦	カマド右 壁24cm 破片	厚　2.1	細砂粒少 褐色粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部は面取り2面。凹面内目には、縦位の指撫でがみられる。凸面は平行叩き？後の撫で？か。	
459－10	瓦 女　瓦	カマド左 壁33cm 破片	厚　1.3	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り。側端部面取り2面。狭端部凹面側に置削り。凹面に粘土板糸切り痕、凸面は削り状撫でを施す。	
460－11	瓦 女　瓦	カマド奥 壁31cm 破片	厚　1.8	白色細粒多 細砂粒多	還元焔 硬質	灰	桶巻き作り？。凹面に、粘土板糸切り痕と模骨痕がみられる。側端部面取りは2面。凸面は削り状撫で後斜格子叩きを施す。	
460－12	瓦 女　瓦	破片	厚　1.6	砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	一枚作り？。側端部面取りは1面。凹面布目は所々撫でられている。凸面は全面撫でを施す。	カマド左壁16cm
460－13 198	石　器 鹿編み石	4cm ほぼ完形	長　18.4 幅　6.0 厚　5.7	粗粒安山岩			側面に擦痕、下端に剥離がみられる。	重1000.0

第217号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
462－1 197	灰釉陶器 埦	3cm 片残存	口　(17.0) 底　(8.2) 高　(4.9)	猿投系		灰白	轆轤整形(右回転)。体部下半に張りを有し口縁部は外反する。高台は典型的な角高台で底部回転糸切り後の付高台である。体部下半は回転箆削りが施されている。施釉は内面だけで厚く刷毛掛けされている。トチンの痕跡は不明瞭である。	K14 底部及び体部外面に箆描き
462－2 197	土師質 埦	覆土内 破片	口　(15.0) 底　— 高　(4.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	中性焔 硬質	にぶい橙	轆轤整形(右回転)。体部の張り、口縁部の外反共に弱い。	
462－3 198	土師器 甕	3cm 破片	口　— 底　3.2 高　(10.9)	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焔 硬質	にぶい赤褐	「武蔵型」甕の胴部下半で、全体に縦位(上→下)の箆削りを施す。内面に接合痕。	
462－4	須恵器 甕	21cm 破片	口　(20.0) 底　— 高　(5.0)	白色細粒少	還元焔 硬質	暗青灰	轆轤整形〔？〕。内外面に轆轤整形痕を明瞭に残す。	内外面に自然釉

第218号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
464－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(3.2)	黒色鉱物粒少 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は平底気味で、体部から口縁部にかけてわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は置削りで間に整形不明瞭な部分がみられる。内面は丁寧な撫でを施す。	
464－2	須恵器 埦	19cm 破片	口　— 底　(8.0) 高　(2.1)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	還元焔 軟質	黒	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。軟質のため器面全面が磨滅している。	いぶし
464－3 198	須恵器 埦	覆土内 片残存	口　(14.0) 底　(8.4) 高　(6.0)	細砂粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は外反する。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
464－4	須恵器 埦	21cm 破片	口　— 底　— 高　(2.5)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台であるが、接合部から剥離している。体部外面の轆轤調整痕は明瞭であるが、内面は平らに撫でられている。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
464－5	須恵器 甕	±0cm 破片	口　－ 底　－ 高　－	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り輪縄整形(?)。内面に輪縄整形痕を明瞭に残し、外面には自然釉と融着物がみられる。	厚　1.2

第217・218号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
465－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　－ 高　(3.3)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は平底気味の丸底で、体部から口縁部にかけて、わずかに内湾する。口縁部は横撫で体部から口縁部にかけての調整は不明瞭。内面は丁寧な撫でである。	
465－2 198	土師器 坏	覆土内 与残存	口　(12.0) 底　－ 高　(3.2)	細砂粒少 白・黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい橙	底部は丸底気味の平底で、体部は外傾し、口縁部上端はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は荒削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
465－3 198	土師器 坏	覆土内 与残存	口　(12.4) 底　－ 高　(3.2)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は平底で、体部中位にわずかに張りを有する。口縁部は横撫で、底部は荒削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
466－4	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　－ 高　(2.7)	白・黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに屈曲する。口縁部は横撫で、底部は荒削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
466－5	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　－ 高　(3.1)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部下半にわずかに張りを有し、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は強い横撫で、底部は荒削りで、体部は整形不明瞭、内面は丁寧な撫でを施す。	杯Aの模倣数？
466－6	土師器 坏	覆土内 破片	口　(16.8) 底　－ 高　(5.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	丸底で口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は荒削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
466－7 198	土師器 坏	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	体部下半から底部にかけての破片で、外面は体部、底部共に荒削り、内面は撫で後体部に斜放射状、見込み部にラセン状暗文を施す。	厚　0.5 暗文
466－8 198	土師器 坏	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	細砂粒少	酸化焔 やや硬質	橙	口縁部がわずかに内湾する器形で、外面は口縁部横撫で後、体部に横位（右→左）荒削り内面は撫で後放射状暗文を施す。	厚　0.6
466－9	須恵器 坏	覆土内 破片	口　－ 底　(6.0) 高　(2.0)	黒色粒多	還元焔 硬質	灰	輪縄整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
466－10	須恵器 坏	覆土内 破片	口　－ 底　(8.0) 高　(1.8)	黒色粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪縄整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	外面に自然釉
466－11	須恵器 埦	覆土内 破片	口　－ 底　(9.4) 高　(2.2)	白色細粒多	還元焔 硬質	橙	輪縄整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	内面見込み部わずかに磨滅
466－12	須恵器 埦	覆土内 破片	口　－ 底　(7.8) 高　(2.8)	褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪縄整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の丁寧な付高台。	
466－13	須恵器 埦	覆土内 破片	口　(18.0) 底　－ 高　(5.0)	細砂粒微 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪縄整形(右回転)。体部に張りはなく口縁部も外反しない。	
466－14	須恵器 蓋？	覆土内 破片	口　11.4 摘　－ 高　(2.8)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	輪縄整形(?)。天井部は丸底状で、口縁部はわずかに内湾気味である。	
466－15	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(15.0) 摘　－ 高　(2.3)	片岩小礫微 砂粒少	還元焔 硬質	にぶい黄橙	輪縄整形（右回転）。口縁端部が折り返しによって形成されている。	
466－16	土師器 甕	覆土内 破片	口　(14.0) 底　－ 高　(5.5)	細砂粒少 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	口縁部は「く」字状に屈曲する。口縁部は横撫でで、指頭痕がみられる。胴部は横位荒削り、内面は横位荒撫でを施す。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
466−17	土師器 甕	覆土内 破片	口 (19.0) 底 — 高 (6.5)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	「く」字状口縁の前段階の、口縁部形態である。口縁部は横撫でで、中央部に接合痕がわずかに観察できる。胴部は横位箆削り、内面は撫でである。	
466−18	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (6.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒少 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	「コ」字状を呈する口縁部で、作りも薄く丁寧である。胴部は上下2回の横撫でで、仕上げられ、中間の部分には明瞭な接合痕がみられる。胴部は横位箆削り、内面は丁寧撫でである。	
466−19	土師器 甕	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (5.0)	白・黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部はわずかに外反し、中位に明瞭な接合痕がみられる。口縁部は横撫でで、胴部は斜位の箆削り、内面は撫でを施す。	
466−20 198	土師器 甕	覆土内 破片	口 — 底 5.5 高 (13.5)	細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 赤褐	「武蔵型」甕の胴部下半で、外面に縦位の箆削りが施されている。内面には接合痕が明瞭に残り、底部付近には斜位の箆撫での痕跡がある。	両面底部にカーボン付着
466−21 198	鉄器 釘	覆土内 破片	長 4.9 幅 1.2 重 11.9				胴部側の破片である。断面方形。	
466−22	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色鉱物粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。凸面は、雑な撫でで、凹面布目は一部撫で消されている。	
466−23	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.0	砂粒微 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り。凹面は布目は縦位に撫で消されている。凸面は縄叩きがされ、粗い撫でが施されている。	

第221号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
469−1 198	土師器 坏	覆土内 写残存	口 (13.1) 底 — 高 (3.4)	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焔 硬質	赤褐	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部はやや反り気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。内面見込み部に箆を当てた痕跡あり。	内外面黒色塗彩
469−2	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (2.7)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は丸底で、受け部は斜上方に延び、口縁部はやや反り気味に内傾する。	内面にわずかに自然釉
469−3	須恵器 坏	覆土内 破片	口 10.7 底 — 高 (3.0)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は丸底で、受け部はやや上方を向き、口縁部は中位で屈曲し、内傾する。	外面に薄く自然釉
469−4	土師器 甕	覆土内 破片	口 (18.6) 底 — 高 (8.9)	片岩小礫多 細砂粒多	酸化焔 硬質	赤褐	胴部の張りは弱く口縁部は「く」字状に外反する。口縁部は横撫で後胴部に縦位の弱い箆削りを施す。内面は横位の指先による撫で。	
469−5	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (8.6)	細砂粒微 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	胴部上半に強い張りを有し、この最大径の部分に2本の沈線と間に9本単位？の波状文を施す。胴部下半は平行叩き後にカキ目を施し、内面は縦位の指先の撫でを強く施している。	外面肩部に自然釉
469−6	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 — 高 —	白色細粒多 細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。天井部外面に手持ち箆削りを施す。	厚 0.4
469−7	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (8.6) 高 (1.8)	白色細粒微 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転箆切り無調整。	
469−8	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (2.5)	白・黒色細粒少 褐色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転箆切り無調整。	
469−9 198	須恵器 蓋	±0cm 完形	口 17.8 横 4.2 高 3.9	白色細粒多 黒色粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は平坦で、口縁部は強く屈曲する。横は環状撫で、天井部外面の箆削りは左回転によって行っている。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
470－10 198	須恵器 埦	－2cm 歪残存	口 (10.4) 底 (6.1) 高 (4.9)	白色細粒少	還元焔 硬質	褐灰	輪轆整形(右回転)。腰に弱い張りを有し、体部から口縁部にかけて外傾する。高台は底部と腰部回転削り後の付高台。	口縁部付近の外面に自然釉
470－11	須恵器 埦	－3cm 歪残存	口 (16.5) 底 (9.2) 高 (8.1)	細砂粒微 黒色細粒微	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転?)。腰部に張りを有し、体部から口縁部にかけて、直線的に外傾する。高台は底部回転糸切り後の付高台。腰部には2段の回転篦削りを施す。	
470－12	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 15.5 横 — 高 (1.8)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。扁平な器形で、口縁端部は短く屈曲する。摘は貼付部から剥落しているが、摘貼付に際して本体にラセン状の沈線を施している。	
470－13	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (14.6) 横 (4.0) 高 (2.8)	細砂粒微 蛇色粒少	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。比較的扁平な器形で、口縁部が短くわずかに屈曲する。摘は環状摘で、天井部外面回転篦削り後の貼付である。	
470－14	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 横 (3.3) 高 (2.2)	黒色細粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。天井部にやや張りを有している。摘は環状に近い形状で、天井部外面回転篦削り後の貼付である。	
470－15	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	肩部外面に沈線と刺突を施し、頸部周囲はカキ目、内面は撫でを施す。	厚 0.6
470－16	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微	還元焔 硬質	灰	外面上位に沈線と波状文を施す。下半は平行叩き、内面当具の痕跡は撫で消されている。	厚 0.9
470－17	常帯? 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	焼締 硬質	暗赤褐	外面に薄く釉薬がかかり、内面の撫では顕著である。	厚 1.1
470－18	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (2.2)	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	暗緑灰	胴部に触着物が付着したもの。円形であるが周縁に加工痕はみられず、偶然に割れたものであろうか?。外面は平行叩き、内面青海波文。	外面自然釉
470－19	土師器 甕	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (13.7)	片岩粒多 細砂粒多	酸化焔 硬質	橙	胴部中位に張りを有し、口縁部は「C」字状に短く外反する。口縁部は横撫で、胴部は斜位の撫で状の篦削り、内面は斜位篦撫でを施す。	外面及び口縁部内面の磨滅が激しい
470－20	須恵器 埦	覆土内 破片	口 (13.6) 底 (7.1) 高 (5.7)	砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	輪轆整形(右回転)。体部に張りはなく、口縁部は外反する。高台は雑な付高台。	
470－21	須恵器 埦	覆土内 破片	口 — 底 (6.6) 高 (2.7)	片岩粒少 細砂粒多	中性焔 硬質	にぶい 橙	輪轆整形(右回転?)。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。	
470－22	須恵器 埦	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.8)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	中性焔 硬質	にぶい 橙	輪轆整形(右回転)。体部に張りを有し、口縁部は強く外反する。外面整形は雑。	
470－23	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (19.0) 底 — 高 (10.6)	砂粒多 黒色鉱物粒少	還元焔 硬質	にぶい 橙	輪轆整形(右回転)。胴部に張りは強く口縁部は内湾気味に内傾する。内外面共に輪轆整形痕を残すが、口縁部内面に倒い指頭痕状の窪みがみられる。	
470－24	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (5.5)	細砂粒多	還元焔 硬質	にぶい 黄橙	輪轆整形(右回転)。胴部に張りを有し、口縁部は内湾気味に内傾する。口唇部は平坦で内傾する。内外面共に輪轆整形痕を残す。	
470－25	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.2	白色細粒多	還元焔 硬質	黄灰	一枚作り。凹面布目は非常に明瞭。凸面は撫で、端部は何かに当たった痕跡を顕著に残している。	
470－26	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒少 白色細粒多	酸化焔 硬質	赤褐	一枚作り?。凹面は、撫でによって布目が施されている。凸面は斜格子叩き。	
471－27 198	石製品 臼玉	覆土内 ほぼ完形	径 1.2 厚 0.3 孔 0.2	滑石			穿孔は一方向から。表面は剥離している。	重 1.0
471－28 198	石器 敲石	覆土内 完形	長 7.0 幅 5.1 厚 4.7	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 540.0

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎　土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
471－29 198	石　器 燕編み石	23cm 写残存	長 (10.6) 幅 5.6 厚 4.9	石英閃緑岩			下端部欠損。使用痕不明。	重 445.0
471－30 198	石　器 敲　石	2cm 完形	長 18.3 幅 7.3 厚 4.7	粗粒安山岩			上端部に剥離がみられる。	重 943.0

第222号址

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎　土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
472－1	土 師 質 坏	覆土内 写残存	口 (10.0) 底 — 高 (3.0)	細砂粒少 褐色細粒多 白色細粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。体部に弱い張りを有し口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整である。内面の轆轤整形痕は顕著。	
472－2	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (8.6) 高 (1.0)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。底部回転糸切り無調整。	
472－3	須 恵 器 壁	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	底部破片で、わずかに突出する。外面は撫で で、内面は青海波文。	厚 0.9
472－4 199	金属製品 耳　環	覆土内 完形	径 2.6 厚 0.6	銅製			環状で、1ヶ所切れている。全面に緑錆がみられる。	重 11.0 内径 1.5
473－5	須 恵 器 横　瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色粒少	還元焔 硬質	灰	内面撫で、外面はカキ目。	厚 1.1 内外面に カーボン 付着

第223号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎　土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
475－1 199	土 師 器 坏	覆土内 写残存	口 (13.4) 底 — 高 (2.7)	黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は荒削りで間に整形不明瞭な部分がみられる。	
475－2	土 師 器 坏	±0cm 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は直立する。口縁部横撫で後底部周辺は円周方向。中央部は一方向の荒削りを施す。	
475－3	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (19.2) 底 — 高 (4.3)	白・黒色鉱物 粒多	酸化焔 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は直立する。口縁部横撫で後底部に横位荒削りを施す。	
475－4	須 恵 器 坏	カマド内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (2.7)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は直線的で、底部から腰部にかけて回転荒削りを施す。	底部付近と内面に自然釉
475－5	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 (16.8) 底 — 高 (3.5)	白・黒色細粒 少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾し腰部に回転荒削りを施す。	
475－6	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口 (14.0) 摘 — 高 (1.8)	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（？）。口縁部が短く屈曲する。	
475－7	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口 (16.0) 摘 — 高 (1.5)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。扁平な天井部で、外面に回転荒削りを施す。内面かえりは痕跡程度である。	
475－8	須 恵 器 短 頸 壺	覆土内 破片	口 (10.0) 底 — 高 (4.2)	白色細粒微	還元焔 硬質	灰	胴部の張りは強く、口縁部は直立する。口唇部は平坦で、ごくわずかに内湾する。内外面共に轆轤整形痕を残す。	

第224号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
476－1	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(12.4) 底　(9.4) 高　(3.9)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて反り気味に外傾する。底部は回転糸切り無調整。	
476－2	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(10.8) 底　— 高　(4.0)	白色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(？)。体部から口縁部にかけてわずかに内湾気味である。	外面に自然釉
476－3	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(4.2) 摘　— 高　(1.8)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。環状摘で作りは丁寧。	内面に自然釉
477－4 199	須恵器 羽　釜	±0cm 与残存	口　(19.2) 底　(5.2) 高　(23.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	還元焔 やや硬質	灰	紐作り轆轤整形。胴部中位に張りを有し、口縁部は反り気味に直立する。鍔は上面が水平の状態である。胴部上半は轆轤整形痕を残し、下半は２段の斜位の篦撫でを施す。	胴部外面にカーボン付着
477－5	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒多 細砂粒少	還元焔 硬質	灰	頸部破片で、外面に10本単位の波状文とボタン状貼付文を施す。内面は轆轤整形痕を残す。内外面に薄く自然釉。	厚　1.3
477－6	石製品 支　脚	燃焼部中央 与残存	長　(17.1) 幅　(9.0) 厚　(9.2)	未固結凝灰岩			周囲は面取りがされ、上平分を欠損する。	
477－7	瓦 女　瓦	カマド内 破片	厚　2.0	細砂粒多 褐色細粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。凹面は、横位の撫で状の篦削り。凸面は撫でを施す。	

第225号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
479－1 199	須恵器 坏	覆土内 与残存	口　(13.4) 底　6.2 高　(3.8)	細砂粒微	還元焔 やや軟質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は強く外反する。底部は回転糸切り無調整で、底部にワラ状のものの圧痕がある。	
479－2	須恵器 埦	±0cm 与残存	口　— 底　6.8 高　(3.1)	褐色細粒少	中性焔 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
479－3	須恵器 埦	12cm	口　— 底　(7.0) 高　(3.1)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台で、高台貼付に伴い、回転糸切り痕は粗く撫で消されている。	底部に箆先？の刺突あり
479－4 199	須恵器 埦	－2cm 与残存	口　— 底　(6.0) 高　(1.9)	白色細粒少 褐色細粒多	還元焔 やや硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部上半は欠損する。高台は底部回転糸切り後の付高台。内面見込み部に墨書。文字は不明。	墨書
479－5	灰釉陶器 埦	覆土内 破片	口　(15.0) 底　— 高　(2.6)	美濃系		明灰	釉の発色が非常に悪く、施釉技法は不明。	
479－6	灰釉陶器 埦	覆土内 破片	口　(16.0) 底　— 高　(3.6)	美濃系		灰白	口唇部がわずかに外に屈曲する。施釉は刷毛掛けか？。	
479－7 199	土製品 とりべ	覆土内 破片	口　(8.7) 底　— 高　(3.0)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	手捏ねで成形されている。内面には発泡した黒色の付着物が厚く付着し、一ヶ所縁錆が認められた。断面の内面側矢印程度は、発泡しビンクに変色している。	
479－8	須恵器 甕	16cm 破片	口　— 底　(14.0) 高　(18.2)	砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形。外面の撫で整形はやや粗く、内面に轆轤調整痕を明瞭に残している。高台は付高台。	
479－9 199	灰釉陶器 小　瓶	3cm 与残存	口　— 底　— 高　(6.0)	美濃系		灰	轆轤整形。肩部に張りはなく、胴部下半に最大径を有する。釉は部分的にしかみられず、発色も悪い。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
479－10	土師器 甕	覆土内 破片	口　(20.0) 底　— 高　(6.2)	細砂粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	「コ」字状口縁の屈れたもので、口縁部上端外面に沈線が巡る。口縁部は横撫で、胴部上半は横位箆削りで、口縁部横撫で部との間に整形不明瞭な部分がある。内面は横位箆撫で、条線状の痕跡がある。	
479－11	土師器 甕	覆土内 破片	口　(18.4) 底　— 高　(8.5)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	「コ」字状口縁の屈れたものと考えられる。口縁部の横撫では胴部にも及び、胴部上半横位箆削り、内面は横位箆撫で を施す。	
479－12 199	土製品 土　錘	覆土内 写残存	径　1.2 長　(3.0) 重　4.0	褐色細粒微	酸化焔 硬質	灰	紡錘形の土錘で、両端部を欠損している。器面は丁寧に磨かれており、わずかに溝がある。	
479－13 199	鉄　器 釘？	覆土内 —	長　4.1 幅　0.6 重　14.2				「C」字状に曲がっているが、断面は方形であり、釘が曲がったものと考えられる。	
479－14 199	鉄　器 不　明	覆土内 —	長　8.5 幅　2.7 重　16.4				小刀等の茎の部分かとも考えられるが、刃部側の身巾が大きくなりすぎる気もする。いずれにしても何らかの茎となることは確実である。断面長方形。	
480－15	須恵器 甑？	覆土内 破片	口　— 底　(18.0) 高　(7.1)	砂粒少 褐色細粒多	還元焔 硬質	浅黄	輪轆整形。胴部下端内面に段を有し、1ヶ所窪みがみられた。	
480－16	瓦 女　瓦	12cm 破片	厚　1.6	砂粒少 褐色粒少	還元焔 硬質	にぶい 橙	一枚作り。側端部の面取りは3面。凹面布目はわずかに磨滅している。凸面は縦位縄叩き後粗い撫でを施す。	
480－17	瓦 女　瓦	－3cm カマド内 20cm 破片	厚　2.0	黒色粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取りは2面。狭端部は斜に箆削りされている。凹面の布目は粗く横位→縦位の撫でが施され、大半が消されている。凸面はわずかに粘土板糸切り痕が残り、全面に縄叩きが施されている。	
480－18	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚　1.6	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取りは1面。凹面の布目は明瞭であるが、一部撫で消されている。凸面は撫で。	
480－19	瓦 女　瓦	カマド内 9cm 破片	厚　1.7	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取りは2面、凹面には一部粘土板糸切り痕が残り、布目は明瞭で薄く自然釉がかっかっている。凸面は端部側横位その他は縦位の縄叩きで、離れ砂がみられる。	
480－20 199	石　器 両編み石	12cm 完形	長　10.9 幅　6.3 厚　5.4	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 783.0

第226号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
482－1	土師器 坏	カマド内 破片	口　(14.0) 底　— 高　(3.0)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
482－2	須恵器 甕	柱穴 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少 褐色細粒微	還元焔 硬質	灰	粗作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.0
482－3	須恵器 短頸壺	カマド内 破片	口　(15.0) 底　— 高　(8.3)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	胴中位が強く張り、口縁部は短く直立する。内面には轆轤調整痕を残し、胴部外面は全面カキ目を施す。	

第227号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目（cm） 量目（g）	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
484－1 199	土師器 坏	覆土内 与残存	口（13.0） 底　－ 高（4.5）	細砂粒多 白色細粒少	酸化焔 やや硬 質	灰黄	底部は丸底で、口縁部との境に弱い段を有し口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りであるが磨滅が激しく不明瞭。	胎土、焼成共他と異質
484－2	須恵器 坏	覆土内 破片	口（12.0） 底（7.0） 高（3.8）	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。底部は回転糸切り無調整。	外面に薄く自然釉
484－3	須恵器 坏	カマド内 破片	口　－ 底（11.0） 高（1.9）	白色細粒多 細砂粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。底部は回転箆削りを施す。	外面の一部に自然釉
484－4	土師質 埴	覆土内 破片	口　－ 底（6.0） 高（3.2）	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少	中性焔 やや軟 質	橙	轆轤整形（右回転）。体部下半に張りを有する。高台は付高台で、底部切り離しは回転糸切りと思われるが、撫でによって不明瞭。	
484－5	土師器 甕	覆土内 破片	－13cm	細砂粒少 褐色粒少	酸化焔 やや軟 質	橙	口縁部は「C」字状に外反し、胴部は強く張る器形と考えられる。口縁部は横撫でで、胴部外面には横位箆磨きが施されている。	
484－6 199	土師器 甕	カマド内 与残存	口（17.4） 底　－ 高（24.8）	細砂粒多 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	におい 橙	胴部中位に張りを有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、胴部は縦位の箆削りを施す。内面は斜位の撫でである。	
484－7 199	石　器 敲編み石	8cm 完形	長　14.4 幅　7.6 厚　4.2	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 775.0

第228号址

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目（cm） 量目（g）	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
486－1	土師器 坏	覆土内 破片	口（14.0） 底　－ 高（3.1）	褐色細粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
486－2	土師器 坏	覆土内 破片	口（13.0） 底　－ 高（3.2）	細砂粒微 白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、同に調整不明瞭な部分があり、接合痕がみられる。	
486－3	土師器 坏	覆土内 破片	口（15.0） 底　－ 高（3.1）	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、同に整形不明瞭な部分がみられる。	口縁部に穿孔がある
486－4	土師器 坏	覆土内 破片	口（13.0） 底　－ 高（2.9）	細砂粒微 白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は平底気味の丸底で、口縁部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は横撫で、底部は箆削りで間に整形不明瞭な部分がみられる。	
486－5 199	土師器 坏	覆土内 破片	口（13.0） 底（8.9） 高（3.8）	細砂粒多 黒色鉱物粒微	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は平底で、体部から口縁部にかけて内湾する。外面は口縁部横撫で後体部に斜位箆削りを施し、内面は全面撫で後体部に放射状、見込み部にラセン暗文を施す。	暗文
486－6 199	土師器 坏	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部が内湾する器形で、外面は口縁部横撫で後体部に横位（右→左）箆削りを施し、内面は撫で後放射状と斜放射状暗文を組み合わせて格子状暗文を施す。	厚　0.6 暗文
486－7	須恵器 埴	覆土内 破片	口（11.0） 底（6.0） 高（4.3）	白色細粒少	還元焔 硬質	褐灰	轆轤整形（？）。体部中位に弱い張りを有する。高台は付高台で、底部調整が施されているものと考えられる。	体部、高台底部に自然釉
486－8 200	須恵器 蓋	±0cm 完形	口　8.5 摘　2.8 高　4.5	細砂粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形（右回転？）。天井部の丸味は弱く内面のかえりが鬼常に長く内傾する。摘は環状摘で小振りである。	
486－9	須恵器 蓋	覆土内 破片	口（14.0） 摘　－ 高（1.9）	白色細粒少	還元焔 硬質	灰オリーブ	轆轤整形（右回転）。天井部は扁平な器形で口縁端部が弱く屈曲する。天井部外面は回転箆削りを施している。摘は欠落していて不明。	
486－10	土師器 甕	覆土内 破片	口（23.0） 底　－ 高（4.6）	砂粒少 白色細粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部は「く」字状に外反し、内面は弱い受口状を呈する。口縁部は横撫で、胴部は斜位に箆削りを施す。	

第230号址

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
487－1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.7) 底 － 高 (3.6)	黒色鉱物粒多 白色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、間に調整不明瞭な部分がみられる。	
487－2 200	土師器 坏	覆土内 写残存	口 (13.0) 底 － 高 (4.0)	細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は弱く内湾する。口縁部横撫で後、底部に箆削りを施し、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
487－3 200	土師器 坏	覆土内 写残存	口 (14.0) 底 － 高 (3.4)	細砂粒微 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。底部は撫で状の箆削り、口縁部は横撫で、間に整形不明瞭な部分がある。	
487－4 200	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 － 高 (2.8)	黒色鉱物粒多 白色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 やや軟 質	橙	底部は丸底で、口縁部は短くわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
487－5 200	土師器 坏	覆土内 写残存	口 (13.5) 底 － 高 (3.1)	白・黒色鉱物 粒少 細砂粒少	酸化焔 やや軟 質	橙	底部は平底状の丸底で、口縁部はわずかに反り気味に外傾する。口縁部は横撫で、底部は放射状の箆削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
487－6 200	土師器 坏	覆土内 写残存	口 (13.4) 底 － 高 (3.3)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は扁平な丸底状で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で底部は斜放射状の箆削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
487－7	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 － 高 (3.0)	黒色鉱物粒微	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	口唇部にわずかにカーボン付着
487－8 200	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.6) 底 － 高 (2.9)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 やや軟 質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、間に調整不明瞭な部分がみられる。	
487－9 200	土師器 坏	覆土内 写残存	口 13.5 底 － 高 3.2	白・黒色鉱物 粒多 細砂粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は強く内湾する。口縁部は横撫で、底部は円周方向の箆削りで間に整形不明瞭な部分がみられる。	
488－10	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 － 高 (3.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、間に調整不明瞭な部分がみられる。	
488－11	土師器 坏	覆土内 写残存	口 (13.8) 底 － 高 (2.9)	黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は強い横撫で底部は削り状の撫でで、間にひびの入ったような調整不明瞭な部分がみられる。内面は丁寧な撫でを施す。	
488－12 200	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.8) 底 － 高 (3.3)	黒色鉱物粒少 細砂粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。内面は丁寧に撫でが施されている。	
488－13 200	土師器 坏	覆土内 写残存	口 (16.4) 底 － 高 (4.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾気味に直立する。口縁部は横撫で底部は斜放射状の箆削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
488－14	土師器 坏	覆土内 破片	口 (16.7) 底 － 高 (4.2)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部はやや内湾気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、間に調整不明瞭な部分がみられる。	
488－15 200	土師器 坏	－2cm 写残存	口 (16.8) 底 － 高 (4.5)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は撫で状の箆削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
488－16 200	土師器 杯A I 平城I期	覆土内 破片	口 － 底 － 高 －	白色細砂少	酸化焔 硬質	橙	体部破片で、外面撫で、内面は丁寧な撫で後、密な放射状暗文を施す。	厚 0.5 畿内産暗文
488－17 200	土師器 坏	覆土内 破片	口 － 底 － 高 －	細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部がわずかに内湾し、内面に窪みが巡る。外面は口縁部横撫で後体部に斜位（左→右）箆削り、内面は撫で後斜放射状暗文を施す。	厚 0.6 暗文
488－18 200	土師器 坏	覆土内 破片	口 － 底 － 高 －	細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	体部破片で、外面箆削り、内面は丁寧な撫で後放射状暗文を施す。	厚 0.4 暗文

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
488－19 200	土師器 坏	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	片岩粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	橙	体部から口縁部にかけて、わずかに内湾する器形で、外面は口縁部横撫で、体部斜位（下→上）篦削りを施し、内面は全面撫で後斜放射状暗文を施す。	厚　0.7 暗文
488－20 200	土師器 坏	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	体部から底部にかけての破片で、外面体部及び底部は篦削り、内面は撫で後放射状暗文を施す。	厚　0.5 暗文
488－21 200	土師器 坏	6cm ヲ残存	口　(14.4) 底　(8.5) 高　(4.4)	細砂粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は平底で、体部から口縁部は直線的に外傾する。体部外面は口縁部横撫で後横位の篦削りを施す。内面は丁寧な撫で後斜放射状の暗文を施し、交叉する部分では一部斜格子状暗文状にみえる部分がある。見込み部にラセン暗文が施されている。	暗文
488－22 200	須恵器 坏	覆土内 ヲ残存	口　(14.0) 底　8.1 高　3.7	褐色粒少 細砂粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、強く外傾する。底部は回転糸切り無調整。	
488－23 200	須恵器 坏	覆土内 ヲ残存	口　(11.2) 底　(6.0) 高　(4.8)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾する。底部は回転篦切り後の回転篦削りと考えられ、底部外縁及び腰部分に段の回転篦削りが施されている。	
488－24 200	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(12.4) 底　－ 高　(3.8)	白色細粒少 黒色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転？)。体部の外傾は強く体部中位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。底部の切り離しは不明でわずかに丸底気味に突出する。腰部に重ね焼き痕？	外面に自然釉
488－25 200	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(14.4) 底　(8.4) 高　(3.8)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。底部は回転篦切り無調整。	
488－26 200	須恵器 坏	覆土内 ヲ残存	口　(15.0) 底　(9.5) 高　(3.8)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。底部は回転篦切り後周辺に２段の回転篦削りを施す。	
488－27 200	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(11.1) 底　(7.2) 高　(3.5)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(左回転)。体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。底部は回転糸切り無調整で、体部下半に篦削りを施す。	内外面に火だすき
488－28 200	須恵器 埦	覆土内 ヲ残存	口　(11.0) 底　(6.9) 高　(4.9)	黒色粒多 細砂粒微	還元焔 やや硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有する。高台は底部回転糸切り後の付高台。内面は比較的丁寧に撫でられ、轆轤整形痕をほとんど残さない。内面下半に重ね焼き痕？	
488－29 200	須恵器 埦	覆土内 破片	口　(11.0) 底　6.6 高　4.7	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけ弱く内湾する。高台は底部回転篦削り後の付高台。	
488－30 200	須恵器 埦	覆土内 ヲ残存	口　(14.0) 底　(9.2) 高　(5.5)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は直線的で、腰部にも張りはない。高台は底部回転篦削り後の付高台。	
488－31 200	須恵器 埦	覆土内 ヲ残存	口　(19.4) 底　(10.8) 高　(8.2)	細砂粒少 褐色粒微	還元焔 やや硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は直線的で腰部にごくわずかな張りがある。高台は底部回転糸切り後、底部周辺及び腰部回転篦削り後の付高台。	内外面の磨滅が激しい
488－32 201	須恵器 皿	覆土内 破片	口　(21.8) 底　(14.0) 高　(3.6)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰に張りを有し、体部は直線的に外傾する。底部は腰部に回転篦削りを施す。	
489－33 201	須恵器 台付盤	覆土内 ヲ残存	口　(19.5) 底　－ 高　(3.2)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰の張りが強く、体部が直線的に外傾する。底部及び腰部を回転篦削り後脚部を貼付している。	内外面に薄く自然釉
489－34	須恵器 台付盤	2cm 破片	口　(23.7) 底　(19.3) 高　(4.8)	黒色粒多	還元焔 やや硬質	灰白	轆轤整形(右回転？)。体部から口縁部にかけてわずかに内湾気味に外傾する。高台は付高台。	
489－35	須恵器 埦	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白色細粒少 黒色粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転？)。底部破片で、回転篦削り後に篦状工具によって高台を作り出している。	底部に自然釉

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
489−36	須恵器 壺	覆土内 破片	口　— 底　— 高　(1.0)	細砂粒微	還元焔 やや軟質	灰白	輪鞴整形(右回転)。底部の破片で、回転篦削り後に置状工具の撫でによって高台を作り出している。	
489−37 201	須恵器 蓋	±0cm ほぼ完形	口　13.0 摘　3.8 高　2.9	白色細粒多 細砂粒少	還元焔 硬質	灰	輪鞴整形(右回転)。天井部の張りは比較的強く、口縁部は短く屈曲する。摘は環状摘で天井部外面回転篦削り後の貼付。	
489−38	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　— 摘　3.7 高　(2.5)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪鞴整形(右回転)。摘は宝珠状？で、天井部外面回転篦削り後の貼付。	
489−39	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(11.7) 摘　— 高　(3.7)	白色細粒微	還元焔 硬質	灰	輪鞴整形(?)。体部に弱い張りを有し、口縁部は外反する。摘は、欠落しているため不明。	
489−40	須恵器 蓋	覆土内 ½残存	口　(19.2) 摘　— 高　(2.6)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪鞴整形(右回転?)。比較的扁平な器形で口縁端部は短く屈曲する。摘は環状摘であるが欠落している。	外面に自然釉
489−41	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(18.3) 摘　— 高　(1.3)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪鞴整形(右回転)。扁平な器形で、口縁端部は短く屈曲する。天井部外面に回転篦削りを施す。	
489−42	土師器 甕	覆土内 破片	口　(18.5) 底　— 高　(4.5)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部は「く」字状に外反する。口縁部横撫で後、胴部上半に横位篦削りを施す。	
489−43	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	口　(9.8) 底　— 高　(6.5)	褐色細粒微	還元焔 硬質	灰	直線的に外傾する器形で、内外面に輪鞴整形痕を明瞭に残す。	内外面に自然釉
489−44	須恵器 高　坏	覆土内 破片	口　— 底　(13.8) 高　(10.2)	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪鞴整形(?)。脚部下半が強く開き、端部は短く屈曲する。	
489−45	須恵器 甕	覆土内 破片	口　(20.8) 底　— 高　(5.1)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	口縁部は強く反り気味に外傾し、上端は屈曲する。	
489−46	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　(11.2) 高　(3.0)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪鞴整形(右回転)。口縁部と判断したが、自然釉が内面にみられないことから脚部の可能性もある。	
489−47	須恵器 瓶	覆土内 破片	口　— 底　(13.7) 高　(4.3)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	胴部は回転篦削りされているようであるが、不明瞭。	内面見込み部及び外面胴部に自然釉
489−48	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　(19.9) 高　(7.2)	細砂粒微	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。丸底の底部を有する壁に高台を貼付している。外面は平行叩きで、底部にまで及んでいる。内面は青海波文。	
489−49	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色粒少	還元焔 硬質	灰	外面は波状文が施され、内面は横位撫でを施す。	厚　0.8
489−50	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.0 外面に自然釉
489−51	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	口縁部破片で、外面に波状文を施す。	厚　1.1
489−52	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	砂粒微 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面は平行に近い文様の当具である。	厚　1.5 外面に自然釉
490−53	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒微 褐色粒微	還元焔 硬質	灰	外面に沈線と6本単位の波状文を施す。	厚　1.0
490−54	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	黒色細粒微	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面変形叩き?、内面青海波文。	厚　0.7

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
490－55 201	鉄　器 釘	覆土内 破片	長　(2.7) 幅　2.0 重　7.7				頭部の破片で、傘のような形状をしている。	

第235号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
492－1	土師質 埴	覆土内 破片	口　(16.4) 底　－ 高　(5.0)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 軟質	淡黄	輪積整形(左回転?)。内外面の器面調整は補。	

第239号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
494－1 201	土師質 埴	±0cm ほぼ完形	口　11.6 底　(5.8) 高　4.6	砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	輪積整形(左回転)。腰部の張りは強く、口縁部はわずかに外反する。高台は強く「八」字状に開くもので、付高台である。	
494－2	須恵器 埴	覆土内 破片	口　－ 底　(6.0) 高　(2.1)	細砂粒多	還元焔 やや硬質	灰	輪積整形(?)。高台は底部撫で調整後の付高台で、外面貼付部が明瞭に観察できる。	
494－3 201	灰釉陶器 皿	2cm 瓦残存	口　(12.5) 底　(6.5) 高　(2.4)	美濃系		灰白	輪積整形(右回転)。腰部に強い張りを有し口縁部はわずかに外反する。高台は底部回転糸切り後の付高台で、全体に突出する。施釉は漬け掛けであろう。	内面に重ね焼きの高台付着
494－4	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　－ 摘　4.0 高　(2.4)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転)。摘は擬宝珠で、天井部外面回転篦削り後の貼付。	内面に自然釉
494－5 201	須恵器 盤	±0cm 瓦残存	口　(24.2) 底　(18.2) 高　(4.1)	細砂粒少	中性焔 やや硬質	にぶい 黄橙	輪積整形(右回転)。大形のもので、腰部に張りを有し、口縁部はわずかに外反する。高台は底部及び腰部篦削り後の付高台。	内外面の磨滅が激しい
494－6 201	土師器 土　釜	2cm 破片	口　(25.0) 底　－ 高　(18.5)	細砂粒多 小礫微 黒色鉱物粒多	酸化焔 軟質	にぶい 橙	紐作り。胴部上半に張りを有し口縁部は「C」字状に外反する。口縁部横撫で後、胴部上半横位、下半縦位の篦削り、内面は斜位の撫でを施す。	
494－7 201	土師器 羽　釜	カマド内 破片	口　(20.0) 底　－ 高　(12.5)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 軟質	橙	紐作り。全体に輪積使用の痕跡はみられない。胴部の張りは弱く、口縁部は直線的に直立する。鍔は断面三角形で雑な貼付である。胴部外面鍔下は縦位（上→下）の篦削り、内面は斜位の撫でを施す。	
494－8	須恵器 壺	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.1 内面の器面剥落
494－9	瓦 男　瓦	カマド内 破片	厚　1.3	白色細粒多 褐色粒多	還元焔 硬質	にぶい 赤褐	一枚作り？。側端部面取りは3面。狭端部凹面に篦削り、凸面は削り状の横位撫で。 第494図－10と同一個体。	
494－10	瓦 男　瓦	カマド奥 壁13cm 瓦残存	厚　2.0	白色細粒多 褐色粒多	還元焔 硬質	にぶい 赤褐	一枚作り？。側端部面取りは3面、広端部凹面に篦削り、凸面は削り状の横位撫で。 第494図－9と同一個体。	
494－11 201	鉄　器 釘	覆土内 破片	長　(4.9) 幅　(1.3) 重　8.4				両端を欠損する釘で直角に曲がっている。	

第240号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
495－1 201	土師器 坏	カマド内 写残存	口 (12.6) 底 — 高 (3.6)	細砂粒少	酸化焔 やや軟 質	橙	底部は丸底で口縁部との境に強い段を有し、口縁部は直立する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	内外面黒色塗彩
495－2 201	土師器 坏	覆土内 完形	口 12.8 底 — 高 3.5	白・黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
495－3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (3.7)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 やや軟 質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
495－4 201	須恵器 蓋	覆土内 完形	口 13.9 摘 3.5 高 3.3	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部の張りが強く、口縁部は短く屈曲する。摘は環状摘で、天井部外面回転箆削り後の貼付。	
495－5 201	須恵器 蓋	覆土内 完形	口 (15.8) 摘 3.5 高 3.5	細砂粒微 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部は短く屈曲する。摘は環状摘で、天井部外面回転箆削り後の貼付。	口縁部が全面打ち欠かれる
495－6	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (10.0) 高 (1.5)	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転？)。底部は回転箆削り無調整。	
495－7	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.1 薄く自然釉
495－8 201	石器 敲石	覆土内 完形	長 14.3 幅 10.0 厚 3.1	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 741.9
495－9 201	石器 石錘	覆土内 完形	長 13.1 幅 5.4 厚 5.1	花崗岩			全面に剥離がみられる。	重 616.0

第241号址

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
497－1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (4.0)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は反り気味に直立する。口縁部は横撫で底部は箆削りを施す。	
497－2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (4.5)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は比較的深い丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は内湾気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、間の整形は不明瞭。	
497－3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.7)	白色細粒少 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部はわずかに反り気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
497－4 坏	土師器	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (4.2)	片岩粒多 褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は強く外反する。口縁部は横撫で底部は箆削りを施す。	外面の磨滅が激しい
497－5 坏	土師器	覆土内 写残存	口 (14.0) 底 — 高 (4.0)	褐色細粒多 黒色細粒微 細砂粒多	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	内面黒色塗彩
497－6 坏	土師器	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.5)	褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は屈曲して外傾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
497－7 坏	土師器	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.1)	白色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
497－8 高坏？	土師器	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (3.6)	細砂粒少	酸化焔 やや軟 質	橙	体部から口縁部にかけて弱く内湾する。口縁部は横撫で、体部は撫でで、内面は箆磨き後黒色処理を施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
497－9	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(13.2) 底　— 高　(3.5)	白色細粒微	還元焔 硬質	灰	輪鏡整形(?)。丸底で受け部は水平方向に延び、口縁部は反り気味に内傾する。	外面に厚く自然釉
497－10	土師器 甕	覆土内 破片	口　(19.4) 底　— 高　(8.7)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 やや軟質	橙	胴部の張り弱く、口縁部は強く外反する。口縁部は横撫で、胴部は、斜位の箆削りを施す。内面は撫で。	
497－11	須恵器 甕	覆土内 破片	口　(21.0) 底　— 高　(13.2)	細砂粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。口縁部は外面平行叩き後、沈線及びイ本単位の波状文を巡らし、内面は撫でを施す。胴部外面は平行叩き後カキ目、内面は青海波文。	
497－12	土師器 台付甕	覆土内 破片	口　— 脚部(11.5) 高　(3.0)	細砂粒多 白・黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	「八」字状に開く脚部で、器面の磨滅が激しい。	
497－13	須恵器 甕	覆土内 破片	口　(25.0) 底　— 高　(3.1)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	口縁部の破片で、上端に強い段を有する。	内外面に薄く自然釉
498－14	須恵器 甕	5cm 破片	口　— 底　— 高　(29.3)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き後、間隔をおいて横位カキ目、内面青海波文。	
498－15 201	石　器 敲　石	2cm 片残存	長　10.7 幅　7.2 厚　4.6	粗粒安山岩			側面に敲打痕がみられる。下端部は欠損。	重 610.0
498－16 201	石　器 敲　石	覆土内 片残存	長　7.3 幅　6.0 厚　2.6	変質玄武岩			使用痕不明。半載された下端部にわずかの剥離がみられる。	重 200.0
498－17 201	石　器 鷹編み石	14cm ほぼ完形	長　10.7 幅　5.4 厚　4.1	頁岩			両面に剥離がみられる。	重 309.0
498－18 201	石　器 鷹編み石	覆土内 ほぼ完形	長　11.8 幅　4.2 厚　3.0	珪質頁岩			側端部が剥離している。カーボン付着。	重 239.0

第247号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
501－1	土師器 坏	覆土内 破片	底　13.8 底　— 高　(4.2)	細砂粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は内湾気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
501－2 202	土師器 坏	覆土内 矢残存	口　12.0 底　— 高　3.7	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後、底部に箆削りを施す。	底部に黒斑
501－3 202	土師器 坏	覆土内 矢残存	口　13.2 底　— 高　4.8	細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は比較的深い丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部はわずかに内傾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
501－4	土師器 坏	覆土内 破片	口　(14.0) 底　— 高　(4.0)	白・黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 やや硬質	にぶい赤褐	底部は丸底で、口縁部は短く内傾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
501－5	須恵器 壺	覆土内 破片	口　— 底　(10.2) 高　(2.8)	細砂粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪鏡整形(右回転)。高台は底部と顔部回転箆削り後の付高台。	外面に自然釉
501－6	須恵器 壺	覆土内 破片	口　(11.1) 底　(7.4) 高　(4.2)	白色細粒多 細砂粒少	還元焔 硬質	灰	輪鏡整形(?)。腰に張りを有し、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。高台は付高台。	外面に自然釉
503－7	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(14.4) 摘　— 高　(2.3)	褐色粒微	還元焔 硬質	灰	輪鏡整形(右回転)。天井部に弱い張りを有する。内面かえりは比較的シャープである。天井部外面は口縁部近くまで、回転箆削りが施されている。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
503－8	土師器 甕	覆土内 破片	口 (17.4) 底 — 高 (3.7)	黒色鉱物粒多 白色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	強く外反する口縁部破片。口縁部は横撫で内面撫でを施す。	
503－9	須恵器 短頸壺	覆土内 破片	口 (12.2) 底 — 高 (6.6)	細砂粒微	還元焔 硬質	灰	肩の張る扁平な器形で、口縁部は直立する。胴部最大部に2本の沈線と8～9本単位の波状文、肩部に刺突を施す。胴部下半はカキ目底部は回転篦削りを施す。	
503－10	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	外面平行叩き後横位カキ目、内面青海波文。内面はわずかに磨滅する。	厚 0.8
503－11	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取りは1面。凹面に粘土板糸切り痕があり、布目は大半が撫で消されている。凸面は縄叩きであるが布の圧痕。	
504－12 202	土師器 甕	覆土内 3/4残存	口 — 底 5.4 高 21.0	細砂粒多 褐色細粒多	酸化焔 やや硬 質	にぶい 赤褐	胴部上半に強い張りを有する。胴部外面は斜位（上→下）の荒削り、内面は撫でを施す。	
504－13 202	石器 薄編み石	覆土内 完形	長 16.5 幅 7.6 厚 3.0	ひん岩			全面が剥離している。	重 778.0
504－14 202	石器 薄編み石	4cm 完形	長 13.8 幅 5.2 厚 5.8	粗粒安山岩			使用痕不明。わずかにカーボン付着。	重 616.0
504－15 202	石器 薄編み石	5cm 完形	長 13.0 幅 6.6 厚 4.5	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 591.0

第248号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
505－1	須恵器 羽釜	カマド内 4cm 破片	口 (22.0) 底 — 高 (7.2)	細砂粒多	酸化焔 硬質	橙	輪轆整形（右回転？）。胴部の張りは弱く口縁部は直立する。口唇部は平坦で、水平である。鍔部下胴部外面は縦位の粗い撫でが施されている。	
505－2	瓦 女瓦	カマド内 －3cm 3/4残存	厚 2.3	砂粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取りは3面。凹面に粘土板糸切り痕がわずかにみられる。凸面は全面に撫で後縦位の荒削り。	
505－3	瓦 男瓦	カマド内 8cm破片	厚 2.1	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。凹面に、明瞭な粘土板糸切り痕を残す。	

第250号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
507－1	土師質 坏	覆土内 破片	口 (10.8) 底 — 高 (2.6)	白・黒色鉱物粒少 褐色細粒少	中性焔 やや硬 質	黄橙	輪轆整形（右回転）。体部に張りを有し、口縁部は外反する。体部外面に沈線状の強い輪轆整形痕がみられる。	
507－2	灰釉陶器 埦	覆土内 破片	口 — 底 (7.6) 高 (1.8)	雲母系		灰	輪轆整形。高台は底部回転篦削り後の付高台で、高台貼付に伴い撫でられている。体部内面下半に段があり、段皿の可能性もある。施釉技法は浸け掛け？で、内面に重ね焼きの痕跡がある。	
507－3	須恵器 甕	2cm 破片	口 (27.8) 底 — 高 (12.0)	黒色鉱物粒多 褐色細粒多 細砂粒少	酸化焔 やや軟 質	橙	組作り。口縁部はわずかに内傾する。輪轆整形痕は口縁部外面と鍔部にみられる。胴部外面縦位の撫で、内面は横位撫でを施す。	
507－4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.6	砂粒少 白色鉱物粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	にぶい 黄橙	一枚作り。側端部面取り2面。凹面は撫でによって布目は消されている。凸面は縄叩き。	

第251号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
509－1 202	土師器 坏	覆土内 与残存	口　13.3 底　－ 高　3.1	細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部はわずかに内斉する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで間に整形不明瞭な部分がみられる。	
509－2	土師器 坏	カマド脇 り方 与残存	口　(13.2) 底　－ 高　(3.5)	黒色鉱物粒多 白色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 やや軟 質	にぶい 赤褐	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
509－3 202	土師器 坏	覆土内 与残存	口　(12.4) 底　－ 高　(3.4)	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部は、内斉気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで間に整形不明瞭な部分がみられる。	
509－4	土師器 坏	覆土内 破片	口　(14.8) 底　－ 高　(3.4)	細砂粒少	酸化焔 軟質	にぶい 橙	底部は平底で、体部から口縁部は直線的に外傾する。口縁部外面は横撫で、体部下半及び底部は篦削り、内面は丁寧な撫でを施す。	暗文？
509－5	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(14.2) 底　(8.9) 高　(3.3)	白色細粒多 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転篦切り無調整で、篦で「×」が描れている。	
509－6 202	須恵器 坏	覆土内 与残存	口　(13.6) 底　(7.6) 高　(4.0)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけてわずかな張りがみられる。底部は回転糸切り無調整。	
509－7	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(14.2) 底　(9.8) 高　(3.7)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部にわずかに張りを有する。底部は回転篦切り後に撫で調整されている。	
510－8	土師器 坏	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白・黒色鉱物 粒少 褐色細粒少	酸化焔 やや軟 質	橙	底部がわずかに内斉する器形で、口縁部外面横撫で、体部横位篦削り、内面は撫で後斜放射状暗文を施す。	厚　0.5 暗文
510－9	土師器 坏	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白・黒色鉱物 粒少 細砂粒少 褐色細粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部から体部下半の破片である。底部は平底で、外面は篦削り、内面は丁寧な撫で後斜放射状暗文を施す。	厚　0.5 暗文
510－10	土師器 坏	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白・黒色鉱物 粒微 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部から体部下半にかけての破片である。底部は平底で、外面は篦削り、内面は丁寧な撫で後放射状暗文を施す。	厚　0.7 暗文
510－11	須恵器 壺	覆土内 破片	口　(10.8) 底　(6.1) 高　(5.1)	細砂粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部下半に弱い張りを有し、下端に回転篦削りを施す。高台は付高台。自然釉の掛かり方から逆さで焼成されたようだ。	体部外面と高台内面に自然釉
510－12	須恵器 壺	覆土内 破片	口　(13.5) 底　(9.0) 高　(4.5)	白色鉱物粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転？)。体部は直線的に外傾する。高台は底部撫で調整後の付高台で、下端に沈線状の窪みが巡っており、外方の縁地部に磨滅がみられる。口縁部の内側5mm程の幅に強い磨滅がみられる。	外面に弧状の鍛化部分あり
510－13	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　－ 摘　2.8 高　(2.4)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部外面に強い轆轤調整痕を残している。摘はボタン状で、上面が指先でつぶされている。天井部内面中央部の磨滅が激しく、転用説の可能性あり。	
510－14	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(16.2) 摘　－ 高　(2.6)	白色細粒少	還元焔 硬質	青灰	轆轤整形(？)。天井部外面に回転篦削りを施す。内面のかえりは、あまりシャープではない。	
510－15	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(19.0) 摘　－ 高　(2.0)	白・黒色細粒 多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（？）。口縁部は短く、屈曲する。	
510－16 202	土師器 甕	覆土内 破片	口　(21.0) 底　－ 高　(11.0)	細砂粒多 褐色細粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	胴部中位はやや上半に張りを有し、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部横撫で後胴部上半横位篦削り、内面横位篦撫でを施す。	
510－17	土師器 小型甕	覆土内 破片	口　(9.0) 底　－ 高　(4.3)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	口縁部は「C」字状に外反し、胴部上半に張りを有する。口縁部は強い横撫で、胴部外面横位篦削り、内面は撫でを施す。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成 色　調	器形・技法等の特徴	備　考
510－18	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.1
510－19	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	砂粒微 黒色細粒多	還元焔 やや硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き(?)。内面青海波文。	厚　1.1
510－20 202	石　器 鹿編み石	3 cm 完形	長　13.3 幅　6.1 厚　4.1	粗粒安山岩			上、下両端部にわずかに敲打痕がみられる。	重 605.0

第253号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成 色　調	器形・技法等の特徴	備　考
512－1	土師器 坏	覆土内 3/4残存	口　(8.4) 底　(4.0) 高　(1.8)	褐色細粒少 細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや軟質	橙	轆轤整形(左回転?)。浅い皿状の器形で、口縁部は外反しない。底部はわずかに突出し回転糸切り無調整。	
512－2	灰釉陶器 埦	覆土内 破片	口　— 底　(6.4) 高　(1.5)	美濃系		灰白	轆轤整形。高台は、底部回転篦削り後の付高台。施釉技法は残存しないため不明。	
512－3	灰釉陶器 埦	カマド内 破片	口　— 底　(8.0) 高　(1.4)	美濃系		淡黄	高台は底部回転篦削り後の付高台で、高台の接地部にも篦削りが施されている。施釉技法は残存しないため不明。	
512－4	灰釉陶器 埦	覆土内 破片	口　— 底　(8.0) 高　(2.7)	美濃系		灰白	高台は比較的長脚の三日月高台状のもので、底部調整後の付高台。施釉技法は残存しないため不明。	
512－5	須恵器 羽釜	カマド内 破片	口　(19.9) 底　— 高　(4.8)	砂粒微 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	轆轤整形(?)。口縁部は直線的でわずかに内傾する。鍔の貼付は丁寧である。	内外面に粘土状の付着物
512－6	須恵器 甕	覆土内 高台部破片?	口　(23.4) 底　— 高　(4.1)	白色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（?)。「ハ」字状に強く開く脚部と思われる。	
512－7	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	口　— 底　— 高　(6.2)	砂粒少	還元焔 ? 硬質	橙	轆轤整形。胴部上半に張りを有する器形と思われる。	内外面のハゼが激しい
512－8	石　器 敲　石	覆土内 完形	長　8.5 幅　7.6 厚　4.1	粗粒安山岩			下端部、側端部に敲打痕がみられる。熱を受け変色している。	重 455.0
512－9	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚　1.7	白色鉱物粒多	中性焔 硬質	橙	一枚作り?。側端部面取りは2面。狭端部凹面側は1面の面取りがされている。凸面は縄叩き後粗く撫でられている。凹面は粘土板糸切り痕。	
512－10	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚　1.8	白色鉱物粒少 細砂粒多	還元焔 硬質	灰	補巻き作り?。側端部面取りは2面。凹面には弱い模骨痕と粘土板糸切り痕が残存。凸面は全面撫でで粘土状の付着物がみられる。	
513－11 202	瓦 女　瓦	カマド内 9 cm 3/4残存	厚　2.9	小礫微 砂粒多	酸化焔 硬質	橙	一枚作り。側端部面取り2面。凹面に粘土板糸切り痕を残す。凸面は全面撫で後篦描き文字「?」を描く。凹面の一部に炭化物付着。	

第254号住居跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成 色　調	器形・技法等の特徴	備　考
515－1 202	土師質 坏	一6 cm 完形	口　8.9 底　4.0 高　2.7	黒色鉱物粒少 細砂粒少 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。体部に弱い張りを有する。底部は回転糸切り無調整。	口縁部内外面カーボン付着
515－2 202	須恵器 坏	覆土内 3/4残存	口　13.2 底　6.0 高　3.1	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く直線的に強く外傾する。底部は、回転糸切り無調整。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
515－3 202	須恵器 坏	カマド内 －8cm 完形	口　14.2 底　6.1 高　4.1	細砂粒多 褐色細粒多	還元焔 やや硬 質	灰	轆轤整形(右回転)。体部に弱い張りを有し口縁部は外反しない。底部は回転糸切り無調整で、片側がわずかに突出する。	
515－4 202	須恵器 埦	カマド内 与残存	口　(16.0) 底　(7.2) 高　(4.9)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位の張りは弱く口縁部は強く外反する。体部内外面の轆轤整形痕は非常に強い。高台は底部回転糸切り後の付高台で、接地部に沈線状の窪みがみられる。	
515－5 203	須恵器 埦	－7cm 与残存	口　(15.0) 底　5.8 高　(5.1)	細砂粒少	還元焔 やや軟 質	灰	轆轤整形(右回転)。体部に張りはなく、口縁部の外反も弱い。高台は撥合部で剥落してないが底部回転糸切り後の付高台。	
515－6	須恵器 埦	貯蔵穴10 cm 破片	口　(13.6) 底　— 高　(2.8)	細砂粒少	還元焔 やや軟 質	灰白	轆轤整形(右回転)。やや浅めの器形で、体部に弱い張りを有し、口縁部は外反する。	口縁部内外面カーボン付着
515－7 203	土師質 黒色土器 埦	±0cm 与残存	口　16.4 底　— 高　6.0	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 やや硬 質	におい 黄橙	轆轤整形(右回転)。体部に張りはなく直線的に外傾する。内面は見込み部放射状、体部横位の篦磨き後、黒色処理を施す。高台は接合部で剥離しているが、底部回転糸切り後の付高台。	
515－8 203	須恵器 埦	－11cm 与残存	口　(15.2) 底　8.0 高　6.0	細砂粒少 褐色細粒少	中性焔 やや硬 質	橙	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は強く外反する。高台は底部回転糸切り後の丁寧な付高台。	
515－9 203	須恵器 埦	カマド内 －5cm 高台欠損	口　13.7 底　(6.3) 高　(4.0)	細砂粒少 褐色細粒少	還元焔 やや軟 質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は外反する。高台は撥合部から剥落しているが、底部回転糸切り後の付高台である。	
515－10 203	須恵器 埦	貯蔵穴15 cm 与残存	口　— 底　8.2 高　(4.3)	白色細粒少 黒色粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
515－11 203	須恵器 埦	覆土内 与残存	口　— 底　7.3 高　(3.7)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
515－12	土師器 坏	カマド内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	直線的な口縁部で、内面に沈線状の窪みが巡る。外面口縁部は横撫で、体部横位篦削り、内面は丁寧な撫で後放射状暗文を施す。	厚　0.5 暗文
515－13	須恵器 甕	－13cm 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒微	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。内面の一部磨滅。転用硯か？。	厚　1.2
516－14	瓦 女　瓦	カマド内 16cm 破片	厚　2.1	砂粒少	還元焔 硬質	青灰	桶巻き作り？。凸面は、縄叩きとみられるもので、離れ砂がみられ、凹面は模骨痕を明瞭に残し、布目の大半は撫で消されている。	
516－15	瓦 女　瓦	貯蔵穴 破片	厚　2.6	白色鉱物粒少 砂粒少	中性焔 硬質	におい 橙	一枚作り？。凸面は粗い撫で、凹面は、粘土板糸切り痕を明瞭に残している。	
516－16	瓦 女　瓦	カマド内 8cm破片	厚　1.5	片岩小礫微 細砂粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取りは３面。凸面は平行叩き、凹面に粘土板糸切り痕がみられる。	
516－17	瓦 女　瓦	カマド内 16cm破片	厚　1.5	白色鉱物粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。凸面に平行叩き状の痕跡があるが撫でによって不明瞭。	

第１号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
520－1	土師器 坏	P_4 破片	口　(12.0) 底　— 高　(2.2)	褐色細粒微	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底と思われ、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す？。	
520－2	土師器 坏	P_6 破片	口　(13.0) 底　— 高　(3.2)	黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は平底と考えられ、体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で。底部は篦削り、体部は整形不明瞭。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
520－3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.4) 底 — 高 (3.5)	白・黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は平底と考えられ、体部は直線的に外傾し、口縁部上端はわずかに内消する。口縁部から体部の整形は不明瞭で、底部は篦削りを施す。	
520－4 203	土師器 坏	P。 写残存	口 (15.2) 底 — 高 (5.8)	細砂粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部は「く」字状に内傾する。口縁部横撫で後、底部に篦削りを施す。	
521－5 203	須恵器 坏？	P。 写残存	口 (12.0) 底 — 高 (2.7)	細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(？)。底部はやや突出し、一定方向の手持ち篦削りが施されている。蓋の可能性がある？。	
521－6	須恵器 坏	P。 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.0)	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。内湾気味の体部を有する。	
521－7	須恵器 蓋	P。 破片	口 (12.0) 摘 — 高 (3.5)	細砂粒少	還元焔 硬質	にぶい黄橙	轆轤整形(右回転)。天井部に張りを有し、外面は広範囲に回転篦削りを施す。	
521－8 202	須恵器 蓋	P。 破片	口 — 摘 (14.0) 高 (4.2)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部外面に手持ち篦削りを施す。	
521－9	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(？)。口縁部は強く外反し、上端が内面肥厚する。	厚 1.0
521－10	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多 白色鉱物粒少	還元焔 硬質	灰	粗作り叩き整形。外面縦格子叩き、内面青海波文。	厚 1.1 外面磨滅
521－11	須恵器 甕	P。 破片	口 — 底 — 高 —	黒色粒少	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.2

第2号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
522－1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.0)	褐色細粒多	酸化焔 軟質	橙	底部は緩平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
522－2	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	片岩細粒微 褐色細粒少	酸化焔 やや軟質	橙	口縁部は内湾する。内外面とも磨滅し整形不明。	厚 0.5
522－3	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (2.5)	黒色細粒多 白色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部に弱い張りを有する。	
522－4	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 (8.0) 高 (3.0)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部はやや厚手で、腰部に張りを有し、口縁部は外反する。底部及び腰部に回転篦削りを施す。	
522－5	須恵器 埦	覆土内 破片	口 — 底 (6.0) 高 (1.9)	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は付高台であるが底部切り離し及び調整は不明。	
522－6	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (16.8) 摘 — 高 (1.4)	黒色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（？）。端部が短く屈曲する。	内面に自然釉
522－7	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (5.1)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焔 やや軟質	橙	胴部の張りは強く、口縁部は「く」字状に外傾する。口縁部は強い横撫で、胴部上位は横位篦削りを施す。	
522－8	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (5.2)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焔 硬質	にぶい橙	口縁部の破片で、「コ」字状を呈する。口縁部は横撫で、胴部上位は横位篦削りを施す。	
522－9	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (3.5)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい橙	口縁部の小片で、「コ」字状を呈する。	

第3号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
523－1	土師器 坏	P_1 破片	口　(13.4) 底　— 高　(3.8)	白・黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい黄橙	底部は丸底で、口縁部は、内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で、底部は箆削り、間の整形は不明瞭で、接合痕を明瞭に残す。	
523－2	須恵器 埦	P_8 破片	口　(15.0) 底　— 高　(5.2)	白色粒多	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(?)。体部は下半にわずかに張りを有し、高台部へと連続する特異な器形で、口縁部が内面肥厚する。高台は付高台で、内傾する。	体部外面～底部に自然釉

第4号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
525－1	土師器 坏	P_4 破片	口　(11.4) 底　— 高　(2.7)	細砂粒少 白・黒色鉱物粒微	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は「く」字状に内傾する。口縁部は横撫で、底部外面は磨滅し整形不明瞭。	
525－2	土師器 坏	P_4 写残存	口　(11.4) 底　— 高　(2.8)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、間の整形は不明瞭。	
525－3	土師器 坏	P_4 破片	口　(12.0) 底　— 高　(2.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は丸底と考えられ、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、間の整形は不明瞭。	
525－4	須恵器 坏	P_{10} 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少 白色鉱物粒微	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(?)。底部は丸底気味にやや突出する。切り離し、整形等不明。	厚　0.4
525－5	須恵器 蓋	P_{10} 破片	口　(14.8) 摘　— 高　(1.6)	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(?)。内面かえりは比較的大張りである。天井部外面に箆削りを施す。	外面に自然釉
525－6 203	須恵器 蓋	覆土内 写残存	口　(19.0) 摘　(3.2) 高　(4.2)	砂粒多	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。天井部に張り張りを有し、外面回転箆削り後、扁平な宝珠状摘を貼付。内面のかえりはあまりシャープではない。	器面全面が粗れている

第5号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
526－1	須恵器 埦	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白・黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(?)。高台は底部切り離し後の付高台で、接地部の磨滅が激しい。	厚　0.5
526－2	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(18.0) 摘　— 高　(2.4)	黒色粒微	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(左回転?)。天井部の張りは比較的強く、口縁部はシャープな作りである。天井部外面は広範囲に回転箆削りを施し、口縁部内面に重ね焼きの痕跡あり。	
526－3	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	砂粒少 白・黒色粒少	還元焔 硬質	灰	口縁部破片で、上端が折り返し状を呈する。頸部外面に波状文を施す。	厚　0.8
526－4	須恵器 平　瓶	覆土内 破片	口　— 底　— 高　(4.3)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	紐作り輪轆整形(?)。内面に天井部貼付の明瞭な段差がみられる。	
526－5 203	石　器 敲　石	覆土内 完形	長　12.0 幅　6.1 厚　3.9	粗粒安山岩			上端部にわずかに敲打痕がみられる。	重 421.5

第6号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
527－1	土師器 坏	P_7 破片	口 (11.0) 底 — 高 (2.5)	細砂粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は、やや内湾気味である。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、間に整形不明瞭な部分が認められる。	
527－2	土師器 坏	P_{14} 破片	口 (13.0) 底 — 高 (3.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底と考えられ、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
527－3	土師器 坏	P_8 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.0)	細砂粒微 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は平底気味で体部は強く外傾し、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削り体部も箆削りと考えられる。	
527－4 203	須恵器 坏	P_{14} 与残存	口 (10.6) 底 (6.0) 高 (3.9)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は回転箆削り後に調整を施したものか?。	内外面に薄く自然釉
527－5	須恵器 坏	P_8 破片	口 — 底 (4.0) 高 —	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は回転糸切り無調整。	外面体部～底部に自然釉
527－6	須恵器 蓋	P_{14} 破片	口 (11.0) 横 — 高 (2.0)	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。内面かえりは強く内傾する。天井部外面に回転箆削りを施す。横は欠損。	
527－7	土師器 甕	P_8 破片	口 (17.0) 底 — 高 (5.5)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	口縁部は「コ」字状を呈し、薄い作りであり口縁部は横撫で、胴部上半横位箆削り、内面は撫でを施す。	
527－8	土師器 甕	P_8 破片	口 (24.0) 底 — 高 (3.4)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部は外反し、口唇部は短く直立する。口縁部は横撫で、胴部外面箆削り、内面撫で。	
527－9	須恵器 甕? 瓶?	P_8 破片	口 — 底 — 高 (6.9)	白色細粒少 黒色細粒微	還元焔 硬質	灰	肩の張りが強く、底部は丸底と考えられる。胴部上半カキ目、下半は2段の撫で、内面撫でを施す。	外面一部に自然釉
527－10	須恵器 高　坏?	P_{14} 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。体部外面に1本の沈線を巡らしている。	厚　0.8
527－11 203	石製品 紡錘車	P_{14} 与残存	径 4.1 厚 1.9 孔 —	滑石			平敷されており、周囲は丁寧に研磨されている。	重　19.4
527－12 203	石製品 砥　石	P_8 破片	長 4.2 幅 2.5 厚 2.1	砥沢石			3面は使用に伴い、平坦面を形成しているが他は欠損のため不明。	重　33.6
527－13 203	石製品 丸　玉	穿土内 ほぼ完形	径 1.2 厚 0.6 孔 0.2	滑石			穿孔は一方向からで、周囲は丁寧に研磨されて球状に近くなっている。	重　1.5

第7号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
531－1	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微 褐色細粒多	酸化焔 やや軟 質	橙	底部は丸底と考えられ、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	厚　0.4
531－2	須恵器 甕	P_8 破片	口 — 底 — 厚 —	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	粗作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。内面、断面に赤褐色の付着物。	厚　1.2

第8号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
532－1	土師器 坏	P_8 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底と考えられ、口縁部は直立する。口縁部横撫で後、底部に箆削りを施す。	厚　0.5

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
532－2	土師器 甕	P_8 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部の小片で、外面に罅が当たった痕跡が認められる。	厚　0.6

第9号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
534－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底と考えられ、口縁部は直立する。外面の体部と思われる位置に敲の亀裂が認められる。	厚　0.5
534－2	土師器 坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	黒色鉱物粒少 細砂粒微	酸化焔 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底と考えられ、口縁部は横撫で、底部は罅削りを施す。	厚　0.5
534－3	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　— 横　— 高　—	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪鍵整形（?）。口縁部が短く屈曲する。	厚　0.6 内面に自然釉
534－4	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	肩部に２本の沈線を巡らしている。	厚　0.9
534－5	土師器 甕	覆土内 破片	口　(19.6) 底　— 高　(5.0)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	口縁部は中位に段を有しながら、強く外反する。口縁部は横撫で を施す。	

第10号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
536－1 203	須恵器 壺	P_4 ほぼ完形	口　12.0 底　7.6 高　4.9	白・黒色細粒 多	還元焔 硬質	灰	輪鍵整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。体部中位に張りを有し、口縁部は短く外反する。	
536－2 203	須恵器 蓋	P_4 与残存	口　(17.2) 横　(4.2) 高　(4.1)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	輪鍵整形(左回転)。摘は環状摘で、天井部外面回転罅削り後の貼付。天井部に張りを有し、端部は屈曲する。	第569図－9と同一個体
536－3	土師器 甕	P_4 破片	口　(13.0) 底　— 高　(5.3)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	球形の胴部を有すると思われ、肩の張りが強い。口縁部は弱く外反する。口縁部は横撫で肩部横位罅削り、内面は罅撫でを施す。	

第11号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
537－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(11.3) 底　— 高　(2.5)	細砂粒微	酸化焔 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は反り気味に短く直立する。口縁部は横撫で、底部は罅削りで、関に整形不明瞭な部分がみられる。	
537－2	土師質 坏	覆土内 破片	口　— 底　(6.2) 高　(1.9)	白・黒色鉱物 粒少 褐色細粒多 細砂粒多	中性焔 軟質	にぶい 黄橙	輪鍵整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。器面は磨滅している。	
537－3 203	石製品 砥石	覆土内 与残存	長　6.4 幅　4.3 厚　2.9	硅沢石			小口の１面は加工時の面を残して４面を使用し、半敲されている。	重　83.8

第12号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
538－1	土師質 境	P_2 底部残存	口　— 底　6.6 高　(2.3)	黒色鉱物粒少 細砂粒微	酸化焔 やや硬質	淡黄	輪鍵整形(右回転)。高台は付高台で、高台貼付に伴う撫で調整のため底部切り離し技法不明（回転糸切り？）。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
538－2	須恵器 壺	P_9 破片	口 (16.0) 底 — 高 (6.5)	白・黒色細粒少	還元焔やや軟質	灰白	轆轤整形(?)。体部下位に弱い張りを有し口縁部はわずかに外反する。	

第15号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
539－1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (2.5)	細砂粒微 黒色鉱物粒少	酸化焔やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は荒削りで、間の整形は不明瞭。	

第16号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
540－1	須恵器 坏	P_8 破片	口 — 底 (7.0) 高 —	白・黒色細粒少	還元焔硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。底部及び腰部に回転荒削りを施す。	
540－2	土師器 甕	P_8? 破片	口 (20.0) 底 — 高 (3.4)	黒色鉱物粒多 細砂粒多 褐色細粒多	酸化焔やや硬質	橙	強く外反する口縁部で、口縁部は横撫で、胴部は荒削りと考えられ、筐が口縁部にも当たっている。	

第17号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
542－1	土師器 坏	P_{18} 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は荒削りで、間の整形は不明瞭。	厚 0.4
542－2	土師器 坏	P_{18} 破片	口 — 底 — 高 —	黒色鉱物粒微 細砂粒少	酸化焔軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は、荒削りを施す。	厚 0.5
542－3	土師器 皿?	P_8 破片	口 — 底 — 高 —	黒色鉱物粒少 細砂粒微	酸化焔軟質	橙	底部は扁平な丸底と考えられ、口縁部は強く外反する。口縁部は横撫で、底部は荒削りを施す。	厚 0.5
542－4	須恵器 瓶	P_{18} 破片	口 — 底 (10.2) 高 (1.1)	白色細粒多	還元焔硬質	灰	轆轤整形(?)。高台は底部回転荒削り後の丁寧な付高台。	外面に自然釉
542－5 204	須恵器 台付皿	P_8 与残存	口 (23.6) 底 (15.6) 高 (5.9)	小礫少 砂粒多	還元焔硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有する。高台は角高台状で、底部腰部2段の回転荒削り後の付高台。	内面に薄く自然釉
542－6	須恵器 蓋	P_8 破片	口 (19.0) 摘 — 高 (2.6)	白色細粒多	還元焔硬質	灰	轆轤整形(右回転)。内面かえりは短くシャープさに欠ける。摘は欠損し不明だが、天井部外面回転荒削り後の貼付である。	外面に自然釉

第19号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
544－1	土師器 坏	P_8 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.1)	細砂粒微	酸化焔やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く反り気味に外傾する。口縁部は横撫で、底部外面は、磨滅し不明。	
544－2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.8)	褐色粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔硬質	橙	底部は丸底と考えられ、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は撫で、内面は撫で後斜放射状の密な荒磨きを施す。	
544－3	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多	還元焔硬質	明黄褐	外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.8

第20号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
545－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫でを施す。	厚　0.6
545－2	土師器 坏	覆土内 破片	口　(16.2) 底　— 高　(3.3)	褐色粗粒微	酸化焔 やや軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は筒削りと思われるが、磨滅が激しく不明。	

第21号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
546－1	土師器 坏	P_{14} ¼残存	口　(11.0) 底　— 高　(2.8)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は筒削りで、外面に数ヶ所接合痕を残す。	
546－2	土師器 坏	P_{10} 破片	口　(11.0) 底　— 高　(2.3)	細砂粒微 白・黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は筒削りを施す。	
546－3	土師器 坏	P_{20} 破片	口　(13.0) 底　— 高　(2.9)	黒色鉱物粒少 白色鉱物粒少 褐色粗粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は筒削りを施す。	
546－4	須恵器 蓋	P_{14} 破片	口　— 摘　— 高　—	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部外面に回転筒削りを施す。	厚　0.5
546－5	須恵器 蓋	P_{18} 破片	口　— 摘　(2.0) 高　(1.5)	白色鉱物粒少 白色粗粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(?)。摘は環状摘状?で貼付である。	外面に厚く自然釉
546－6	須恵器 瓶	P_{16} 破片	口　— 底　(9.8) 高　(2.7)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	胴部下端に筒削りを施し、底部は丁寧な撫無で後、圧先?の刺突を施す。	
546－7	土師器 甕	P_4 破片	口　(15.0) 底　— 高　(5.2)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色粗粒少	酸化焔 硬質	橙	外反する口縁部破片で、内外面横撫でを施す。	
546－8	土師器 小型甕	P_4 破片	口　(14.0) 底　— 高　(7.9)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 白色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	胴部の張りは弱く、口縁部はわずかに外傾する。口縁部は横撫で、胴部外面は斜位の筒削り、内面は横位撫無でを施す。	

第25号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
550－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.4) 底　— 高　(1.7)	細砂粒少 白・黒色鉱物粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は筒削りを施す。	
550－2	土師器 坏	覆土内 破片	口　(16.6) 底　— 高　(2.7)	細砂粒少 褐色粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部は横撫で、底部調整不明。	
550－3	土師器 坏	P_7 破片	口　— 底　— 高　—	黒色鉱物粒少 白色鉱物粒微	酸化焔 やや軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部は、横撫でを施す。	厚　0.5
550－4	土師器 杯C II 飛鳥?	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	体部破片で、外面は撫で。内面は丁寧な撫で後、斜放射状暗文施文。	厚　0.4 破内部
550－5	須恵器 坏?	覆土内 破片	口　— 底　(4.6) 高　(2.5)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。内面に轆轤整形痕を残し、外面及び底部に手持ち筒削りを施す。	
550－6	須恵器 壺	P_8 破片	口　— 底　— 高　—	黒色粒微 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	外面は緩位にカキ目状の整形後横位撫でを施す。内面は指先の雑な撫でで、接合痕を残す。	厚　0.9

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
550－7	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒多 白色細粒微	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面は無で後、部分的に擬縄文圧痕を施し、内面は青海波文。	厚 1.3

第28号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
555－1	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微	酸化焔 やや硬質	橙	底部と口縁部の境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で を施す。	厚 0.4
555－2	土師器 小型壺	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.1)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 やや硬質	浅黄橙	口縁は「く」字状に外傾する。口縁部は横撫で、胴部は強く箆削りを施す。	
555－3	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 — 高 —	白・黒色細粒微	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。天井部は丸底状で、回転箆削りを施す。	厚 0.8

第7号土墳墓

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
557－1 204	鉄製 大刀子	±0cm ほぼ完形	長 (22.7) 幅 3.1 重 81.0				先端部の一部を欠損する。平棟、片切り刃・平作り。片切刃の棟側は錆化して不明であるが平らにならず浅い溝状を呈する。身と茎の境は直線的で段差がある。平作側には身から茎の一部にまで及ぶ鎬状の窪みがみられる。平作り側に鞘の木質が残存。	棟巾 0.7

第1号祭祀遺構

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
559－1 204	土師器 坏	±0cm 多残存	口 10.2 底 — 高 6.2	黒色鉱物粒多 細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	口縁部が強く内傾する器形で、底部は丸底である。口縁部は横撫で、底部は荒撫で、内面は撫で後斜放射状の密な荒磨きを施す。	
559－2 204	土師器 坏	±0cm 完形	口 11.6 底 — 高 6.4	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少 褐色細粒多	酸化焔 やや軟質	橙	深い丸底の底部と「く」字状に外傾する口縁部を有する。いわゆる内斜口縁と考えられる坏で、口縁部は横撫で、体部から底部外面箆削り。内面は全面丁寧な撫で後、斜放射状の荒磨きを施しているが,内面が剥落し不明瞭。	
559－3 204	土師器 坏	±0cm 多残存	口 13.8 底 4.5 高 7.5	白・黒色鉱物 粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は平底で、体部中位に張りを有し、口縁部は短く外反する。口縁部は横撫で体部及び底部外面箆削り、内面は撫で後斜放射状の荒磨きを施す。	
559－4 204	土師器 坏	±0cm 完形	口 16.3 底 — 高 8.2	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい 赤橙	深めの丸底と「く」字状に外傾する口縁部を有する。いわゆる内斜口縁の坏で、内稜は非常にシャープである。口縁部から体部中位は横撫で、下半から底部は撫で状の箆削り、内面は丁寧な撫で後斜放射状の荒磨きを施す。	口縁部外面にカーボン付着
559－5 204	土師器 坩	±0cm 完形	口 9.5 底 — 高 16.6	黒色鉱物粒少 白色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	胴部下半に最大径を有し、口縁部は直線的に外傾する。胴部上半から口縁部内外面には丁寧な撫でを施し、斜放射状の密な荒磨きを施し胴部下半から底部にかけて箆削りを施す。	底部に黒斑
560－6 204	土師器 甑	中央ピット 70cm 完形	口 22.2 孔 9.0 高 26.2	砂粒多 白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 硬質	橙	胴部上位に張りを有し、口縁部は外反する。底部の穿孔は焼成前である。口縁部は横撫で胴部外面は斜位の荒磨り、内面は丁寧な撫で と思われるが、磨滅し不明瞭。	胴部中位外面に黒斑

遺物一覧表

掲図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
560－7 204	土師器 甕	±0cm 口縁残存	口　(15.0) 底　7.5 高　(30.0)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	胴部中位に張りを有し、口縁部は外反気味に直立する。口縁部は横撫で、胴部外面は斜位の撫でが3段程みられる。内面は全体に斜位にかきあげたような痕跡を残し、下半に明瞭な接合痕が認められる。	胴部外面下半に黒斑
560－8 ～ 560－74 204	石製品 臼　玉	±0cm 完形	径　0.5 孔　0.2 厚 0.2～0.4	滑石			穿孔は一方向からの、側面は縦方向に丁寧に研磨されている。一連の状態で出土している。	重約0.11 計67個体

土　坑

掲図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
561－1	土師器 坏	26土坑 覆土内 破片	口　(14.0) 底　－ 高　(3.0)	細砂粒微 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底と考えられ、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削り、体部の整形は不明瞭。	口縁部内外面に厚くカーボン付着
561－2	須恵器 坏	26土坑 覆土内 破片	口　－ 底　(5.6) 高　(1.2)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は撫でが施され、切り離し技法は不明。	
561－3 204	須恵器 坏	26土坑 覆土内 完形残存	口　(13.0) 底　(6.0) 高　(3.8)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。腰部に弱い張りを有する。	
561－4	須恵器 蓋	26土坑 覆土内 天残存	口　(12.0) 摘　－ 高　(1.7)	細砂粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。内面かえりは大型でシャープさに欠ける。摘は欠損して不明であるが天井部外面回転篦削り後の貼付。	
561－5	須恵器 甕	26土坑 覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　5.5	白色細粒少 白色鉱物粒微	還元焔 硬質	灰	口縁部破片で、上端に段を有する。外面に波状文を施す。	厚　1.1 内外面に自然釉
561－6	須恵器 甕	26土坑 覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	口縁部破片で、外面に平行沈線と波状文を巡らせる。	厚　0.9
562－7	須恵器 甕	26土坑 覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	細砂粒少 白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	口縁部破片で、外面に横位カキ目と波状文を施す。	厚　1.5 内面に自然釉
562－8	須恵器 甕	26土坑 覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	黒色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	口縁部破片で、外面に平行沈線と波状文を施す。下端は胴部接合部から剥落している。	厚　1.4
562－9	須恵器 甕	26土坑 覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	口縁部は破片で、外面に平行沈線と6本単位の波状文を巡らす。	厚　1.2
562－10	須恵器 甕	26土坑 覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	口縁部破片で、外面上位に波状文、下位は縦位のカキ目後横位施文を施し、ボタン状貼付文施文。下端は胴部接合面から剥落している。	厚　1.4 外面に自然釉
562－11	須恵器 甕	26土坑 覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白・黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.3 外面に自然釉
562－12	須恵器 甕	26土坑 覆土内 破片	口　(25.0) 底　－ 高　(8.0)	白・黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	胴部外面に自然釉
563－1 204	緑釉陶器 小　皿	61土坑 覆土内 残存	口　(10.0) 底　(5.0) 高　(3.8)	美濃系？		オリーブ灰	轆轤整形（?）。体部中位に強い張りを有し、し、口縁部がわずかに外反する。施釉は高台から底部も含め全面に及ぶがむらがある。	内面の磨滅が激しい
563－2	土師質 坏	84土坑 覆土内 破片	口　(9.8) 底　－ 高　(1.9)	白色細粒多	中性焔 硬質	にぶい 黄褐	轆轤整形(右回転)。浅い皿状の器形で、口縁部はわずかに外反する。	
564－1	須恵器 蓋	96土坑 覆土内 破片	口　(13.4) 摘　－ 高　(3.6)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転？)。天井部はやや突出し回転篦削りを施す。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
564－2	須恵器 壺	96土坑 覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　0.8
564－3 205	土師器 坏	98土坑 覆土内 口残存	口　(12.6) 底　— 高　(3.3)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、関の整形は不明瞭。	
564－4	須恵器 蓋	100土坑 覆土内 破片	口　(14.0) 摘　— 高　(1.8)	黒色細粒少 白色細粒微	還元焔 硬質	灰	輪縁整形(?)。口縁部外面に鍔状の突出を巡らす。	外面に自然釉
564－5	須恵器 坏	102土坑 覆土内 破片	口　(14.6) 底　— 高　(3.2)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪縁整形(?)。	外面に自然釉
564－6	須恵器 坏	102土坑 覆土内 破片	口　(14.0) 底　— 高　(4.3)	細砂粒少	還元焔 軟質	にぶい 褐	輪縁整形(?)。内外面に褐色の付着物。	
564－7	土師器 坏	128土坑 覆土内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(3.5)	細粒少 白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は平底で、体部は外傾し、口縁部は短く内屈する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで体部は撫でを施す。	口縁部に黒斑
564－8	須恵器 坏	128土坑 覆土内 破片	口　(12.8) 底　(7.0) 高　(3.7)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪縁整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。腰にわずかに張りを有し、口縁部は外反する。	
565－1	土師器 坏	157土坑 覆土内 破片	口　(11.0) 底　— 高　(3.5)	黒色鉱物粒微 細砂粒微	酸化焔 やや軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
565－2 205	土師器 坏	157土坑 覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒微 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	口縁部がわずかに外反する器形で、底部は平底になると思われる。口縁部は横撫で、体部外面篦削り、内面は丁寧な撫で後斜放射状暗文を施文。	厚　0.3 暗文
565－3	須恵器 坏	157土坑 覆土内 破片	口　(16.0) 底　— 高　(3.5)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪縁整形(?)。腰の張りが比較的強く、口縁部は直立する。	
566－1	須恵器 蓋	157土坑 覆土内 破片	口　— 摘　— 高　(2.0)	白・黒色細粒 少	還元焔 硬質	灰	輪縁整形(?)。摘は環状摘で、天井部外面回転篦削り後の貼付。	
566－2	須恵器 蓋	157土坑 覆土内 破片	口　(14.0) 摘　— 高　(2.2)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪縁整形(右回転)。口縁端部が短く屈曲する。天井部外面に回転篦削りを施す。摘は欠損。	外面に重ね焼きの痕跡
566－3	須恵器 蓋	157土坑 覆土内 破片	口　(15.0) 摘　— 高　(1.7)	黒色細粒微	還元焔 硬質	灰	輪縁整形(?)。内面かえりは短いがシャープな作りである。	内面に重ね焼き痕
566－4	土師器 甕	157土坑 覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	「く」字状に外反する口縁部の小片で、口縁部横撫で、胴部上位は横位篦削り。	厚　0.5
566－5 205	瓦 宇　瓦	157土坑 覆土内 破片	厚　5.3	砂粒微 黒色粒少	還元焔 硬質	浅黄	均整唐草。中心飾りが抽象化したパルメット。反転子葉の部分も同様。凹面布目は粗く撫で消され、アゴの部分に赤色顔料？付着。	
566－6	土師器 坏	173土坑 覆土内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(2.9)	褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底と考えられ、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
566－7	灰釉陶器 段　皿	174土坑 覆土内 破片	口　(14.8) 底　(8.0) 高　(2.1)	美濃系		灰白	輪縁整形(?)。高台は角高台状で、底部回転篦削り後の付高台で、接地部はわずかに磨滅。	内面にカーボン付着
566－8	須恵器 甕	174土坑 覆土内 破片	口　(10.0) 底　— 高　(7.0)	細砂粒少	酸化焔 硬質	褐灰	輪縁整形(?)。胴部中位に張りを有し、口縁部は短く「C」字状に屈曲する。	外面全面と内面口縁部カーボン付着
566－9	軟質陶器 鉢？	174土坑 覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒多	還元焔 軟質	褐灰	厚手の作りで、口縁端部は丸く仕上げられている。	厚　1.4 いぶし状

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目（cm） 量目（g）	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
566－10	須恵器 羽　釜	174土坑 覆土内 破片	口（20.0） 底　－ 高（4.6）	細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 黄橙	輪積整形（？）。口縁部は内湾し、上端は平坦で、ほぼ水平。	
566－11	須恵器 羽　釜	174土坑 覆土内 破片	口（21.0） 底　－ 高（6.4）	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	褐灰	輪積整形。胴部の張りは弱く、口縁部は直立気味である。	脚部下外面にカーボン付着
566－12	瓦 女　瓦	174土坑 覆土内 破片	厚　1.7	細砂粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	青灰	凸面斜格子叩き、凹面撫で。	
566－13	瓦 女　瓦	174土坑 覆土内 破片	厚　1.7	細砂粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	黄灰	凸面斜格子叩き、凹面撫で。	
567－1	須恵器 坏	179土坑 覆土内 与残存	口（12.6） 底（8.0） 高（3.5）	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形（右回転）。底部回転糸切り無調整。	
567－2	土師器 坏	180土坑 覆土内 破片	口（12.6） 底　－ 高（2.1）	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りと考えられる。	
567－3	須恵器 坏	180土坑 覆土内 破片	口（14.0） 底　－ 高（2.6）	白・黒色細粒 微	還元焔 硬質	黄灰	輪積整形（右回転？）。	外面に自然釉
567－4	須恵器 蓋	180土坑 覆土内 破片	口（13.0） 摘　－ 高（2.3）	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪積整形（？）。	外面に重ね焼き痕
567－5	土師器 羽　釜	181土坑 覆土内 破片	口（23.0） 底　－ 高（9.4）	白色細粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	胴部の張りは弱く、口縁部の内傾も弱い。口縁部及び胴部内面は撫で、胴部外面は縦位の櫛毛目状の削りを施す。	
568－1	土師器 坏	187土坑 覆土内 破片	口（11.8） 底　－ 高（1.9）	黒色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫でを施す。	
568－2	須恵器 坏	187土坑 覆土内 破片	口（12.2） 底（6.8） 高（3.5）	白色細粒微	還元焔 硬質	灰	輪積整形（右回転）。底部は回転糸切り無調整。体部中位に張りを有する。	
568－3	須恵器 坏	189土坑 覆土内 破片	口　－ 底（9.0） 高（2.2）	黒色細粒多 白色細粒微	還元焔 硬質	灰	輪積整形（？）。底部回転篦削り無調整。	
568－4	須恵器 羽　釜	189土坑 覆土内 破片	口（24.0） 底　－ 高（4.7）	細砂粒多 黒色鉱物粒多 白色鉱物粒少	還元焔 硬質	灰白	輪積整形（？）。口縁部上端がわずかに外反する。	
569－1 205	土師器 坏	192土坑 9cm ほぼ完形	口　13.5 底　－ 高　4.5	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は平底で、体部から口縁部はやや内湾気味に外傾し、口唇部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は一方向の篦削りで、体部外面下半は斜位の篦削り、上半の整形は不明瞭。	
569－2	土師器 坏	192土坑 覆土内 破片	口（12.0） 底　－ 高（3.5）	黒色鉱物粒少 細砂粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は平底で、体部下半にわずかに張りを有し、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、体部の整形は不明瞭。	
569－3	土師器 坏	192土坑 覆土内 破片	口（14.5） 底　－ 高（3.7）	黒色鉱物粒少 細砂粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は平底で、体部に弱い張りを有し、口縁部は短く内湾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、体部の整形は不明瞭。	
569－4	土師器 坏	192土坑 覆土内 破片	口（12.0） 底　－ 高（2.5）	白・黒色鉱物 粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、体部の整形は不明瞭。	
569－5	須恵器 坏	192土坑 覆土内 破片	口（10.4） 底（7.8） 高（3.9）	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪積整形（右回転）。底部は回転糸切り無調整。	
569－6	須恵器 坏	192土坑 覆土内 破片	口（10.1） 底（6.6） 高（3.9）	白色細粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形（？）。体部中位に弱い張りを有し口縁部は外反する。	外面に自然釉

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備　考
569－7	須恵器 埴	194土坑 覆土内 破片	口　－ 底　(5.2) 高　(1.5)	細砂粒少 白色細粒多	還元焔 やや硬 質	オリー ブ黒	轆轤整形(?)。高台は接合部から剥離。底部切り離し技法は、高台貼付に伴い潰でられ不明。	いぶし
569－8 205	土師器 坏	195土坑 覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	黒色鉱物粒微	酸化焔 軟質	橙	口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で体部外面は篦削り、内面は撫で後斜放射状暗文施文。	厚　0.6 暗文
569－9	須恵器 蓋	195土坑 覆土内 破片	口　(17.2) 摘　(4.2) 高　(4.1)	白色細粒多 黒色粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(左回転)。摘は環状摘で、天井部外面回転篦削り後の貼付。天井部に張りを有し、端部は屈曲する。	第536－2図と同一個体
569－10	須恵器 壺	195土坑 覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白・黒色細粒 少	還元焔 硬質	灰白	外面に1対の把手を有すると考えられる。内面に青海波文。	厚　0.6
570－1 205	須恵器 埴	210土坑 17cm ほぼ完形	口　13.0 底　6.4 高　5.6	黒色鉱物粒多 細砂粒多	還元焔 軟質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。体部中位に張りを有し、口縁部は外反する。見込み部に黒色の重ね焼き痕。	
570－2 205	須恵器 埴	210土坑 16cm 与残存	口　13.4 底　6.4 高　5.4	褐色細粒多 白色細粒少	還元焔 やや軟 質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。内外面の一部にいぶしが認められる。	
570－3 205	灰釉陶器 皿	210土坑 16cm 完形	口　13.4 底　6.8 高　2.6	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台で、底部中位に糸切り痕を残している。施釉は刷毛掛け。	光ヶ丘1
570－4 205	銅製品 銭	210土坑 8cm 完形	径　2.4 孔　0.6 厚　0.15				「神功開宝」であるが、表裏共に粗れが激しく、「宝」の字は判読できない。	重　2.1
570－5 205	鉄　器 刀　子	210土坑 11cm 破片	長　(3.5) 幅　1.0 重　3.6				先端部の破片である。	
570－6 205	鉄　器 釘	210土坑 覆土内 破片	長　3.4 幅　0.7 重　3.1				両端部欠損。断面は方形。	
570－7 205	鉄　器 釘	210土坑 覆土内 破片	長　(2.7) 幅　(4.5) 重　2.1				先端部の破片であり、先端部が鋭角に曲がっている。	
570－8 205	鉄　器 釘	210土坑 覆土内 破片	長　(3.9) 幅　(0.4) 重　2.1				両端を欠損する。断面方形。	
571－1 205	金属製品 鈴	210土坑 7cm 完形	径　2.8 高　3.1 嘴径　0.6	銅?			中央部に段差がみられ、この位置で上下を接合している。文様は「けばり」で表現され下部にくらべ上部に鳥4羽はじめ複雑な文様が集中している。	重　3.1
571－2 205	金属製品 鈴	210土坑 7cm 与残存	径　(1.0) 高　(2.1) 厚　0.2	銅?			潰れた状態で出土したものであり、全体に歪んでいる。器面に文様はなく、錆膨が全面に認められる。上面に付きれている環は方形を呈し、曲っている。	
572－1	土師器 坏	222土坑 覆土内 破片	口　(9.8) 底　－ 高　(2.8)	白・黒色鉱物 粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、間に整形不明瞭な部分が認められる。	
572－2 205	土師器 坏	222土坑 ±0cm 完形	口　12.0 底　－ 高　3.5	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施し、間の整形は不明瞭。	
572－3	土師器 甕	222土坑 9cm 破片	口　(19.2) 底　－ 高　(8.3)	片岩質砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 やや硬 質	橙	口縁部は厚手でわずかに外反し、胴部の張りは弱い。口縁部は横撫で、胴部外面は斜位篦削りを施す。	
572－4	灰釉陶器 埴	236土坑 覆土内 破片	口　－ 底　(8.0) 高　1.9	美濃系		にぶい 黄橙	轆轤整形(?)。高台は三日月高台で、底部回転篦削り後の付高台。施釉技法は不明で見込み部に重ね焼き痕。	
572－5	灰釉陶器 埴	236土坑 覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	美濃系		灰白	轆轤整形（?）。口縁部はわずかに外反する。施釉技法は不明。	厚　0.4

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
573－1	須恵器 甕	245土坑 覆土内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(4.0)	白・黒色細粒 少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(?)。直線的に外傾する。高台部の可能性もあり。	外面に自然釉
573－2	須恵器 坏	250土坑 覆土内 破片	口　(11.0) 底　— 高　(2.9)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。体部から口縁部にかけて直線的に外傾し、腰部に、回転篦削りを施す。	
573－3	須恵器 甕	250土坑 覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒多 白色鉱物粒多	還元焔 やや硬 質	灰白	紐作り輪轆整形(?)。口縁部外面に沈線を1本巡らす。	厚　0.9
573－4	須恵器 坏	251土坑 覆土内 破片	口　— 底　(7.0) 高　(1.6)	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転?)。底部は回転篦切り無調整。	
574－1	土師器 坏	257土坑 覆土内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(2.1)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部はわずかに内湾気味に外傾する。口縁部は横撫でを施す。	
574－2	須恵器 甕	257土坑 覆土内 破片	口　(16.0) 底　— 高　(4.0)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(?)。強く外反する口縁部で上端に段を有し、屈曲する。	内外面に自然釉
574－3	須恵器 甕	259土坑 覆土内 破片	口　(2.0) 底　— 高　(14.7)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	中性焔 硬質	にぶい 黄橙	輪轆整形(右回転?)。胴部の張りは弱く口縁部は短く外反する胴部上半は輪轆整形痕をそのまま残し、下半は縦位の撫で状篦削りを施す。	
574－4 205	土師器 坏	260土坑 10cm 矢穴存	口　11.1 底　6.6 高　3.2	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は平底で、体部から口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施し、体部外面に指頭痕を明瞭に残している。	
574－5	須恵器 甕	260土坑 覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白・黒色細粒 少	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き後カキ目、内面青海波文。	厚　0.8
575－1	土師器 坏	261土坑 覆土内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(2.0)	黒色鉱物粒散	酸化焔 硬質	橙	口縁部の小破片で、わずかに外反し、やや雑な横撫でを施す。	
575－2	土師器 坏	261土坑 覆土内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(2.5)	黒色鉱物粒少 白色細粒散	酸化焔 やや硬 質	橙	口縁部の小破片で、直線的に外傾し、横撫でを施す。	
575－3	須恵器 坏	261土坑 覆土内 破片	口　— 底　(7.0) 高　—	白・黒色細粒 少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。底部は回転篦切り無調整。	
575－4	須恵器 甕	261土坑 覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少 黒色鉱物粒散	還元焔 硬質	灰白	叩き整形。外面不明。内面実文。	厚　1.0 外面に自然釉
575－5	須恵器 甕	261土坑 覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白・黒色細粒 少	還元焔 硬質	明黄褐	口縁部破片で、内外面撫で後外面に平行沈線と波状文を施す。	厚　1.1 内外面に自然釉
575－6	須恵器 甕	261土坑 覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　0.8 内面に自然釉
575－7	土師器 坏	276土坑 覆土内 破片	口　(14.0) 底　— 高　(3.3)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部がわずかに内湾する形で、口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
575－8	土師器 坏	276土坑 覆土内 破片	口　(13.0) 底　— 高　(3.3)	白・黒色鉱物 粒少 細砂粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部に弱い屈曲を有する。口縁部は横撫で底部は篦削り、体部には弱い指頭痕を有する。	
575－9	須恵器 壺	276土坑 覆土内 破片	口　— 底　(8.0) 高　(2.9)	白色細粒散 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。高台は底部と腰部回転篦削り後の付高台。	
575－10	須恵器 甕	276土坑 覆土内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(2.0)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(?)。強く外反する口縁部の破片で、上端は強く屈曲し、短く直立する。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
576－1	須恵器 坏	308土坑 覆土内 破片	口　(10.0) 底　— 高　(3.5)	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。腰部に回転篦削りを施す。	内外面に自然釉
576－2	須恵器 蓋	308土坑 覆土内 破片	口　— 摘　— 高　—	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。口縁部は短く屈曲する。	厚　0.4
576－3	土師器 坏	310土坑 覆土内 破片	口　(13.8) 底　— 高　(3.0)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
576－4	須恵器 坏?	310土坑 覆土内 破片	口　(14.0) 底　— 高　(3.5)	白色細粒少	還元焔 やや硬 質	灰	轆轤整形(?)。外面に2本の平行沈線を施す。	
576－5	須恵器 瓶	310土坑 覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。脚部破片と考えられ、端部に段を有し、中位に機械前の穿孔を施す。	厚　0.6 外面に自然釉
576－6	土師器 坏	312土坑 覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部が「C」字状に内傾する。口縁部は横撫でを施す。	厚　0.4
576－7	須恵器 埦	313土坑 覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（?）。	厚　0.5
576－8 205	土師器 坏	347土坑 4cm 与残存	口　13.4 底　— 高　3.9	砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、間の整形は不明瞭。	口縁部内外面カーボン付着
576－9 206	須恵器 坏	347土坑 9cm 与残存	口　(13.0) 底　(8.6) 高　(3.3)	白色細砂粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。底部は回転篦削りを施す。体部外面に2段の屈曲がみられる。	体部外面に薄く自然釉
577－1 206	須恵器 坏	347土坑 10cm 与残存	口　13.2 底　8.7 高　3.7	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。底部は回転篦削りを施す。体部中位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。	
577－2	須恵器 坏	347土坑 5cm 与残存	口　(13.8) 底　(9.0) 高　(3.0)	白・黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転篦削り無調整。口縁部はわずかに外反する。	
577－3	土師器 甕	347土坑 4cm 破片	口　(29.6) 底　— 高　(9.4)	細砂粒多 片岩質砂粒多 黒色鉱物粒少 褐色粒少	酸化焔 硬質	橙	胴部の張りは強く、口縁部は「く」字状に外反し、上端が短く上方に屈曲する。口縁部は横撫で、胴部外面斜位篦削り、内面は撫でを施す。	
577－4	須恵器 甕	347土坑 6cm 破片	口　— 底　— 高　—	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	内面来文。外面叩きは不明で、一部光沢がみられるほどの撫でが施されている。	厚　0.9
577－5	須恵器 坏?	370土坑 覆土内 破片	口　— 底　11.2 高　(2.2)	細砂粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部はやや丸底気味で切り離し後、手持ち篦削りを施す。	
578－1	須恵器 坏	371土坑 覆土内 破片	口　(16.3) 底　— 高　(4.8)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（?）。口縁部は外反しない。	内面に自然釉
578－2	土師器 坏	372土坑 覆土内 破片	口　(11.9) 底　— 高　(1.8)	黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	扁平な丸底で、口縁部は短く外傾する。口縁部は横撫で、体部は疎でを施す。	
578－3	土師器 坏	372土坑 覆土内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(3.3)	細砂粒微	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
578－4	須恵器 蓋	372土坑 覆土内 破片	口　(10.1) 摘　— 高　(2.7)	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は平坦で、口縁部への宮施部に釋状の突帯を施す。摘は接合部から剝落している。	
578－5	須恵器 蓋	372土坑 覆土内 破片	口　(11.7) 摘　(4.0) 高　(1.7)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。扁平な器形で、小振りである。摘は環状摘で天井部外面回転篦削り後の貼付。内面かえりはシャープさに欠ける。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	法量 (cm) 量目 (g)	胎　土	焼成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
578－6	須恵器 甕	372土坑 覆土内 破片	口 － 底 － 高 －	褐色粒微	還元焔 硬質	灰	外面に突帯を3帯と波状文を巡らす。	厚　0.9
578－7	須恵器 甕	372土坑 覆土内 破片	口 － 底 － 高 －	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	内外面共整形不明。	厚　1.2 外面に自然釉
578－8	須恵器 甕	372土坑 覆土内 破片	口 － 底 － 高 －	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	口縁部の破片で、上端が肥厚する。外面に細かなカキ目が認められる。	厚　0.9 外面に薄く自然釉
578－9	須恵器 甕	386土坑 覆土内 破片	口 － 底 － 高 －	白色細粒微	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文。頸部接合部は平行叩きの上に粘土がかぶさったような状態を呈している。	厚　0.8 外面に自然釉
578－10	須恵器 甕	385土坑 覆土内 破片	口 － 底 － 高 －	褐色細粒少	還元焔 硬質	灰白	叩き整形。外面米格子状叩き内面素文。	厚　0.8
579－1	土師器 坏	405土坑 覆土内 破片	口 (16.0) 底 － 高 (3.3)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部は横撫で、体部の調整は不明瞭。	
579－2	須恵器 蓋	405土坑 覆土内 破片	口 (20.0) 摘 － 高 (2.0)	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部外面に広範囲に回転箆削りを施す。	
579－3	須恵器 蓋	405土坑 覆土内 破片	口 (12.0) 摘 － 高 (1.6)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部外面に広範囲に回転箆削りを施す。	
579－4	須恵器 甕	405土坑 覆土内 破片	口 － 底 － 高 －	細砂粒微 褐色細粒多	還元焔 硬質	灰白	叩き整形。外面撫で後カキ目。内面青海波文後撫でを施す。	厚　0.9
579－5	須恵器 坏	408土坑 覆土内 破片	口 － 底 (9.0) 高 (1.6)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。底部回転糸切り無調整。	
579－6	須恵器 甕	408土坑 覆土内 破片	口 － 底 － 高 －	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面カキ目、内面青海波文。	厚　0.6
579－7 206	須恵器 坏	414土坑 覆土内 破片	口 － 底 6.8 高 －	黒色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。底部回転箆切り無調整。底部は切りそこねか、円盤状に突出し、坏部は完全に欠損している。	厚　1.2
580－1 206	灰釉陶器 壺	421土坑 覆土内 汚残存	口 (14.0) 底 － 高 (2.9)	美濃系	灰		轆轤整形(?)。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。高台部は欠損し不明。施釉は漬け掛け。	
580－2	土師器 坏	442土坑 覆土内 破片	口 (18.0) 底 － 高 (3.4)	褐色細粒少	酸化焔 やや硬質	浅黄橙	底部と口縁部の境に弱い段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
580－3	須恵器 蓋	442土坑 覆土内 破片	口 (20.0) 摘 － 高 (2.6)	白・黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。内面に比較的シャープなかえりがあったものと思われるが、欠損している。	
580－4	土師器 甕	442土坑 覆土内 破片	口 － 底 (9.0) 高 (1.9)	片岩小礫多 白色鉱物粒少	酸化焔 やや硬質	橙	突出する底部で、内面の刷毛が微しい。	
581－1	須恵器 瓶	473土坑 覆土内 破片	口 － 底 － 高 －	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	胴部最大部直上に一本の沈線を巡らせる。	厚　0.8
581－2	須恵器 甕	475土坑 覆土内 破片	口 － 底 － 高 －	白色細粒少 白色鉱物粒微	還元焔 硬質	灰赤	口唇部に沈線を巡らせ、下位に9本単位の波状文を施文する。	厚　0.8 焼締
581－3	須恵器 甕	480土坑 覆土内 破片	口 － 底 － 高 －	白色細粒少 白色鉱物粒微	還元焔 硬質	灰白	叩き整形。内外面共に撫でを施す。	厚　0.9
582－1 206	土製品 羽　口	516土坑 30cm 破片	長 (7.1) 幅 (8.3) 厚 (3.2)	砂粒多	先:還元 元:酸化	灰 にぶい 橙	両端部を欠損し、上端の一部に還元部がみられる。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
582－2 206	土製品 羽　口	516土坑 覆土内 破片	長　(7.8) 幅　(7.5) 厚　(3.7)	砂粒多 黒色鉱物粒少	還元	灰	先端部に融着物が付着した部分がみられる。	
582－3 206	土製品 羽　口	516土坑 40cm 破片	長　(7.5) 幅　(6.7) 厚　(2.4)	砂粒多 黒色鉱物粒少	先：還元 元：酸化	灰 にぶい 橙	先端部に融着物が付着している。	
582－4 206	土製品 羽　口	516土坑 覆土内 破片	長　(7.9) 幅　(4.9) 厚　(3.0)	砂粒多 黒色鉱物粒少	先：還元 元：酸化	灰 にぶい 橙	先端の融着物は表面がガラス質を呈する。	
582－5 206	土製品 羽　口	516土坑 33cm 破片	長　(9.2) 幅　(4.7) 厚　(3.5)	砂粒多	両端：還元 中：酸化	灰 にぶい 橙	両端部が残存し、下端部は還元し、先端の融着物はタール状を呈している。 第582図－6と同一個体。	
582－6 206	土製品 羽　口	516土坑 34cm 破片	長　(10.2) 幅　(6.9) 厚　(3.4)	砂粒多	両端：還元 中：酸化	灰 にぶい 橙	全体に還元され、両端部が残存している。先端部の融着物はスラグ状を呈する。 第582図－5と同一個体。	
583－1 206	土師器 坏	521土坑 26cm 写残存	口　(12.6) 底　－ 高　(3.4)	黒色鉱物粒多 白色細粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は荒削りを施す。	
583－2	土師器 坏	521土坑 覆土内 破片	口　(12.0) 底　－ 高　(3.3)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 やや軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で、底部は荒削り。体部は粗い撫でを施す。	
583－3 206	土師器 坏	521土坑 27cm 写残存	口　13.4 底　－ 高　4.3	砂粒少 褐色細粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底気味の平底で、体部に1段の屈曲を有し、口縁部は外傾する。口縁部横撫で後体部外面及び底部に荒削りを施す。内面は全面撫で後体部に斜放射状、見込み部にラセン暗文を施す。	
583－4 206	土師器 坏	521土坑 5cm 写残存	口　(13.0) 底　(7.4) 高　(3.7)	黒色鉱粒多 細砂粒少 白色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は平底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は荒削りを施す。体部には指頭痕が認められる。	
583－5 206	須恵器 坏	521土坑 覆土内 破片	口　(13.8) 底　(8.0) 高　(4.3)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾する。底部は回転糸切り後、周辺に回転荒削りを施す。	
583－6	須恵器 埦	521土坑 覆土内 破片	口　－ 底　(9.6) 高　(2.2)	褐色細粒多 細砂粒少	還元焔 硬質	灰黄	轆轤整形(右回転)。高台は角高台状を呈し底部回転糸切り後の付高台。	
583－7	灰釉陶器 壺	521土坑 覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　(8.7)	美濃系		灰白	紐作り轆轤整形。	
583－8	須恵器 甕	521土坑 覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	黒色細粒多 細砂粒多	還元焔 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面凝灰岩子叩き。内面青海波文で、横位の粗い撫でを施す。	厚　0.9
583－9	須恵器 甕	521土坑 7cm 破片	口　－ 底　－ 高　－	細砂粒少	還元焔 硬質	黄灰	紐作り叩き整形。外面は平行叩き後、全体に撫でを施し、内面は青海波文。	厚　1.7
583－10	須恵器 短頸壺	521土坑 ±0cm 破片	口　(25.0) 底　－ 高　(5.2)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰白	紐作り轆轤整形。胴部の張りが強く、口縁部は「く」字状に屈曲し、口唇部は、平坦である。	
583－11 207	鉄　器 釘	521土坑 覆土内 破片	長　(4.0) 幅　(0.6) 重　4.0				両端欠損。断面方形。	
584－1	土師器 坏	46土坑 覆土内 破片	口　(15.0) 底　－ 高　(3.9)	褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は荒削りを施す。	
584－2 207	須恵器 坏	116土坑 覆土内 写残存	口　(13.2) 底　(6.8) 高　(3.7)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部上位に張りを有し、口縁部は内湾気味である。	
584－3 207	石製品 紡錘車 未製品	201土坑 覆土内 完形	径　3.4 孔　－ 厚　2.0	砥沢石			平面は隅丸方形状で、側面は半円状を呈し、下側にも径1.2cm程度の平坦面を有し、この面から穿孔を施すが、貫通してはいない。側面の整形は比較的丁寧である。	重　31.4

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
584－4 207	鉄　器 刀　子	248土坑 覆土内 破片	長　5.5 幅　1.0 重　4.7				茎と刃部との中間の破片と考えられる。	
584－5	土師器 坏	373土坑 覆土内 破片	口　(10.2) 底　— 高　(1.6)	黒色鉱物粒少 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫でを施す。	
584－6	須恵器 坏	373土坑 覆土内 破片	口　(15.9) 底　— 高　(3.4)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部下半に回転篦削りを施す。	
584－7	須恵器 坏	382・383 土坑 覆土内 破片	口　(11.3) 底　— 高　(2.6)	黒色鉱物粒多 細砂粒微	酸化焔 やや軟 質	橙	底部は平底で、体部は直線的に外傾し、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は篦削り、体部は撫で。	
584－8	須恵器 不　明	382・383 土坑 覆土内 破片	口　(13.2) 底　— 高　(3.5)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（?）。蓋か脚部の可能性もある。	外面に自然釉
584－9	土師質 黒色土器 塊	385土坑 覆土内 破片	口　— 底　— 高　(2.8)	褐色細粒少	酸化焔 軟質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。内面は非常に丁寧な篦磨き後黒色処理したものと考えられるが、一部は焼き戻され褐色になっている。	
585－1	土師器 坏	388土坑 覆土内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(2.8)	黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は「く」字状に内傾する。口縁部は横撫で後、底部は篦削りを施す。	
585－2 207	土師器 坏	388土坑 覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は平底で、体部は直線的の外傾し、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、体部外面と底部は篦削り、内面は撫で後斜放射状暗文施文。	厚　0.6 内面若干 磨滅
585－3	須恵器 蓋	388土坑 覆土内 破片	口　(16.7) 摘　— 高　(2.1)	白・黒色細粒 少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。丸味の強い返りを有し、天井部外面は回転篦削りを施す。	外面に自 然釉
585－4	須恵器 蓋	388土坑 覆土内 破片	口　(18.7) 摘　— 高　(1.6)	褐色細粒少	還元焔 やや硬 質	灰白	轆轤整形(右回転?)。内面かえりはシャープであるが短い。天井部外面に回転篦削りを施す。	
585－5	土師器 坏	389土坑 覆土内 破片	口　(13.9) 底　— 高　(2.2)	黒色鉱物粒少 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は反り気味に、外傾する。口縁部は横撫でを施す。	
585－6 207	銅製品 把　手?	398土坑 覆土内 ほぼ完形	長　(3.9) 幅　(0.5) 重　3.6				引き出し状の物の把手と考えられるもので、片側にピンが残存している。新しい時期の可能性あり。	
585－7	土師器 坏	391土坑 覆土内 破片	口　(11.8) 底　— 高　(2.6)	白・黒色鉱物 粒少 細砂粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
585－8	土師器 甕	391土坑 覆土内 破片	口　(21.4) 底　— 高　(4.8)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	明赤褐	「く」字状に外反する口縁部の破片で、内外面共に丁寧に横撫でを施す。胴部上位の篦削りは横撫で、口縁部に痕跡を残している。	
585－9 207	土師器 坏	423土坑 覆土内 3/4残存	口　(12.6) 底　(9.2) 高　(3.1)	細砂粒少 黒色鉱物粒多 褐色細粒少	酸化焔 やや軟 質	橙	底部は平底で、体部下半に弱い張りを有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で底部は篦削りを施し、中央部に径2.5cmの凹を有する。体部外面に指頭痕が残存。	
585－10 207	土師器 坏	423土坑 覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 黒色鉱物粒少 褐色細粒少	酸化焔 やや硬 質	にぶい 橙	底部は丸底気味の平底で、体部は直線的に外傾する。体部外面と底部は篦削り内面は撫で後放射状暗文施文。	厚　0.6
585－11	須恵器 坏	423土坑 覆土内 3/4残存	口　(12.0) 底　— 高　(3.0)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰褐	轆轤整形（右回転）。底部回転糸切り無調整。	
585－12	土師器 坏	424土坑 覆土内 破片	口　(14.0) 底　— 高　(2.6)	黒色鉱物粒少 細砂粒微	酸化焔 硬質	橙	口縁部がわずかに内湾する。口縁部は横撫で体部撫でを施す。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
585－13	須恵器 壺	424土坑 覆土内 破片	口　— 底　(10.6) 高　(1.4)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。高台は底部回転篦削り後の付高台で、高台接地面は2面の面取り状を呈する。	
585－14	土師器 坏	441土坑 覆土内 破片	口　(10.0) 底　— 高　(2.6)	黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は平底気味で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篦削り、調の調整は不明瞭。	
585－15	土師器 坏	441土坑 覆土内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(2.2)	黒色鉱物粒少 白色鉱物粒微	酸化焔 やや硬 質	橙	口縁部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は横撫で、体部の調整は不明瞭。	口縁部外面に黒斑
585－16	土師器 坏	441土坑 覆土内 破片	口　(14.0) 底　— 高　(2.5)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	体部に弱い張りを有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫でを施す。	
585－17	須恵器 蓋	441土坑 覆土内 破片	口　(19.0) 摘　— 高　(1.7)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(?)。天井部は緩平な器形で、内面かえりはやや反り気味で、シャープさに欠ける。	
585－18	須恵器 坏	444土坑 覆土内 破片	口　(11.0) 底　— 高　(2.6)	黒色細粒微 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形（?）。	
585－19	須恵器 坏	451土坑 覆土内 破片	口　(11.4) 底　(7.8) 高　(3.2)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有する。底部は切り離し後、回転篦削りを施す。	
585－20	土師器 坏	451土坑 覆土内 破片	口　(18.0) 底　— 高　(3.7)	細砂粒微 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後、底部に篦削りを施す。	
585－21	土師器 甕	451土坑 覆土内 破片	口　(20.0) 底　— 高　(4.8)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 やや硬 質	橙	口縁部は「く」字状に強く外反する。口縁部は横撫で、胴部は縦位の篦削りを施す。	
585－22	土師器 坏	535土坑 覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒微 白色細粒微 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は平底で、体部から口縁部にかけわずかに内湾する。外面は口縁部横撫で後、底部及び体部に篦削り、内面は撫で後放射状暗文を施す。	厚　0.4
585－23	須恵器 蓋	535土坑 覆土内 破片	口　(14.6) 摘　— 高　(2.7)	細砂粒少 黒色粒少	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。比較的張りのある天井部を有し、口縁部は短く直立する。天井部外面に回転篦削りを施す。	
585－24	須恵器 坏	535土坑 覆土内 写残存	口　(12.6) 底　(7.0) 高　(4.1)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。腰部に張りを有し、体部から口縁部は直線的に外傾する。底部は回転糸切り無調整。	
585－25 207	瓦 瓦製円盤	535土坑 覆土内 完形	径　2.3 厚　1.3 重　7.0				男瓦か女瓦かの区別はつかない。瓦の瓦部破片を使用し、周辺を打ち欠いて整形している。使用板等は不明。	

第2号井戸跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
588－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(16.2) 底　— 高　(4.5)	細砂粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部はわずかに内傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
588－2	須恵器 瓶	覆土内 破片	口　(9.4) 底　— 高　(2.2)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	口縁部破片で、外面に沈線と波状文を施す。	外面に自然釉
588－3	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒微 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　0.7
588－4	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	口縁部破片で、上端に強い段を有する。	厚　0.8
588－5 207	石製品 砥　石	覆土内 写残存	長　6.2 幅　3.2 厚　2.2	砥沢石			使用面は4面で、2面に刃調整の痕跡がみられ、半截されている。	重　81.1

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
588－6 207	石　器 敲　石	覆土内 完形	長　9.0 幅　6.5 厚　5.1	粗粒安山岩			側端部と下端部に剥離がみられ、下端の縁辺にも及んでいることから平敲されて使用されていたものと思われる。	

第4号井戸跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
590－1	灰釉陶器 深　埦	覆土内 破片	口　(16.0) 底　－ 高　(4.8)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。体部の張りは比較的強く、口縁部は外反し、内面に1本の沈線が巡っている。施釉は漬け掛けである。	
590－2	灰釉陶器 埦	覆土内 破片	口　－ 底　(7.5) 高　(2.4)	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。高台は底部回転糸切り後の付高台で、内側が窪れている。施釉技法は不明で、内面に重ね焼き痕が認められる。	
590－3	須恵器 埦	覆土内 破片	口　－ 底　(7.0) 高　(1.7)	白・黒色細粒 微	還元焔 硬質	灰黄	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。見込み部にカーボンが付着。	
590－4 207	須恵器 埦	覆土内 3/4残存	口　(16.8) 底　(11.0) 高　(3.6)	細砂粒少 黒色粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に強く外傾する。高台は底部回転篦削り後の付高台。	
590－5	須恵器 高　坏?	覆土内 破片	口　(20.8) 底　－ 高　(3.2)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形。口縁部は強く外傾する器形で、体部との境に1本の沈線を巡らす。	外面に自然釉
590－6	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(19.9) 摘　－ 高　(2.2)	細砂粒少 白色鉱物粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。扁平な器形で、内面かえりは内傾しない。摘は剝落し不明。天井部外面に回転篦削りを施す。	
590－7	須恵器 瓶	覆土内 破片	口　－ 底　(12.4) 高　(3.6)	白・黒色細粒 少	還元焔 硬質	灰	高台は付高台で、接地面が磨滅している。底部中央部はやや窪み、粘土を雑に撫で付けた様な状態。	
590－8	須恵器 皿	覆土内 破片	口　－ 底　(13.0) 高　－	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部及び腰部回転篦削り後の付高台。	
590－9	須恵器 甕	覆土内 破片	口　(22.8) 底　－ 高　(9.6)	細砂粒微 黒色細粒少	還元焔 やや硬 質	橙	轆轤整形。口縁部は強く外反し上端に段を有する。口縁部内外面にハゼが認められる。	
590－10	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白色鉱物粒少 白色粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面素文。	厚　1.0
590－11	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白・黒色細粒 微	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.2 焼締 内外面釉状付着物
590－12	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白・黒色細粒 微	還元焔 硬質	灰褐	頸部に断面三角形の突帯を巡らす。胴部外面の整形不明。内面にはわずかに青海波文がみられる。	厚　1.0
590－13	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	外面撫で、内面は撫で後に平行叩き状の当具痕?。	厚　0.8
591－14	須恵器 甕	覆土内 破片	口　(25.0) 底　－ 高　(6.7)	白・黒色粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形。胴部の整形は不明。口縁部は強く外反し、上端が肥厚する。	内面に自然釉
591－15	須恵器 羽　釜	覆土内 破片	口　(24.4) 底　－ 高　(8.2)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(?)。鍔は丁寧な貼付であるが対称形ではない。内外面共横位の轆轤撫でを施す。	
591－16 207	瓦 瓦	覆土内 破片	厚　3.2	白・黒色細粒 少	還元焔 硬質	黒	単弁5葉の蓮瓦で、比較的シャープな仕上がりである。周辺や裏面等は篦削りされなめらかにされている。全体に黒色処理。	いぶし?
591－17 207	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚　2.0	褐色粒多 白色鉱物粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り?。側端部面取りは2面。凸面は全面撫で後、篦描き文字「山」。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
591−18 208	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.4	砂粒多	還元焔 硬質	灰黄褐	一枚作り？。凸面は、全面丁寧な撫で後、筆描き文字「大千」を施す。	
591−19	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒少 褐色粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。狭端部上下に、面取りがなされている。凹面布目は細な撫で。凸面は全面撫でを施す。	
591−20	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色細粒多	還元焔 硬質	暗灰	一枚作り？。凹面布目は撫で消され、凸面には斜格子叩きを施す。	
591−21	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒多	還元焔 硬質	褐灰	一枚作り？。凸面は、全面撫でを施す。	
591−22	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。凹面の布目は、側端部の一部にも及んでいる。凸面に縄目。	
591−23	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色細粒多 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取りは1面。凸面に粘土板糸切り痕を残し、正格子叩きを施す。	
591−24	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色細粒少	中性焔 やや硬質	橙	一枚作り？。凹面に、粘土板糸切り痕を残し、凸面は斜格子叩きを施す。	
592−25	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.8	白色細粒少 褐色細粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取りは3面。凹面は粘土板糸切り痕を明瞭に残す。凸面は平行叩き？後全面撫でを施す。	
592−26 208	瓦 男瓦	覆土内 写残存	厚 2.7	砂粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り(？)。側端部面取り3面。凹面に粘土板糸切り痕を残す。凸面は全面撫でで、筆描き文字「三」を施す。	
592−27	瓦 女瓦	覆土内 写残存	厚 3.6	砂粒多 白色細粒多	還元焔 硬質	暗灰	一枚作り？。側端部面取りは2面。凹面布目は部分的に指先の撫でが施され、凸面は全面撫でで、1ヶ所に布圧痕が認められる。	
592−28 208	土製品 羽口?	覆土内 破片	長 (6.4) 幅 (5.2) 厚 (5.8)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	中性焔 硬質	淡黄	高坏の脚部状にすそが広がるもので、上端は欠損し、残存部外面はやや還元気味であり下端は接合面から剥落した痕跡がある。体部外面には面取りがなされている。	
592−29 208	不明 ?	覆土内 破片	長 3.4 幅 2.6 厚 1.9	?	?	明黄褐	尖底土器の底部のような形状を呈するが、焼成されたものとは考えられず、自然遺物の可能性がある。	
592−30 208	鉄器 鎌	覆土内 写残存	長 (12.6) 幅 (3.5) 重 29.8				堀股である。刃部は内側に付けられている。	
592−31 208	石器 敲石	覆土内 完形	長 10.0 幅 5.5 厚 2.8	石英閃緑岩			上端部に顕著な敲打痕がみられる。	重 577.7
592−32 208	石製品 砥石	覆土内 写残存	長 11.6 幅 7.7 厚 7.5	粗粒安山岩			使用痕は9面で半載されている。	重1037.0

第8号井戸跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
594−1 208	青磁 碗	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少		オリーブ灰	釉厚は0.5cm〜0.7cm程度。	厚 1.5
594−2	須恵器 鉢	覆土内 破片	口 (30.0) 底 — 高 (8.0)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	叩き整形。胴部上半〜口縁部にかけては、轆轤整形、下半に叩きを施したと考えられる。内面は菅刷状文。	
594−3	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (19.0) 底 — 高 (12.5)	細砂粒多 白・黒色鉱物粒少	還元焔 硬質	茂黄	轆轤整形(右回転)。胴部上半に張りを有し口縁部は内湾する。内外面共に轆轤整形痕を残し、外面には緩位の弱い撫での痕跡もある。	
594−4	須恵器 横瓶	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (5.2)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(？)。口縁部は強く外反し、上端に段を有する。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
594－5	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	細砂粒微 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	胴部小破片で、弱い突帯を巡らせている。	厚　1.4 外面に自然釉
594－6	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	褐色細粒少 細砂粒微	還元焔 硬質	灰白	口縁部破片で、外面に平行沈線と1本単位の波状文を巡らす。	厚　1.3 内面に自然釉
594－7	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	口縁部破片で、胴部との接合部から剥離している。外面上部に波状文、その下にボタン状貼付文を施す。	厚　1.3
594－8	常　滑 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	褐色細粒少	焼締 硬質	褐灰	叩き整形。外面平行叩きとカキ目？。内面平行の当具か？。	厚　1.2 内面に釉
594－9	常　滑 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	褐色細粒少	焼締 硬質	褐灰	外面平行叩き、内面カキ目？。	厚　1.1
594－10	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	黒色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文で、外面に荒描きの線刻が認められる。	厚　1.1 内外面に自然釉
594－11	常　滑 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	褐色細粒少	焼締 硬質	褐灰	叩き整形。外面平行叩き、内面カキ目？。	厚　1.2
594－12	常　滑 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	褐色細粒少	焼締 硬質	褐灰	叩き整形。外面平行叩きとカキ目？。	厚　1.1
595－13	常　滑？ 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	褐色細粒微	焼締 硬質	褐灰	叩き整形。外面平行叩き？。カキ目？。内面に接合痕明瞭。	厚　1.2
595－14	常　滑 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	褐色細粒少	焼締 硬質	褐灰	叩き整形。外面平行叩きとカキ目？。内面カキ目？。	厚　1.2
595－15	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白色細粒多 褐色細粒少	還元焔 硬質	褐灰	叩き整形。外面叩き不明、内面は青海波文。	厚　0.9 外面に自然釉
595－16 209	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚　2.0	白・黒色細粒多	還元焔 硬質	褐灰	一枚作り？。側端部面取りは2面。凸面は全面撫でで、線描き文字あり（文字不明）。	
595－17	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚　1.9	白色鉱物多多	中性焔 硬質	褐灰	桶巻き作り？。側端部面取りは2面。凹面に模骨痕を残し、突出した部分を撫でている。凸面縄目は撫で消されている。	
595－18	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚　2.6	白色細粒多 細砂粒多	還元焔 硬質	褐灰	桶巻き作り？。側端部面取りは2面。凹面に模骨痕と粘土板赤切り痕を残す。凸面は全面撫でを施す。	
595－19	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚　1.8	白・褐色細粒少 白色鉱物粒微	還元焔 硬質	灰白	一枚作り？。側端部面取りは2面。凹面布目は全面撫で消され、凸面には縄目が施されている。	
595－20 208	石　器 敲　石	覆土内 完形	長　6.6 幅　4.0 厚　2.0	雲母石英片岩			両端部を使用している。	重　93.0
595－21 209	石　器 敲　石	覆土内 完形	長　13.0 幅　5.7 厚　5.0	ひん岩			上下端部に敲打痕がみられる。	重　513.3
596－22 209	石　器 磨編み石	覆土内 完形	長　11.8 幅　4.3 厚　3.2	粗粒安山岩			使用痕不明。	重　271.8
596－23 209	石　器 敲　石	覆土内 完形	長　10.8 幅　5.6 厚　4.2	変質玄武岩			側端部に剥離がみられる。	重　426.3
596－24 209	石製品 砥　石	覆土内 完形	長　19.8 幅　11.0 厚　4.4	粗粒安山岩			使用面は4面で、上下端は欠損している。	重　884.0

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
596−25 209	石製品 砥　石	覆土内 写残存	長　14.5 幅　8.0 厚　7.7	砂岩			使用面は7面で、平載されている。	重1282.0
596−26	石製品 砥　石	覆土内 完形	長　12.6 幅　11.9 厚　5.9	粗粒安山岩			表面には刃調整痕がみられ、裏面には厚くカーボンが付着している。	重 993.0

第9号井戸跡

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
598−1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(3.3)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で底部は箆削り、体部には弱い指頭痕を残す。	
598−2 210	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.8) 底　— 高　(3.2)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底状の平底で、体部から口縁部は直線的に外傾し、口唇部内面はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、体部に指頭痕をわずかに残す。	
598−3 210	土師器 坏	覆土内 写残存	口　(12.7) 底　(9.0) 高　(3.6)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は平底で、体部下半にわずかに張りを有する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで間の整形は不明瞭。	
598−4	土師器 坏	覆土内 破片	口　(14.0) 底　— 高　(3.4)	白・黒色鉱物 粒多 細砂粒少	酸化焔 やや硬 質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部に張りを有し口縁部上端は短く内湾する。口縁部は横撫で底部は箆削りで、体部の調整は不明瞭。	
598−5	土師器 坏	覆土内 破片	口　(11.8) 底　(8.4) 高　(3.0)	白色鉱物粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は平底で、体部から口縁部にかけてわずかに内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、体部調整は不明。	
598−6	須恵器 坏	覆土内 破片	口　— 底　7.0 高　(1.9)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転箆切り無調整。	
598−7 210	須恵器 坏	覆土内 写残存	口　(11.4) 底　(6.8) 高　(3.6)	黒色粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。底部は回転糸切り無調整。腰にわずかに張りを有し、口縁部は直線的に外傾する。	外面に薄く自然釉
598−8 210	須恵器 坏	覆土内 写残存	口　(11.0) 底　(6.2) 高　(3.4)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。腰に弱い張りを有する。	
598−9	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　(7.4) 高　(3.9)	白色細粒少	還元焔 やや軟 質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
598−10	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(13.5) 底　(6.6) 高　(3.5)	白・黒色細粒 少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。底部は回転箆切り無調整。	内外面の一部に自然釉
598−11	須恵器 坏	覆土内 破片	口　— 底　(8.8) 高　(3.0)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形（右回転)。底部回転糸切り無調整。	
598−12	須恵器 坏	覆土内 写残存	口　(12.4) 底　(6.6) 高　(3.9)	砂粒微 黒色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。口縁部上端内外面にカーボンが付着。灯明皿か?	
598−13 210	須恵器 坏	覆土内 写残存	口　(14.0) 底　(6.8) 高　(4.6)	砂粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。体部に張りはなく、口縁部は外反する。	
598−14 210	須恵器 境	覆土内 写残存	口　(13.6) 底　6.5 高　(5.2)	白色細粒多	還元焔 やや軟 質	灰黒	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。体部中位に張りを有し、口縁部は外反する。本来はいぶし焼成されたものと思われるが、内面口縁部付近及び外面体部上半は灰白色に変色している。	
598−15	須恵器 境	覆土内 写残存	口　(14.3) 底　(6.2) 高　(4.5)	白・黒色細粒 少	還元焔 やや軟 質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は内高台状の特異な形態で、底部回転糸切り後の付高台。体部上位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目	(cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
598－16 210	須恵器 壺	覆土内 与残存	口 底 高	(13.8) (6.3) (4.5)	片岩細粒少 雲母細粒多	中性焔 やや軟 質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。体部中位にわずかに張り を有し、口縁部は外反する。	底部の磨滅が顕著
598－17	須恵器 壺	覆土内 破片	口 底 高	(15.4) (7.0) (5.0)	白色細粒少	還元焔 軟質	灰	轆轤整形(?)。高台は付高台で、接地部が磨滅している。	
598－18	須恵器 壺	覆土内 破片	口 底 高	(13.0) (5.6) (4.7)	細砂粒少 白・黒色細粒少	中性焔 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台で、接地部が磨滅している。	
598－19	須恵器 壺	覆土内 与残存	口 底 高	(13.0) (7.4) (4.6)	細砂粒少 褐色細粒少 黒色鉱物粒微	中性焔 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台であるが、貼付部から剥落。	
598－20 210	須恵器 壺	覆土内 ほぼ完形	口 底 高	12.0 5.6 4.7	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒微	中性焔 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。体部に張りはなく、口縁部は外反する。	内外面にカーボン付着
598－21 210	須恵器？ 壺	覆土内 ほぼ完形	口 底 高	15.0 6.4 6.4	片岩細粒少 黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。体部は深めで張りがなく、口縁部は外反する。内面の轆轤調整痕は不明瞭でコテをあてたものと思われる。	
599－22	須恵器 壺	覆土内 与残存	口 底 高	(18.0) (8.2) (5.9)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は貼付部から剥落している。体部から口縁部内外面にカーボン付着。	
599－23	須恵器 壺	覆土内 与残存	口 底 高	— (7.0) (3.5)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。見込み部は、磨滅している。	
599－24	須恵器 壺	覆土内 与残存	口 底 高	— (6.6) (5.0)	褐色細粒微	還元焔 やや軟 質	灰	轆轤整形(右回転?)。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台で、接地部はわずかに磨滅している。	
599－25	須恵器 壺	覆土内 破片	口 底 高	— (8.0) (3.6)	白色細粒少 褐色細粒少	中性焔 やや軟 質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台で、高台貼付に伴い広範囲に撫でが施されている。見込み部磨滅。	
599－26	須恵器 壺	覆土内 与残存	口 底 高	— (9.6) (2.4)	白・黒色粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は長脚の角高台状で、底部回転糸切り後の付高台。	
599－27	須恵器 壺	覆土内 破片	口 底 高	(12.6) (9.0) (5.2)	白・黒色細粒 多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。見込み部はわずかに磨滅。	
599－28	須恵器 壺	覆土内 与残存	口 底 高	— (7.0) (2.5)	白・黒色細粒 少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。高台の接地部は磨滅する。	
599－29	須恵器 壺	覆土内 与残存	口 底 高	— (8.6) (3.0)	白・黒色鉱物 少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。高台は長脚の角高台状で、底部回転糸切り後の付高台である。	
599－30	須恵器 壺	覆土内 破片	口 底 高	— (7.8) (3.4)	白色鉱物粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転？)。高台は付高台。	外面に自然釉
599－31	須恵器 壺	覆土内 与残存	口 底 高	— 7.4 (3.7)	白色鉱物粒微 黒色細粒少	中性焔 硬質	浅黄	轆轤整形(右回転)。高台は付高台で、底部は高台貼付に伴い丁寧に撫でられている。見込み部に轆轤整形痕を顕著に残す。	
599－32	須恵器 壺	覆土内 破片	口 底 高	— (9.4) (3.0)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。見込み部磨滅。	
599－33	須恵器 壺	覆土内 与残存	口 底 高	— 7.5 (2.9)	黒色鉱物粒少 褐色細粒多	中性焔 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。高台は付高台で、底部切り離し技法は高台貼付に伴う撫でによって不明。見込み部に轆轤整形痕を顕著に残す。	
599－34	須恵器 壺	覆土内 破片	口 底 高	— (8.4) (3.0)	砂粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は角高台状で底部回転糸切り後の付高台。見込み部と高台接地部磨滅。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
599—35	灰釉陶器 埦	覆土内 破片	口 — 底 (6.8) 高 (1.8)	美濃系		灰白	輪轆整形(?)。高台は三日月高台で、底部回転篦削り後の付高台。施釉は刷毛掛けか？。	
599—36 210	灰釉陶器 折縁皿	覆土内 3/4残存	口 (11.6) 底 (5.6) 高 (2.2)	美濃系		灰白	輪轆整形(右回転?)。高台は底部回転糸切り後の付高台で、底部は体部からわずかに突出する。施釉は漬け掛けである。	
599—37 210	須恵器 皿	覆土内 3/4残存	口 (16.0) 底 9.2 高 (3.0)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。体部は強く外反する。内面に重ね焼き痕と思われる円形の色調の違いがみられる。	
599—38 210	須恵器 皿	覆土内 破片	口 (15.0) 底 (8.2) 高 (2.6)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。体部は水平方向に強く外反する。	
599—39	土師器 高坏	覆土内 破片	口 — 底 (10.0) 高 (5.0)	褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	脚部破片で、裾部は横撫で、脚部中位から基部外面縦位篦削り、内面撫で、坏部底部に下部からの穿孔が認められる。	底部穿孔
600—40	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 (4.4) 高 (2.7)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。摘は環状摘で、天井部外面回転篦削り後の貼付。	
600—41	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 (3.8) 高 (2.5)	砂粒少 黒色粒多	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。摘は環状摘で、天井部外面回転篦削り後の貼付。	
600—42	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 (4.0) 高 (1.7)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。摘は環状摘で、天井部外面回転篦削り後の貼付。	
600—43	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (16.8) 摘 — 高 (2.3)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。かえりは丸味の強いものでシャープさに欠ける。天井部外面は広範囲に回転篦削りを施す。摘は欠損して不明。	
600—44 210	須恵器 蓋	覆土内 3/4残存	口 (15.2) 摘 (3.6) 高 (3.1)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。器形は全体に扁平であるが、天井部は弱い張りを有し、端部が屈曲する。摘は環状摘で、丁寧な貼付。天井部外面は回転篦削りを施したものと思われるが、撫でられた結果不明瞭である。	
600—45	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 (3.9) 高 (1.5)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。摘は環状摘で、天井部外面回転篦削り後の貼付。	
600—46	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (15.0) 摘 — 高 (2.5)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。摘は欠損するが、天井部外面回転篦削り後の貼付と考えられる。	
600—47	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 (7.0) 高 (1.7)	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転？)。大振りの環状摘部の破片で、天井部外面回転篦削り後の貼付。	
600—48	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 (9.0) 高 (2.7)	褐色細粒少	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(右回転)。摘は大振りな環状摘で、天井部外面回転篦削り後の貼付。天井部内面と摘外縁に磨滅が認められることから、埦？として使用された可能性もある。	
600—49	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (6.9)	細砂粒少 白・黒色細粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部は崩れた「コ」字状を呈し、上端がわずかに内湾する。口縁部は横撫で内外面に接合痕が認められる。胴部外面上位は横位篦削り、内面は横位撫でを施す。	
600—50	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (11.5)	白・黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	肩部に強い張りを有し、胴部下半は直線的である。高台は欠損して不明。胴部外面は篦削り、内面は撫でを施す。	
600—51 210	須恵器 埦	覆土内 3/4残存	口 — 底 8.5 高 (9.0)	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り輪轆整形(?)。高台は底部回転篦削り後の付高台。外面は箆等による強い撫で、内面は指先による撫でを施す。	内外面に自然釉
600—52	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (8.0)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転？)。胴部下端に2段の回転篦削りを施す。	外面にカーボン付着

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
600－53	灰釉陶器 鹿	覆土内	口　— 底　(10.2) 高　(3.0)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	内面底部に厚く釉あり
600－54	須恵器 円面硯	覆土内 破片	口　— 底　— 高　(4.7)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	脚部には方形の透しをもつ。	内外面に自然釉
600－55	須恵器 羽　釜	覆土内 破片	口　(20.0) 底　— 高　(12.0)	白色鉱物粒多 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰黄	胴部の張りは比較的強く、口縁部も内傾する。鍔の貼付は丁寧で、上下の接合部も良く撫でられている。内外面共に轆轤調整痕を残している。	
600－56	須恵器 羽　釜	覆土内 破片	口　(18.2) 底　— 高　(9.9)	細砂粒少 褐色細粒少	中性焔 硬質	にぶい 橙	胴部の張りは強く、口縁部は内傾する。鍔上端は平坦で、貼付は非常に丁寧である。内外面共に轆轤整形痕を明瞭に残している。	
600－57	須恵器 羽　釜	覆土内 破片	口　(18.6) 底　— 高　(5.2)	細砂粒少 白・黒色細粒多	還元焔 硬質	淡黄	胴部の張りは強く、口縁部も強く内傾する。内外面共に轆轤整形痕を残す。	
601－58	須恵器 甑	覆土内 破片	口　— 底　(29.0) 高　(6.5)	細砂粒微	還元焔 硬質	灰白	短く「く」字状に屈曲する。内外面共に轆轤による撫でを施す。	
601－59	須恵器 甕	覆土内 破片	口　(27.0) 底　— 高　(4.7)	白色粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	口縁部は強く外反し、上端が短く直立する。	13号溝第612図-11と接合
601－60	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色鉱物粒少	還元焔 硬質	灰	外面に弱い沈線と7本単位の波状文を施す。	厚　0.8 内面に自然釉
601－61	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	口縁上端に段を有し、中位に1本の沈線を巡らせる。	厚　1.2 内外面に自然釉
601－62	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	褐色細粒少	還元焔 硬質	灰白	叩き整形。外面撫で、内面青海波文。外面にかが状の平行沈線が認められるが、偶然か？	厚　1.4 内面に自然釉
601－63	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	黒色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	口縁部破片で、上端に段を有し、下位に沈線と波状文を施文。	厚　1.1 外面に厚く自然釉
601－64	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白・黒色細粒微	還元焔 硬質	灰	口縁部上端が折り返し状を呈する。内外面共に轆轤による撫でを施す。	厚　0.9
601－65	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	口縁部上端に突帯を巡らし、強い段を形成している。外面の一部にカキ目ケが認められる。	厚　1.0 内外面に自然釉
601－66	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	肩部の破片で、内外面共に轆轤による調整が行われている。	厚　0.9 外面に自然釉
601－67	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色鉱物粒多 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	頸部の破片で、内外面共に撫でを施す。	厚　1.2
601－68	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少 黒色細粒微	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面格子叩き、内面青海波文。	厚　1.2
601－69	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色粒多 黒色粒微	還元焔 硬質	灰	口縁部破片で、上端に突帯を2帯巡らせ、下位に5本単位の波状文を施す。	厚　1.4
602－70	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.2 外面に自然釉
602－71	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	頸部破片で、口縁部外面に5本単位の波状文を施す。内面は撫で。	厚　1.8

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目 重目	(cm) (g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
602−72	須恵器 甕	覆土内 破片	口 底 高	− − −	黒色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	口縁部破片で、外面に平行沈線と波状文を交互に施す。	厚　1.6
602−73	須恵器 甕	覆土内 破片	口 底 高	− − −	白色細粒多 小礫微	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.3
602−74	須恵器 甕	覆土内 破片	口 底 高	− − −	白色鉱物粒多	還元焔 硬質	灰	口縁部破片で、外面に7本単位の波状文、内面に撫でを施す。	厚　1.5
602−75	須恵器 甕	覆土内 破片	口 底 高	− − −	白色鉱物粒多	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.2
602−76	須恵器 甕	覆土内 破片	口 底 高	− − −	白色細粒少 褐色細粒微	還元焔 硬質	灰	口縁部上端に2帯の突帯を巡らし、下位に9本単位の波状文と2本単位の巾広の平行沈線を施す。	厚　1.0 内外面に自然釉
602−77	須恵器 甕	覆土内 破片	口 底 高	− − −	白色細粒多 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面細かな平行叩き、内面青海波文。	厚　1.5 外面に自然釉
603−78	須恵器 甕	覆土内 破片	口 底 高	− − −	細砂粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.1
603−79	須恵器 甕	覆土内 底部破片	口 底 高	− − −	細砂粒微 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	平底で、外面底部に箆削り、内面は撫でを施す。	厚　1.2
603−80 210	瓦 宇　瓦	覆土内 破片	厚	2.2	白色鉱物粒多	還元焔 硬質	黒灰	瓦当意匠は左回行唐草文。	
603−81 210	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚	2.0	白色鉱物粒少 褐色粒多	還元焔 硬質	明灰	一枚作り？。凸面に撫で後箆描き文字。文字不明。	
603−82 211	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚	1.7	砂粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。凹面に粘土板糸切り痕を残し、凸面にも粘土板糸切り痕がみられ「長女？」の箆描き文字。	
603−83 211	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚	2.2	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。凹面布目は、部分的に撫でが施され、凸面は全面撫で後「簡田」と思われる文字を含んだ正格子叩き。	
603−84 211	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚	2.1	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取りは2面。凸面は「簡田」の文字を含む正格子叩きを施す。	
603−85	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚	2.2	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。凹面布目は撫で消され、凸面は斜格子叩きを施す。	
603−86	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚	2.0	白色細粒少	還元焔 硬質	褐灰	一枚作り？。凹面布目は撫で消され、凸面は斜格子叩きを施す。	
603−87	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚	2.2	黒色粒少 白色粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。凸面正格子叩き。	
604−88	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚	2.6	白色細粒少 黒色鉱物粒多	中性焔 硬質	にぶい	一枚作り。凹面全面撫で、凸面撫で後正格子叩きを施す。	
604−89	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚	1.3	褐色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。凸面に平行叩きを施す。	
604−90	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚	1.4	白・褐色細粒多	還元焔 硬質	にぶい 橙	一枚作り？。凹面には、粘土板糸切り痕を残しているが、全面を粗く撫で消している。凸面は縄叩き。	
604−91	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚	2.0	砂粒微 褐色細粒少	中性焔 硬質	にぶい 橙	一枚作り？。凸面に縄目6明瞭。	
604−92	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚	2.1	白色鉱物少 褐色粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取りは2面。凸面は全面撫でを施す。	
604−93 211	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚	2.0	白色鉱物粒多 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取りは2面。凹面に粘土板糸切り痕を残し、凸面は横位撫で後、箆描き文字「土？」。	
604−94	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚	2.0	砂粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	にぶい 黄橙	一枚作り？。側端部面取りは3面。凸面は平行叩き後全面撫でを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
604－95	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚　2.5	黒色粒少 褐色細粒多	中性焼 硬質	にぶい 橙	一枚作り？。側端部面取り１面。凹面に粘土板糸切り痕を残し、凸面は面取り状の縦位置撫でを施す。	
604－96	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚　2.3	黒色細粒多 白色細粒少	還元焼 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取りは３面。凹面は粘土板糸切り痕を残し、間隔をおいて縦位の撫撫でが施されている。凸面は全面撫で。	
604－97	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚　3.0	白色細粒少 褐色細粒多	還元焼 硬質	にぶい 橙	一枚作り？。凸面撫で。	凹面赤色顔料付着
605－98	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚　2.0	白色鉱物粒少 褐色粒少	中性焼 硬質	にぶい 橙	一枚作り？。凸面は縄叩きで、全面を撫で消している。	
605－99	瓦 男　瓦？	覆土内 破片	厚　2.2	白色鉱物粒多	中性焼 硬質	灰黄	一枚作り？。側端部面取りは２面。凸面は縦横の撫でを施す。	
605－100	瓦 男　瓦	覆土内 破片	厚　1.9	白色鉱物粒多	中性焼 硬質	にぶい 橙	一枚作り？。側端部面取り３面。凸面は面取り状縦位置撫でを施す。両面共にカーボン付着。	
605－101	瓦 玉縁付 男　瓦	覆土内 破片	厚　1.8	白色鉱物粒少	還元焼 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取りは２面。凹面布目は部分的に撫でが施され、凸面は縄叩き後全面が撫で消されている。	
605－102	瓦 男　瓦	覆土内 瓦残存	厚　2.0	白色鉱物粒少 褐色粒多	還元焼 硬質	にぶい 橙	一枚作り？。側端部面取りは２面。凸面に粘土板糸切り痕を残し、縦位の面取り状の撫削りを施す。	
605－103	瓦 男　瓦	覆土内 破片	厚　2.1	黒色粒多 白色細粒少	還元焼 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取りは３面。凸面に縦位の撫でを施す。	内外面に自然釉
605－104	瓦 男　瓦	覆土内 破片	厚　1.6	白色鉱物粒多	還元焼 硬質	灰	一枚作り？。凸面平行叩きを施す。	
605－105	瓦 男　瓦	覆土内 破片	厚　1.6	砂粒多	還元焼 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取りは３面。凸面は縄叩き後全面撫でを施す。	
606－106 210	石　器 敲　石	覆土内 瓦残存	長　7.5 幅　7.4 厚　5.1	石英閃緑岩			左側端部に敲打痕、上端部と右側端部に擦り痕がみられる。	重 412.5
606－107 211	石　器 薦編み石	覆土内 瓦残存	長　9.2 幅　8.4 厚　5.0	石英閃緑岩			上端部に剥離がみられ、熱を受けていると思われる。	重 577.7
606－108	石　器 薦編み石	覆土内 ほぼ完形	長　15.2 幅　5.2 厚　2.0	頁岩			表面に剥離がみられ、裏面とは剥離している。	重 223.7
606－109 211	石　器 敲　石	覆土内 完形	長　10.3 幅　5.6 厚　3.8	粗粒安山岩			上下端部に敲打痕がみられる。	重 324.3
606－110	石　器 薦編み石	覆土内 瓦残存	長　10.4 幅　5.8 厚　5.3	珪質変質岩			使用痕不明。	重 513.7
606－111 211	石　器 薦編み石	覆土内 完形	長　11.3 幅　4.9 厚　2.9	変質玄武岩			使用痕不明。	重 250.8
606－112 209	石　器 敲　石	覆土内 瓦残存	長　8.1 幅　4.8 厚　3.2	変質安山岩			上端部にわずかに敲打痕がみられる。	重 208.0
606－113 212	鉄　器 釘	覆土内 瓦残存	長　6.3 幅　0.6 重　8.8				頭部側の破片で、断面方形。	

第３号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
608－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(10.6) 底　－ 高　(3.3)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 やや軟 質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的にわずかに外傾する。口縁部は横撫で、底部は撫削りを施す。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
608－2	土師質 埴	覆土内 ¼残存	口 (12.0) 底 (6.4) 高 (4.0)	褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
608－3	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (17.2) 横 — 高 (1.3)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。	外面に自然釉
608－4	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒微	還元焔 硬質	灰	胴部の破片で、最大部に斜位の圧痕が認められる。	厚 0.6
608－5	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	外面に平行沈線と波状文を施す。	厚 1.2 内外面に自然釉
608－6	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰黄	口縁部上端に段を有し、外面に波状文と沈線を数段巡らす。	厚 1.1
608－7 212	鉄器 刀子	覆土内 破片	長 3.0 幅 1.0 重 2.3				茎部破片。身側の一部残存。	
608－8 212	鉄器 釘	覆土内 破片	長 2.0 幅 0.5 重 1.3				断面方形。両端部欠損。	

第4号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
609－1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (2.9)	細砂粒微 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	体部中位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。口縁部は横撫で、底部は荒削りで、間の整形が不明瞭。	
609－2	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.4) 底 (7.2) 高 (4.3)	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
609－3	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.6) 底 (8.0) 高 (4.3)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周辺及び腰部に回転篦削りを施す。	内外面に火だすき
609－4	須恵器 円面硯	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 白色鉱物粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。脚部には透しと沈線を施している。硯面に磨滅は認められない。	
609－5	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.7 外面に自然釉

第5・7号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
610－1	須恵器 皿	5調 覆土内 破片	口 (17.6) 底 — 高 (2.8)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰部から底部に回転篦削りを施す。	
610－2	須恵器 蓋	5調 覆土内 破片	口 (10.0) 底 — 高 (2.0)	褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は丸底状で摘は欠損する。内面かえりは大型で、口縁部より下に出る。天井部外面に回転篦削りを施す。	
610－3	須恵器 甕	5調 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面撫で後、間隔をおいて細かなカキ目。内面は青海波文。	厚 0.9
610－4	須恵器 甕	7調 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 白色鉱物粒微	還元焔 硬質	灰	口縁部の小破片で、縦位のカキ目後、横位の平行沈線を施す。	厚 0.8

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
610－5	須恵器 壺	7溝 覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形(?)。高台は底部回転篦削り後の付高台?	

第9・12号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
611－1	土師器 坏	9溝 覆土内 破片	口　(12.0) 底　－ 高　(3.4)	褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
611－2	須恵器 甕	9溝 覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	褐色細粒微	還元焔 硬質	灰	外面は、平行叩きか?	厚　0.4 外面に自然釉
611－3 212	須恵器 坏	12溝 覆土内 3/4残存	口　(11.4) 底　(7.0) 高　(3.5)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。腰部に張りを有し、口縁部はわずかに内湾する。	
611－4	青　磁 碗	12溝 覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	龍泉窯系		明緑灰	龍泉窯系。発色が良好で、外面にしのぎの蓮弁面がみられる。釉厚は0.8mm程度。	厚　0.6 13世紀

第13号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
612－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　－ 高　(2.5)	黒色鉱物粒多 白色細粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は平底気味で、口縁部上端がわずかに内湾する。口縁部は横撫で、体部は撫で?、底部は篦削りを施す。	
612－2 212	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　－ 高　(2.7)	黒色鉱物粒多 細砂粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は平底気味で、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、体部の調整は不明瞭。	
612－3	須恵器 坏	覆土内 破片	口　－ 底　(7.0) 高　(1.3)	細砂粒微	還元焔 やや硬質	灰	輪積整形（?）。底部は回転篦削りを施す。	
612－4 212	須恵器 坏	覆土内 破片	口　－ 底　(7.4) 高　(1.5)	褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転)。底部は回転篦切り無調整。	
612－5	須恵器 坏	－6cm ほぼ完形	口　(12.5) 底　(6.6) 高　(4.1)	細砂粒少	還元焔 やや硬質	灰	輪積整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。内面口縁部見込み部が磨滅している。	いぶし
612－6	須恵器 坏	－2cm ほぼ完形	口　11.4 底　7.1 高　3.7	細砂粒少 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。腰部と体部中位に弱い張りを有する。	
612－7	須恵器 坏	覆土内 3/4残存	口　(12.4) 底　(7.0) 高　(4.3)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。見込み部の一部が摩状磨滅。	
612－8	須恵器 坏	覆土内 1/4残存	口　(12.0) 底　(6.6) 高　(4.2)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部中位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。	
612－9 212	須恵器 壺	±0cm 3/4残存	口　(15.6) 底　(10.0) 高　(7.7)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転)。高台は比較的シャープで、底部回転糸切り後の付高台。体部は深く腰の張りはなく、口縁部がわずかに外反する。	
612－10 212	須恵器 甕	－2cm 3/4残存	口　－ 底　－ 高　(15.8)	白・黒色鉱物多	還元焔 硬質	灰白	紐作り輪積整形(右回転)。肩部に強い張りを有する。胴部外面下半は削りの可能性があるが不明瞭。頸部は欠損する。内面は横位の粗い撫でを施す。	内外面に薄く自然釉
612－11	須恵器 壺	覆土内 破片	口　(20.6) 底　－ 高　(2.3)	白色粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	口縁部は強く外反し、上端が短く直立する。	9号井戸 第601図 －59と接合

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
612—12 212	石　器 敲　石	覆土内 完形	長　15.9 幅　5.8 厚　6.0	輝緑岩			上・側端部に敲打痕がみられる。	重 926.0
612—13 212	石　器 敲　石	覆土内 完形	長　11.9 幅　5.2 厚　3.2	砂岩			上端部に敲打痕、側端部に剥離面がみられる。	重 296.1
612—14 212	鉄　器 釘	覆土内 残存	長　6.4 幅　1.4 重　8.6				頭部は折り曲げたような形状で、全体に短い。	

第14号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
613—1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(10.9) 底　— 高　(3.3)	細砂粒微 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は内湾気味に外傾し、上端がわずかに外反する。口縁部は横撫で底部は荒削りを施す。	
613—2	須恵器 坏	覆土内 破片	口　— 底　(7.0) 高　(1.3)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
613—3	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(14.0) 摘　— 高　(1.8)	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形（?）。摘は欠損し不明。	外面に自然釉
613—4	瓦 男　瓦	覆土内 破片	厚　2.1	黒色粒少	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。凸面は、横位の荒削り状の撫でを施す。	
613—5	瓦 男　瓦	覆土内 破片	厚　2.2	細粒少	中性焔 硬質	橙	一枚作り？。側端部面取りは2面、凹面に粘土板糸切り痕を明瞭に残す。凸面は撫で。	

第15号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
614—1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　— 高　(2.8)	黒色鉱物粒多 白色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部と口縁部との境で屈曲し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は荒削りを施す。	
614—2	土師器 坏	覆土内 破片	口　(13.0) 底　— 高　(3.0)	細砂粒微 黒色鉱物粒少	還元焔 硬質	橙	底部は平底と考えられ、体部はやや内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で、体部の調整は不明瞭。	
614—3	須恵器 坏	覆土内 破片	口　— 底　(6.8) 高　(1.5)	白・黒色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（?）。底部は回転荒削り無調整。	
614—4	須恵器 壺	覆土内 破片	口　— 底　(6.8) 高　(2.0)	褐色細粒微	還元焔 硬質	淡黄	轆轤整形(右回転？)。高台は底部回転糸切り後の丁寧な付高台。底部切り離し痕は高台貼付に伴う撫でによって大半は消されている。	

第17号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
615—1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(11.0) 底　— 高　(3.5)	褐色細粒微	酸化焔 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部はわずかに外反する。器面の磨滅が激しく調整は不明。	
615—2	土師器 坏	覆土内 破片	口　(13.0) 底　— 高　(3.3)	褐色細粒少	還元焔 やや軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い段を有し口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で底部は荒削りと思われるが不明瞭。	
615—3	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(10.0) 摘　— 高　(2.7)	黒色粒少 白色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。丸底状の天井部を有し、口部との境に段を有し、口縁部は外傾する。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備　考
615－4	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	細砂粒微	還元焔 硬質	灰白	口き整形。外面平行叩き、内面青海波文。両面及び断面の一部に薄くカーボンが付着し内面中央部に厚くカーボン付着。	厚　0.9
615－5	須恵器 甕	覆土内 破片	口　－ 底　－ 高　－	白色細粒多 黒色細粒微	還元焔 硬質	オリーブ灰	口き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　0.9 外面に自然釉

第18号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備　考
616－1	土師器 坏	覆土内 破片	口　(13.0) 底　－ 高　(2.2)	細砂粒微 白色細粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は平底状の丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後、底部に篦削りを施す。	
616－2	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　－ 高　(3.3)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、間の整形は不明瞭。	
616－3	土師器 坏	覆土内 写残存	口　(11.7) 底　－ 高　(3.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直線的に直立する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、間の整形は不明瞭。	
616－4 212	土師器 坏	覆土内 写残存	口　(11.8) 底　－ 高　(3.2)	細砂粒少 白・黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部はわずかに外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、間の整形は不明瞭。	
616－5	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.6) 底　－ 高　(2.8)	細砂粒少 白・黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、間の整形は不明瞭。	
616－6 212	土師器 坏	覆土内 写残存	口　(12.9) 底　－ 高　(3.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直線的にわずかに外傾する。口縁部横撫で後、底部に篦削りを施す。	
616－7	土師器 坏	覆土内 破片	口　(13.0) 底　－ 高　(2.7)	細砂粒微 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、間の整形は不明瞭。	口縁部外面に黒斑
616－8 212	土師器 坏	20cm 写残存	口　(12.6) 底　－ 高　(3.1)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 やや軟質	橙	底部は平底状の丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、間の整形は不明瞭。	
616－9	土師器 坏	覆土内 破片	口　(14.0) 底　－ 高　(2.8)	黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、間の整形は不明瞭。	
616－10	土師器 坏	覆土内 写残存	口　(13.4) 底　－ 高　(2.8)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、間の整形は不明瞭。	
616－11	土師器 坏	覆土内 写残存	口　(13.8) 底　－ 高　(2.8)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直線的にわずかに外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、間の整形は不明瞭。	
616－12	土師器 鉢	覆土内 破片	口　(17.9) 底　－ 高　(5.4)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	橙	口縁部はわずかに内湾する。口縁部横撫で後外面に篦削りを施す。	
617－13 212	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.0) 底　(6.5) 高　(2.6)	片岩質砂粒少 白色細粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は平底で、体部から口縁部にかけて弱く内湾する。全体に厚手で小振りである。口縁部は横撫で、体部外面及び底部は篦削り、内面は撫で後体部に格子状子、見込み部ラセン状暗文施文。	
617－14 212	土師器 坏	覆土内 破片	口　(14.0) 底　－ 高　(3.5)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は平底で、体部は直線的に強く外傾し、口縁部上端が直立する。口縁部は横撫で、体部外面及び底部は篦削り、内面は撫で後斜放射状暗文施文。	口唇部欠損
617－15 212	土師器 坏	覆土内 写残存	口　(15.0) 底　－ 高　(4.7)	細砂粒微	酸化焔 やや軟質	橙	底部は平底で、体部に弱い張りを有する。口縁部は横撫で、体部外面及び底部は篦削り、内面は撫で後体部放射状、見込み部ラセン状暗文施文。	

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
617－16 212	土師器 坏	覆土内 破片	口　(19.0) 底　— 高　(4.7)	細粒微 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	体部に弱い張りを有し、口縁部は内湾する。口縁部横撫で後体部外面篦削り、内面撫で後斜放射状暗文施文。	底部に黒斑
617－17 213	土師器 鉢?	覆土内 破片	口　— 底　(12.0) 高　(3.7)	砂粒少 白色鉱物粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は平底で、体部に弱い張りを有する。底部及び体部外面は篦削り、内面は丁寧な撫で後体部に斜放射状、見込み部にラセン状暗文を密に施文。	
617－18 212	土師器 坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	褐色細粒少 細砂粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は平底で、体部は直線的に外傾する。体部外面及び底部は篦削り、内面は撫で後放射状暗文施文。	厚　0.4
617－19 213	土師器 坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 白色鉱物粒少	酸化焔 硬質	におい 橙	口縁部はわずかに内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で、体部外面篦削り、内面撫で後斜放射状暗文施文。	厚　0.6
617－20 213	土師器 坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに外反する。口縁部は横撫で、体部外面横位篦削り、内面は撫で後斜放射状暗文施文。	厚　0.6
617－21 213	土師器 坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	体部に弱い張りを有し、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、体部外面は篦削り内面は撫で後、斜放射状暗文施文。	厚　0.5
617－22 213	土師器 坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	体部から口縁部にかけてわずかに内湾する。口縁部は横撫で、体部は横位篦削り、内面は撫で後斜放射状暗文施文。	厚　0.6
617－23 213	土師器 坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	におい 橙	口縁部がわずかに内湾する。口縁部は横撫で体部外面篦削り、内面は撫で後放射状暗文施文。	厚　0.6
617－24 213	土師器 坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	内湾する口縁部で、口縁部は横撫で、体部外面は篦削り、内面は撫で後、斜放射状暗文施文。	厚　0.4
617－25 213	土師器 坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	褐色細粒少	酸化焔 軟質	橙	底部は平底で、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。口縁部は横撫で、体部外面及び底部は篦削り、内面は撫で後斜放射状暗文施文。	厚　0.5
617－26 213	土師器 坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒微 黒色鉱物粒微	酸化焔 やや硬質	橙	平底で、体部は直線的に外傾し、口縁部がわずかに内湾する。口縁部は横撫で、体部外面及び底部は篦削り、内面は撫で後斜放射状暗文施文。	厚　0.5
617－27 213	土師器 坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒微 黒色鉱物粒微	酸化焔 やや硬質	におい 橙	体部から口縁部にかけてわずかに内湾する。口縁部は横撫で、体部は横位篦削り、内面は撫で後、斜放射状暗文施文。	厚　0.6
617－28	土師器 坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	片岩細粒微 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	体部上半にわずかに張りを有する。口縁部は横撫で、体部外面篦削り、内面は撫で後放射状暗文施文。	厚　0.7
617－29 213	須恵器 坏	覆土内 破片	口　(14.0) 底　(9.0) 高　(4.3)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転篦削り無調整。体部にわずかに張りを有する。脚部と見込み部が磨滅している。	
617－30	須恵器 壺	覆土内 破片	口　— 底　(9.0) 高　(1.7)	細砂粒微 褐色細粒少	還元焔 硬質	橙	轆轤整形(?)。高台は底部回転篦削り後の削り出し高台。	
617－31	須恵器 壺	覆土内 破片	口　— 底　(14.4) 高　(1.0)	褐色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は形骸化したもので、底部篦切り後、周辺回転篦削り調整した後に削り出して表現している。見込み部に不定方向の撫でを施す。	
617－32	須恵器 甕	覆土内 破片	口　(15.2) 底　— 高　(4.2)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。口唇部は平坦で、内側にわずかに突出する。	口唇部と外面に自然釉
617－33	須恵器 壺	覆土内 破片	口　(15.5) 底　(11.8) 高　(3.9)	細砂粒多	酸化焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転篦削り後の付高台で、接地部に沈線状の窪みが認められる。体部に弱い張りを有し、口縁部は外反しない。	見込み部磨滅

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
617—34	須恵器 埴	覆土内 破片	口　— 底　(11.2) 高　(2.3)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転?)。高台は角高台で底部回転糸切り後の付高台。	
617—35	須恵器 埴	覆土内 破片	口　— 底　(11.3) 高　(2.0)	褐色細粒多 白色細粒少	還元焔 やや硬質	灰	輪積整形(右回転?)。高台は底部回転糸切り後の削り出し高台。	
618—36 213	須恵器 埴	±0cm ほぼ残存	口　(18.0) 底　(10.4) 高　(7.0)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転)。高台は三角高台で、底部及び腰部回転糸切り後の付高台。腰部に強い張りを有する。	
618—37 213	須恵器 埴	±0cm ほぼ残存	口　(18.0) 底　(10.5) 高　(7.8)	白色細粒少 白色鉱物粒微	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転)。高台は角高台で、底部回転糸切り後腰部及び底部周辺に回転糸切りを施した後の付高台。大振りの深椀で、腰の張りが強く口縁部はわずかに外反する。	
618—38	須恵器 托	覆土内 破片	口　(16.0) 底　— 高　(1.8)	白・黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転?)。底部は丸底気味の平底で、口縁端部が短く直立する。内面に摘み上げによって表現された突帯が巡っている。内面中央部が若干磨滅する。底部は手持ち箆削りを施す。	
618—39	須恵器 蓋	6cm 破片	口　(14.0) 摘　— 高　(2.0)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	輪積整形(右回転)。かえりは、強く内傾する。天井部外面は回転箆削りを施す。	
618—40 213	須恵器 蓋	覆土内 破片	口　(16.0) 摘　— 高　(2.1)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転)。天井部の張りは強く内面かえりは短く強く内傾する。摘は欠損するが天井部外面回転箆削り後の貼付。	外面に薄く自然釉
618—41 213	須恵器 蓋	覆土内 ほぼ残存	口　(15.4) 摘　— 高　(2.2)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転)。天井部に弱い張りを有し、口縁部は短く屈曲する。天井部外面は回転箆削りを施す。摘は欠損し不明。	外面に重ね焼き痕
618—42 213	須恵器 蓋	覆土内 ほぼ残存	口　(19.0) 摘　(3.7) 高　(2.8)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	輪積整形(右回転)。天井部は扁平で、口縁部は短く屈曲する。摘は天井部外面回転箆削り後の貼付。	外面に重ね焼き痕
618—43	土師器 甕	覆土内 破片	口　(13.9) 底　— 高　(5.3)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	胴部の張りは弱く、口縁部は「く」字状を呈する。口縁部横撫で後胴部上半横位の箆削り内面は横位撫でを施す。	
618—44 213	須恵器 甕	覆土内 破片	口　(13.4) 底　— 高　(3.7)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	輪積整形(右回転)。口縁部は強く外反し、上端がわずかに屈曲する。	
618—45	須恵器 甕	16cm 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 白色鉱物粒微	還元焔 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.4
618—46	須恵器 甕	13cm 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒微	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き後丁寧な撫で、内面青海波文。	厚　0.7
619—47	須恵器 甕	19～21cm 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.2 外面に自然釉
619—48 213	須恵器 甕	18～22cm ほぼ残存	口　— 底　— 高　(27.0)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。肩部に自然釉。	
619—49	須恵器 甕	29cm 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。底部付近の破片で、内外面に薄く自然釉。	厚　0.8
619—50	瓦 女　瓦	覆土内 破片	厚　1.7	細砂粒少 褐色細粒少	中性焔 硬質	灰褐	一枚作り？。側端部面取りは2面。凹面布目は雑に撫でられている。凸面は縄叩きで、大半は撫で消されている。	

第20号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
620－1	土師器 皿	覆土内 破片	口 (17.0) 底 — 高 (2.0)	細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底と思われ、口縁部は弱く外反する。口縁部は横撫で、底部は箆削りを施す。	
620－2	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.8
620－3	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色鉱物粒多	還元焔 硬質	黒	叩き整形。外面は磨滅し不明。内面当具は不明瞭。	厚 0.9

第19号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
621－4 213	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	赤褐色細粒微 黒色鉱物粒微	酸化焔 やや軟質	橙	底部破片と思われ、外面は撫で、内面は撫で後、放射状暗文施文。	厚 1.0
621－5	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.7)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底と思われ、口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後底部に箆削りを施す。	
621－6 214	土師器 坏	覆土内 完形	口 12.0 底 — 高 3.4	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底状の平底で、体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに内摂する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、間の整形は不明瞭。	
621－7	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (7.5) 高 (1.3)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。底部回転箆削り無調整。	
621－8	土師質 黒色土器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (6.0) 高 (1.3)	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	轆轤整形（右回転？）。底部は回転糸切り後周辺部手持ち箆削りを施す。内面は荒磨き後内面黒色処理を施す。	
621－9	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.4) 底 (7.4) 高 (3.3)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。底部は回転糸切り無調整。	
621－10	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 (2.0)	白色細粒少 黒色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。底部回転糸切り無調整。	
621－11	須恵器 境	覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 (1.2)	細砂粒少 褐色細粒多	還元焔 硬質	褐灰	轆轤整形（？）。高台は底部回転箆削り後の削り出し高台。	
621－12	須恵器 境	覆土内 破片	口 — 底 (4.4) 高 (2.2)	白色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。高台は底部回転箆切り後の付高台。高台接地部には沈線状の窪みがみられ、接地部は磨滅している。	
621－13	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 (5.2) 高 (1.6)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（？）。摘状摘で、丁寧な作りである。	外面に薄く自然釉
621－14	灰釉陶器 瓶？	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	美濃系？		灰	轆轤整形（？）。外面肩部に厚く施釉されている。	厚 0.5
621－15	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (21.0) 底 — 高 (3.5)	褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（？）。外反する口縁部で、上端外面は肥厚し、波状文を施す。	
621－16	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (4.3)	黒色細粒少 白色粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（？）。外反する口縁部で、上端に段を有する。	
621－17	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	黒	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.3 焼締、外面自然釉

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
621－18	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色粒多	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.3 外面に自然釉
621－19	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	砂粒少 白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　0.8
621－20	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	黒色細粒少 白色細粒微	還元焔 硬質	黒	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.3 外面に自然釉

第21号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
622－1	土師器 坏	覆土内 互残存	口　(12.0) 底　— 高　(3.3)	白・黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、間の調整は不明瞭。	
622－2	須恵器 坏	－4cm 互残存	口　(12.0) 底　(7.0) 高　(3.2)	黒色細粒多	酸化焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。底部は回転箆削り無調整。	外面に自然釉
622－3	須恵器 坏	覆土内 破片	口　— 底　(10.0) 高　(2.8)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(?)。底部は回転箆削りを施しているが、切り離しに際して底部をしぼり込んで、切り離し面を小さくしている。	
622－4	須恵器 高　坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　(4.2)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	輪轆整形(?)。坏部は打ち欠かれたような状態で、断面周辺はわずかに磨滅している。	
622－5	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒多 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚　1.0

第22号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
623－1	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	口縁部破片で、外面に櫛描な波状文を施す。内面は撫で。	厚　1.1
623－2	須恵器 甕	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	叩き整形。外面擬格子状叩き、内面当具不明瞭。	厚　0.5

第28号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
625－1	土師器 坏	覆土内 互残存	口　(12.0) 底　— 高　(3.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや軟質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾気味である。口縁部は横撫で、底部は箆削りで間に整形不明瞭な部分がみられる。	内面磨滅
625－2 214	土師器 坏	覆土内 破片	口　(12.4) 底　— 高　(3.8)	細砂粒少 白・黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部に1段の屈曲を有し、口縁部は外傾する。口唇部内面は内側にわずかに肥厚している。外面は口縁部横撫で、体部下半斜位箆削り、底部箆削りを施す。内面は丁寧な撫で後斜放射状暗文を施す。	暗文
625－3 214	土師器 坏	覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや軟質	橙	底部破片で、内面見込み部は撫で後ラセン暗文が施されている。	厚　0.4 暗文
625－4 214	須恵器 壺	覆土内 互残存	口　(12.0) 底　(6.8) 高　(4.7)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	輪轆整形(右回転)。腰部に張りはなく、口縁部外反しない。高台は底部及び腰部回転箆削り後の付高台。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
625－5	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (14.0) 摘 — 高 (2.5)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部外面に回転篦削りを施す。口縁部は短く屈曲する。	
625－6	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (15.0) 摘 — 高 (2.5)	白色細粒少 黒色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。口縁端部はわずかに屈曲する。天井部外面は回転篦削りを施す。	
625－7	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 (7.0) 高 (1.8)	褐色細粒微	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。大振りの蓋で摘は環状摘である。天井部外面は回転篦削りを施し、内面は轆轤整形痕を残す。	
625－8	土師器 甕	覆土内 破片	口 (14.6) 底 — 高 (3.4)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや軟質	橙	「く」字状に外反する口縁部で、横撫でを施す。	
625－9	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	外面平行叩き後弱いカキ目を施す。内面は青海波文。	厚 1.9
625－10	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (24.0) 底 — 高 (7.2)	白色細粒微	還元焔 硬質	灰	強く外反する口縁部で、上端に段を有する。胴部外面は平行叩き、内面は青海波文。	口縁部内面及び外面自然釉
625－11	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	外反する口縁部で、上端は直立する。口縁部に5本単位の波状文を施す。	厚 0.6
625－12	土製品？ 不明	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	両端部欠損。円柱状に整形されている。使途不明。	径 1.1

遺構外出土遺物

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
626－1	土師器 坏	表土 ほぼ残存	口 (12.4) 底 — 高 (4.2)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的にわずかに内傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
626－2 214	土師器 坏	16・17 I 65・66 ほぼ残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部に弱い張りを有し、口縁部はわずかに内傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで体部の整形は不明瞭。	
626－3 214	土師器 坏	表土 ほぼ完形	口 12.0 底 — 高 3.3	砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、体部から口縁部は直線的に外傾し、口唇部は内側に屈曲する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで間の整形は不明瞭。	
626－4 214	土師器 坏	34・35 I 77・78 ほぼ残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.0)	細砂粒少 白・黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部に弱い張りを有し、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、体部の整形は不明瞭。	
626－5 214	土師器 坏	27・28 I 66・67 ほぼ残存	口 (12.4) 底 — 高 (3.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部に弱い張りを有し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、体部の整形は不明瞭。	
626－6 214	土師器 坏	表土 ほぼ残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直線的に直立する。口縁部横撫で後底部に篦削りを施す。	
626－7 214	土師器 坏	27・28 I 65・66 ほぼ残存	口 (12.8) 底 — 高 (3.2)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篦削りで、間の整形は不明瞭。口縁部内外面にカーボン付着。	底部に黒斑
626－8 214	土師器 坏	表土 ほぼ残存	口 (12.6) 底 — 高 (3.2)	細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部と底部との間には曖昧な沈線が1本巡っている。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施す。	
626－9 214	土師器 坏	18・19 I 67・68 ほぼ残存	口 (12.4) 底 — 高 (3.1)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部から口縁部にかけてわずかに内湾し、口縁部は内側に屈曲する。口縁部は横撫で、底部は篦削りを施し間に整形不明瞭な部分がみられる。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
626－10 214	土師器 坏	5井戸 口縁残存	口　(13.4) 底　— 高　(3.5)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は弱く直立する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、間の整形は不明瞭。	
626－11 214	土師器 坏	表土 口縁残存	口　(12.6) 底　— 高　(3.6)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は平底で、体部に弱い張りを有し、口縁部との間に弱い段がみられる。口縁部は横撫で、体部は横位箆削り、底部は一定方向の箆削りを施す。	
626－12 214	土師器 坏	7井戸 破片	口　(9.0) 底　— 高　(2.3)	細砂粒微 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は箆削りで、間の整形は不明瞭。	
626－13 214	土師器 杯C Ⅲ 飛鳥Ⅲ期	3・4Ⅰ 87・88 破片	口　(10.0) 底　— 高　(2.7)	白色細粒少	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部がわずかに短く外反する。内面の稜は比較的シャープである。外面撫で後に箆磨きを施し、内面は丁寧な撫で後放射状暗文を施す。	暗文 畿内産
626－14 214	土師器 坏	表土 口縁残存	口　(13.0) 底　— 高　(3.5)	砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 やや軟質	にぶい 橙	平底で、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。口縁部外面は横撫で、体部下半は横位箆削り、内面は撫で後放射状暗文を施す。	暗文
626－15 214	土師器 坏	33・34Ⅰ 90・91 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒微 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は丸底状の平底で、体部外面とも箆削り内面は撫で後、斜放射状暗文施文。	厚　0.5
626－16 214	土師器 坏	表土 破片	口　— 底　— 高　—	黒色鉱物粒微 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	体部に弱い張りを有し、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、体部外面箆削り、内面は撫で後、斜放射状暗文を施す。	厚　0.4
626－17 214	土師器 坏	表土 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒微	酸化焔 硬質	暗灰黄	底部は平底で、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。口縁部は横撫で、体部及び底部外面は箆削り、内面は撫で後放射状暗文を施す。	厚　0.5
626－18 214	土師器 坏	表土 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	体部の張りが強く、口縁部外面に段を有する。口縁部は横撫で、体部外面は横位箆削り、内面は撫で後放射状暗文を施す。	厚　0.5
626－19 214	土師器 坏	表土 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少	酸化焔 やや硬質	橙	体部から口縁部にかけて内湾する。口縁部は横撫で、体部外面は斜位箆削り、内面は撫で後放射状暗文を施す。	厚　0.5
626－20 215	土師器 坏	16・17Ⅰ 63・64 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	口縁部横撫で後、外面箆削り、内面撫で後格子状？。暗文施文。	厚　0.7
626－21 215	土師器 坏	21・22Ⅰ 68・69 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	体部外面箆削り、内面撫で後放射状暗文を施す。	厚　0.7
626－22 215	土師器 坏	表土 ¼残存	口　(14.4) 底　(7.5) 高　(4.5)	細砂粒少 黒色鉱物粒多 白色鉱物粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は平底で、体部から口縁部にかけて内湾し、口唇部は内側に屈曲する。外面は口縁部横撫で後、体部は斜位の箆削り、内面は丁寧な撫で後体部斜放射状、見込み部ラセン暗文を施す。底部は箆削り後雑な撫でを施す。	暗文
626－23 215	土師器 坏	表土 破片	口　— 底　— 高　—	砂粒微	酸化焔 硬質	橙	体部は直線的に外傾し、口縁部上端がわずかには内湾する。口縁部は横撫で、体部は斜位の箆削り、内面は丁寧な撫で後斜放射状暗文を施す。	厚　0.5
626－24 215	土師器 坏	表土 破片	口　— 底　— 高　—	白・黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	底部は平底で、体部中位に1段の屈曲がみられる。口縁部は横撫で、体部及び底部は箆削り、内面は撫で後、斜放射状暗文施文。	厚　0.5
626－25 215	土師器 坏	表土 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は平底で、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。口縁部は横撫で、体部及び底部は箆削り、内面は撫で後斜放射状暗文を施す。	厚　0.6
626－26 215	土師器 坏	表土 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焔 やや硬質	橙	底部は平底で、体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、体部及び底部外面箆削り、内面撫で後斜放射状暗文施文。	厚　0.5

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎　土	焼　成 色　調	器形・技法等の特徴	備　考
626—27 215	土師器 坏	16・17 I 69・70 破片	口 — 底 — 高 —	黒色鉱物粒少 白色鉱物粒微 細砂粒少	酸化焰 やや硬 質 橙	体部は直線的に外傾し、口縁部上端は内側に屈曲する。口縁部は横撫で、体部外面は箆削り、内面は撫で後放射状暗文を施す。	厚 0.4
626—28 215	土師器 坏	表土 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 黒色鉱物粒微 褐色細粒少	酸化焰 硬質 橙	体部は直線的に外傾し、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、体部は横位箆削り、内面は撫で、放射状暗文施す。	厚 0.5
626—29 215	土師器 坏	表土 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 やや硬 質 橙	体部が直線的に外傾する器形で、口縁部は横撫で、体部横位箆削り、内面は撫で後格子状暗文施す。	厚 0.7
626—30 215	土師器 坏	表土 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多 黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質 橙	底部は平底で、体部から口縁部にかけて内湾する。口縁部は横撫で、体部及び底部外面箆削り、内面は撫で後斜放射状暗文を施す。	厚 0.5
626—31 215	土師器 坏	21・22 I 68・69 破片	口 — 底 — 高 —	黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質 橙	底部は丸底気味の平底で、体部は直線的に外傾し、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、体部下半及び底部は箆削り、内面は撫で後放射状暗文を施す。	厚 0.5
626—32 215	土師器 坏	16・17 I 65・66 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細砂多 細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 やや硬 質 橙	体部に弱い張りを有し、口縁部上端がわずかに内湾する。口縁部は横撫で、体部外面箆削り、内面は撫で後放射状暗文施す。	厚 0.5
626—33 215	土師器 坏	表土 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質 明赤褐	体部に1段の屈曲を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、体部外面下半は横位箆削り、内面は撫で後放射状暗文を施す。	厚 0.4
626—34 215	土師器 坏	16・17 I 65・66 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 やや硬 質 橙	体部は直線的に外傾し、口縁部横撫で、体部外面横位箆削り、内面は撫で後、斜放射状暗文施す。	厚 0.6
626—35 215	土師器 坏	表土 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 硬質 橙	底部は平底で、体部から口縁部にかけてわずかに内湾する。口縁部は横撫で、体部及び底部外面は箆削り、内面は撫で後、体部に放射状暗文を施す。	厚 0.6
626—36 215	土師器 坏	193土坑 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬 質 橙	体部から口縁部にかけて内湾する。口縁部は横撫で、体部外面は横位箆削り、内面は丁寧な撫で後放射状暗文施す。	厚 0.7
626—37 215	土師器 坏	表土 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒微	酸化焰 硬質 橙	底部は平底で、体部から口縁部にかけて内湾する。口縁部は横撫で、体部外面斜位箆削り内面は撫で後斜放射状暗文を施す。	厚 0.7
627—38 215	土師器 坏	表土 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細砂少	酸化焰 硬質 橙	体部から口縁部にかけて内湾する。口縁部は横撫で、体部外面は箆削り、内面は撫で後密な斜放射状暗文を施す。	厚 0.7
627—39 216	土師器 坏	表土 破片	口 — 底 — 高 —	黒色鉱物粒微 褐色細砂少	酸化焰 硬質 橙	底部は平底と思われ、体部から口縁部にかけてわずかに内湾する。口縁部は横撫で、体部及び底部は箆削り、内面は丁寧な撫で後、斜放射状暗文を施す。	厚 0.5
627—40 216	土師器 坏	20 I 65 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微 褐色細粒微	酸化焰 硬質 橙	外面は箆削り後、横位の見磨き、内面撫で後3本単位の放射状暗文を施す。	厚 0.7
627—41 216	土師器 坏	16～18 I 65・66 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少 褐色細粒少	酸化焰 硬質 橙	平底の底部破片で、外面は箆削り、内面見込み部は撫で後ラセン状暗文を施す。	厚 1.0
627—42 216	土師器 坏	16・17 I 65・66 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 硬質 橙	体部から口縁部にかけてわずかに内湾する。口縁部は横撫で、体部外面斜位箆削り、内面は撫で後斜放射状暗文施す。	厚 0.7
627—43 215	土師器 坏	表土 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色細粒 少	酸化焰 硬質 橙	底部は平底で、体部に1段の屈曲を有する。体部及び底部外面は箆削り、内面撫で後放射状暗文施す。	厚 0.5
627—44 216	土師器 坏	表土 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 硬質 橙	底部は平底で、体部及び底部外面は箆削り、内面は撫で後体部斜放射状、見込み部ラセン状暗文施す。	厚 0.5

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎　土	焼　成 色　調	器形・技法等の特徴	備　考
627—45 216	土師器 坏	表土 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 やや硬 質 橙	底部は丸底気味の平底で、体部に弱い張りを有する。体部及び底部外面は篦削り、内面は見込み部から体部にかけ、放射状暗文とラセン状暗文を施す。	厚　0.3
627—46 216	土師器 坏	16・17 I 65・66 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焔 硬質 橙	底部は平底で、外面に黒斑がみられる。体部及び底部は篦削り、内面は撫で後、体部斜放射状、見込み部ラセン状暗文を施す。	厚　0.5
627—47 216	土師器 坏	21・22 I 68・69 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒微 白色鉱物粒少	酸化焔 硬質 橙	底部破片で、外面篦削り、内面は撫で後ラセン暗文を施す。	厚　0.7
627—48 216	土師器 杯　C？ 飛　鳥？	19 I 62 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒微	酸化焔 硬質 橙	外面は撫で、内面は丁寧な撫で後放射状暗文を施す。	厚　0.5 敏内産
627—49 216	土師器 高　杯 平城 I 期	表土 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少	酸化焔 硬質 橙	高杯の杯部で破片と考えられる。外面の整形は不明瞭。内面には撫で後、放射状暗文を施す。	厚　0.6 敏内産
627—50 216	土師器 坏	表土 破片	口　— 底　— 高　—	黒色鉱物粒少 細砂粒微	酸化焔 硬質 橙	平底の底部破片で、体部と底部外面は篦削り内面は撫で後、体部に放射状暗文を施す。	厚　0.5
627—51 216	土師器 坏	表土 破片	口　— 底　— 高　—	片岩砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焔 やや硬 質 橙	底部は平底で、体部及び底部外面篦削り。内面は撫で後、体部側放射状見込み部ラセン状暗文施文。	厚　0.7 内外面磨滅
627—52 216	土師器 坏	表土 破片	口　— 底　— 高　—	褐色細粒少	酸化焔 やや硬 質 橙	平底の底部破片で、外面中央部がやや窪み、木葉痕が残存。周辺は篦削りが施されている。内面見込み部は撫で後ラセン状暗文を施しているが磨滅し、不明瞭。	厚　0.9
627—53 216	土師器 坏	247土坑 ヲ残存	口　(9.6) 底　— 高　(3.1)	白色細粒少	還元焔 硬質 灰	轆轤整形(右回転)。底部は丸底で、外面に回転篦削りを施す。受け部は短く口縁部も短く内傾する。	
627—54 216	須恵器 坏	表土 ヲ残存	口　(11.0) 底　(8.0) 高　(3.8)	白・黒色細粒 少	還元焔 硬質 灰	轆轤整形(左回転？)。底部は厚手の平底で回転篦切り無調整である。口縁部はわずかに外反する。	
627—55 216	須恵器 坏	表土 破片	口　(10.0) 底　(7.1) 高　(4.0)	白色細粒少 黒色細粒微	還元焔 硬質 灰	轆轤整形(右回転？)。底部は丸底状の平底で、体部は直線的に外傾する。底部は一定方向の篦削りを施す。	
627—56 216	須恵器 坏	200土坑 破片	口　(12.7) 底　(7.4) 高　(4.2)	細砂粒少	還元焔 硬質 灰白	轆轤整形(右回転)。底部はやや厚手で突出し、回転篦削りを施す。	
627—57 216	須恵器 坏	表土 ヲ残存	口　(13.0) 底　— 高　(3.8)	白色細粒少 黒色粒微	還元焔 硬質 灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後底部及び腰部に回転篦削りを施す。口縁部の一部は打ち欠かれ、体部内面にカーボン付着。見込み部全面に磨滅が認められる。	転用硯か？
627—58 216	須恵器 坏	表土 ヲ残存	口　(12.0) 底　6.8 高　(3.5)	細砂粒多	還元焔 硬質 灰	轆轤整形（右回転）。底部回転篦切り無調整。体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。	外面に自然釉
627—59 217	須恵器 坏	表土 ヲ残存	口　(12.0) 底　(7.4) 高　(4.0)	細砂粒少	還元焔 硬質 灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転篦削り無調整。体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。	
627—60 217	須恵器 坏	表土 ヲ残存	口　(12.8) 底　(7.6) 高　(3.5)	細砂粒多	還元焔 硬質 灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転篦切り無調整。体部に張りはない。	
627—61 217	須恵器 坏	18・19 I 63・64 ヲ残存	口　(12.4) 底　(7.3) 高　(3.7)	黒色細粒多	還元焔 硬質 灰	轆轤整形(右回転)。底部切り離し後底部及び腰部に回転篦削りを施す。	
627—62 217	須恵器 坏	34 I 63 ヲ残存	口　(13.0) 底　(6.8) 高　(4.2)	黒色細粒少	還元焔 硬質 灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部中位にわずかに張りを有する。	
627—63 217	須恵器 坏	表土 ヲ残存	口　(13.0) 底　(7.6) 高　(3.5)	細砂粒少	還元焔 硬質 灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転篦切り無調整。体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。	内外面に自然釉

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
627−64 217	須恵器 坏	表土 与残存	口 (12.6) 底 (7.0) 高 (3.4)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は外反しない。	
628−65 217	須恵器 坏	34・35 I 77・78 与残存	口 (11.6) 底 6.4 高 (3.7)	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。内面の轆轤整形痕は不明瞭。	
628−66 217	須恵器 坏	1・2 I 85・86 与残存	口 (13.8) 底 (8.0) 高 (3.8)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後腰部及び底部周辺に回転箆削りを施す。体部から口縁部にかけ内湾気味に外傾する。見込み部及び底部周辺が磨滅。	
628−67 217	須恵器 坏	表土 与残存	口 (13.6) 底 (8.0) 高 (3.4)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後周辺手持ち箆削りを施す。体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。	見込み部が磨滅
628−68 217	須恵器 坏	表土 与残存	口 (12.6) 底 (8.0) 高 (3.7)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾する。	
628−69 217	須恵器 坏	18・19 I 69・70 与残存	口 (14.0) 底 7.0 高 (3.8)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。	
628−70 217	須恵器 坏	表土 与残存	口 (14.0) 底 (10.0) 高 (3.6)	細砂粒少 黒色粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転箆削り後回転箆削りを施す。腰部にわずかに張りを有し体部から口縁部は直線的に外傾する。	体部外面及び底部に自然釉
628−71 217	須恵器 坏	表土 与残存	口 (13.0) 底 (9.0) 高 (4.1)	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。腰部にわずかに張りを有し、口縁部は外反しない。	
628−72 217	須恵器 坏	表土 与残存	口 (12.6) 底 (8.0) 高 (3.2)	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
628−73 217	須恵器 坏	表土 与残存	口 (14.0) 底 (10.0) 高 (3.5)	細砂粒少 黒色粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部回転箆切り後周辺部回転箆削り？を施す。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾する。	
628−74 217	須恵器 坏	5井戸 破片	口 (14.0) 底 (8.6) 高 (4.2)	黒色細粒多 白色細粒微	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
628−75 217	須恵器 坏	18 I 65 与残存	口 (13.2) 底 (8.0) 高 (3.4)	白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。腰部及び体部上位に弱い張りを有する。見込み部中央部付近若干磨滅。	
628−76 217	須恵器 坏	5井戸 ほぼ完形	口 14.0 底 9.9 高 3.1	細砂粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転箆切り無調整。体部は直線的に外傾し、口縁部は弱く外反する。	
628−77 217	須恵器 坏	表土 与残存	口 (13.2) 底 (7.8) 高 (4.2)	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
628−78 217	須恵器 坏	表土 与残存	口 (13.0) 底 (8.0) 高 (3.0)	細砂粒少 黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部外面の轆轤整形痕は顕著であるのに対し、内面は不明瞭。	見込み部中央磨滅
628−79 217	須恵器 坏	表土 与残存	口 (15.0) 底 (9.5) 高 (3.9)	細砂粒少 黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部から口縁部にかけてやや内湾気味に外傾する。	
628−80 217	須恵器 坏	表土 与残存	口 (11.4) 底 (5.4) 高 (3.9)	片岩質砂粒多 白色鉱物粒少	還元焔 硬質	オリーブ灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部に張りはなく、口縁部は外反する。	
628−81 217	須恵器 坏	18 I 65 与残存	口 (12.7) 底 (6.4) 高 (3.5)	白色細粒少 白色鉱物粒微	還元焔 やや硬質	灰白	轆轤整形(右回転？)。底部は回転糸切り無調整。内外面共に轆轤整形痕を顕著に残す。	
628−82	土師器 坏	2溝 破片	口 − 底 − 高 −	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焔 硬質	浅黄橙	轆轤整形（？）。底部静止糸切り無調整。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
629－83 217	土師器 坏	表土 完形	口　10.0 底　5.0 高　3.0	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	淡黄	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部中位に張りを有し、口縁部はわずかに外反する。内面は轆轤整形痕が不明瞭。口縁部の一部が打ち欠かれている。	内面は外面より磨滅
629－84 217	須恵器 坏	表土 完形	口　9.5 底　5.0 高　2.8	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整であるが、磨滅し不明瞭。体部の器肉は厚く、上位に張りを有し、口縁部はわずかに外反する。	
629－85 217	土師質 坏	表土 残存存	口　9.7 底　5.3 高　2.5	砂粒微 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整であるが、磨滅し不明瞭。体部は器肉が厚手で直線的に外傾する。	
629－86 217	土師質 埦	表土 残存存	口　(10.2) 底　(5.5) 高　(4.7)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焔 硬質	灰	轆轤整形（右回転）。腰部に強い張りを有し、口縁部は外反しない。高台は付高台で、貼付に伴い底部が撫でられているため切り離しは不明。見込み部は撫でを強く施しているためわずかに突出する。	
629－87 217	須恵器 埦	1・2 I 85・86 ほぼ完形	口　12.9 底　6.3 高　4.8	片岩質砂粒少 白・黒色細粒多	還元焔 硬質	灰オリーブ	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。体部中位に張りを有し、口縁部は外反する。	
629－88 217	須恵器 埦	表土 残存存	口　(11.2) 底　(7.2) 高　(4.6)	白色細粒少 黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(？)。高台は底部回転篦切り後の丁寧な付高台。体部中位にわずかに張りを有する。	外面に自然釉
629－89	須恵器 埦	34 I 79・80 残存存	口　(11.7) 底　(5.8) 高　(4.7)	白・黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転篦切り後の付高台。体部下半に張りを有し、口縁部はわずかに外反する。	
629－90 218	須恵器 深　鉢	表土 残存存	口　(14.8) 底　(8.6) 高　(8.0)	細砂粒少 黒色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転篦削り後の丁寧な付高台。体部は撫で、内壁気味に外傾する。	
629－91 218	須恵器 皿	1調 ほぼ完形	口　14.2 底　7.0 高　3.0	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。体部は直線的に強く開く器形で一部に歪みが認められる。	
629－92 218	土師質 皿	表土 残存存	口　(12.0) 底　(7.0) 高　(1.8)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	淡黄	轆轤整形（？）。底部は静止糸切り？無調整。体部は強く外傾し、器肉が厚いため、内面はほぼ平坦。	
629－93	灰釉陶器 埦	25・26 I 65・66 残存存	口　(14.6) 底　(6.4) 高　(4.6)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。高台は付高台。施釉は漬け掛け。	見込み部に重ね焼き痕
629－94	灰釉陶器 埦	表土 残存存	口　(16.5) 底　(9.1) 高　(6.1)	美濃系		灰白	轆轤整形(？)。高台は底部回転糸切り後の付高台で、糸切り痕は底部中央部に残存している。施釉は漬け掛け。	見込み部に重ね焼き痕
629－95 218	灰釉陶器 埦	表土 残存存	口　(14.0) 底　(7.0) 高　(4.5)	美濃系？		灰	轆轤整形(右回転)。高台は三日月高台で底部回転糸切り後の貼付と考えられる。腰部にやや張りを有し口縁部は外反する。施釉は刷毛掛けで内面は見込み部にも施されている。	光ヶ丘1？
629－96 218	灰釉陶器 埦	35・36 I 65・66 破片	口　(16.3) 底　(8.6) 高　(4.9)	美濃系		灰白	轆轤整形(？)。高台は付高台で、底部はやや突出気味である。施釉は漬け掛け。	見込み部に重ね焼き痕
629－97 218	灰釉陶器 皿	27・28 I 67・68 残存存	口　(13.0) 底　(6.8) 高　(2.9)	猿投系？		灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転篦削り後の付高台。体部上位にわずかに張りを有し口縁部は、シャープに外反する。施釉は刷毛掛け。	K－90？
629－98	灰釉陶器 埦	16・17 I 59・60 破片	口　(14.0) 底　(6.8) 高　(3.7)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転？)。高台は三日月高台で底部及び腰部回転篦削り後の付高台。施釉は漬け掛け。	
629－99 218	灰釉陶器 埦	表土 残存存	口　(15.0) 底　(7.0) 高　(3.4)	美濃系		灰白	轆轤整形(？)。高台は底部回転篦削り後の付高台。体部に張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。施釉技法は不明。	内面に重ね焼き痕
629－100	灰釉陶器 皿	表土 残存存	口　(12.6) 底　(6.8) 高　(2.4)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部及び腰部回転篦削り後の付高台で、篦削りは口縁部にも当たっている。施釉は刷毛掛けか？。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
629－101	灰釉陶器 段皿	表土 破片	口 (13.3) 底 (8.5) 高 (2.1)	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。高台は付高台で、施釉は不明。	見込み部に重ね焼き痕
629－102	灰釉陶器 耳皿	表土 破片	口 — 底 — 高 —	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。施釉は内面に厚く施されている。技法は不明。	
630－103 218	須恵器 蓋	表土 1/4残存	口 (12.6) 摘 — 高 (4.4)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は丸底状で、外面は手持ち箆削りを施す。	
630－104	須恵器 蓋	17・18Ⅰ 63・64 1/4残存	口 (13.8) 摘 (5.2) 高 (4.7)	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。短頸壺の蓋と思われるもので、天井部は平坦で、口縁部との屈曲部は水平に突出し、口縁部は外傾する。摘は環状摘で、天井部外面回転箆削り後の貼付。	
630－105 218	須恵器 蓋	200土坑 破片	口 (11.8) 摘 — 高 (3.8)	白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。短頸壺の蓋と思われるもので天井部はやや突出している。摘は欠損していて不明。天井部外面に破片が融着。	
630－106	須恵器 蓋	表土 1/4残存	口 (14.4) 摘 (4.4) 高 (3.3)	黒色細粒少 白色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。摘は環状摘で、天井部外面回転箆削り後の貼付。	内外面に重ね焼き痕
630－107	須恵器 蓋	表土 1/4残存	口 (15.0) 摘 (4.2) 高 (3.7)	黒色細粒多 白色細粒微	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。摘は環状摘で、天井部外面回転箆削り後の貼付。	
630－108 218	須恵器 蓋	33Ⅰ85 1/4残存	口 (14.6) 摘 (3.9) 高 (3.8)	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部の張りは比較的強く、口縁端部は短く屈曲する。摘は環状摘で、天井部外面回転箆削り後の貼付。内外面には重ね焼きの痕跡が、無釉の部分として残存。外面の一部に融着。	内外面自然釉(内面特に厚い)
630－109 218	須恵器 蓋	16・17Ⅰ 63・64 1/4残存	口 (15.0) 摘 (15.0) 高 (3.6)	砂粒多 白色細粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形。天井部の張りは弱く、口縁部が下方に屈曲する。摘は環状摘で、天井部外面回転箆削り後の貼付。	
630－110	須恵器 蓋	表土 1/4残存	口 (13.6) 摘 (4.0) 高 (3.6)	黒色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。摘は環状摘で、天井部外面回転箆削り後の貼付。外面に重ね焼き痕が認められる。	
630－111	須恵器 蓋	表土 1/4残存	口 (19.0) 摘 (4.2) 高 (4.6)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。摘はボタン状で、天井部外面回転箆削り後の貼付。	
630－112	須恵器 蓋	16・17Ⅰ 69・70 1/4残存	口 (11.7) 摘 (1.7) 高 (3.2)	細砂粒少 白色鉱物粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。摘は潰れたような宝珠摘で、天井部外面回転箆削り後の貼付である。	
630－113	須恵器 蓋	表土 1/4残存	口 (10.0) 摘 (1.8) 高 (2.8)	白色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。摘は宝珠摘で、丁寧な貼付。	
630－114	須恵器 蓋	表土 破片	口 (19.0) 摘 — 高 (1.4)	白色細粒少	還元焔 硬質	オリーブ灰	轆轤整形(右回転?)。扁平な器形で、天井部外面に広範囲にわたって、回転箆削りを施す。	内外面に自然釉
630－115	須恵器 蓋?	表土 破片	口 — 底 — 高 —	黒色鉱物粒微 白・黒色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(?)。周囲に高台状の突帯が貼付され、中央に摘の痕跡と思われる突帯が認められる。蓋であろうか?	
630－116	須恵器 壺	7井戸 破片	口 — 底 (11.0) 高 (2.9)	白・黒色鉱物粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転箆削り後の削り出し高台。	
630－117 218	土師器 高坏	表土 脚部完形	口 — 底 (9.8) 高 (5.0)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焔 硬質	橙	短脚の高坏の脚部で、下端が水平に強く開いている。脚部外面は縦位の箆削り、内面上端に、底部への接合のための強い撫でがみられる。坏部見込み部に「×」の箆描き。	
630－118 218	須恵器 高坏	表土 1/4残存	口 — 底 (8.6) 高 (8.5)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。脚部のすそが強く開く器形で、下半に2条の沈線が巡っている。坏部見込み部中央に一撫でが施されている。	見込み部に自然釉

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
630—119 218	須恵器 皿？	表土 3/4残存	口　(20.0) 底　(12.2) 高　(4.0)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転？)。高台は薄手で、底部回転篦削り後の付高台。底部はわずかに突出する。体部は中位に張りを有し、強く外傾する。蓋の可能性もあり？	
630—120	須恵器 台付盤	表土 3/4残存	口　(22.4) 底　(16.0) 高　(4.0)	白色鉱物粒少 白色細粒多	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転篦削り後の付高台。	
630—121	須恵器 台付盤	表土 3/4残存	口　(24.4) 底　(18.8) 高　(4.8)	白色細粒多 褐色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(左回転)。高台は底部及び腰部回転篦削り後の付高台。	
630—122 218	須恵器	表土 3/4残存	口　— 底　— 高　(5.8)	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形（？）。球胴状で厚手の作りである。胴部最大部に2本の平行沈線が巡り、間に縄文？状の圧痕を施す。胴部下半は円周方向の雑な篦削りを施す。	
630—123 218	須恵器 短頸壺？	25・26 I 65・66 3/4残存	口　(8.1) 底　(5.8) 高　(6.6)	細砂粒多 黒色粒多	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転？)。底部は回転篦削り後に、わずかに篦削りを施したものと考えられる。胴部上位は「く」字状に屈曲し、算盤玉状を呈し、口縁部は短く直立する。胴部下端に1段の回転篦削りを施す。	肩部と内面部に自然釉
630—124	須恵器 鉢	表土 破片	口　(16.0) 底　— 高　(8.9)	黒色細粒少 白色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転？)。内面に轆轤整形痕を比較的良く残し、外面は目だたない。	
630—125 218	須恵器 甕	1調 ほぼ完形	口　(6.2) 底　(5.1) 高　(18.3)	黒色粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。肩部と胴部上半に張りを有し、口縁部上端は外反する。底部は回転糸切り無調整。胴部の歪みが多い。	肩部から口縁部に自然釉壺G
631—126	須恵器 壺	表土 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒微	還元焔 やや軟質	灰白	口縁部破片で、上半に波状文を施す。	厚　0.7
631—127 221	土師器 把手？	表土 破片	口　— 底　— 高　—	白・黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焔 硬質	橙	周囲が篦削りによって面取り（8面）されている。両端部欠損。	
631—128	須恵器 平瓶	291土坑 破片	口　— 底　— 高　—	褐色細粒少	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(？)。口縁部上端は平坦でわずかに外傾する。全体形は不明。	内外面に自然釉
631—129	須恵器 壺	表土 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒少	還元焔 硬質	灰	壺の把手で、篦削りによって面取りがなされている。	外面に自然釉
631—130 219	須恵器 転用硯	表土 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	外面叩き不明。内面素文の須恵器甕の破片の転用。内面素文部は使用に伴い磨滅し、光沢が認められる。	厚　1.1
631—131 219	須恵器 転用硯	表土 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒多	還元焔 硬質	灰	外面平行叩き。内面素文の須恵器甕の破片の転用。素文部は使用に伴い磨滅し、光沢がみられる。	厚　0.8
631—132 219	須恵器 転用硯	表土 破片	口　— 底　— 高　—	黒色細粒少	還元焔 硬質	灰白	外面平行叩き。内面青海波文の須恵器甕の破片の転用。内面の青海波文は使用に伴い磨滅している。	厚　0.7
631—133 219	須恵器 転用硯	表土 破片	口　— 底　— 高　—	細砂粒少	還元焔 硬質	橙	外面擦格子叩き、内面青海波文の須恵器甕の破片の転用。内面青海波文は使用に伴う磨滅で、ほぼ完全に消失している。	厚　0.9
631—134	須恵器 壺	表土 破片	口　— 底　— 高　—	褐色細粒少 白色細粒少	還元焔 硬質	灰	口縁部の破片で、外面に平行沈線と波状文施文。	厚　1.2 内外面に自然釉
631—135	須恵器 壺	表土 破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒多 白色鉱物粒少	還元焔 硬質	灰	口縁部の大型破片で、外面に5本単位の櫛状工具の波状文と平行沈線施文。	厚　1.0 内外面に自然釉
632—136	瓦 瓦製円盤	8調 破片	厚　1.9	砂粒微 黒色鉱物粒少	酸化焔 硬質	橙	女瓦の破片を使用したもので、凹面布目は撫で消され、凸面は、撫で後格子叩きが施されている。縁辺の調整は打ち欠いたままである。	重　80.8

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
632－137 219	須恵器 陶製円盤	表土 破片	径　5.0	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	外面平行叩き、内面青海波文の須恵器甕の破片を使用したもので、周辺を打ち欠いて整形している。	厚　1.2 重　41.9
632－138 219	瓦 鈴　瓦	表土 破片	厚　—	細砂粒少	還元焔 硬質	灰	単弁五葉で、文様線はシャープさにかける。	
632－139 219	瓦 鈴　瓦	5井戸 覆土内 破片	厚　2.6	砂粒少 白・黒色鉱物 粒多	還元焔 硬質	灰	単弁五葉。背面布目は撫で消されている。	
632－140 219	瓦 鈴　瓦	表土 破片	厚　—	白色細粒多	還元焔 硬質	灰	文様意匠は不明。	
632－141	瓦 宇　瓦	表土 破片	厚　5.0	白・黒色細粒 多	還元焔 硬質	にぶい 橙	一枚作り？。瓦当右縁行唐草文。凹面布目は、横位に撫で消されている。	
632－142 219	瓦 男　瓦	表土 破片	厚　2.2	細砂粒少 褐色細粒多	還元焔 硬質	にぶい 橙	一枚作り？。凸面は撫で後、箆描き文字「土？」	
632－143 219	瓦 男　瓦	8調 破片	厚　2.3	砂粒少 白色細粒多 褐色細粒多	還元焔 硬質	褐灰	一枚作り？。凹面は、粘土板糸切り痕を残す。凸面は撫で後箆描き文字「大？」を施す。	
632－144	瓦 男　瓦	表土 破片	厚　1.2	砂粒少 褐色粒少	還元焔 硬質	にぶい 橙	一枚作り？。側端部面取りは3面。凹面布目は横位に強く撫で消し、凸面は横位に撫で消が施されている。	
632－145 218	土製品 土　錘	16 I 64 完形	長　5.7 幅　2.4 厚　2.1	白・黒色細粒 少	酸化焔	淡橙	両端を切った紡錘形を呈し、器面は縦位に篦磨きされている。	
632－146 220	石製品 紡錘車	表土 3/4残存	径　5.2 厚　1.6 孔　(0.5)	安山岩質凝灰 岩			半截されており、1面には小穴が含まれていた痕跡がみられる。	重　19.3
632－147 220	石製品 紡錘車	表土 完形	径　5.5 厚　1.0 孔　0.5	滑石			穿孔は両方向からされている。	重　49.9
632－148 220	石製品 紡錘車	16 I 86 完形	径　4.4 厚　2.0 孔　0.6	変質玄武岩			穿孔は一方向からで、側面は縦方向に細かく面取りされ、縁辺は横方向に粗く調整されている。	重　52.7
632－149 220	石製品 紡錘車	表土 完形	径　5.0 厚　1.6 孔　0.9	かんらん岩			穿孔は一方向からで、側面は横方向に1面と共に丁寧に研磨されている。また側面には判読できないが線刻らしきものがみられる。	重　6.8
632－150 220	石製品 臼　玉	表土 完形	径　1.8 厚　0.8 孔　0.4	滑石			穿孔は一方向からで、側面は縦方向に研磨されている。	重　4.7
632－151 220	石製品 臼　玉	表土 完形	径　1.7 厚　0.8 孔　0.3	滑石			穿孔は一方向から。1面は丁寧に研磨されているが、もう一面は凹凸を残して調整が粗い。	重　3.7
632－152 220	石製品 臼　玉	表土 ほぼ完形	径　1.5 厚　1.5 孔　0.8	滑石			穿孔は両方向から。側面は縦方向の粗い研磨である。	重　3.0
632－153 220	石製品 臼　玉	表土 ほぼ完形	径　1.4 厚　0.6 孔　0.2	滑石			穿孔は一方向からで、周囲は丁寧に研磨されているが欠損している。	重　1.5
632－154 220	石製品 臼　玉	7井戸 覆土内 完形	径　1.4 厚　0.9 孔　0.2	滑石			穿孔は一方向から。側面は縦方向の粗い研磨である。他に比較して厚い。	重　2.7
632－155 220	石製品 臼　玉	19・20 I 61・62 3/4残存	径　(2.0) 厚　0.7 孔　0.2	滑石			穿孔は一方向からで、半截されている。	重　2.1
632－156	石製品 臼　玉	表土 ほぼ完形	径　1.2 厚　0.5 孔　0.3	滑石			穿孔は一方向からで、側面は縦方向に研磨されている。	重　1.1
632－157 220	石製品 臼　玉	表土 完形	径　1.2 厚　1.1 孔　3.5	滑石			製品の一面が剥離したものと思われる。	重　0.5

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 重目　(g)	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備　考
632—158 220	石製品 白　玉	表土 完形	径　1.4 厚　0.6 孔　0.2	滑石			穿孔は一方向からで、側面は縦方向の粗い研磨を施している。	重　1.9
632—159 221	石製品 白　玉	表土 完形	径　1.2 厚　0.4 孔　0.3	滑石			穿孔は一方向からで、側面は縦方向に研磨されている。	重　1.0
632—160 221	石製号 白　玉	表土 欠残存	径　1.3 厚　0.5 孔　0.3	滑石			一角が剥離している。	重　0.6
632—161 221	石製品 白　玉	表土 完形	径　1.1 厚　0.6 孔　0.2	滑石			穿孔は一方向からで、側面は縦方向に研磨されている。	重　1.0
632—162 221	石製品 白　玉	表土 破片	径　0.9 厚　0.2 孔　0.2	滑石			製品の剥離した一部分である。	重　0.2
632—163 221	石製品 白　玉	表土 欠残存	径　1.2 厚　0.5 孔　0.3	滑石			穿孔は一方向から。側面には調整時の擦痕が残っている。	重　0.8
632—164 221	石製品 白　玉	241土坑 破片	径　1.7 厚　0.4 孔　—	滑石			第632図—165と同一と思われるが接合しない。	重　0.7
632—165	石製品 白　玉	241土坑 破片	径　1.4 厚　0.3 孔　—	滑石			第632図—164と同一と思われるが接合しない。	重　0.2
632—166 221	石製品 管　玉?	表土 完形	径　0.8 厚　0.7 孔　0.2	滑石			穿孔は一方向から。側面縦方向の粗い研磨で上下面にも擦痕がみられる。	重　0.6
632—167 221	石製品 白　玉	表土 欠残存	径　1.2 厚　0.5 孔　—	滑石			穿孔は一方向からで、側面には縦方向の粗い研磨が施されている。	重　0.5
632—168 221	石製品 白　玉	表土 破片	径　0.9 厚　0.1 孔　—	滑石			製品の剥離した一部分と思われる。	重　0.1
633—169 221	石製品 砥　石	29土坑 欠残存	長　5.5 幅　3.1 厚　1.2	砥沢石			4面は使用し、3面に刃調整痕がみられ、半截されている。	重　41.7
633—170	石製品 砥　石	7井戸 欠残存	長　(6.0) 幅　3.5 厚　1.5	砥沢石			使用面は4面で、上下端部が欠損している。	重　45.0
633—171 221	石製品 砥　石	6溝 覆土内 完形	長　5.1 幅　3.4 厚　2.6	砥沢石			5面を使用している。上端は欠損しており、一方向からの穿孔の跡がみられるが完備していない。	重　64.3
633—172 221	石製品 砥　石	7井戸 覆土内 破片	長　4.3 幅　4.0 厚　2.7	砥沢石			使用面は1面のみで、他は面取りされている。	重　75.2
633—173 221	石製品 石　皿?	8溝 破片	長　11.7 幅　7.3 厚　3.9	粗粒安山岩			口縁部は平坦で内面は浅いと考えられる。口縁平底部及び体部は磨かれている。内面は特に使用に伴うと考えられる磨滅が見られる。	重　359.5
633—174 221	石製品 石　皿?	37・38トレ 65・66 破片	長　8.5 幅　4.7 厚　3.4	粗粒安山岩			口縁部と思われる破片で、内外面共に粗い研磨整形が施されている。	重　122.8
633—175 221	石製品 板　碑	8溝 破片	長　9.4 幅　6.3 厚　1.1	雲母石英片岩			整形された面は識別することができない。	重　77.8
633—176 221	石製品 板　碑	8溝 破片	長　9.1 幅　6.2 厚　1.3	緑泥片岩			梵字か?	重　126.9
633—177	石製品 板　碑	8溝 破片	長　4.6 幅　4.3 厚　0.6	緑泥片岩?			梵字等は不明。	重　14.0

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目（cm） 量目（g）	胎　土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
633－178 218	銅製品？ 不　明	表土 破片	口　— 底　— 高　—				胴部に張りがあり、口縁部は直立する。口縁部と胴部の間に鍔状の突帯が巡る。鋳造品と考えられ、部分的に緑錆が認められる。	
633－179 222	鉄　器 釘	表土 与残存	長　(10.5) 幅　(0.7) 重　13.6				先端部と頭部欠損。中央部で弱く曲がっている。	
633－180 222	鉄　器 釘	表土 破片	長　(3.8) 幅　(0.6) 重　4.0				中央部の破片で、断面方形。	
633－181 222	鉄　器 釘	6井戸 破片	長　(4.2) 幅　(0.6) 重　5.1				中央部の破片で、断面方形。	
633－182 222	鉄　器 釘	6井戸 破片	長　(3.7) 幅　(0.5) 重　2.7				先端部の破片で、断面方形。	
633－183 222	鉄　器 釘	209溝 破片	長　(3.5) 幅　(0.5) 重　1.2				先端部の破片で、断面方形。先端は比較的鋭利でわずかに屈曲する。	
633－184 222	鉄　器 釘	表土 破片	長　(3.3) 幅　(0.7) 重　5.3				中央部の破片で、断面方形。	
633－185 222	鉄　器 釘？	表土 与残存	長　(5.8) 幅　(3.0) 重　15.6				頭部が傘状に大きく開いている。軸断面は方形。	
633－186 222	鉄　器 釘	表土 与残存	長　(4.9) 幅　(1.6) 重　14.0				頭部側で、頭部平面形は方形で、対角線に稜がみられる。断面方形。	
633－187 222	鉄　器 釘	209溝 与残存	長　(3.5) 幅　(0.5) 重　3.2				頭部側欠損、断面方形。中央部で大きく「く」字状に曲がっている上に、先端部もわずかに曲がっている。	
633－188 222	鉄　器 刀　子	表土 破片	長　(3.7) 幅　(1.0) 重　8.6				身の部分と考えられる破片で、折り曲げられている。	
633－189 222	鉄　器 刀　子	表土 破片	長　(2.3) 幅　(0.8) 重　3.4				身の一部であろう。	
633－190 222	鉄　器 刀　子	60Ⅰ24 与残存	長　(7.6) 幅　(1.0) 重　9.8				茎の部分を欠損する。錆は全体に厚く付着している。	
633－191 222	鉄　器 刀　子	表土 破片	長　(5.0) 幅　(0.9) 重　4.3				茎と身との境部の破片。	
633－192 222	鉄　器 鎌？	表土 与残存	長　(10.6) 幅　(3.0) 重　46.9				鎌と考えられる。錆が進み先端部が基部が不明。	
633－193 222	鉄　器 鎌	表土 与残存	長　(7.8) 幅　(2.6) 重　21.2				先端部側の破片で、刃部の湾曲は比較的強い。	
633－194 222	鉄　器 刀　子	表土 破片	長　(6.3) 幅　(1.5) 重　9.8				身の一部と茎の破片。	
633－195 222	鉄　器 鎌	表土 完形	長　(7.5) 幅　(2.2) 重　18.5				小形の鎌で、先端側刃部の減りが多い。	
633－196 222	鉄　器 刀　子	表土 破片	長　(1.7) 幅　(0.9) 重　1.1				身の一部。	
633－197 222	鉄　器 刀　子	表土 破片	長　(3.0) 幅　(0.6) 重　1.9				茎の一部であろう。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
633－198 222	鉄　器 鏃	表土 写残存	長　(15.6) 幅　(4.8) 重　74.3				基部側の破片である。刃部側の身巾が非常に広く、柄装着部は直線的で、巾が狭く端部上側が折れ曲げられている。	
633－199 222	鉄　器 鏃	表土 写残存	長　(4.8) 幅　(0.7) 重　4.6				鏃先端と茎の一部を欠損する。鏃部は腰股の可能性もある。	
633－200 222	鉄　器 不　明	表土 —	長　(4.5) 幅　(1.1) 重　8.9				板を曲げて円筒状にしたもので、使途不明、時期不明。	

追　補

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
635－1	灰釉陶器 皿	F区7調 破片	口　— 底　(7.0) 高　(1.9)	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。高台は浅部切り離し後の付高台。釉は刷毛掛けの可能性が強い。	
635－2	灰釉陶器 埦	F区7調 破片	口　— 底　(6.0) 高　(1.6)	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。高台は付高台で、内面接合部がくぼんでいる。施釉は不明で、破片の周辺が細かく打ち欠かれたような状態を呈する。	
635－3	灰釉陶器 埦	F区7調 破片	口　— 底　— 高　—	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。高台は付高台で、施釉は不明で、内外面にカーボンが付着。	厚　0.6
635－4	須恵器 埦	F区7調 破片	口　— 底　(7.2) 高　(2.3)	褐色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(?)。高台は雑な付高台。	
635－5	須恵器 埦	F区7調 破片	口　— 底　(9.0) 高　(2.7)	褐色細粒多 白色細粒少	還元焔 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は回転糸切り後の付高台。	
635－6	灰釉陶器 埦	F区7調 破片	口　— 底　— 高　—	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。口縁部はわずかに外反する。施釉技法は不明で、内外面共にごく薄い釉がかかっている。	厚　0.3
635－7	灰釉陶器 瓶	F区7調 破片	口　— 底　— 高　—	美濃系		灰白	施釉は外面のみで比較的厚く認められる。	厚　0.5
635－8	灰釉陶器 埦	F区7調 破片	口　— 底　— 高　—	美濃系		灰白	施釉は外面のみ薄く認められる。	厚　0.6
635－9	灰釉陶器 瓶	F区7調 破片	口　— 底　— 高　—	美濃系		灰	口縁部の破片で、外面に段を有する。施釉は内外面共に認められ、内面が特に厚い。	厚　0.5
635－10	灰釉陶器 瓶	F区7調 破片	口　— 底　— 高　—	美濃系		灰白	口縁部の破片で、外面に段を有する。釉は内面に特に残存している。	厚　0.5
635－11	灰釉陶器 埦	F区7調 破片	口　— 底　— 高　—	美濃系		灰白	釉は外面のみ白色に発色している。	厚　0.5
635－12	灰釉陶器 瓶	F区7調 破片	口　(14.6) 底　— 高　(1.5)	美濃系		灰白	口縁部の破片で、外面に段を有する。施釉は内面のみ施されている。	
635－13	須恵器 瓶	F区7調 破片	口　— 底　(12.2) 高　(3.2)	黒色粒微 白色細粒多	還元焔 硬質	青灰	高台は付高台で、内面がやや磨滅している。	
635－14	灰釉陶器 瓶	F区7調 破片	口　— 底　(15.0) 高　(2.5)	美濃系		灰白	高台は底部調整後の付高台で、釉は底部から高台接地部にも認められる。	
635－15	須恵器 転用硯	F区7調 底部破片	口　— 底　— 高　—	白色細粒微	還元焔 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。底部破片を利用した転用硯で内部が磨滅しており、縁部に墨が残存している。	厚　0.9

掲図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
635－16	瓦 女　瓦	F区7溝 破片	厚　2.0	白色鉱物粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取りは1面。凸面無で、凹面は布目を残す。	
635－17	瓦 女　瓦	F区7溝 破片	厚　2.1	白色細粒少	還元焔 硬質	青灰	一枚作り。凸面は平行叩き、凹面に粘土板糸切り痕を残し、全面に砂が付着している。	
635－18	瓦 女　瓦	F区7溝 与残存	厚　1.8	白色鉱物粒多	還元焔 硬質	灰	桶巻き作り？。側端部面取りは1面。凹面には模骨痕を残し、布目は縦位に粗く撫で消されている。凸面は縄目が施されているが大半は撫で消されている。	
635－19	瓦 女　瓦	F区7溝 破片	厚　1.8	褐色粒少 細砂粒少	還元焔 硬質	黄灰	側端部凹面取り2面。狭端部凹面に荒削りを施す。凹面布目は撫で消され、凸面を全面撫で が施されている。	
635－20	瓦 女　瓦	F区7溝 破片	厚　2.0	黒色粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部は、丸く仕上げられ、わずかに磨滅している。凸面には縦位の縄目が認められる。	
635－21	瓦 男　瓦	F区7溝 破片	厚　1.6	黒色粒多	還元焔 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取りは3面。全面にわずかに自然釉が認められる。	
636－1	土師器 坏	J区1住 覆土内 破片	口　(8.8) 底　— 高　(2.5)	白・黒色粒少	酸化焔 硬質	浅黄橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は荒削りで、内面の荒磨き後黒色処理を施す。	
636－2	土師器 坏	J区1住 覆土内 破片	口　(11.0) 底　— 高　(3.2)	白色細粒少	酸化焔 硬質	灰白	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部はわずかに内傾する。口縁部は横撫でを施すが、外面に4条の沈線状の整形痕を残す。内面は丁寧な荒磨き後黒色処理を施す。この黒色処理は口縁部外面に及んでいる。	
636－3	土師器 坏	J区1住 覆土内 破片	口　(16.0) 底　— 高　(3.0)	白色鉱物粒少 黒色鉱物粒微	酸化焔 硬質	灰黄褐	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は短く直立する。口縁部は横撫でを施すが、外面に4条の沈線状の整形痕を残す。内面は丁寧な荒磨き後黒色処理を施す。	
636－4	土師器 坏	J区1住 覆土内 与残存	口　(16.2) 底　— 高　(6.0)	白色鉱物粒微 白・黒色細粒 少	酸化焔 硬質	浅黄橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫でを施すが2段の接合痕を残している。底部は荒削りを施し、内面は荒磨き後黒色処理を施している。内面の黒色部は磨滅した部分と油脂状に光沢のある部分がある。	
636－5	土師器 坏	J区1住 覆土内 破片	口　— 底　— 高　—	白・黒色細粒 少	酸化焔 硬質	にぶい 黄橙	底部の破片で、外面に「×」の荒描きがある。内面は丁寧な荒磨き後黒色処理を施す。	厚　1.0
637－1	金属製品 不　明	I区表土 破片	口　— 底　— 高　—	銅？			板状の破片で、ほとんど湾曲せず、器形は不明。口縁部と思われる部分は上端が平坦で、両側にわずかに突出する。	厚　0.4
637－2	金属製品 不　明	I区表土 破片	口　— 底　— 高　—	銅？			弱い湾曲を有する板状の破片で、内外面共に錆が付着している。	厚　0.5
637－3	金属製品 蓋？	I区表土 破片	口　— 底　— 高　—	銅？			天井部外面に突帯が巡り、端部は外面が肥厚する。内面には明瞭なかえりが認められる。	厚　0.3
637－4	白　磁 碗	I区表土 破片	口　— 底　— 高　—			オリーブ灰	釉が白色に発色していない。	厚　0.4 北宋後半
637－5	白　磁 碗	I区表土 破片	口　— 底　— 高　—			オリーブ灰	釉が白色に発色していない。	厚　0.4 北宋後半
637－6	青　磁 瓶	I区5住 破片	口　— 底　— 高　—			明緑灰	染付かどうか不明。	厚　0.7 国産 江戸
637－7	白　磁 不　明	I区表土 破片	口　— 底　— 高　—			オリーブ灰	釉が白色に発色していない。	厚　0.5 北宋後半

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種　別 器　種	出土位置 遺存状態	度目　(cm) 量目　(g)	胎　土	焼　成	色　調	器形・技法等の特徴	備　考
637－8	磁　器 染　付 碗	Ⅰ区表土 破片	口　－ 底　－ 高　－			オリーブ灰	肥前染付。	厚　0.8 江戸
637－9	青　磁 碗	Ⅰ区表土 破片	口　－ 底　－ 高　－			オリーブ灰	龍泉窯系。内面に片切の文様がある。釉の発色は良好。	厚　0.6 12C 中 ～後半
637－10	青　磁 碗	Ⅰ区1溝 破片	口　－ 底　－ 高　－			オリーブ灰	龍泉窯系。内面に劃花文を施す。	厚　0.6 12C 中 ～後半

勢群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第127集

上野国分僧寺・
尼寺中間地域(7)

《図 表 編》
―関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第38集―

平成4年2月24日印刷
平成4年2月28日発行

編集／勢群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橘村下箱田784番地の2
電話(0279)52－2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会
勢多郡北橘村下箱田784番地の2
電話(0279)52－2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社